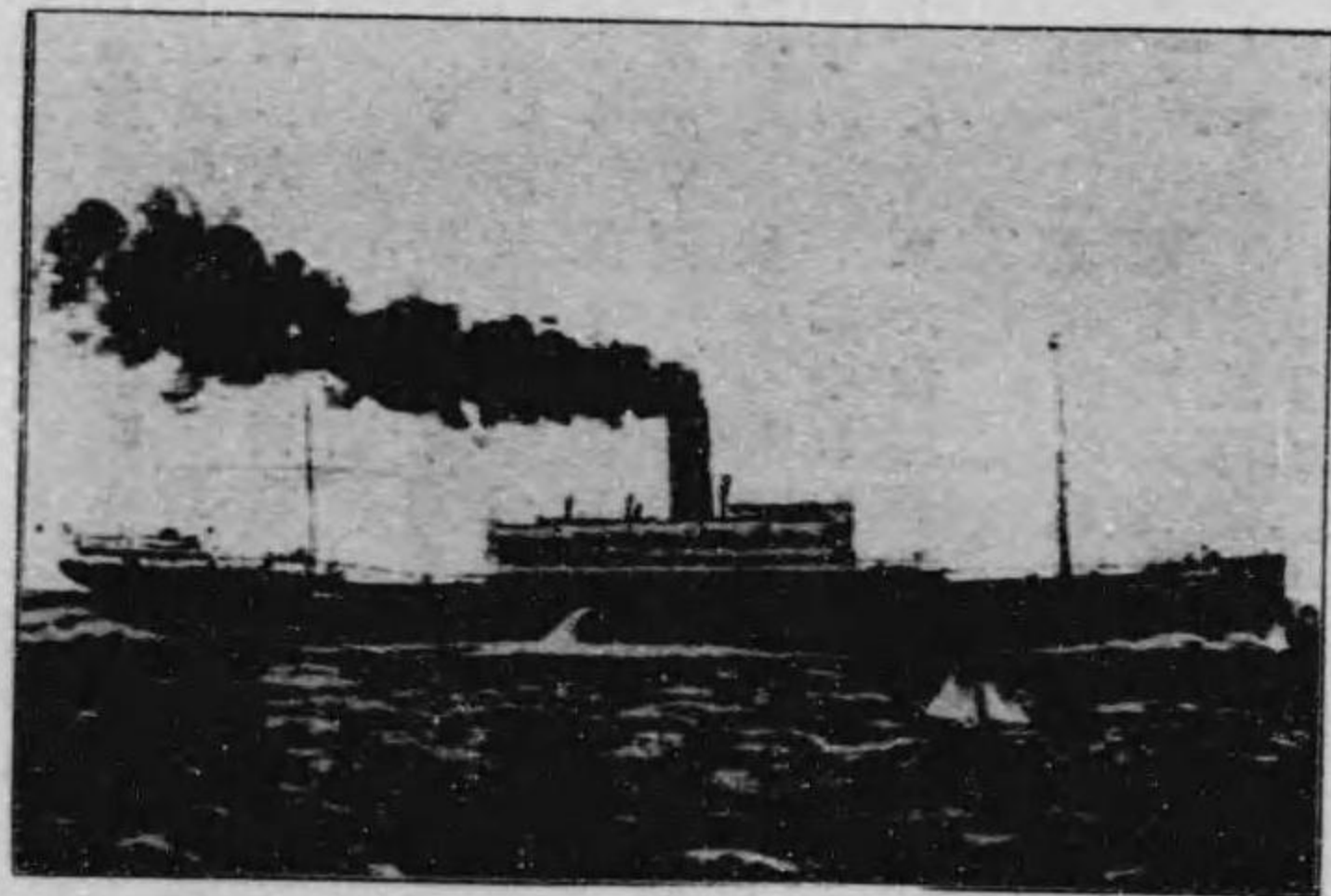


を完ふせり。是に於てか本邦の海運權は、全然三菱汽船會社の獨占壟斷する所と爲れり。かくて非難反對の聲は、朝野の間



本金を倍加して貳千貳百萬圓と爲し、若りに六千噸大の巨船を新造し、以て朝野の希望に副ひ來たりしが、雖て三十七八年戰

却りて説く、日本郵船會社が此くして創  
立せられ、資本金壹千壹百萬圓を擁して、極  
東の海運界に崛起し來たるや、我が航海業

### 東洋拓殖株式會社

明治四十年日韓協約締結せられし以來、日本帝國が韓國を指導啓發し、以て文明の恩澤に浴せしむるの責任は、從來に比し

正七年九月末日に於ける汽船の數は、百三十九隻、總噸數四十五萬噸に上る。然して現今其の航路は、歐洲、米、國、線、濠洲、線、



店支天奉社百式株殖拓洋東

日韓人を以て株主とする資本金壹千萬圓の株式會社とし、明治四十一年十二月二十八日を以て設立を了し、本店を韓國京城に置き、一、農業、二、拓殖の爲必要な土地の賣買及貸借、三、拓殖の爲必要な土地の經營及管理、四、拓殖の爲必要な建築物の賣買及貸借、五、拓殖の爲必要な日韓移民の募集及分配、六、移民及韓國農業者に對し拓殖上必要な物品の供給並其の生産又は獲得したる物品の分配、七、拓殖上必要な資金の供給、八、附帶事業として水産業其他拓殖の爲必要な事業の經營等の業務を營み來りしが時勢の進展は同社が依然として舊來の營業範圍を墨守するを許さざるに至りしを以て政府は大正六年七月東洋拓殖株式會社法に改正を加へ、營業地域に對する制限を撤廢し、且つ業務の範圍を擴張して朝鮮及外國に於て左の業務を營むこととなり、同時に大正六年度より向後八年間政府の持株に對する配當免除の特典を得たり、一、拓殖の爲必要な資金の供給、二、拓殖の爲必要な農業水利事業及土地の取得經營處分、三、拓殖の爲必要な建築物の築造賣買及貸借、四、移民の爲必要な其他事業、斯くて同社は創業以來着々經營の歩武を進めし結果、社運年と共に異常の發展を示し、現在朝鮮に於ける拓殖事業は殆ど完成の域に達せるのみならず、更に近時滿蒙方面に於ける本邦人の進展頗る顯著なるものあるに伴ひ、新たに同方面に活動を開始し、最近更に東部滿蒙亞細亞及中部支那方面に進出して、鋭意拓殖事業の發展進歩に貢獻しつゝあり、斯くの如くにして同社の業務が日に繁榮の境に入るに共に最近從來の資本金壹千萬圓を倍額して貳千萬圓の巨額となし、陳容堂々益々靈敏なる活躍を東亞の地に試みんとす、以下同社が最近の營業期たる第十一營業期自大正七年四月一日至同八年三月三十一日に於ける業務成績の概要を敘述し以て如何に其の業績の隆大なるかを示さむ。

(一)金融事業 同期間朝鮮に於ける一般農産物は豊作にして前期に比し一割餘の増收を見たるのみならず、前期以來時局の影響に因り昂騰したる物價は同期に入り米價調節に關する施設、過去五年に互る歐洲戰亂の終熄其の他各種の影響を受け、一高一低を免れざりしと雖、要するに輕微なる程度に止まり、大勢は依然として下落の模様なく、一般經濟界は好況を持續し、既設事業の擴張新事業の計劃等に基く資金の需要減退を示さざりしを以て貸付業務は前期に劣らざる繁榮を呈せり、斯くて同期間に於ける貸付金高貳千六百五拾九萬壹千四百五圓、回收金高五百參拾九萬四千八百四拾壹圓、同期間末現在貸付金高參千壹百六拾貳萬七千九百六圓を算し、之を前期に比較する時は著しく貸付金の増加を見たり、猶朝鮮及滿洲に於ける貸付金並に特別貸付金狀況を細説すれば次の如し、(イ)朝鮮 同期間に於ては米穀を始め一般農産物の價格引續き好況を持續し、地價亦昂騰したる爲め未墾地の開墾、耕地整理、水利灌溉其他土地に關する事業從て活況を呈し、殊に米作其他農作物の増收あり、而も其の市價は却て昂騰せるを以て益々各種事業を旺盛ならしめ、資金の需要亦常に



(面老一部安務道南羅全鮮朝)社會式株殖拓洋東

繁忙を極め、同期末現在貸付金は壹千七百六拾六萬五千五百貳拾七圓を算せり。(ロ)滿洲 南北滿洲の開発に伴ふ經濟的膨脹は近來著しく各種事業の投資は未だ類例を見ざる旺盛を示したり、從て一般拓殖事業に對する資金の需要は愈々多きを加へたるも一方各銀行に於ては戰後の警戒と銀資拂底とに因り、不動産貸出引續並に利子の引上等を爲したるが爲め同社に對する借入申込は頗る増加し、異常の幅帳を見、同期末現在貸付金高壹千參百九拾六萬六千參百七拾九圓を數へたり。(ハ)特別貸付金 大正六年十月同社が滿蒙進出と共に政府の命により、橫濱正金銀行より引續きたる滿蒙開發の爲め貸出せる低利特別貸付金にして讓受けたる總額は金勘定二百三十口、金百五拾五萬八千參百貳拾四圓餘、銀勘定二口、金貳拾貳萬四千圓外に未收入利息金貳萬參千五百七拾參圓餘、合計百八拾萬五千八百九拾七圓餘なりしが、其の後同期末迄に償還されたる額百七口、金七拾萬六千貳百七拾七圓餘ありしを以て同期末現在額は百二十五口、金百七拾萬六千六百拾七圓餘となれり。

(二)土地の經營 (イ)社有地 前期末に於ける社有地の面積は田五萬七千七百七拾步餘、畑一萬九千四百七十二步餘、山林二千二百八十九步餘、雜種地二千八百九十八步餘、合計七萬四千七百三十八步餘にして其の内同期間に於て道路用地に寄附又は學校、鐵道、練兵場等の用地並大邱市街地内に於ける擔保流地等を賣却處分したると且つ土地目變更並實測整理等に因り田五十五步餘、雜種地三十三步餘を増し、畑百六十七步餘、山林一町步餘を減じたるも、一面擔保流地の引受及倉庫敷地並政府の交渉に因り交換の爲め買収したるものあり、且つ間島に於て土地買収を爲したるとにより田四反餘、畑百七十七步餘、山林三百三十二步餘、雜種地六十七步餘を増加したるを以て結局しめたるも一般に豐作なりしと穀價亦未曾有の好況を呈したるとに因り、收納の施設空しからず、調定高に對し、收納歩合總平均九割九分八厘を示し、殆ど完納の域に達せり。(ロ)農産物の處分 前期より持越したる農産物の内、粟十一萬七千餘石、大豆六十餘石、雜穀二十餘石は何れも端境期迄に處分を了し、持越價格に對し、金六拾五萬參千餘圓の賣却益金を收めたり、又同期所屬小作料其他の收納農産物は收納終了期に際し、米價空前の騰貴を見たるを以て此の機に乗じ、交通の便否、集積石數及格納方法を考慮し、有利に商談を進め、同期内に於いて、粟十五萬六千餘石、大豆五十一萬餘石を處分したり。(ニ)水利土木工事 全羅南道羅州郡細枝面に於ける水田は從來不完全なる貯水池に依り灌溉せられ、收穫不定なりしを以て、新に貯水池を築造し、東倉川の流水を導入して之を貯ふると共に、用水路を新設し、該地方一帶の水利灌溉を改良普及せ



業作農清園蔘(景全上)部一ノ園蔘

ひ爲め工事費豫算金四萬六千圓を以て目下施工中に屬す、又全羅南道羅州郡洞江面大池里所在所有地六十一町餘歩は地味肥沃なるも水旱害地にして收穫貧弱なるを以て之が原因を探究して根本的改良工事を施さむが爲め其の第一期工事として工事費豫算金六千五百餘圓を計上し目下施工中なり、猶同期中施工したる修築工事は堤防、水路、溜池及整池等六百十九個所なり。(ホ)禾聖地の利用。前期中開墾したる全羅南道益山郡羅岩里なる水田百五十町餘歩は同期の始め朝鮮總督より無償附與を受けたるを以て直に耕地整理を實施し、小作料粉千七百五十餘石を實收し、又咸鏡南道高原郡下鉢面廣瀨里所在田は前期以來開墾工事費豫算金壹千參百餘圓を以て施行中なるが、同期中施工したる構築物は防水堤九百四十三間、道路千二百五十二間、排水樋及引入樋各一個にして開墾面積二十三町餘歩の内十三町餘歩は同期中水田に墾成し、試作せしめたるに相當の成績を擧ぐることを得たり。

(三)殖産事業 (イ)稲作の改良。社有小作地約四萬五千町歩の内改良種栽培適地は約二萬八千町歩を算す、而して前期中の改良種普及地は二萬三千町歩なりしが同期に於ては二萬六千三百三十有餘町歩に増加せり、猶同期に於ては既普及地に於ける改良種の純系を維持し、種子の惡變、並混種を防ぐ目的を以て種子三ヶ年更新計畫を立て、同期より其の實行に着手し、大正十二年を以て第一次の更新を終ふる豫定なり。(ロ)大豆作の改良。同期に於ける優良種普及地は四百七十五町歩にして前期に比し約四割の増加を示せり。(ハ)貸付物品。同社に於ては夙に農事改良の爲め副業獎勵上移民又は小作人に對し種苗、肥料及農具を貸與し來りたるが、漸次其の成績見るべきものあり、今同期中貸付したるものを擧ぐれば種苗改良種、大豆、雲英、桑苗、金額四萬五千四百七十四圓餘、肥料大豆粕油粕過燐酸石灰、米糠、魚肥、綠肥等金額八萬貳千九百八拾四圓餘、農具、揚水車、製繩器、製麵器、唐箕、稻穀器、蠶具等金額壹萬七千八百八拾六圓餘なりとす。(ニ)煙草及耕牛。煙草の栽培は同期より開始したる事業にして同期中に於る取扱數量は土耳古種一千七百餘貫、朝鮮在來種約十三萬餘貫なり、又耕牛の改良増殖は農事改良上最も急要の事項なるを以て同社は明治四十四年以來耕牛の貸付を開始し、年々盛況に赴き、同期五月底日に於ける貸付頭數は一萬二千九百七十四頭に達するに至れり。(ホ)果樹園及造林。大正六年春季全國の整理を行ひし結果、其の樹數は減少したるも、之が爲めに樹形は極めて能く發達し、又病虫害に對する驅除豫防上の便宜を得、日光の透射良好なる等に依り、品質外觀共に優美なる果實を生産せり、果實に於ては殊に其の效果著しく、整理前には反當平均收穫高二千顆なりしが、同期に於ては國有山野の貸付許可を受けたるもの七ヶ所、六百九十八町餘歩ありしを以て同期末現在經營面積は三萬三千二百二十九町餘歩に達せり。(四)殖民事業。同期に於て募集したる第九回移住民は第一種九百四十四戸、第二種六百六十戸、合計一千五百一十戸にして、應募數は第一種一千八百八十五戸、第二種三百四十三戸、合計二千三百二十八戸に達したり、右應募者に就ては其の身元を精査したる結果、第一種五百四十九戸、第二種四十九戸、合計五百九十八戸に對し移住承諾を與へたるが、其の後本人の都合若くは其の他の事由に因り、移住取消を爲したる者等ありて、同期末現在承認戸數は第一種四百四十二戸、第二種三十七戸、合計四百七十九戸となれり、之が移住地は京畿道、忠清南道、全羅南道、慶尙南道、黃海道、咸鏡南道、九道五十二郡に互り、割當地面積は田千二百二反八畝九步、畑九十二町一反九畝七步なり、之に前期迄の分を加ふれば戸數三千四百五十七戸、第一種三千三百八十五戸、第二種七十二戸、割當地面積田六千六百六十町四反餘、畑六百七十五町三反餘なりとす、又同期中に於て貸付けたる移住費は百三十三口金壹萬六千六百圓にして、同期末現在貸付總額二千六百六十口金貳拾壹萬參百六拾貳圓餘なりとす。

同社が最近一ヶ年間に於ける業績略：上述の如くにして同期末の決算に於て金百四拾四萬參百八拾五圓餘の利益金を擧げ、之に前期繰越金參拾四萬四千貳百八拾八圓餘を加へ、合計金百七拾八萬四千六百七拾圓餘を計上し、内金六拾八萬千貳拾五圓を缺損補填準備金に、金壹萬六千六百圓を配當平均準備金に、金四萬九千五百圓を役員賞與金に、六拾九萬參千圓を株主配當金に各充當し、金參拾四萬四千貳百八拾圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり、因に同社は本社は東京市麹町區有樂町一丁目一番地に置き、京城支店を朝鮮京城府黃金町二丁目、奉天支店を滿洲奉天西六條街十八號地に、大連支店を關東州大連市百二十二區二十六號地に、哈爾濱支店を哈爾濱埠頭區に、青島支店を山東省青島市西鎮に、水原出張所を朝鮮京城道水原郡水原面に、江景出張所を同忠清北道論山郡江景面に、金堤出張所を同全羅北道金堤郡金堤面に、榮山浦出張所を同全羅南道羅州郡榮山面に、大邱出張所を同慶尙北道大邱府に、馬山出張所を同慶尙南道馬山府に、沙里院出張所を同黃海道鳳山郡靈泉面に、平壤出張所を同平安南道平壤府に、元山出張所を同咸鏡南道元山府に、下關出張所を下關市岬町に設け、現役員は總裁石塚英藏、理事子爵松平直平、同川上常郎、同人見次郎、同夏秋十郎、同監事島德藏、同趙鎮泰、同福本元之助の諸氏なり。

海外興業株式會社

世界的企業會社たる大抱負を持し、現に我帝國の海外發展に資する處多く、殊に其將來に對し貢獻する處多大なるべく、深甚の期待を囑せられつゝ、ある同社は、大正六年十二月一日、政府の勸誘と援助の下に、從來海外移民の取扱を爲しつゝ、ありし東洋移民合資會社(明治三十年創立)、日本殖民合資會社(明治三十九年創立)、南米植民株式會社(大正三年創立)並に日東殖民株式合資會社(大正五年創立)の四會社の合併により、資本金九百萬圓を以て設立せられたるものにして、移民取扱上の統一、改善を期すると同時に、海外に於ける植民地經營、動産、不動産の賣買、農業、牧畜業、水産業、鑛業、生産物の加工、土木建築、請負其他工業、新聞經營、外國債又は債券類の應募、引受、其の他海外營利を目的とする會社の發起若くは其の株式の應募、賣買及び之に對する投資並に海陸運送及各附帶事業を營むるを目的とす、而して現在同社株數十八萬株中、其の四分の三は日本郵船株式會社、大阪商船株式會社及東洋拓殖株式會社の三大會社にて所有せらる。

斯くて同社は設立以來社業愈々順調の發展を遂げ、今や洵に隆々たる業績を擧げつゝ、あるを見る、今試に同社が最近の營業成績の一般を述べれば、大正七年度に於て取扱ひたる海外移民の數は、伯刺西爾へ三千七百八人、比律賓へ二千九百人を主なるものとし、其の他ニエカラドニア及び太平洋島等へも相當の輸送を爲したり、又た海外企業に關しては既に三名の重役及技師、技手等を南洋及南米方面へ派遣し、目下存りに調査中なるを以て之れが具體的事業として世界に公表せらるゝの、日や將に近き將來にあらんとす、尙同社は、現に南米に於て拓殖事業を經營しつゝ、ある、伯刺西爾拓殖株式會社を合併し、資本金を壹千萬圓となす豫定なるが、該拓殖會社は現に伯國サンパウロ州イグアッペに於て植民地面積八百町歩及レヂャストロ植民地面積五萬町歩の經營に従事し、大正七年度末迄に定着せしめたる植民約三百家族、一千二百人に達し、夙に南米の一角に邦人部落を建設して確實なる發展を遂げつゝ、あるが故に合併後に於ける同社は、是等事業を續行するは勿論更に幾多の積極的方針を其の業務上加ふべく、同社將來の飛躍や寔に刮目に値するものあらん。

現在同社は本社を東京市橋區宗十郎町十三番地に置き、支店を伯國サンパウロに出張所を秘露里馬市比律賓マニラ並に神戸市、沖繩縣下に設け、更らに倫敦、海峽植民地、玫瑰瑪、ニエカラドニア、タヒチ及び内地各府縣下に一名乃至數名の業務代

理人を置き、既に其の營業網を内外に張りつゝあるが元來同社の事業範圍と種類とは廣汎にして且つ多種に互れるを以て之れが執行機關も亦從つて膨大なるを要するが故に同社は向後更に上記の外、内外樞要の地に支店出張所又は代理店を設け置くべく、目下着々其の調査準備を進めつゝあり、因に同社現任常勤重役は社長神山開次、専務取締役神谷忠雄、水野龍、龍江義信、信夫淳平、青柳郁太郎の諸氏にして、尙外に取締役六名、監査役二名あり。

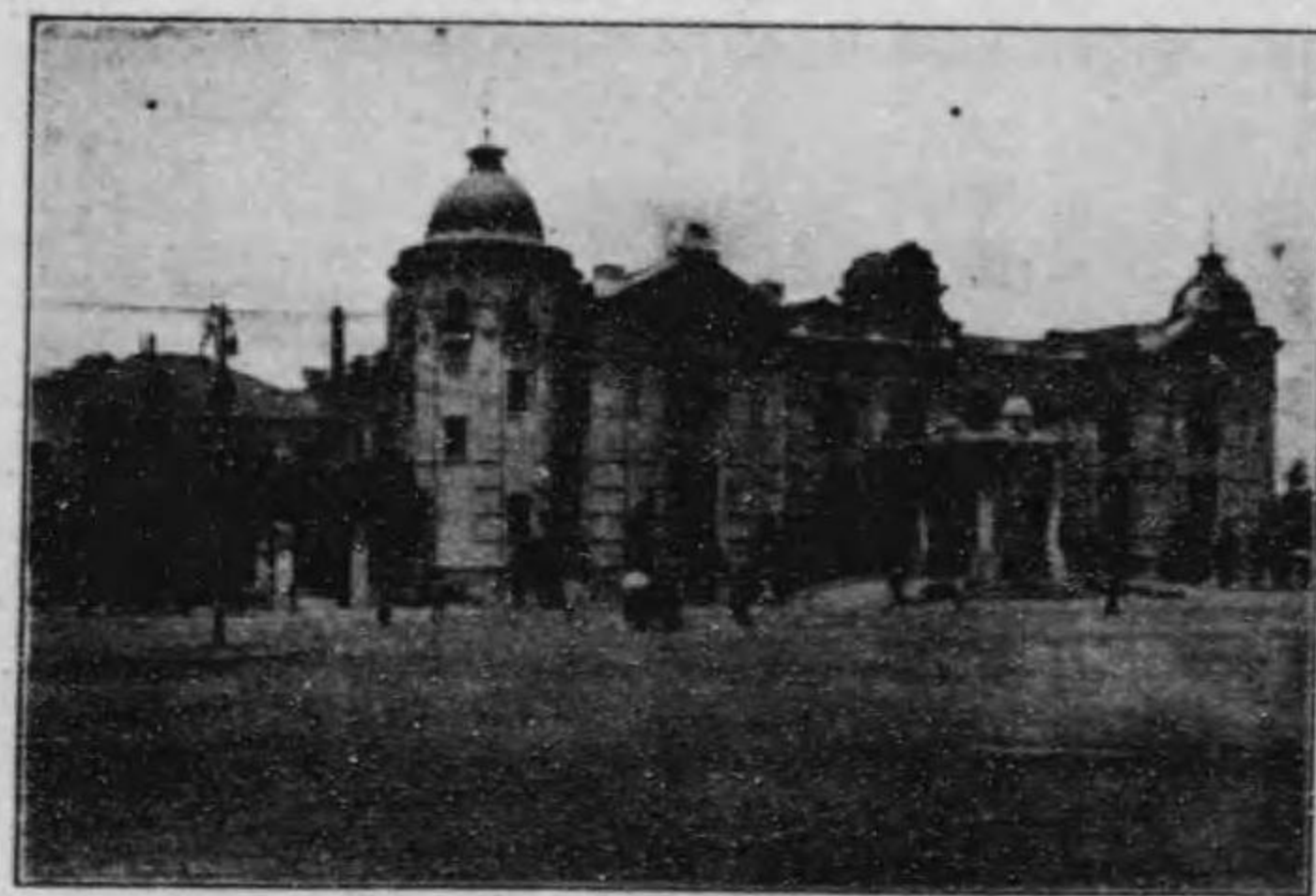
### 朝鮮銀行

沿革。同行は初韓國銀行と稱し、隆熙三年(明治四十二年)十月、舊韓國政府の中央銀行として設立せられたるものなりしが、日韓併合の翌年(明治四十四年)八月に至り、現名の朝鮮銀行と改稱し、以て今日に至れるものなり、而して同行は常に朝鮮の中央銀行たる任務に鑑み、朝鮮に於ける金融の調節、産業の開發、貿易の増進に貢獻せん事を勉めつゝあるは勿論、更に輓近海陸交通の發達に伴ひ、朝鮮と滿洲とを經濟上密接なる關係を生ずるに至りたるのみならず、滿洲自體の經濟狀態も亦顯著なる發達を呈し、且同地に有力なる我邦銀行の設置を促すに至りたるを以て、同行は其の餘力を以て同地方に其の業務を擴張することを企圖し、大正二年以降多數の支店を開設して、其業務に力むる所ありたり、後大正六年に至り、政府より種々の特權を附與せらるゝと共に、一方世間信用の増進に依りて、今や事實上、滿洲に於ても亦中央銀行たるの地位を領得するに至れり、斯くの如く、同行は其の營業區域を朝鮮の外、滿洲に及ぼし、更に日本内地との貿易上の利便を促進し、兼て内地に於ける中央金融市場と常時密接なる連絡を保つるの必要ありしを以て、其の樞要地に支店を設け、以て斯業の圓滿なる發展を期したり、而して最近、朝鮮及滿洲に於ける經濟上の進歩發達は甚だ顯著なるものあり、之を數年前に比する時は、全く其の面目を一新するに至れり、殊に鮮滿兩地と支那本部各地方間に於ける交通乃至貿易關係は倍々密接となり來れるを以て、同行は青島、上海、天津、濟南等の各地に支店を設置し、相互間の交通及商業に便する所ありたり、又歐洲大戰以來、滿洲の特産物は歐米諸外國に輸出せられて有力なる地步を占むると共に、漸次是等諸國との經濟關係近接するに至りしを以て、同行は近き歐米の主要地に支店を設け、鮮滿地方との連絡を圓滑にして、以て倍々其の貿易の増進を圖り、産業の開發に資せむことを期しつゝあり。



總裁 美濃部 吉吉 君

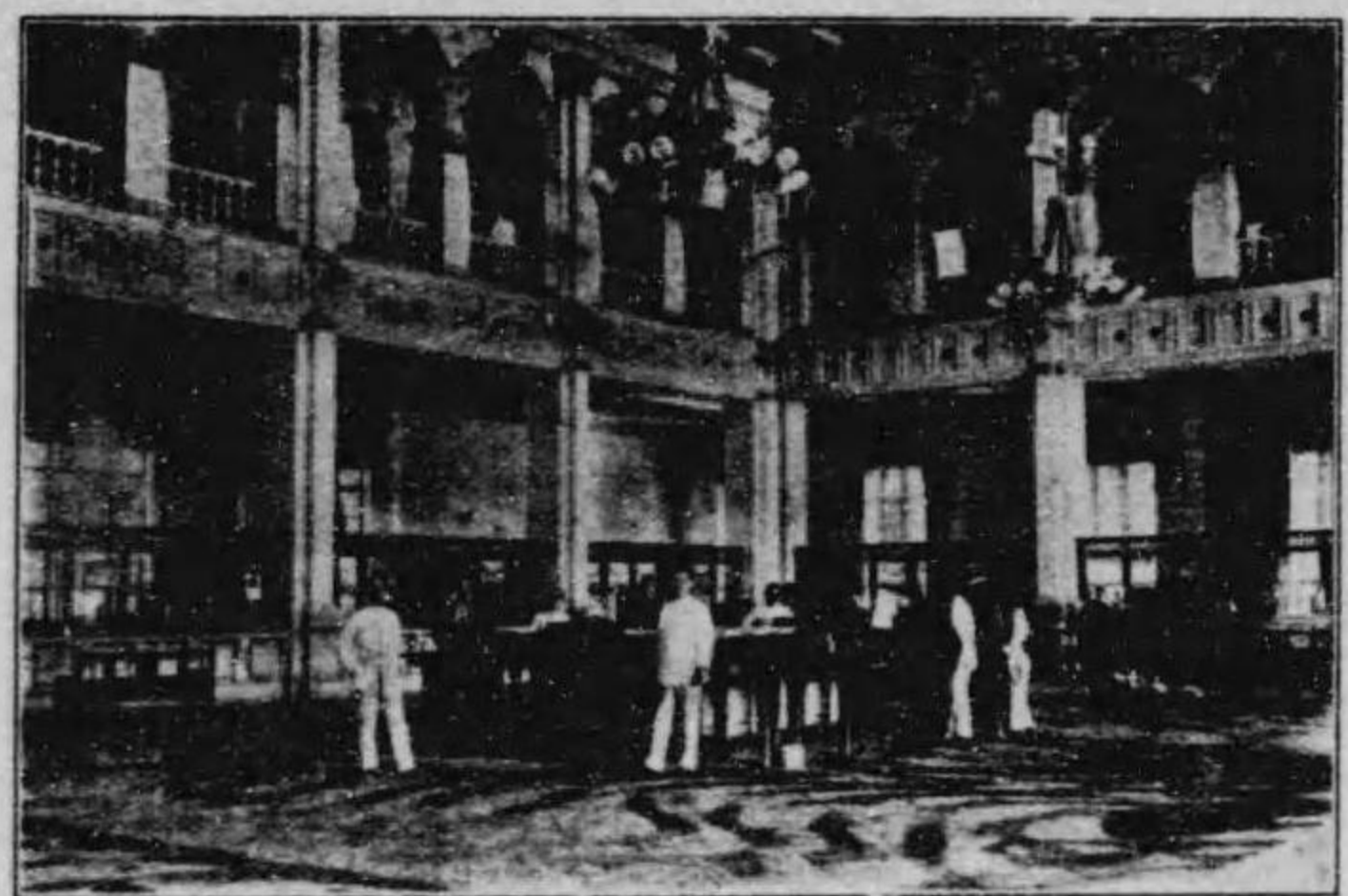
業務及現況。同行の資本金は創設の當初壹千萬圓なりしが、爾來營業地區の擴大と各種業務の發達とに伴ひ、資本金を増加するの必要を生じたるを以て、大正六年二月増資を行ひ、以て貳千萬圓となし、次で同七年十月に至り、更に貳千萬圓を増資せし結果、現在實に四千萬圓の鉅額を算す、而して其の業務は(一)銀行券の發行、(二)國庫事務、(三)普通銀行事務の三大事務にして、何れも業績隆々、洵に驚異に値すべきものあり、今左に其大要を述べん。



朝鮮銀行總行

(一)銀行券の發行。同行は朝鮮及滿洲に於ける唯一の金券發行銀行にして、其の發行する處の銀行券は朝鮮に於ては勿論、滿洲に於ても關東州及南滿洲鐵道附屬地に在りても、強制通用力を有し、公私一切の取引に使用することを得るものとす、而して同行は常に其の發行額と同額の仕拂準備を爲し、置き、其の營業時間中何時にても日本銀行券又は金貨と兌換することを保證するものなり、右發行の銀行券には百圓券拾圓券五圓券壹圓券の四種あり、尙、同行銀行券は上記の如く、其の仕拂準備を確實にするを以て、其の金融市場に於て流通の圓滿無碍なるは言を須たさざれば、滿洲に於ては支那の各銀行より流布する紙幣以上に信望を博し、從て支那商民間に於て盛に之を受授せられつゝあり、是を以て、同行銀行券は鮮滿兩地に於ける經濟界の發達と相竣て、其の發行額累年増加し、今や實に壹億壹千萬圓の巨額を算するに至れり、今試に同行創立以來各年末に於ける銀行券發行額を列記すれば左の如し。

明治四十二年末 壹千參百四拾參萬九千七百圓  
同四十三年末 貳千拾六萬參千九百圓  
同四十四年末 貳千五百萬六千五百四拾圓  
大正元年末 貳千五百五拾九萬四拾圓  
同二年末 貳千五百六拾九萬參千貳百六拾圓  
同三年末 貳千八百八拾五萬參百七拾圓  
同四年末 貳千八百八拾五萬參百七拾圓  
同五年末 四千萬六拾六萬七千八百圓  
同六年末 六千七百參拾六萬四千九百四拾九圓  
同七年末 壹億壹千五百五拾貳萬參千六百七拾圓  
尙、前掲銀行券の外、同行は大正五年六月以來、滿洲に於て小額の仕拂手形を發行す、其の種類は拾錢、貳拾錢、五拾錢の三種にして、其最近の發行額は壹百萬圓以上を算せり、而して本小額仕拂手形も亦銀行券と同く、同行の各營業所に於て日本通貨に引換ふることを保證するものなり。



朝鮮銀行營業所

(二)國庫事務。同行は中央金庫の委託を受け、國庫事務の取扱をなす、即ち朝鮮に於ては京城本金庫、滿洲に於ては大連本金庫として、朝鮮及滿洲に於ける政府收納金及支出金の受拂事務を取扱ふものなり。

(三)普通銀行業務。同行は以上の外、普通銀行と同く、預金、貸出、爲替其他の業務を營むものとす、即ち其の營業科目は(一)預金、(二)貸出、(三)手形割引及當座貸越、(四)爲替業務、(五)金銀貨、貴金屬其他の保證預り、(六)地金銀の賣買及貨幣の交換、(七)國債及地方債其他の諸證券の買入、(八)信託業務なりとす、而して以上各項目中、預金及貸出の二業務は其の最も主要なるものなるが故に、以下項を分ちて之を概説せん。

(イ)預金。同行に於て取扱ふ預金も亦普通銀行の如く、定期預金、當座預金、特別當座預金及通知預金等の數種に分たれ、各其の種類に應じて利息を附するものとす、而して是等預金も同行の實力及信用の倍々加重せらるゝに伴ひ、年々其の額を増加し、特に最近に於ける累積著しきものあり、今、同行創立以來各年末の預金總額を掲ぐれば次の如し。

六百九拾七萬八千貳百八拾壹圓 大正元年末 壹千四百拾六萬九千八百七拾七圓 同二年末 貳千八拾萬壹千九百貳拾四圓 同三年末 壹千七百五拾九萬八千五百參圓 同四年末 壹千八百五拾八萬八千六百圓 同五年末 參千參百參萬參千四百九圓 同六年末 八千八百四拾壹萬參千參百七拾貳圓 同七年末 貳億千八百九拾六萬百四拾九圓

(口)貸出金、貸出金も亦普通銀行の如く定期貸通知貸、當座貸越割引手形、荷爲替手形等の各項目に分たる然れ共同行特殊の機能上其貸出先は政府、銀行、公共團體、普通商人等を網羅し其範圍他銀行に比し甚廣汎なり、されば其貸出金額も亦累年著増し今や貳億五千九百萬圓の巨額を算するに至れり、左に同行創業以來各年末の貸出現在額を示さん。

明治四十二年末 壹千九百六拾貳萬四千六百貳拾七圓 同四十三年末 貳千貳百參萬八千貳百八拾八圓 同十四年 貳千壹百八拾九萬七千六百九圓 大正元年末 參千貳百五拾萬六千參百九拾圓 大正元年末 參千貳百五拾萬六千參百九拾圓 同二年末 參千七百五拾參萬貳千六百五拾六圓 同三年末 參千七百七拾萬六千拾貳圓 同四年末 四千萬貳百八拾六萬貳千五百壹圓 同五年末 五千萬九百四拾八萬七千貳百八拾五圓 同六年末 壹億貳千貳百七拾八萬四千七百七拾四圓 同七年末 貳億五千九百拾參萬五百拾六圓

營業所 同行は本店を京城に置き、支店、出張所を(一)朝鮮 仁川、平壤、元山、大邱、鎮南浦、木浦、蔚山、釜山、羅南、會寧以上十一個所(二)滿洲 安東縣、奉天、奉天新市街、大連、長春、四平街、開原、哈爾濱、營口、傳家、甸龍、井村、吉林、旅順、遼陽、鐵嶺、鄭家屯以上十六個所(三)支那本部 青島、上海、天津、濟南、以上四箇所(四)日本内地 東京、大阪、神戸、下關以上四箇所の各所に置く、尙大正七年八月我國の北滿洲及西比利亞に出兵の舉あるに當り、同行は同軍隊の經理に附屬して其の業務の一部を營むこととなり、爾來我軍の進出に伴ひ北滿及西比利亞の各地に派出所を開設せるもの今日迄齊々哈爾濱、滿洲里、齊多、ハロフ、スタ、デラゴウ、エシチ、エンス、バスカの六個所に及ぶ、又同行は前記營業所の外、爲替取引の利便を圖る爲め内外の各主要地に取引銀行を有し其の數幾百を以て數ふ。

主管者及事務員 同行の主管者は總裁一名、副總裁一名、理事四名、監事二名にして其の使用せる事務員と備員とは最近合計一千二百二名なり、現主管者は總裁美濃部俊吉、副總裁嘉納德三郎、理事三島太郎、同木村雄次、同大田三郎、同片山繁雄、監事伊藤長次郎、同服部金太郎の諸氏なり。

### 大阪商船株式會社

沿革大要 大阪商船株式會社の創立は明治十七年五月にして、爾來三十有餘年、拮据經營の歴史を重ね長足の進歩を遂げ、世界海運界の一大權威たるに至れり、創立の當初資本金百貳拾萬圓所有汽船一萬二千噸にすぎざりしが、營業の發展に伴ひ逐次擴張をなして今や公稱資本金五千萬圓、拂込資本金參千七百參拾七萬五千圓所有汽船百二十餘隻、總噸數三十萬餘噸の多きに達せり。

事業の梗概 創立當時に於ける同社の航路は是亦微々たるものにして、僅かに瀬戸内海を航行するのみなりしが、年々其航域を擴張し四十二年に北米航路を大正二年に孟買航路を開始し更に大正三年歐洲戰亂の勃發するありて歐洲列國の東洋方面に其船腹を提供する餘力なく東半球海運の利權は殆んど我船舶の占むるところとなり本邦海運界は儼然未曾有の

盛況を呈し又海外各地に於ては本邦品の需要頗に激増せる爲同社は前年調査せる資料を基とし南洋、濠洲及び南米に新航路を開始したるのみならず南洋航路の範圍を擴張し新嘉坡を起點として印度、南洋諸島間の航路を開始するとともに新たに



社長 堀 啓 次 君

に横濱より孟買、接續馬耳塞及ゼノアに至る毎月一回の南歐洲定期線を開始するの盛況を呈するに至り今や其航路は内海近海は勿論東は南亞細亞、西は亞弗利加、歐洲に及び東西南洋の主要なる地點に互つて四十有餘の定期航路を經營し航路運數實に十八萬餘噸に及び世界に於ける運輸交通の主要機關たる責任を負ふに至れり、左に其の主要航路を示さん。

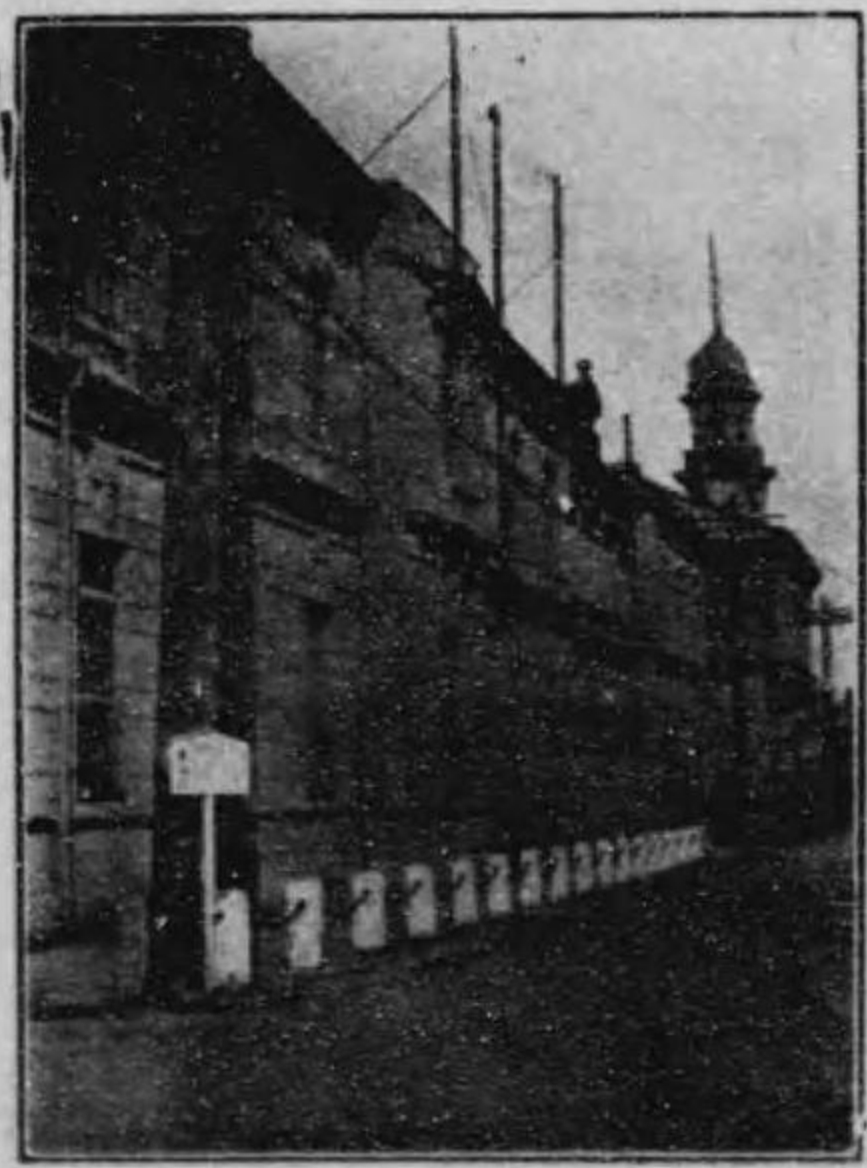
(一)遠洋航路 (イ)南歐洲線(孟買線接續) 孟買、馬耳塞線(毎月一回) 孟買、ジブチ、蘇西、西土、馬耳塞、孟買、ゼノア線(毎月一回) 孟買、蘇西、西土、ネーブルス、ゼノア。(ロ)香港、タコマ、線(隔週一回) 香港、馬尼刺、基隆、上海、長崎、門司、神戸、四日市、清水、橫濱、ビタ、トリヤ、ジャトル、タコマ、バンクーバー。(ハ)新嘉坡北米線(毎月一回) 新嘉坡、香港、馬尼刺、基隆、長崎、門司、神戸、四日市、清水、ビクトリア、ジャトル、タコマ、バンクーバー。(ニ)孟買線(毎月一回) 橫濱、四日市、大阪、神戸、門司、基隆、孟買。(ホ)濠洲線(毎月一回) 新嘉坡、瓜哇、線。(ヘ)南洋線(毎月一回) 大阪、神戸、門司、基隆、タワオ、パタビ、(ニ)瓜哇、甲谷、院線。

右の外多數の臨時船を派し現在使用せる船舶五十隻二十萬餘噸に及びべし。

(二)近海航路 朝鮮、臺灣、南清、北清及び日本海方面に縱横に航海せる諸航路十六線、常時使用船舶臨時船を合して四十餘隻約十一萬噸を以て貨客の運送に従事しつゝ、あり特に支那方面にては大連、青島、天津、上海、福州、廈門、汕頭、香港等の各地に互つて荷客の運輸に従ひ日支經濟關係に貢獻するところ尠からず若し夫れ内海航路に至りては起原最も古く會社創立以來多年其根柢を培へるものにして今日殆んど會社の獨占に歸せる觀あり其定期航路は二十三線、使用船舶六十餘隻、三萬五千餘噸を以て航運に従事す。

使用船舶建造船 會社の使用船舶は創立の當初僅かに一萬二千噸にすぎざりしが本年上半期末の調査によれば所有汽船百八隻、二十七萬一千五百噸、借入船二十七隻、七萬二千三百餘噸の多きを示し更にその造船計畫を見るに本年中に於て八隻、四萬三千六百噸の就航船を見る豫定なるを以て本年末には合計三十一萬五千餘噸を計上するに至るべし。

成績及其將來 大正六年度に於ける成績を見るに總收入七千二百四十五萬七千二百圓、内總支出金三千六百一十一萬四千五百五十四圓の利益を擧げ年平均四割五分の配當をなせり殊に大正七年度に入りては其成績著しく優良なるを得上半年期に於ける總收入六千七百貳拾壹萬六千四百九拾七圓、總支出參千百參拾四萬九

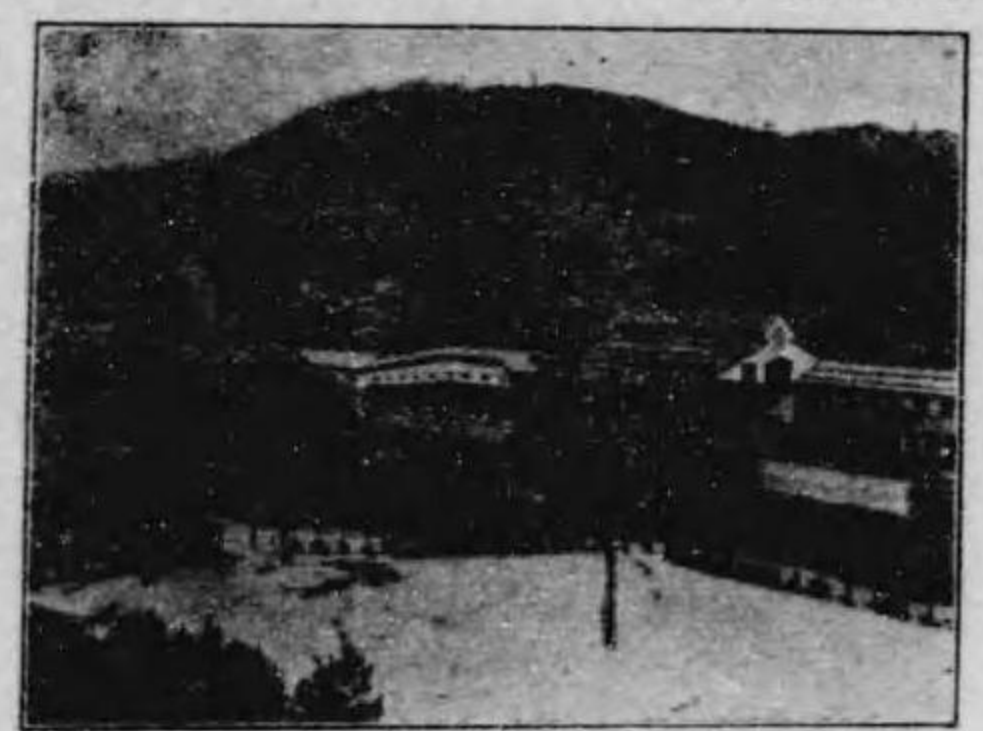


大阪商船株式會社

千六百參拾圓差引參千五百八拾六萬六千八百六拾七圓の利益を見年六割の配當をなせり。  
 此状態を以て將來を推すに世界海運界が戦前の状態に復するには平和克復後少くとも三四年の日子を要すべく同時に戦後各國貿易額の増大運賃率の昂騰等にて船腹の需要頗る加はるべきは必然の趨勢なるを以て會社收入も從つて増加するは勿論なれば同社の前途は蓋し洋々たる歴史を繰返すに至るならん。  
 従業員及機關 從業總人員陸員八百十三名同備員四百六十五名海員上級船員千二百七十一名普通船員五千五百三十一名合計八千八十名にして本店の外支店二十八出張所六在勤員八代理店及荷客取扱店二百三十七を有す即ち左の如し。  
 支店 新嘉坡孟買香港上海天津大連臺灣五朝鮮四内地一三。  
 出張所 タコマ福州厦門廣東臺地若松。  
 在勤員 倫敦市俄古紐育シドニーグエノスアイレス浦鹽青島宇品。  
 代理店及取扱店 内地は勿論朝鮮臺灣支那浦鹽比律賓布哇加奈陀北米南米亞弗利加佛蘭西伊太利英國海峽植民地印度南洋諸島の各重要なる個所に設く。  
 會社重役 同社の現重役は取締役社長堀啓次郎同副社長山岡順太郎同理事加福力太郎取締役豊田喜右衛門同寺西成器同田中隆三同阿部彦太郎監査役野元駿同範多竜太郎同多羅尾源三郎の諸氏なり。

### 北海道炭礦汽船株式會社

同社は石炭の採掘販賣並鐵道運輸の二業を經營する目的の下に明治二十二年十一月資本金六百五十萬圓を以て設立せられたるものにして當初北海道炭礦鐵道株式會社と稱し其の鐵道の延長六十一哩採掘炭礦僅に幌內幾春別の二礦なりしが爾來事業の擴張と共に漸次株式を増募し同三十八年には資本金貳千七百萬圓に上り採掘炭礦六ヶ所鐵道延長二百八哩に及べり而して翌三十九年十月社有鐵道の國有に歸するや商號を現名に改稱せり斯くて現在同社の營業目的は、一石炭鐵礦其他の礦物を採掘し砂鐵を採掘九十六礦區ありて之れに前記稼行の炭礦を合すれば實に一億二千萬坪に達し他年事業完成の曉は現今に數倍する出炭額を見るに至るべし尙是等諸炭の炭質並に用途の概要を述べれば夕張炭夕張眞谷地萬字産は發煙熔結性石炭にして其質堅緻燃燒充分火力強烈用ひて適せざるものなく就中汽車汽船の燃料瓦斯及炭炭の製造用に適し其好評海の内外に洽く空知炭は發煙熔結性石炭にして其質良好火焔伸張火力強烈最も炭炭製造に適し汽車汽船の燃料として亦好評あり幌內炭幌內幾春別産は發煙不熔結性石炭に屬し其質堅硬粉砕し難く燃燒充分火力強烈にして各種の蒸汽瓦斯發生機並發煙爐用として極めて優良なるを以て家庭用として大に歡迎する而して從來石炭の販賣は直接之を行ひしも大正三年以來三井物産三井礦山石狩石炭の三會社と共同して四社賣炭部を組織し賣買を委託せり炭炭は追分に炭炭製造所ありてコークス室大小三百七十基年産額八萬噸熔鑄用又は鑄物用として好評あり又同漕は現在まやち丸夕張丸萬字丸の三艘を有するに過ぎざれ共定期又は臨時に備船して斯業に従事し電燈は最近供給燈數十燭換算二萬燈を數へ煉瓦は野幌に製造所ありて燒窯六基年産額一千萬本其品質良好且つ耐寒性なるを以て酷烈なる寒氣に對し毫も凍損の虞なく建築工事に適す猶同社は夙に杭木需給の關係を慮り明治三十一年栗山及兩龍に於て植林の計畫を立て其後益々之れを増加し現今社有の山林は礦區所在の各地に散在し其の面積二萬六千餘町歩に上り毎年植栽と補植とを行ひ又農耕に適する地には小作人を入場せしめ開墾を奨励し其既墾面積千八百町歩に及べり。  
 今試に同社が大正七年下半年に於ける營業狀況の概要を述べれば(一)炭礦及同漕 同期間各礦の操業は夕張礦所屬天龍坑及幌內礦所屬養老坑に於て瓦斯爆發の外著しき事故なく出炭の獎勵と鑛夫の補充に努めたる結果各礦出炭高の夕張四十五萬五千噸萬字十六萬一千五百噸眞谷地十萬一千噸空知十八萬二千噸幌內十萬五百噸幾春別五萬六千噸にして之を前年同期に比すれば三萬七千六百二十二噸を減少したれども前期に比すれば二千三百噸を増加したり而して同期間の石炭販賣高は一百一萬四千八百七十七噸にして炭炭製造高は二萬四千六百十六噸なり而して炭炭は前期より引續き高調を持續して需要減退の色なく期末歐洲大戰休止の報に接するや本邦事業界の打撃亦少なからざりしも九州地方炭礦坑夫の暴動流行性感冒等の影響は供給の不足を來たし依然強含みのまゝ同期を終れり而して北海道内の鐵道輸送は四百七十本にして買入品を加へ六百三十七萬九千八十本を販賣せり(四)山林 二股植苗の兩山林に於ては落葉松を植栽し、



景全礦本張夕

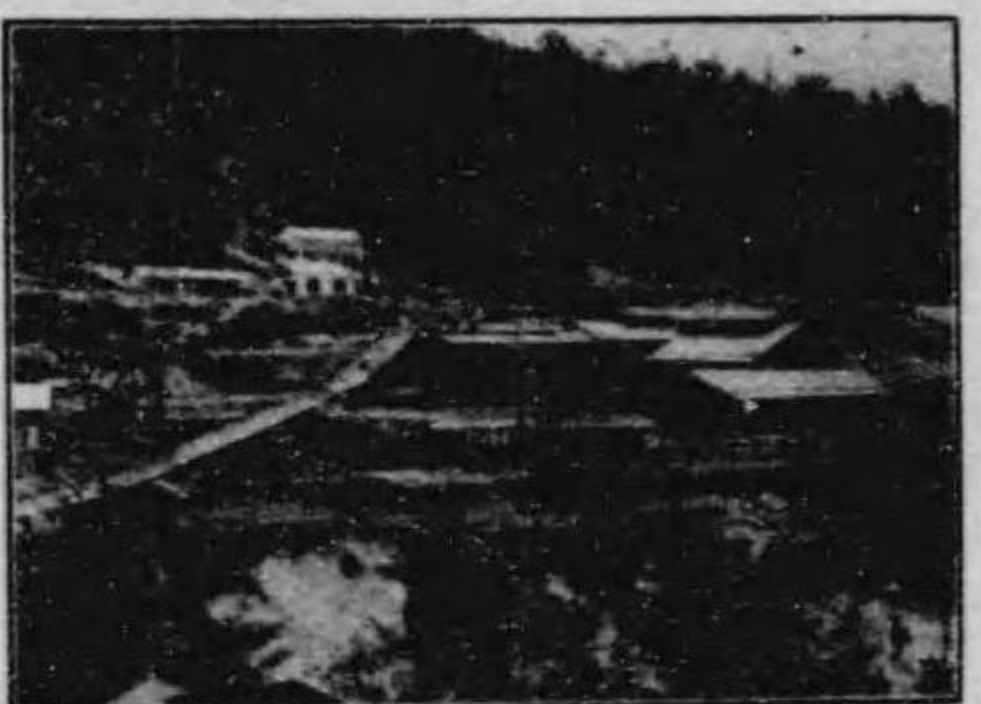


場干瓦煉幌野社同

質堅緻燃燒充分火力強烈用ひて適せざるものなく就中汽車汽船の燃料瓦斯及炭炭の製造用に適し其好評海の内外に洽く空知炭は發煙熔結性石炭にして其質良好火焔伸張火力強烈最も炭炭製造に適し汽車汽船の燃料として亦好評あり幌內炭幌內幾春別産は發煙不熔結性石炭に屬し其質堅硬粉砕し難く燃燒充分火力強烈にして各種の蒸汽瓦斯發生機並發煙爐用として極めて優良なるを以て家庭用として大に歡迎する而して從來石炭の販賣は直接之を行ひしも大正三年以來三井物産三井礦山石狩石炭の三會社と共同して四社賣炭部を組織し賣買を委託せり炭炭は追分に炭炭製造所ありてコークス室大小三百七十基年産額八萬噸熔鑄用又は鑄物用として好評あり又同漕は現在まやち丸夕張丸萬字丸の三艘を有するに過ぎざれ共定期又は臨時に備船して斯業に従事し電燈は最近供給燈數十燭換算二萬燈を數へ煉瓦は野幌に製造所ありて燒窯六基年産額一千萬本其品質良好且つ耐寒性なるを以て酷烈なる寒氣に對し毫も凍損の虞なく建築工事に適す猶同社は夙に杭木需給の關係を慮り明治三十一年栗山及兩龍に於て植林の計畫を立て其後益々之れを増加し現今社有の山林は礦區所在の各地に散在し其の面積二萬六千餘町歩に上り毎年植栽と補植とを行ひ又農耕に適する地には小作人を入場せしめ開墾を奨励し其既墾面積千八百町歩に及べり。  
 今試に同社が大正七年下半年に於ける營業狀況の概要を述べれば(一)炭礦及同漕 同期間各礦の操業は夕張礦所屬天龍坑及幌內礦所屬養老坑に於て瓦斯爆發の外著しき事故なく出炭の獎勵と鑛夫の補充に努めたる結果各礦出炭高の夕張四十五萬五千噸萬字十六萬一千五百噸眞谷地十萬一千噸空知十八萬二千噸幌內十萬五百噸幾春別五萬六千噸にして之を前年同期に比すれば三萬七千六百二十二噸を減少したれども前期に比すれば二千三百噸を増加したり而して同期間の石炭販賣高は一百一萬四千八百七十七噸にして炭炭製造高は二萬四千六百十六噸なり而して炭炭は前期より引續き高調を持續して需要減退の色なく期末歐洲大戰休止の報に接するや本邦事業界の打撃亦少なからざりしも九州地方炭礦坑夫の暴動流行性感冒等の影響は供給の不足を來たし依然強含みのまゝ同期を終れり而して北海道内の鐵道輸送は四百七十本にして買入品を加へ六百三十七萬九千八十本を販賣せり(四)山林 二股植苗の兩山林に於ては落葉松を植栽し、



景全港關室



景全礦内鐵社同

其他の山林に於ては植栽豫定地の地拵及火防線を新設せり、斯くて業緒隆々同期末の決算に於て參百九拾參萬壹千五百參圓餘の純益金を擧げ内壹百貳拾貳萬圓を法定並特別積立金とし年壹割の普通配當年八分の特別配當を行ひ貳拾九萬八百七拾七圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり、因に同社は本社を東京市日本橋區本草屋町五番地に置き支店を北海道夕張町字鹿の谷に出張所を小樽區北六條西四丁目、函館區真砂町室蘭區海岸町に、電燈所を室蘭區海岸町に、炭炭製造所を勇拂郡安平村追分、煉瓦製造所を札幌郡江別町野幌に設け、現重役は取締役會長團琢磨、専務取締役磯村豊太郎、同宇野鶴太郎、常務取締役高城規一郎、取締役池上伸三郎、同山田直次、監査役小野友次郎、同櫻内幸雄の諸氏なり。

株式 日本製鋼所

同社は明治四十年十一月八日を他て創立せられたるものなり、今其の由來を討ぬるに、明治三十九年北海道炭礦汽船株式會社所有の鐵道が國有に移りし結果、回收せられたる資金を割き國家的必要なる製鐵製鋼事業に投じ、以て邦家に貢獻せむとの議、同社の内に生じ、乃ち之を政府當路者に語りしに、當路者亦大いに之を賛し其の創立を德憑せし、尙ほ未だ具體的成案を見るに及ばざりしが、恰もよし、多年帝國に軍艦及兵器を供給し來れる英國アームストロング・ウエイト・ツ・オース會社及英國グエッカード・スリミテッド會社亦諸種の便宜上、我國に一大工場を設置し、以て大いに東洋に發展するの頗る有利有望なるを看取し、各その代表者を派し來たりて我が當局者に贊助を求むる所ありし一面には、又當局者も日英同盟の關係に顧みて兩國共同事業となすの頗る時宜に適せるを認め、爰に愈々同製鋼所設立の議を決し、兩國代表者東京に會合して假契約を締結せり、同年十一月に四十年三月七日なり、次いで再び英京倫敦に於いて本契約を締結し、同年十一月一日、東京に創立總會を開き、其の成立を見るに至れり、斯くて資本金を壹千五百萬圓とし、本社及工場を北海道室蘭に置き、東京營業所を東京市芝區新幸町九番地に出張所を横須賀市旭町五番地、新舞鶴町字濱二百二十五番地、吳市莊山田五番町一丁目五十八番、佐世保市上町十三番地、英國ニューカッセル等に設置し、一面時



社長 高崎親章君

を政府に請願し、特に勅許を得て、現職の儘同工場の設備萬般の事を掌る、中將は實に吳鎮守府をして造船、造機、造兵の海軍工業全課程を包攝する世界的の大工廠たらしめ、英國のアームストロング會社、ベアードモア會社、ピッカース造船所と共に天下の代表的四大工廠たる名を馳するに至らしめたる人にして、又夙に公私の間に斡旋奔走の勞を取り、日本製鋼所の成立に盡瘁したる人なり、斯くて同社は一面その工事を起すと共に我が技術者を英國に派し親しく各工場を巡視して設備の研究を爲さしめ、又英國側投資者と諸般の設備を遂げ且つ専門技術者の助言を聞て頗る微細に渉れる調査をなし、以て最善最新の設備方法を採用し、四十四年一月一日其竣工と相俟つて營業を開始せり、工場敷地其他の所有地は三十一萬



同社丁未全景

六千九百餘坪にして、海陸軍省御用地借用三十六萬五千坪あり、然して室蘭港は道中屈指の良港にして、大船巨船の碇泊に利便なるも、同社は特に用地の一角より長さ千三百呎幅六十呎の埠頭を築き、其の一端に棧橋を設け、干潮時の水深二十六呎にして、隨時大船の横付に便ならしめ、其の最端に百噸の電力起重機を運轉し、貨物積卸の便に供し、埠頭及御崎の兩點と各工場間に六十封度及四十五封度の廣狹軌道敷線を敷設し、總延長十哩餘に及ぶ、工場を十一箇に區分し、一、製鋼室は總坪百六十六坪を有し、七十名内外の製鋼手を容るゝに足り、尙別に二十坪の寫真場と三十餘坪の倉庫あり、二、機械工場は粗仕上工場及仕上工場の二部に分れ、同社工場中最大のものにして、總坪數七千餘坪あり、此工場に於いて各種大砲其他すべて製作品の仕上を爲し、場内の諸機械は皆最新式のものを用ふ、三、焼入及燒炭工場は同社諸工場中最高の建物なり、大砲其他の焼入及砲身層成作業を爲す處とす、四、鍛鍊工場は各種大砲及其他各種機械用の鋼塊鍛鍊を行ふ處とす、總て電力及水力により運轉す、五、鑄造工場は兵器製造用其他の鋼材を鑄造し及び各種の鑄鋼品を製作する處とす、別に鑄鐵黃銅の鑄造をも併せ行ふ、六、模型工場は煉瓦造二階建にして鑄造工場に要する一切の模型を製作する處なり、七、鍛冶工場は十二噸以下の各種汽鎚を有し、小鍛鍊物を製作する處にして、又附屬小燒鈍爐及油槽を設け、小鍛鍊物の焼入及燒鈍を爲す、八、試験室は平家煉瓦造にして五十噸、百噸の試験器及分析に要する各種の機械器具を有し、各種の試験をなす處なり、九、發電所は各種發電機を備へ、各工場及埠頭起重機等、電動機四百臺の動力に使用し、又各工場並に社宅用白熱燈、弧光燈の點火に供ふ、一〇、汽罐室は鐵屋煉瓦造にして、英國パゴ管材料類、各種鑄鋼、鑄鐵銅及砲鋼、鍛鍊物の仕上製作、各種橋梁、鐵材構造物の製作、ト、工場用諸機械類一切、チ各種水壓鍛鍊機、水壓昇降器、水力機類、ロール機、リ、船舶用諸軸類、鐵道用車軸、ス、旋盤工用及仕上工用諸器具、各種鋼、ル、機關車及運



日本製鋼所

式汽罐を裝置し、その汽罐は最新式自動焚火機を備へ、燃料を自動的に供給し、又エコマイザを以て給水を熱し、四個の送風機を以て通風を加減し、貯炭槽には運炭機を使用し、給炭口には自動炭量器を裝置する等、勞力と燃料との經濟に遺憾なきを期せり、一、瓦斯發生爐は最新式のものを用ひ、各工場の爐に要する瓦斯を發生せしむ、同社の製作品は、海陸軍用砲々身大口徑以下各種同砲架各種各種揚器水雷發射管等、ロ、鑄鋼物、船尾管、船首骨、舵骨、推進軸承砲架、タービン用材料、蒸氣機、鍋爐、其他機關構材料、發電機、棒及電動機、棒、鋼類、探礦冶金用機械構材料、鑄鋼彈類、ハ、鍛鋼物、各種機關軸吸鑿其他機關用構材料、水雷料、タービン用各種材料、艦船用諸材料、水雷空氣室砲身及砲架材料、類鑄鐵物、ニ、各種汽筒蒸氣機關構材料、水道及瓦斯用鐵管各種ロール類、堅鐵車輪、鑄鐵彈丸類、可鍛鑄鐵品、ホ、各種砲鋼、黃銅、船船用諸金具、推進器、各種弁類、復水器、各種軸承類、水中發射管、魚形水雷用磷青銅金物、砲架用材料、信

られし時代なるも、尙ほ將來を慮りて十四時砲をも製作し得べき餘地を保留せしに、今や果してその需要に應じ得るに至れり。現に伊勢艦、日向艦の主砲十四時四十五口径砲は同所に於いて完成せられたり、言ふ迄もなく十四時砲の如き其の製造の難き驚くべきものあり、九間餘の砲身を鍛造したる後、之に厚強なる鋼輪を焼き嵌め、而も内鋼管の直徑より外鋼管の直徑を短縮して不斷に之を壓退するものなるが其の完成迄には幾回かの失敗を反覆するの常にして、其の都度鑄直すの勞力と費用は莫大に上ほり、十四時砲一門の重量は七十噸餘なるも之を製作せんが爲には、約三百五十噸の鐵を以て臨まざるべからず。尙ほ砲身に捲付くる鋼鐵線は長さ百六十哩に達する等々を念ふとき、其の製砲所の進歩に頗る意を強ふせずば非ざるなり。然して同社製品の優越なるは言ふを俟たず、畢竟經營者努力の結晶に他ならず。其他の設備としては、國道を隔て、同社と相對し眺望絶佳なる處に病院を設け、醫療器械器具等總べて最新式に屬す。隣地に看護婦寄宿舎、病院役宅數棟を建設し、工場内に御帶所を設備す。尙ほ千餘種の役員及職工の舎宅を建設せり。更に慰安の設備としては、俱樂部の外に共樂座と稱する演劇場あり。百花園あり。登別温泉場に保養所あり。説教所あり。社員及職工兒童の爲め附屬小學校及幼稚園あり。其他の設備眞に到り悉くして間然する處なし。最近大正七年下半年に於ける決算公告を見るに、資本金壹千五百萬圓、社債九百七拾萬圓を算し、同期の利益金貳百貳萬九千參百貳圓に達し、壹百拾貳萬五千圓を株主配當金とし、法定及特別積立金後期繰越金に合計百貳拾參萬五千九百圓を當て、以て社債の鞏固を圖れり。かくて諸積立金及繰越金合計九萬五千圓にも足らざりしもの、今や此等合計百拾萬餘圓を以て大正八年度に蒞むに至れるを見れば、最近の業績が著しき好良を示し來れるを察すべきなり。蓋し時局の影響と技術の進歩、經營の宜しき事實等の綜合して、茲に至れるものなるべきと共、益々將來の多望なるを想定せしめずば、あらざるなり。現任重役は取締役社長高崎親章、取締役水谷叔彦、同株主愛輔、同磯村豊太郎、同ドグラス、ピツカース、同ジョン、ヘンリー、ブリュー、ユール、ノール、同エフ、ビー、テイ、トレベリアン、同伯爾廣澤金次郎、監査役サクストン、ウキリアム、アームストロング、ノール、同伯爾寺島誠一郎、同坂東喜八の諸氏なり。

### 中島鑛業株式會社

中島鑛業株式會社は鎮西炭坑界の偉傑中島徳松氏が自ら社長に當りて經營しつゝ、ある新進の大會社にして資本金壹千萬圓を有し、其所有炭坑は中島飯塚平山佐賀の四大炭坑を數へ、本部を福岡縣嘉穂郡穂波村なる飯塚炭坑に置き、社内を經理職務營業調査の諸部に分ち、更に鑛務部を採鑛機械電氣營業の諸課に分ち、最近一ヶ年の出炭額九十六萬噸、利益金五百四十萬五千圓を算し、其の規模の宏大なることに於て、業績の隆大なることに於て、將來前途の洋々として多望なることに於て、正に本邦斯界の巨星を以て稱せらるゝ。今左に現在事業の主要を述べ。



中島徳松君

(一)中島炭坑 同坑は福岡縣田川郡大任村及川崎村に在り、鑛區面積一百十四萬一千七百六十八坪にして、炭層は上層八尺炭質收炭量二百五十二萬一千五百五十噸、下層四尺炭質收炭量二百二十二萬八千噸、合計四百七十四萬九千五百五十噸なり。現在採炭せるは八尺炭のみにして、大峰八尺と稱し炭質は百分中水分二・六、揮發物四・九、二、硫黄分五・六、四、六、灰分三・九、〇、硫黄分〇・三、八、比重一・二、八、八、發熱量七、二、六、〇、カロリーを示せる優等一等炭に屬す。大正七年一月に於ける一日の平均出炭額は第一坑三一、三、〇〇噸にして、大正八年一月の夫れは三七、九五〇噸なり。採炭費は坑處積込迄一切一噸平均金七圓六拾錢、坑處より若松港迄汽車送り運賃九拾壹錢七厘に當る。賣價は坑處積込値段安價に見積り拾七圓位とす。次に同坑設備の概要を述べれば、本卸し、鐵管卸し、又卸し、合計一千四百八十五間、鐵管木管の延長六千七百七十八尺、軌道の延長三千九百三十七間、炭車三百七十五臺、鋼索一萬三千二百尺、家屋九十七棟、此建坪二千六百七十五坪、四合、棧橋六十七間、鐵製煙突二本、變壓所一棟、外に電燈水道の設備ありて、電話線延長千八百五十間、及、動力に於ては、ランカッシャー、徑六尺、長さ二十四尺、二十九尺、三十尺のもの各一基、總馬力二〇七馬力、捲揚機は雙汽笛二十時十六時各一基合せて三百五十馬力、排水設備は各種ポンプ七臺にして、一分間の排水量百二十八立尺、但し本坑下底の坑内水は坑道の中途第十五片磐迄揚げて、之れを大峰炭坑の排水道に流去せしむるが故に、本坑自身の排水設備は比較的輕易なることを得たり。之れ同坑採炭費の少なき主因とす。通氣は自然通氣にして、本卸しより排出す、但し深き先には旋風機二基を据付け、一分間五萬立方尺を排氣す。同炭坑の投下資本は貳百拾八萬九千六百圓、人口二千四百四十人、内從業者千三十人なり。大正八年一月現在一ヶ月出炭一萬一千三百七十噸にして、今後之れを二萬噸以上、二萬五千噸に増加するの計畫あるも、鐵道積込棧橋短きが故に之を延長する爲め、鐵道院との交渉既に纏り居ると云ふ。

(二)飯塚炭坑 同坑は福岡縣嘉穂郡穂波村及稻葉村に在り、鑛區合せて八十三萬三千〇三十四坪とす。炭層は都合九層ありて、實收炭量は二千二百九十三萬三千九百九十噸なり。炭質は、水分二・一、揮發物四・〇、三、三、硫黄分〇・四、三、比重一・二、九、四、發熱量八・〇、三、〇、〇、一、揮發物三・五、四、四、灰分六・二、一、七、硫黄分〇・六、七、比重一・三、〇、二、發熱量七・七、〇、〇、にして、大正七年一月に於ける一日の平均出炭額は七、三、九、五、三噸にして、大正八年一月の夫れは一、六、一、四、九、八噸なり。採炭費は坑處積込迄一切一噸平均七圓貳拾錢にして、坑處より若松港迄汽車送り運賃八拾六錢に當る。賣價は坑處積込値段に同じく安價に見積り、三尺炭拾六圓、七、ヘダ炭拾四圓八尺炭拾參圓とす。同坑設備の主要を述べれば、坑口は十一坑ありて、坑道の延長は總計三千四百二十八間以上にして、鐵管の延長は一萬四千四百四十四間、炭車八百四十八臺、鋼索の延長一萬七千二百八十尺、家屋四百六十一棟、其建坪一萬二千三百三十二坪、棧橋四百六十八間、煉瓦煙突四本、鐵製煙突四本、發電所一棟、水道電柱、電燈設備あり、電話線約一萬五千間とす。動力に於ては、汽罐二十四基にして、一千八百四十八馬力、外に、パンプ、ク、汽罐四基は三百、キ、發電機二基に附屬す。捲揚機は全數十二基、力量六百六十七馬力を出すべし。排水設備には、大小各種ポンプ六十四臺、排水量一分時間千八百八十三立方尺、通氣全部自然排氣に依る。同炭坑の投下資本五百七拾參萬壹千拾六圓、人口は七千七百八十九人、内從業員三千五百二十六人なり。大正八年一月現在一ヶ月出炭四萬八千四百四十八噸餘にして、大正八年度末には、優に七萬噸を出炭する豫想なりと云ふ。

(三)平山炭坑 同坑は元、毛利家の有なりしが、堀三太郎氏譲り受け、更に最近堀氏より中村氏に譲り、更に又同社に譲渡せしものなり。同坑は福岡縣嘉穂郡桂川村、磯井村地内にありて、鑛區は七號面積十一萬六千四百四十二坪、同採炭五〇一號、面積百六十九萬四千四百二十二坪、炭層は總て六層ありて、實收炭は一、千、三、百、六、十、六、萬、千、四、十、噸、なり。炭質は區々にして、桂川三尺水分一・五、揮發物三・七、二、六、硫黄分六・一、九、灰分一・三、八、九、硫黄分〇・八、六、比重一・三、四、八、發熱量六、二、七、〇、〇、桂川五尺水分一・五、二、揮發物三・八、七、〇、硫黄分五・九、七、八、灰分六・六、硫黄分三・七、七、比重一・三、二、八、發熱量六、六、〇、〇、〇、集九五尺水分一・二、九、揮發物四・〇、〇、



九、炭分五八、六二、灰九、〇四、硫黃三、一一、比重一、三二八、發熱量六、八二〇なり、されば炭質は何れも飯塚、中島兩坑の夫れに劣れり、大正七年一月中に於ける一日の平均出炭量は四六、八二一噸にして大正八年一月の夫れは六二、三九三噸なり、採炭費は坑處積込迄一切一噸平均金六圓八拾錢、坑處より若松迄汽車送り運賃壹圓〇參錢、賣價は坑處積込値段に同じく安山に見積り四拾圓位とす、同炭坑設備の概略を述べれば、坑口は七坑にして、卸し合計二千六百七十五間、鐵道管の延長三萬八千六百〇九尺、軌道の延長一萬六千四百六十五間、家屋二百五十五棟、此建坪五千八百九十九坪、棧橋五百間、鐵製煙筒七本、水道電燈の設備あり、電話線延長二千六百二十五間、及、動力には汽機二十四基、千九百二十六馬力を出す、捲揚機は十一基、力量合せて五百九十二馬力、排水設備にはポンプ各種五十臺、排水量一分時間千〇八十立方尺、通氣は全部自然通氣とす、同坑の投資額は參百五拾壹萬參千九百參拾圓、人口四千九百七十五人、従業員二千二百四十人とす、大正八年一月現在一ヶ月出炭額は四萬〇百三十八噸にして、本年中には五萬噸乃至六萬噸の出炭可能なりと云ふ。

(四)佐賀炭坑 同坑は同社が最近に買入れたるものにして、佐賀縣杵島郡大町外一村地内に在り、鑛區總面積一百六十一萬七千八百七十坪を算す、炭層は杵島五尺の一層にして、其の下に約三尺の一層あり、此層の性質は明かならず、炭層は上中下の三部に分れ、其間に薄き粘土の挟み及び、ホタ挟みあり、上中下三部は大約三等分し、各一尺五寸以上二尺内外の厚みを有す、在炭坪數合計七十一萬八千八百七十坪、實收炭量三百九十五萬五千六百七十二噸なり、炭質は未だ十分の調査を経ざるも同坑の石炭は炭質一等炭位の品質を彷彿し、上中下三部分共に相當の品位を維持し、杵島炭坑の石炭と略相同じ、大正八年一月現在の出炭額は一日四十五噸より七八十噸にして、排水用の汽機燃料に供給するのみ、採炭費賣炭價格未だ定らず、同坑の設備は坑口より本卸し百二十九間にて着炭し、炭層に副うて七十間を進み、鐵管卸しも亦殆ど同様の延長に達したり、動力としては從來ランカッシャ汽機六尺に二十四尺のもの二基、コルムッシュ汽機五尺に二十尺のもの一基を有せしが、今や七尺に三十尺のランカッシャ汽機四基を増置し、捲揚機は從來十二吋のもの一臺なりしを、今や二十吋二臺を増設せんとす、排水には十四吋ボンプ一臺、坑道先に水没し、十六吋一臺、十八吋六臺、二十吋一臺を増設し、外に十八吋一臺を増設せんとす、又二百五十キロワットの發電機据付中にして、完成の上は電氣タービンボンプを使用せんとす、坑口より六角川迄築堤上に、レールを敷設し、エンドレス鋼索を使用せんとす、別に引込線を鐵道院に交渉、布設の許可を得たり、目下坑夫納屋一棟、十二戸分のもの一百棟建築中なり、同坑の買收價格は壹百五拾萬圓にして、今後、諸般の設備完成する迄には、更に壹百五拾萬圓を要すべし。

以上は同社四炭坑の概況にして、此四炭坑に投下せし資金は合計壹千四百拾參萬四千六百四拾貳圓外に鑛區代金として約壹千圓を見積り、合計貳千壹百四拾參萬餘なりとす、又此外に未開炭礦及雜鑛區代價として貳百參拾餘萬圓を見積り、而して今後佐賀炭坑の完成迄に要するは合計貳百五拾萬圓に上るが故に、總計貳千六百貳拾參萬餘圓となる、此投資完結の後に至らば一ヶ月平均十二萬五千噸は安全に出炭すべく、則ち一箇年には一億五千噸に到達すべし、尙顧みて之を炭量に徴するに未着手鑛區は措いて間はず、以上四炭坑のみにて合計四千五百二十九萬八千四百五十二噸となる、之を年々百五十萬噸宛出炭すれば、正に三十箇年間の採炭に耐ゆ、又上記の如く同社が大正八年度の出炭額は九十六萬噸にして、其の利益金は五百四拾萬五千圓なるを以て、約一噸に對する利益は五圓六拾錢なり、されば若し大正九年度に於ても尙此利益を持続すとせば、一億五千噸に對して正に八百四拾四萬五千圓の利益を見るべし、今此の計算に依るときは、何人も同社の前途が極

めて有望なるを斷言するに躊躇せざる可し、唯、炭價物價勞銀運賃並に市場の吸收力が果して一噸五圓六拾參錢の利益を維持し得るや否やは豫言し能はざる所なれども、燃料の世界的不足は今後容易に緩和せられ得べしとも思はれず、而して九州地方の産炭は其増加率極めて鈍狀を呈し、動もすれば減退せんとする傾向あるを以て、今日の形勢より見て前途を悲觀すべき理由は毫も發見すること能はざるなり、同社の將來や真に洋々として春海の如しと云はざる可らず。

社長中島徳松氏は剛毅にして智謀に長じ、且つ頗る仁慈に富み、夙に身を炭業界に投じ、雄飛の志物々として、禁すべからざるものありしも、資金の缺乏は氏をして其の志を伸ぶる事を得せしめず、永く藏内氏の下に雌伏して、隱忍時機の來るを待の外なかりしが、曩に事業界の怪傑中村清七郎氏との提携成り、蛟龍を雲を得て、池中を脱し、今や如上の飛騰奔跳を恣にするに至る、想ふに向後の飛躍や更に益々、利目に値するものあらん、乞ふ自愛せよ。

日本石油株式會社

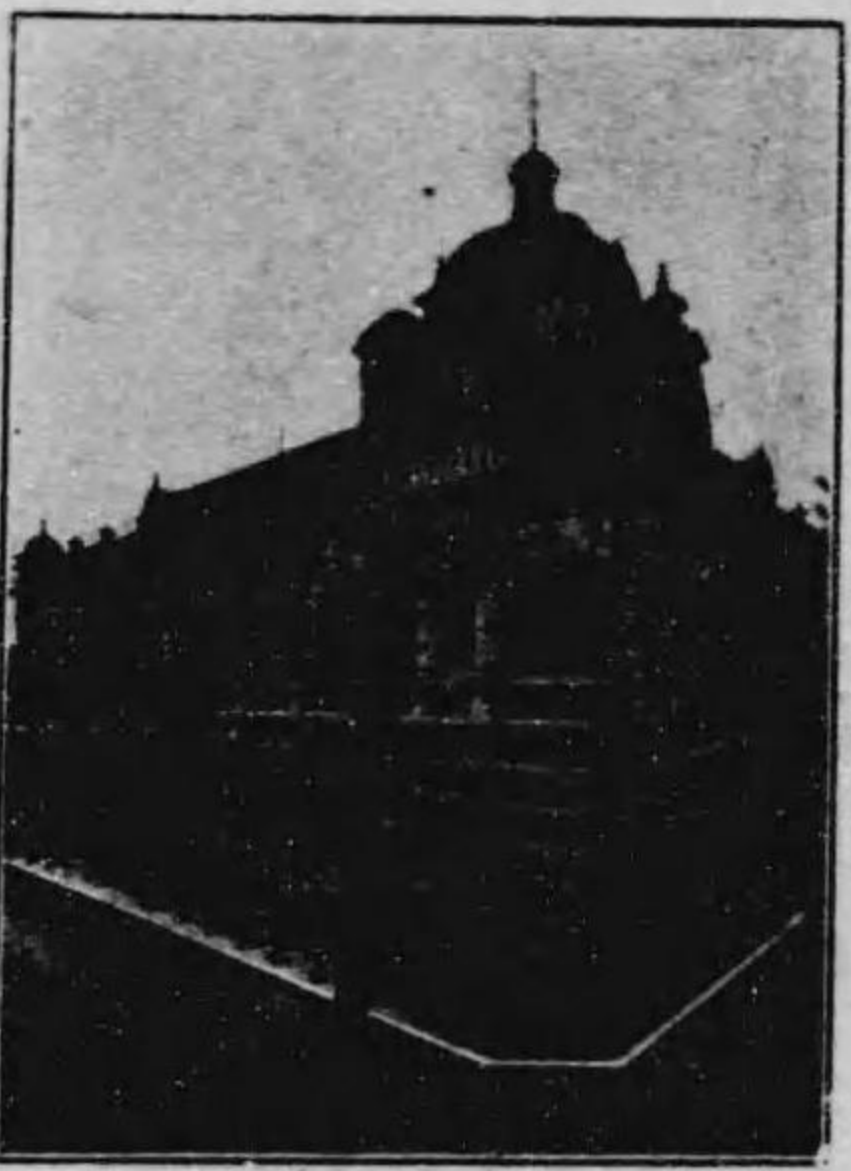
同社は明治二十一年五月十日を以て、越後國三島郡尼瀬町に創立せらるる古來同地沿海に石油の點々浮ぶありて、其の水面を草生津(臭水)の淵と稱し、降つて明治の世に及び、此の地に油井を開掘したるものありて、一時頗る盛況を呈したるも、惜哉當時其の多くは射利の徒に依りて經營せらるる故、山口權三郎及び内藤久寛等諸氏深く之を慨し、遂に同社の創立を見るに至れり、爾來漸次各地に油田を選定し、年と共に其の規模を擴張して、以て斯業の隆盛を企圖し、採掘方法の如き從來専ら人工採掘を爲し、深さ六百尺以内は止まりしも、二十二年山口氏歐米漫遊の途次、米國油田鑿井機械等を購入し、來り二十三年之を尼瀬鑛場に試みて、大に好果を收めたり、蓋し本邦に於て確實なる石油事業を起し、又た二千尺以上の掘進力を有する鑿井機械を使用したるは、實に同社を以て嚆矢と爲す、同時に鑿井技師の二米人を僱聘し、各部の業務に當らしむると共に、幾多技術者の養成に努め、後社長内藤久寛專務取締役松方乙彦兩氏を首め、同社の營業は即ち鑿井採油を主とし、石油土瀝青及び天然瓦斯の掘採を爲すを以て目的と爲し、現に鑿井に従事しつゝ、ある所の西山、東山、新津、頸城、遠州、秋田、北海道、臺灣の八油井及び柏崎、直江津、新津、秋田、北海道の五製油所、並に新潟に硫曹製造所を有し、更に益々各地に發展すべく、畫策怠りなしと云ふ、而して其の製品は内外各地の博覽會共進會等に數次出品して、毎回優秀の賞典を受け、以て其の優良品たることを夙に公認せられつゝ、あり、又同社は三十二年其の本社を柏崎に移し、大正三年五月秋田黒川大噴油の際、更に東京市麴町區有樂町に移し、現に社長取締役内藤久寛專務取締役田中次郎取締役山口達太郎久須美秀三郎松方乙彦支配人中野鐵平監査役中野實一飯塚彌一郎山口政治の諸氏其の經營に任じ、今大正八年上半期の



社長内藤久寛君と時製油所



王寺支店を同市南區天王寺權寺町に、玉造支店を同市東區東雲町一丁目に設立して同市商工業の發展を助長し、能く金融機關たる任務を果しつゝ、ある而已ならず、尙ほ東京編設町に東京支店を開設して帝都金融界との連絡を取り、更に和歌山支店、神戸支店、西宮支店、福岡支店、鹿児島支店、大島支店、川内支店等を有し最近更に東京市に兩國支店、京都に京都支店を設置するの議を決して營業地域の甚だ廣きに互り此等十又九の各支店は本店と相呼應して敏活に行動し本邦の商工業に貢獻する

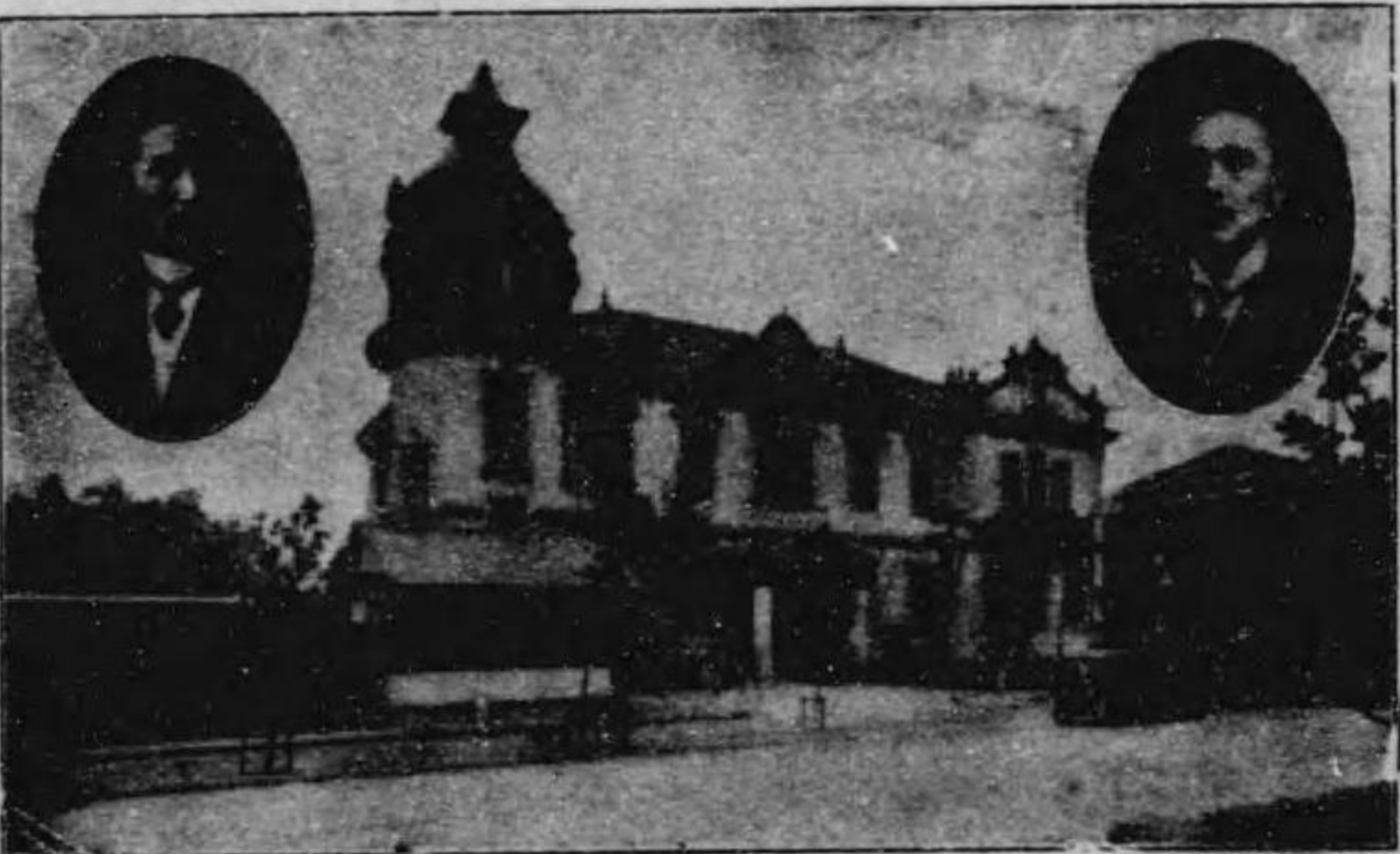


株式會社 三井銀行

所多大なるものあり其の支店の廣く各地に點在せるは是より先き幾多の銀行を合併したることの與かれりとするべく、且つ仍りて資本綜合の利を收め金融界に雄踞して一般經濟上の動搖を拏止し得るの效益亦大いなるを認めざるべからず、然して同行の近歲に於ける發展を知らむとせば先づ其の預り金額を見るに如かさるべし、即ち大正三年上半期末には壹千七百五拾萬圓たりしが八年下半期に迫んでは實に壹億六千八百拾五萬貳千四百拾六圓に割増せり、固より時局の影響に因りて資金の國內に充溢するに至りし事實の與かれりと雖も亦同行の經營が主ら穩健着實を旨とし、爲に信用の博大なるに原因するの甚だ多きを念はざるべからず、尙ほ大正四年下半期の利益金は四拾壹萬圓たりしが翌五年上半期には五拾萬圓に増加し更に今年上半期に於ては壹百參拾七萬壹千壹百貳拾圓を算せり、亦以て如何に其の業務が逐年隆盛の域に進みつゝあるかを知らん、今や世界大戰漸く終りを告げ向後我が財界は一層多事多忙なるべくして資金の需要倍々加はり、金融業者の活動に俟つべきもの極めて大なるを知らば、同行の責任亦大重く利益亦多く業績の擧るを期待すべきなり。現在重役は取締役頭取松方正雄、常務取締役愛甲兼遠、取締役平田正之、同高崎親章、同山本辰六郎、同前田時三、監査役宅徳平、同徳永安兵衛、同淺見又藏の諸氏にして總て皆財界の重鎮を以て讃仰せらるゝ人々なり、中に就き松方頭取は侯爵松方正義氏の第四男にして夙に米國の大學に金融の學を研鑽し、且つ同地のパークナショナル銀行に入りて實際の業務を練習し、頗る得る所あり、歸朝後同行神戸支店に入り後常務取締役となりて經營の要衝に膺り、前任永田頭取を補助して名聲の籍甚たるを致し、大正二年春竟に重望を負ひて頭取となり以て現今に及ぶ濶達聰明而も用意周到の人なり、愛甲常務取締役は亦多年同行に職を執り爾來取締役として其の經營に拮据し、大正二年今の要位に推され練達の銀行業者として同地財界の噴稱措かざる所たり。

### 大日本製糖株式會社

東洋製糖界の霸王、大日本製糖株式會社は明治二十八年末資本金參拾萬圓を以て東京市深川區小名木川畔に設立せられたり而も當初は鈴木藤三郎君の個人經營なりしを會社組織と爲し名を日本製糖株式會社と稱し、是れ本邦に於ける精糖業の濫觴なりとす。其營業の目的とする處は原料粗糖を瓜哇より輸入し、之を精製販賣すると共に精糖より派生する糖蜜より酒精を製造するにありて同二十九年社礎の鞏固を量りて資本金を六拾萬圓となせり。蓋し日清役後の我國は頗る好景氣を呈して砂糖消費額の増大を來たし爲に同社は其好影響を蒙つて頻りに事業の進展を企て三十二年貳百萬圓に増資し三十七年水砂糖工場を増設し更に業務を擴張する爲め資金を倍加して四百萬圓とし次いで三十九年大阪日本製糖株式會社を合併すると共に營業目的を變更して砂糖水砂糖酒精骨炭を製造販賣し更に資金を累加して壹千貳百萬圓とし社名を大日本製糖株式會社と稱するに至れり。然るに日本製糖の合併と同時に其の競争會社たる門司市外なる大里精糖との合併談起り四十年七月相互間に契約成立し遂に六百五拾萬圓を以て之を買收すると同時に財産の一切を日本興業銀行に委託し參百萬圓の社債を募り又た四百五拾萬圓を以て臺灣斗六廳内に原料糖會社の新設を計畫し次いで四十一年橫濱神戸の兩精糖會社と聯合し參拾七萬貳千圓の分擔額を以て名古屋精糖株式會社を買收せり。是に於てか我國三大精糖會社は打つて一團と爲り東洋一の大糖業會社となり一日八百五十噸の製造能力を有し糖業界に獨歩して成績頗る良好を呈し年壹割五分乃至貳割の配當を行ひ株式市價の如きも優に壹百四五拾圓の價格を維持せしに惜哉四十年に至りて所謂日糖事件なるもの惹起し爲めに重役等相前後して會社を去らざる可らざるに至り糖界の恐慌に陥りしかば財界の耆宿澁澤榮一男に之れが善後を委ぬるの已なきに及び、茲に於てか澁澤男は有爲の人物を物色して藤山雷太君を擧げて之が難局に當り整理せしむ。藤山君奮つて其衝に當らんと決意し社長の任に就き銳意之が調査に従事し社業の挽回に全力を注ぎ内には緊縮主義を斷行し外には販路の擴張に銳意し或は持株の拂込を爲さしむる等百方苦慮の結果破綻の翌年に迫んで早くも整理を告げたるもの一に藤山君の令腕に俟つ處大なりき。斯くて四十二年下半期に至り能く九拾壹萬圓の純益を擧げ瀕死の會社は茲に漸く生色を現し、爾來引續きたるものなり此參百萬圓の固定財産減價却の外に今日迄に於て四百五拾貳萬圓の積立金を有するに至りたるを以て同社の財産上の位置は頗る安全にして社礎も從て益々鞏固を致せり、尙同社は支那國民の消費する砂糖が其土地に生産するの極めて少量に止まるを見同方面に販路を開拓するの有利なるを察し殆ど全力を之に傾倒したり。由來支那南部福州一帶の地方はクーンシュウガールの栽培せられて一種の粗糖産出され又北方ハルビン地方に於ても甜菜糖の工場が建設せられて北滿洲に多少供給せらるゝも這は生産費の點に於てクーンシュウガールと争ふの不利なるを見同社は餘力を割きて北滿洲にも活躍を期し尙香港ジャードイマゼン及パッターフィールドスワイヤの二大精糖を敵手とし久しく苦心の競争重ねしが遂に同社製糖の獨占舞臺となり需用界を風靡して大成功を贏ち得たり、對支輸出の額は當初二十五萬圓に過ぎざ



大日本製糖株式會社 藤山君 雷太君

式會社を合併すると共に營業目的を變更して砂糖水砂糖酒精骨炭を製造販賣し更に資金を累加して壹千貳百萬圓とし社名を大日本製糖株式會社と稱するに至れり。然るに日本製糖の合併と同時に其の競争會社たる門司市外なる大里精糖との合併談起り四十年七月相互間に契約成立し遂に六百五拾萬圓を以て之を買收すると同時に財産の一切を日本興業銀行に委託し參百萬圓の社債を募り又た四百五拾萬圓を以て臺灣斗六廳内に原料糖會社の新設を計畫し次いで四十一年橫濱神戸の兩精糖會社と聯合し參拾七萬貳千圓の分擔額を以て名古屋精糖株式會社を買收せり。是に於てか我國三大精糖會社は打つて一團と爲り東洋一の大糖業會社となり一日八百五十噸の製造能力を有し糖業界に獨歩して成績頗る良好を呈し年壹割五分乃至貳割の配當を行ひ株式市價の如きも優に壹百四五拾圓の價格を維持せしに惜哉四十年に至りて所謂日糖事件なるもの惹起し爲めに重役等相前後して會社を去らざる可らざるに至り糖界の恐慌に陥りしかば財界の耆宿澁澤榮一男に之れが善後を委ぬるの已なきに及び、茲に於てか澁澤男は有爲の人物を物色して藤山雷太君を擧げて之が難局に當り整理せしむ。藤山君奮つて其衝に當らんと決意し社長の任に就き銳意之が調査に従事し社業の挽回に全力を注ぎ内には緊縮主義を斷行し外には販路の擴張に銳意し或は持株の拂込を爲さしむる等百方苦慮の結果破綻の翌年に迫んで早くも整理を告げたるもの一に藤山君の令腕に俟つ處大なりき。斯くて四十二年下半期に至り能く九拾壹萬圓の純益を擧げ瀕死の會社は茲に漸く生色を現し、爾來引續きたるものなり此參百萬圓の固定財産減價却の外に今日迄に於て四百五拾貳萬圓の積立金を有するに至りたるを以て同社の財産上の位置は頗る安全にして社礎も從て益々鞏固を致せり、尙同社は支那國民の消費する砂糖が其土地に生産するの極めて少量に止まるを見同方面に販路を開拓するの有利なるを察し殆ど全力を之に傾倒したり。由來支那南部福州一帶の地方はクーンシュウガールの栽培せられて一種の粗糖産出され又北方ハルビン地方に於ても甜菜糖の工場が建設せられて北滿洲に多少供給せらるゝも這は生産費の點に於てクーンシュウガールと争ふの不利なるを見同社は餘力を割きて北滿洲にも活躍を期し尙香港ジャードイマゼン及パッターフィールドスワイヤの二大精糖を敵手とし久しく苦心の競争重ねしが遂に同社製糖の獨占舞臺となり需用界を風靡して大成功を贏ち得たり、對支輸出の額は當初二十五萬圓に過ぎざ

りしも大正二年には一躍して百五十萬圓を算するに至れり。爾來同社は順潮なる進展を遂げ今や資本金貳千五拾萬圓に對し、拂込金額壹千四百拾貳萬圓を有し、外に法定積立金參百九拾萬圓を算するの盛況を示し、今大正八年上半期に於ける純益金及前期繰越金の合計は六百五拾九萬壹千五百餘圓を計上し、今年五割の株主配當を行ひ、壹百四萬貳百餘圓を後期に繰越すの好成績を挙げたり。念ふに臺灣に於ける甘蔗の植付其他の状況より推せば、今後も甚だしき風水害の發生せざる限りは依然として好況を持續すべく、又た更に世界に於ける砂糖の需給關係の方面より觀るも、現今の砂糖市價は將來著しき變動あるに決し、從來百斤に付五圓なりしもの一躍して拾圓に上るや、同社當事者は早くも糖業官營を夢想し、種々運動する處あり、巨額の金員を糜消し、一面又消費稅の増徴を豫期して、多量に原料糖を見越輸入し、之を精製糖として新消費稅の課稅さるゝに先立ち、奇利を獲取せんことを企てしが、製糖の固結して改造せざるべからざるの失態を生じ、而も借入金金の利息は日と共に高上し、彼れ此れ漏縫に堪へざるの醜狀を暴露せり。而も當時同社の納入する所の消費稅は一年約六百萬圓の巨額を算せしかば、其倒産は延いて政府の財源に大缺陷を生ぜしめ加ふるに未納稅金壹百拾六萬圓の回收も覺束なきに至りしを以て、時の首相兼藏相故桂公爵は、定して債務を總べて一箇年据置き、後十年賦を以て償還することとせり。而して、克く今日の隆盛を得たる全く同君の功績偉大にして、同社の永く感謝す可き處とす。現在重役は取締役社長藤山雷太、常務取締役高山長幸、同伊澤良立、取締役濱本義顯、鈴木重臣、同中出久藏、同澤全雄、同伊吹震監、役指田義雄、同星野錫、同岡村左右松の諸氏なり。



君立良澤伊

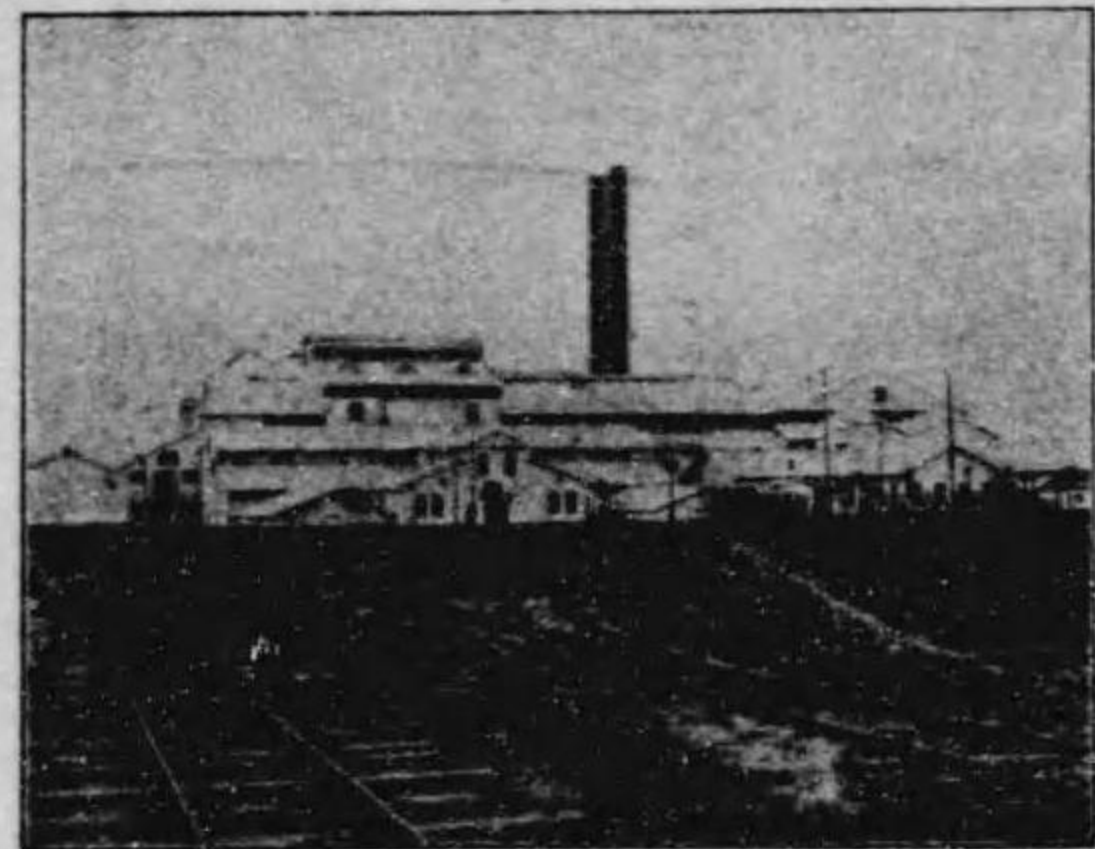


君雄義田指

東洋製糖株式會社

同社創立の發唱者は徳久恆範、白井房吉、松原茂久、小栗富次郎其他の諸氏にして、臺灣總督府が糖業の振興發展を奨励せるに起源し、明治四十年二月を以て其創立を了せり。現在資本金貳千壹百參拾萬圓を有し、臺灣粗糖界の巨擘たり、當初百萬圓の資本金を以て企圖せられたるも、爾後幾多の變革を経て、遂に五百萬圓に決定せり、其の成るや、即ち徳久恆範氏之に取締役社長と爲り、淺田知定氏之に専務取締役たり、爾來兩氏は専心其の經營に膺り、社運の隆興を圖りしが、後幾ならずして内地經濟界は日露戰後に於ける事業熱勃興の反動を受け、萎微衰退殆んど其の極に達し、延びて同社の經營又た頗る困難を感ずるに至る。徳久淺田の兩氏此間に處して、縱横劃策頗る努め、遂に萬難を排して、同年臺灣嘉義廳下南靖庄の一角八獎溪の北岸に、巍

然たる一大工場を建設し、頗る堅實なる經營方針を執りて、著々事業の進歩を圖り、専ら力を製産力の増加に注ぎ、四十三年更に烏樹林庄に第二工場を計畫し、諸般の施設を完成し、四十四年粗糖の製造を開始するに、迨び社運頓に隆盛に赴き、遂に臺灣島内屈指の一大製糖會社たるに至る。次いで四十五年七月現社長たる下坂藤太郎氏入りて、以來社運一段の進歩を告げ、大正三年八月斗六製糖會社を合併して、其の資本金を八百萬圓に増加し、更に大正四年五月北港及び月眉に工場を有せる北港製糖株式會社を合併して、資本金を壹千七拾五萬圓に増加し、大正五年七月更に臺灣赤糖會社を買収して、其の區域内田園面積一萬四餘町歩を採取區域として、壹千七百七拾五萬圓に増資するに至れり。又た同社は沖繩縣那覇港の東二百十二哩の海上に三つの島嶼よりなる大東島が甘蔗の耕作地として、頗る有望なるを認むるや、同島の經營者玉置商會より之を買収するに決し、技師を布哇に派遣し、同地既設工場機械一式を購入して、分蜜工場を開設し、資本金を壹千貳百參拾萬圓に増加し、以て事業の擴張を企圖し、又近く事業の發展に伴ひ、増資を行ひ、結果今や其總資本金は貳千壹百參拾萬圓の多きを算し、同社の基礎は大甲溪及び大安溪の大河に挾まれたる一區域にして、地味肥沃なれば、原料の耕作に最適し、赤糖區域は何れも山地に屬する處なりと雖も、嘉義廳下の分は在來の區域と隣接し居れば、採收上には頗る便利なり、而して各工場別區域内の田園面積は南靖庄、烏樹林區域隣接せる舊赤糖會社區域を加算すは、三萬四千二百四十甲、斗六區域九千九百五十九甲、北港區域一萬三千七百七十六甲、月眉區域六千七百四十八甲、臺中及び南投廳下の赤糖區域は六千六百六十七甲の多きを達し、又た大正五年六月三十日現在に於ける所有地の總面積は六千六百五十三甲なり、其他農耕權を有する土地は二千六百六十六甲餘に及べり。更に同社工場施設の一斑を述べれば、南靖庄工場は明治四十一年の建設に係り、嘉義廳、嘉義西堡、南靖庄に在り、水掘頭驛を距ること僅かに四丁にして、達す、即ち八獎溪の北岸に位し、地域亦た極めて廣潤にして、頗る景勝に富む、理想的工場なり、加ふるに水量の豊富なる八獎溪を控ゆるを以て、水利及び用水の便最も宜しく、原料運搬は至便なり、同工場原料壓搾能力は一晝夜實に一千英噸にして、臺灣糖業界に冠絶す、故に一日優に二千噸以上の生産力を有せり、諸般の施設を整整せる、斯界稀に見る所なり、烏樹林工場は明治四十三年の建設に係り、嘉義廳下茄苳南堡、烏樹林庄にあり、白水溪の北岸に位し、新營庄驛を距る僅に四哩、中央山脈に接近し、亦た頗る景勝の地たり、一晝夜七百五十英噸の生産能力を有し、一日砂糖千三百俵を製造するを得、斗六工場は嘉義廳斗六堡大崙庄にありて、原料採取區域の中央に位す、從つて四方の甘蔗區域に近接し、原料の運搬至便にして、常に新鮮の原料を供給するを得、工場能率の増進を極度に發揮し得べし、製造能力五百英噸の分蜜工場と三百英噸の赤糖工場より成る、市場の如何に策應し、其の生産の制限増加を任意ならしむべき特種の設備を

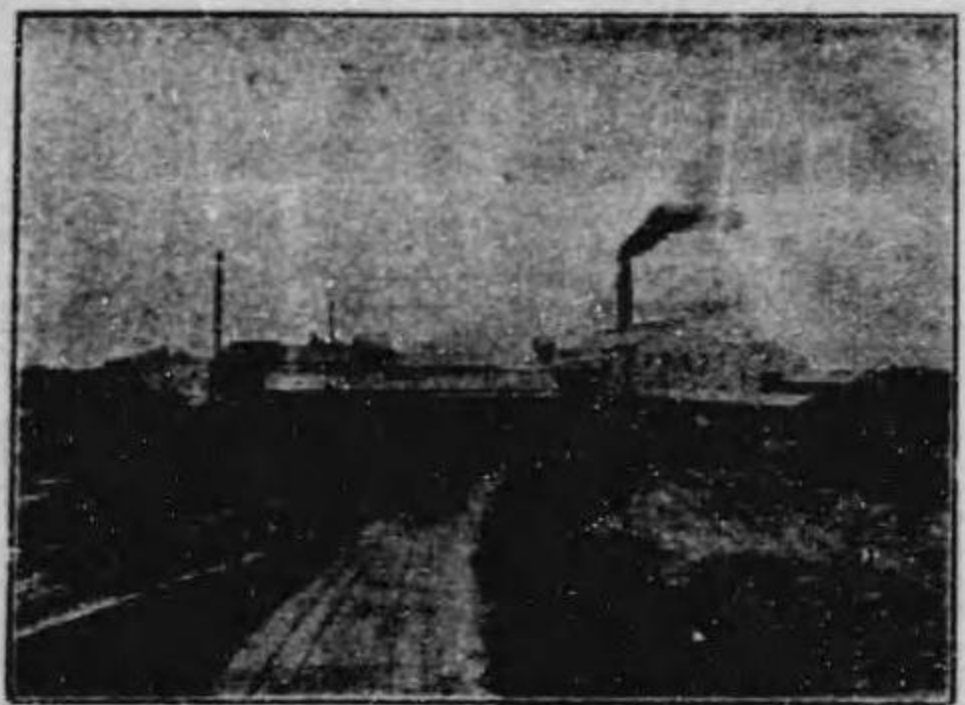


場工社會式株糖製洋東

爲し一日の砂糖生産高一千俵なり、北港工場は嘉義驛を距る西方十一哩北港街に在り製糖能力は南靖庄工場と同一にして装置機械の精巧なる設備の完整せる作業工程の整一せる斯界無比にして眞に模範的工場たり、月眉工場は臺中廳苗栗三堡月眉庄に在り製糖能力三百英噸施設又頗る整美す而して同社は原料採收並に製品及び一般旅客の運搬を目的として敷設せる私設鐵道は現今實に百七十三哩の多きに達し貨車千三百四輛、客車三十二輛、機關車二十二輛、石油發動車二輛を有す。同社の資本金は實に貳千百參拾萬圓にして貳百六拾萬圓の積立金を有す、創立以來壹割貳分乃至壹割四分の配當を續行し更に今大正八年度末の決算に於ては四百參拾五萬貳千六百貳拾四圓餘の純益金を擧げ年參割の株主配當を行ふの盛況を示せり、同社製品の優良なるは夙に定評ありて販路は内地及遠く支那印度濠洲米國に擴大し鈴木商店をして其販賣を營ましむ、即ち赤糖原料糖、白糖輸出糖、赤糖、白糖、雙目糖、雙目糖、車糖赤糖、車糖赤糖、車糖等なり、日英博覽會を首め内外各地の博覽會共進會に出品して常に最高名譽賞を得、大阪化學工業博覽會に出品して金牌を授賞さるゝの榮を荷ふ、而も施設の改善に不斷の努力を怠らず更に將來の發展を企圖しつゝあり、同社は本社の臺灣嘉義廳西堡南靖庄に置き出張所を東京市麴町區有樂町一丁目、石川昌次同宮本政次郎同松方乙彦監査役渡邊甚吉同指田義雄同宮尾麟同島村足穂同玉置傳の諸氏なり。

### 鹽水港製糖拓殖株式會社

同社は明治四十年三月の創立に係る。今その起源を尋ねるに去る明治三十六年の頃臺灣人の創立したる資本金參拾萬圓の鹽水港製糖會社と稱せる當時未だ帝國商法の支配を受けざる一個の微々たる製糖組合に起因す。後、前社長にして現相談役たる荒井泰治氏を首め其の他有志の提唱に基き其の經營の任に當れる臺灣人を説き茲に提携の約成りて始めて帝國商法の規定に遵ひ設立認可を経て資本金五百萬圓の鹽水港製糖株式會社を設立し以て業務を開始せり、是れ實に同社の前身なり、爾來經營施設其の宜を得て運送々として順調に進展し、四十二年九月高砂製糖會社を合併して七百五拾萬圓に増資し大正三年八月臺東拓殖株式會社を合併して遂に現稱に改め、同時に資本金を壹千貳拾五萬圓に増加し、益々順調に發展して今や産額六千萬斤を越ゆるの隆盛を呈するに至る。其の製品は主として分蜜糖製造にあるも尙白糖製造をも爲し何れも品質の絶佳なる世既に定評のある所なり、四十四年七月以降日英博覽會、臺灣南部共進會、名古屋社專用鐵道又は輕便鐵道による旅客並に貨物の運輸業等は其主なるものなり。今試みに同社が最近の營業期たる大正八年



鹽水港製糖株式會社

同社は大正三年七月臺東拓殖製糖株式會社を合併して大展覽會を爲すや同時に從來の目的たる製糖業及旅客貨物運輸業に加ふるに併合會社の事業を附加したるを以て現今その營業科目は(一)砂糖製造販賣業及其附隨の副業、(二)開墾甘蔗米款其他の農作、樟腦採取、採礦、牧畜、造林、土木、石材採掘並に以上の原料購入及生産品販賣業、(三)會

年上半期に於ける營業の概況を述べれば、(一)探掘 本期の初め補償金引上を見たるを以て焚夫賃の値上を斷行したる結果玉里及水連尾方の探掘は最も好成绩を舉ぐ尙本事業の將來に就ては總督府當局に於て數年來調査の結果に依り全島統一の必要を認められ既に各當業者に對して説示せらるゝ所あり各當業者に於て協議の結果當局の方針に賛同し各自の利益の爲めに本事業を合同して更に新設會社の經營に附するに決し本社亦新會社の設立に参加し會社成立の上は現在の探掘權及之れに屬する資産を提供して其株式を取得し株主として既得の利益を繼續せんとす右統一會社成立の時期は近く來期の初頭に於て實現すべく其株式取得に係る利益の數字は次期の決算に計上するを得べし。

(二)原料 上半期に於ける原料甘蔗の概況を述べれば、新營庄及岸内區域に於ける本期の蔗園は前期極力實生品種獎勵配付の結果第二回調査植付面積六千七百三十一甲に對し二千七百五拾餘甲の植付けを見たりと雖も九月十月の氣温低下に依り發育を阻害したる傾向なきに非らざるも今日實收を見るに豫想に比し實生品種は各地方に依り異なるも一割乃至二割の増收を見たるに拘らず改良種は五分内外の減收の見込なり、旗尾工場區域は植付甘蔗の發育最も旺盛なるべき八月霖雨多く低温なりし爲め生育豫期の如くならずりしも耕耘其宜しきを得たる結果漸次良好を呈し實收に依れば約二分の増收を示しつゝあり又東部に於ては本期植付蔗園約三千百餘甲にして其内爪哇實生品種百六十餘甲の植付けをなしたり何れも發育良好にして實收に依り豫想に比し約八分増收の見込なり。

(三)農場及牧場 旗尾農場的本期自作面積八百五十餘甲にして其内連作株出五百四十七甲餘は其後發育頗る良好にして豫定以上の收量を得る見込なり而して新營庄農場の本期自作面積三百六十餘甲にして其内實生品種三百餘甲の植付あり品種三六號及一四三號最も優良なる成績を擧げたり而して當場は區域内一般蔗苗更新及早植の爲二千萬本以上の採苗を行ひ之れが配付をなしたり又東部に於ける賀田壽の各農場の蔗園は十月以降の成熟期に際し著しく温暖なりしを以て發育良好にして實收の結果豫想に比し約八分増收の見込なり尙東部に於ける牧場は漸次整理を行ひ耕作牛の育成をなし傍ら蔗園の開拓を計れり。

(四)灌溉排水 前期に於て計企したる下茄茅南堡後鎮庄外十九庄方面の灌溉排水工事中三月初め工事を遂げ通水するに至り甘蔗の植付勦起等に多大の効果を齎せり排水工事は殆んど竣工に近く雨期に至らば地方の滯水排除をなすことを得べし豫て出願せる鹽水港方面に於ける岸内洲の灌溉は岸内庄外八庄に跨り其面積は約二千一百餘甲にして二月中旬通水の結果蔗園の植付を良好ならしめ附近の農民に多大の恩恵を與へつゝあり又茅港尾方面に於ける排水工事は第一期計畫に屬する茅港尾外三庄約六百餘甲の排水工事は二月十五日認可出願をなし更に之と關連せる第二期計畫の南廊庄外二十庄に渉れる灌溉排水の工事を施行せんとす而して前期末に於て許可せられたる旗尾工場區域内の圍潭仔圳改修並に其擴張工事は殆んど竣工をなし通水本期植付に灌溉をなしつゝあり其面積千四百二十一甲なり尙旗尾工場區域内に於ける深埔庄外三庄に互り從來埤圳組合に經營し來れる嶺口圳を七年十月組合と契約を締結し堰堤及揚水機を了し通水植付に至便を與へつゝあり。

(五)鐵道 本期の初より旗尾工場に於て原糖再製作業をなしたる爲め其運輸頗る頻繁を極めたり而して本社専用鐵道は布袋嘴に於ける產鹽搬出等は勿論各運輸作業頗る順調にして遺憾なきを得たり。

(六)工場 本期旗尾工場に於て爪哇輸入原糖を以て十一月十日より十二月二十三日迄獨立再製を試みたる處頗る好成績を挙げたり尙引續き混合再製をなしつゝあり次に他工場は何れも壓搾を運らし歩留昂上を圖れり而して新營庄工場は一月中粗糖の製造をなし二月以降白糖作業をなすに至りしを以て東部糖工場を除き全部白糖作業をなすを得たり酒精工場は原料充實を圖りて終始全能力を發揮したり更に壽工場に附屬酒精工場を施設し其産蜜の處分をなし以て激増せる酒精の需要に應ぜんとす。

(七)船舶 大興丸ゼノア航を了し其の途次爪哇糖を積載し十二月下旬歸航をなし更に五ヶ月間貸船をなしたり同船は上海及歐洲向に使用せられつゝあり又東海丸は備船主が引續き日米航路に使用せり。

(八)營業概況 内國消費の激増は本島産糖全部を擧て猶不足を告げたれば聯合會は當然自由販賣と決したり然れども糖備は外糖高の刺激を受け活況を呈せり次に同社は曩に爪哇原糖の買付を試み之れを再製して盛に對岸市場に向つて輸出をなし有利に處分をなしたり更に三月初歐洲西班牙より白雙の大注文を受け目下盛に製造をなしつゝあり次に酒精は對岸及内地に對し有利多量の成約を爲したり如斯内外市場に向つて常に緩急相應じ市況の好調と相俟て販賣上遺憾なかりしは蓋し好成績を挙げ得たる所以なり。

(九)來期豫想 歐洲戰亂既に其終局を告げ今や講和の状態にありと雖も歐洲に於ける農耕地は未だ決して回復せりと謂ふべからず去れば一に小麥砂糖の如き主要食料品の缺乏は運賃安と相俟て需要の惹起すべきや必せり況んや爪哇糖減産は延て本邦の糖價昂騰は持續すべく而して本島糖業界は米價蕃薯の昂騰の結果前期に比し植付の減少を見るならん同社の來期植付約壹萬四千餘甲の見込なり。

斯くて同期末の決算に於て金壹百五拾七萬九千四百五圓餘の純益金を得之れに前期繰越金四拾五萬貳千四百八拾參圓餘を合し合計金貳百參萬壹千八百八拾九圓餘を計上し内八萬六千四百四圓を法定準備積立金に貳拾萬圓を別貯積立金に參萬圓を職員職工恩給基金に拾參萬圓を役員賞與金並交際費に各充當し年貳割の株主配當を行ひ四拾六萬四千八百八拾九圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり同社は本島を臺灣糖業の中心地とし支店を同島花蓮港連鄉花連港街に出張所を東京市日本橋區吳服町に設け現重役は取締役社長長橋哲常務取締役藤崎三郎助取締役橋本貞夫同高橋是賢同岡田祐二同佐々木幹三郎同數田輝太郎監査役安部幸兵衛同岩崎總十郎同原脩次郎の諸氏にして前社長たりし荒井泰治氏相談役の任に當たる。

### 臺灣製糖株式會社

我東洋製糖界に於て業績特に群を抜き今や正に大日本製糖株式會社と相駢んで巨然として覇を斯界に稱する我臺灣製糖株式會社の沿革及現時事業の狀況を録せんに元來我國の風土は砂糖の産出に適せず沖繩並に四國は古來主要の産糖地たるも其産額少く僅々一億斤にも達せざりしが日清戰役の結果として臺灣の寶庫を我版圖内に奄有するに及んで茲に始めて有望なる産糖地を得て我糖業史に特筆大書す可き一大變遷を生じたり然れども新領土に於ける新事業には種々不測の障礙危險の伴ふは數の免れざる處なれば爲に本島の富源も占領後數年間には空しく遺棄して顧みられざる有様なり。明治三十三年に至り遂に新式製糖工場の新設企畫あり臺灣總督府保護獎勵の下に百萬圓の資本を以て一會社を創設する

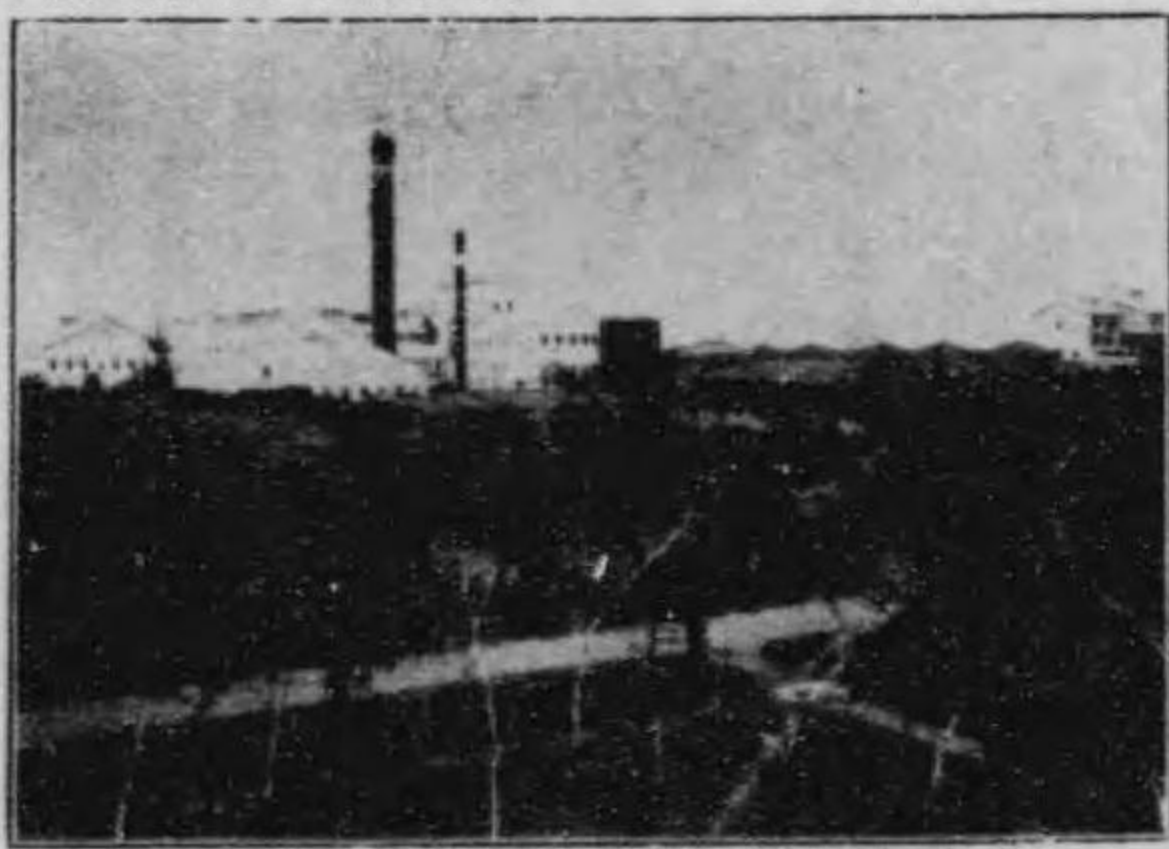
事となり茲に始めて我臺灣製糖株式會社は本邦糖業界に一新紀元を開くの天職を帯びて生れ出るの運命に遭遇せり茲に於てか社長鈴木藤三郎君は當時の支配人山本佛二郎君と共に親しく實地を踏査し工場建設の位置を臺南廳下橋仔頭庄に



トし此處に一晝夜原料壓搾能力二百五十噸の製糖工場を建設するに決せり當時の計畫にては資本金壹百萬圓の内五拾萬圓を拂込み工場を建設し原料甘蔗は全部農民より購入する豫定なりしも土地を所有するの必要を感じ三十四年橋仔頭附近に一千餘町歩の土地を買收し此に農場を設置せり當時の運搬供給の不便は今日の比に及らざる全雲泥の相違あり明治三十五年一月に至り愈々操業を開始するの運びに至れるなり之れ本邦に於ける分蜜糖會社の嚆矢とす既に同三十九年十二月社運の進展と共に資本金四百萬圓を増加して五百萬圓と爲し橋仔頭に四百五十噸の第二工場を新設すると共に副産物たる糖蜜を利用し之を原料とする酒精の製造工場を建設する事とし更に壁林に農場を開設し此處に一千噸の第三工場を建設するの盛況を呈せり爾來社運年と共に益々殷盛の域に進み今や其の資本金は實に

貳千九百八拾萬圓の巨額を算するに至り臺灣に於ける分蜜製糖工場十ヶ所の多きを數へ就中其阿蘇製糖所の如き一日壓搾能力三千米噸にして本邦に於ける最大製糖工場を以て呼ばるゝの偉觀を呈し其他酒精工場二ヶ所内地神戸に於ける精糖工場二ヶ所を有し一日壓搾總能力七千八百二十英噸一ヶ年酒精製造量三萬石神戸に於ける一日精製糖製造總能力百八十五英噸を算し原料甘蔗運搬用鐵道の總延長四百五十五哩餘に達するの盛況を示しつゝあり。

同社現在の營業種目は精製糖製品マーク。輸出マーク。TP, TG, TK, TL, TM。内地マーク。MMM, OOO, PPP, RRR, SSS。分蜜糖製品マーク。TAB, TBA, TBB。精酒製品マーク。の製造販賣及運送業にして其の製品は總て之れを三井物産株式會社の一手販賣に委し孰れも品質優良の聲價を博し内外到る所に歡迎せられ業績隆々今大正八年上半期の決算に於て參百九萬貳千七百七拾貳圓餘の純益金を擧げ年貳割六分の株主配當を爲すの好成績を示せり同社の本社は臺灣打狗に在りて事務所を東京市日本橋區本石町一丁目二十二番地に置き製品は總て内地海外の要部に有力の機關を具備し斯業に充分の經驗ある三井物産株式會社の一手販賣に委せり尙同社の製糖に對しては米國聖路易萬國博覽會、日英博覽會、桑港萬國博覽會、化學工業博覽會より名譽賞牌を受領せる外本邦各種博覽會共進會より數多最高の賞牌を受け酒精に對しても亦名譽の賞牌を受領せり現時の重役は取締役會長藤田四郎専務取締役山本佛二郎常務取締役武智直道同益田太郎取締役丸田治太郎同平山寅次郎同草鹿祇祐吉監査役村井吉兵衛同賀田金三郎同ロバートウオルカー、アルウキン、ジュニオルの諸氏にして男爵益田孝氏相談役たり。



臺灣製糖株式會社工場

株式 十五 銀行

同行は明治十年五月時の右大臣岩倉具視公の主唱に依り華族諸家の賛同協力の下に金庫公債を集合し資本金壹千七百八拾貳萬六千圓を以て創立せられ世に所謂華族銀行と稱せられしもの則ち是れより先き明治九年八月金庫公債證券條例の發布に據り舊各藩主及び諸公卿に對し各自巨額の公債證券を下附されしが政府は斯く一時に巨額の公債を發行することに依りて市場に於ける價格の低落を見るは論を俟たざるのみならず其結果として一般の華士族は困憊を極め延いて國家治安の上に由々しき悪影響を及ぼすべきことを憂慮し適宜の價格保持策として該公債を以て銀行紙幣抵當と爲すことを許したり當時政府が採りたる斯の時局救済策は總て遂に國立銀行條例の改正を促がし紙幣發行制度擴張と共に銀行紙幣正價兌換は改正され通貨を以て兌換準備と爲すことを許可するに至りしかば聰明英邁なる岩倉公は主唱して此の際速かに是等下附の公債を合して一銀行を設立し一つは以て華族諸家各自の資産を擁護し一つは以て政府外債の償却並びに鐵道布設の資金に提供し國家の藩屏たる責務を全ふせんことを企畫し遂に本行の創立を見るに至れり而して本行の設立せらるゝや特に帝室より保護を賜はるの允許を得宮内省より特別の監督を附せられたり。

四年十一月日本鐵道會社の創立せらるゝや奮つて大投資を行ひ同社の事業を助成し猶ほ二十七八年の日清戰役に當りては五千萬圓の國庫債券に應募し以て臣民奉公の誠意を盡せるが如き最も誇るに足るべき事蹟なり是より先き本行株券は明治十九年八月華族世襲財產法の制定に當り特に不動産に準じて華族世襲財產たるの特典を與へられしが更に明治三十年四月法律第四十四號を以て國立銀行營業滿期後に至りても依然として其特典を持續せらるべき旨を公布せられたり。

斯くて業績年と共に隆々として舉り今や無慮四千萬圓の巨資を擁し本店を東京市京橋區木挽町七丁目六番地に支店を同市日本橋區新乘物町三番地に設置し業務の殷盛正に三井三菱安田第一の四大銀行と駢馳して本邦五大銀行の一つに數へられ今大正八年上半期末の決算に於て能く貳百七拾萬壹千六百五圓の純益金を擧げ年壹割の株主配當を行ひ壹百四萬



君正瀨成 取頭副 行銀五 十 君廣方松取頭

參千六百五圓餘を後期に繰越すの好成绩を示せり現重役は取締役頭取松方巖、取締役副頭取瀨正、取締役男爵園田孝吉、同子爵青山幸宜、同清水宜輝、同侯爵徳川頼倫、同淺野長之、監査役久野昌一、同山本直良、同男爵岩倉道俱の諸氏なり。

秋田木材株式會社



君幹直坂井長社

同社は明治四十年三月の設立に係り木材業を主とし機械製作、電氣、瓦斯植林、牧畜、運送等の業を兼營す其前身は明治三十年創立の能代挽材株式會社、能代木材株式會社及三十四年創立の秋田製材合資會社の三社にして何れも井坂現社長の創始統轄する所四十年三月時運の要求に應じて合併し尙増資を行ひて同社の成立を見るに至る現在資本金五百萬圓の内貳百七拾萬圓の拂込を了し六拾六萬貳千圓の積立金を有し本店を秋田縣山本郡能代港町に置き支店を大阪、名古屋、東京、青森、小樽、根室、網走、猿拂、稚内、湊、忠類の各地に工場を能代、青森、大阪、港網走、忠類、稚内の各地に設け規模宏大設備齊整を以て隆々たる名聲を馳せ本邦最大の木材會社たり今試に秋田縣能代港町なる同社本店の工場設備並に營業狀況の一斑を述べれば用地面積三萬八千坪、建坪六千坪を算し原動機としては汽機九臺、九七三馬力、瓦斯機關三臺、三〇〇馬力を据附け原動機の一部は直接製材工場に動力を供給し一部は之を發電用に使用して晝間は自家用の電動機を運轉するの外に一般電力の需用にも應じ夜間は之を電燈點火用に供せり而して現今備付の發電機及自家用の電動機は發電機六臺、電動機二十三臺なり又製材機は帶鋸機械六臺、橫切機械四臺、丸鋸機械四十三臺、鑿鋸機械十三臺、鋸目立機械十三臺、特殊製材機及附屬雜機械十三臺、合計九十臺を備へ尙製材種類は並四分六分、八分、一寸、一寸二分、板割類、檜、樺、松、杉、柏、木羽各種挽角類、樽木、取、函、板類等にして原料は主として杉材を用ひ外に少許の樺材、松材、石を數へ販路は内地一圓及北海道、臺灣、沖繩、朝鮮、支那等に及ぶ。

尙又前記直營事業の外に同社の現下兼營に係るものに電氣事業、鐵工業及植林事業の三大事業あり以下項を分ちて之を概述せん。(一)電氣事業 同業は現今内地に於ては本店の所在地たる能代、北海道に於ては根室、稚内の二箇所に於て營みつゝあり開業は能代は明治四十一年八月、根室は同四十四年十一月、稚内は大正三年九月とす而して動力の發生には鋸屑、木屑の廢物を燃料として使用す今大正七年六月に於ける事業の要目を擧ぐれば次の如し。

種目	本店電氣部	根室電氣部	稚内電氣部
電線路互長	三九哩一	一〇哩四	九哩九
電線延長	一一三哩三	三四哩一	三〇哩二
發電力	三八〇キロ	一五〇キロ	三八キロ
供給區域	能代港町外九ヶ村	根室町一圓	稚内町一圓

代表的事業

代表的事業

電燈需用家數	四、一七六戸	二、一七六戸	七六九戸
電燈個數	七、七六二箇	六、二二二箇	一、五三八箇
電燈取付ワット數	九三、二〇〇ワット	八六、八七五ワット	一九、三〇〇ワット
電力需用者	一八戸		
同上馬力數	四二七馬力		
事業資金	一四八、三二八圓	一〇七、一八八圓	三八、五五九圓

(二)鐵工業 同社は其前身たる能代挽材會社の時代より附屬鐵工場を有し自家用諸器械の修繕並に輕易なる製材機械の新造を爲しつゝありしが秋田木材株式會社となりてより各地に分工場の設立あり又分工場以外にも同社に關係ある四五の製材工場ありて機械の製作及修繕の仕事は益々繁多となりたるを以て數年來漸次鐵工場の規模を擴張し現在には鍛冶場鑄物場仕上場及組立場等普通鐵工専門の工場に缺くべからざるだけの設備を完備せり而して同社の専門たる製材機械は歐米最新の型に自家の経験に基く諸般の改良を加へたるものなるを以て大に使用者の賞讃を博し今や本邦著名の官立製材工場にして同社の製材機械を備へざるもの稀なるに至れり現在本事業要目を擧ぐれば据付機械の重なるものは蒸汽機關一臺、シリングマシン一臺、成形機一臺、蒸汽機一臺、グラインマシン一臺、旋盤大小八臺、平削器二臺、鑽孔機七臺、鋸機各種一送材車附型大割丸鋸機一丸鋸機各種一蓋底切廻機一刃合機一蒸汽機各種一高連其他小割鋸機一製材用汽罐爐格各種一木材專用運搬車各種一鋸屑專用瓦斯發生機各種一木屑專用瓦斯發生機各種一インクライン式木材卷揚機一ドニム式木材卷揚機一製材用直角傳動車各種一同フリクションクラッチブレーキ一ポールベアリング各種一ギスライフトベアリング各種一普通軸承各種一鑄造物各種一製罐物各種等にして一ヶ年の生産金額約貳拾五萬圓に上れり(三)植林事業 同社の能代本店に於て年々消費する約三十萬石の原料木材は其殆んど全部を國有林の供給に仰ぐものなれ共今や他の山林のみに依頼すべからざる時代となり製材事業の基礎を永遠に確立せんが爲めには自ら植林を經營し其の所要原料の一部自給の途を講ぜざるべからず同社は茲に見る所あり大正元年秋より其造林地を秋田縣山本郡八森村字眞瀬澤に相し十ヶ年計畫を以て事業に着手し爾來逐年頗る良好なる成績を擧げつゝあり現重役は取締役社長井坂直幹常務取締役菊池秀吉常務取締役清水榮次郎取締役竹村榮三郎同辻良之助同大倉喜七郎同松田吉信監査役相澤東十郎同鹽谷慶助同根本瑞男の諸氏にして男爵大倉喜八郎氏相談役たり。

日本化學工業株式會社

本邦化學工業界の重鎮たる同社は明治四十年鈴木三郎助加瀬忠次郎棚橋寅五郎の三氏が時運の推移に鑑み各自其所有工場を合併して資本金百七拾五萬圓の日本化學工業株式會社を創立せるに濫觴す後同四十二年に至り爰に一大飛躍を試むべく先づ其の資本金を減じて參拾萬圓と爲し同時に別に資本金參拾五萬圓を以て電氣化學工業株式會社を設立し同年九月同社を合併し改めて資本金六拾五萬圓の日本化學工業株式會社を設立せり同社則ち之なり爾來業運年と共に殷盛を展の速度が急亦大なるかを知るに足らん。

同社現在の營業所は東京市京橋區館屋町一番地に在りて出張所を北海道根室に置く而して其の工場は東京府下龜戸町六ツ目に在るものを龜戸工場と云ひ、福島縣下日橋村に在るものを會津工場と稱し、福島縣郡山町に在るものを郡山工場と云ひ、以外に東京府大島町に塗料部を設け、而して龜戸工場に於ては主として應用化學工業を行ひ、會津郡山兩工場に於ては専ら電氣化學工業を營ひ、斯くて今や其生産品目の重なるものは(一)沃度劑(二)沃度加里(三)沃度フオルム(四)精製沃度(五)肥料(六)硫酸加里(七)硫酸加里(八)同25%同30%同40%同50%同60%同70%同80%同90%同100%同110%同120%同130%同140%同150%同160%同170%同180%同190%同200%同210%同220%同230%同240%同250%同260%同270%同280%同290%同300%同310%同320%同330%同340%同350%同360%同370%同380%同390%同400%同410%同420%同430%同440%同450%同460%同470%同480%同490%同500%同510%同520%同530%同540%同550%同560%同570%同580%同590%同600%同610%同620%同630%同640%同650%同660%同670%同680%同690%同700%同710%同720%同730%同740%同750%同760%同770%同780%同790%同800%同810%同820%同830%同840%同850%同860%同870%同880%同890%同900%同910%同920%同930%同940%同950%同960%同970%同980%同990%同1000%



日本化學工業株式會社工場全景

加へ殊に歐洲大戰が我が工業界に齎らせる好影響は同社の業務をして最近異常の發展を遂行せしむ斯くて其の資本金の如き大正二年に至り百參拾五萬圓を増加して貳百萬圓となし、更らに大正四年六月、日本電爐工業株式會社を大正七年十二月日本塗料株式會社を各合併せる結果無慮五百萬圓の巨額を算するに至り以て今日に及ぶ。亦た以て如何に其の業務發展の速度が急亦大なるかを知るに足らん。

同社現在の營業所は東京市京橋區館屋町一番地に在りて出張所を北海道根室に置く而して其の工場は東京府下龜戸町六ツ目に在るものを龜戸工場と云ひ、福島縣下日橋村に在るものを會津工場と稱し、福島縣郡山町に在るものを郡山工場と云ひ、以外に東京府大島町に塗料部を設け、而して龜戸工場に於ては主として應用化學工業を行ひ、會津郡山兩工場に於ては専ら電氣化學工業を營ひ、斯くて今や其生産品目の重なるものは(一)沃度劑(二)沃度加里(三)沃度フオルム(四)精製沃度(五)肥料(六)硫酸加里(七)硫酸加里(八)同25%同30%同40%同50%同60%同70%同80%同90%同100%同110%同120%同130%同140%同150%同160%同170%同180%同190%同200%同210%同220%同230%同240%同250%同260%同270%同280%同290%同300%同310%同320%同330%同340%同350%同360%同370%同380%同390%同400%同410%同420%同430%同440%同450%同460%同470%同480%同490%同500%同510%同520%同530%同540%同550%同560%同570%同580%同590%同600%同610%同620%同630%同640%同650%同660%同670%同680%同690%同700%同710%同720%同730%同740%同750%同760%同770%同780%同790%同800%同810%同820%同830%同840%同850%同860%同870%同880%同890%同900%同910%同920%同930%同940%同950%同960%同970%同980%同990%同1000%

東洋第一の名あり、又た其の鹽素酸加里は生産力頗る夥多にして年産額約二千五百噸を數へ、其の品質亦た優秀にして先進諸國の製品を凌駕し、黃磷、赤磷亦た同品と同一く好評世上に噴々たり、而して尙同社の製造に係る各種加里肥料は現取締役工學博士棚橋寅五郎氏多年苦心研究の結果に成れるものにしてカリウム含有過多なる原料を配合し、獨特の製造法を發見し、之れが製造の特許を得たるものなるが、皆悉く硫酸鹽類に變性を居るを以て植物に有害性のコロールを含有することなしと稱せられ、注文日に殺到するの盛況を示せり。

今大正八年上半期の營業報告に依れば同社資本金は五百萬圓にして法定積立金參拾貳萬七千五百圓、別途積立金百八拾九萬四千圓を有し、同期利益金貳拾八萬貳千八百圓、除の内家屋器械器具減價壹萬五千圓を差引き、貳拾六萬七千八百八拾圓餘の純益金を擧げ、之に前期繰越金四萬五千圓四拾四圓餘、並に日本塗料會社引繼前期繰越金參百五拾四圓を加、五萬五千圓を別途積立金に、貳萬圓を重役賞與金に充當し、年壹割五分の株主配當を行ひ、貳萬六千八百圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり、因に同社の現重役は取締役會長男爵大倉喜八郎、常務取締役加瀬忠次郎、同工學博士棚橋寅五郎、取締役門野重九郎、同根津嘉一郎、同工學博士吉川龜次

代表的事業



郎同橋本圭二郎、同八田宗吉、同小倉留吉、同本田三三、蓋查役友田嘉兵衛、同木村庫之助、同鈴木宗兵衛、同山本留次の諸氏なり。

株式 北海道拓殖銀行

同行は明治三十二年法律第七十六號北海道拓殖銀行法に基き三十三年二月を以て創立せられ、其の目的は北海道及び樺太の拓殖事業に放資し以て其の開發に資するに在り而して政府は同行をして所期の目的を達せしめん爲め種々の特典を與へ政府自ら百萬圓を限りて其の株式の引き受けを爲し且つ該株式に對し十箇年間利益の配當を要せざることを創立の際其の二萬株を引き受け四十二年此の特別保護期間満了するや更に尙ほ五箇年間は其の配當金を擧げて準備金に繰り入るゝこととし、又た不動産抵當年賦償還貸付高を引當とし拂込資本金の五倍まで拓殖債券を發行し得るのみならず債券借替の爲には一時此の制限を越ゆることを得るの特権を有せり而して設立當時に於て資本金參百萬圓拂込金七拾五萬圓なりしが其の開業を見ると共に資金の貸與を求むるもの宛も接踵聯武の狀ありて僅々七十餘日を過ぎざるに借入請求四百九十六口金額壹百貳拾七萬五千貳百餘圓に達せし以て今日に及びり。今試に大正七年下半年期に於ける同行の營業概況を述べれば、(一)拓殖債券 同行業務の發展に伴ひ貸出金の充實を圖るべく十月に於て第三十六回拓殖債券五百萬圓を募集したるに東京、大阪、北海道共に盛況にして十四倍強の應募超過を見るに至れり、此を以て更に引續き第三十七回拓殖債券五百拾萬圓を募集し合計六百五拾萬圓を査定發行せり、(二)年賦及定期貸付 同期に於ける年賦及定期の新規貸付は壹千六拾九萬參千圓償還高は五百拾四萬六拾圓期末殘高は參千六百拾五萬七千圓となり今之を前年同期に比すれば新規貸付に於て七百貳萬九千圓償還高は六百拾六萬四千圓を貸付けたるに償還高參百萬圓壹千圓に上りたるを以て差引に於て六拾參萬參千圓の増加を見たるに過ぎざりしも同期は償還高五百拾四萬六千圓となりしに對し壹千六拾九萬參千圓を新規に貸付たるに因り差引に於て五百五拾四萬七千圓の増加を示せり更に同期新貸付を既往に比較せんが前々年下期新規貸付百八拾五萬壹千圓に對し約六倍に達し前々下期新規貸付は參百萬六拾四萬四千圓となれるを以て約參倍に増加したるものにして實に特記すべき成績なりとす而して此の如きは偏に時局の影響を蒙り土地の賣買改良作付の擴張、地價騰貴に因る擔保力の増進等幾多の原因に緣由するものなりと雖亦同行が如何に時勢の要求に對應し如何に拓殖の本旨を發揮するに努力せるかを推知するに足る可し(三)普通銀行業務 預金は九百六拾壹萬圓を増加し貳千八百五拾五萬圓となり、諸貸出に付ては割引貳百七拾九萬壹千圓を増加し千五百貳拾五萬圓に達せり、尙ほ爲替は貳百九拾參萬四千圓となり、當座貸越は五百七拾參萬壹千圓となり、取立は貳千參拾貳萬八千圓送金は五千六百貳萬參千圓となるに至れり、金銀出納取扱に在りては六億九千參百萬圓を増加し貳拾壹億參千四百萬圓に上り



店支東京行銀殖拓道海北

實に四割八分の増率に當れり而して是等の普通銀行業務に於ては年賦及定期貸付の成績を見るが如く急速なる膨脹を認め得ざりしと雖長期の貸付増加に伴ひ常に間斷無く進展し取引相當に頻繁を加へたるは明なり斯くて同期末の決算に於て本店總益金貳百貳拾五萬貳千五百八拾壹圓餘各支店出張所總益金壹百七拾六萬貳千貳百四圓餘合計四百壹萬四千七百八拾六圓餘を擧げ内本店總損金貳百貳拾五萬五千四百拾圓餘支店出張所總損金壹百五拾九萬六千四百五拾參圓餘を差引き金參拾九萬七千七百九拾貳圓餘の利益金を計上するの好成績を示せり、同行は本店を北海道札幌區大通りに置き支店並に出張所を東京、樺太、小樽、函館、旭川、釧路、根室、帯廣、野付、牛等の各地に設け、現役員は専務取締役頭取水越理庸、取締役馬島渡同乙竹仲太、監査役男爵大倉喜八郎、同松本恒之助、同永田巖の諸氏なり。

株式 三越 吳服店

三井吳服店が初めて元の江戸に開店したるは今を去る事二百三十七年前即ち天和三年の夏にして店名を越後屋と稱したり斯くて當時の因循なる商習慣に抗して同業者の激烈なる壓迫の下に『現金懸値なし』を標榜し『正札附販賣』を實行したり是れ實に泰西諸國の『デパートメントストア』の骨髄とも云ふべき價格單一法を實行したるものにして同店の誇りとする所なり、後ち降つて明治五年店名を三越吳服店と改稱し同二十六年に至り三井吳服店と云ひ更に同三十七年に至り組織を變更して株式會社と改稱し同二十六年に至り三井吳服店の舊に復し、『デパートメントストア』組織となし以て今日に至る、現在の建築は大正三年十月一日工竣りたるものにして地下室上庭園を合せて七階一階六百五十坪の廣さを有す、一商店にして壯大斯くの如きものは實にスエズ以東に於て唯一のものたるは夙に世人の熟知する所なり、同店の設備の一斑を述べれば先づ交通機關としては自働昇降機あり、自働階段機あり、又文明的設備としては氣力金銀運送機あり、螺旋形貨物推進機あり、其の他暖房通風、防火耐震等の設備一つとして最新科學を應用せる完全無缺のものたるを網羅せるのみならず四季折々の花卉盆栽の類をさへも販賣しつゝあり、今試みに現在營業商品の重なるものを擧げんが(一)吳服、太物、絹綿、交織、麻織物、毛織、男女帶地、友禪型染物類、着尺、羽織、地袴、地類等(二)洋服、大禮服、官公吏制服、燕尾服、フロックコート(三)化粧品、香水各種、白粉、齒磨石、洗粉等(四)旅行用具、靴、トランク、バック、柳行李等(五)帽子、シヤツ類、帽子、ハンカチーフ、シヤツ上下等(六)婦女裝飾品及小間物類、銀貨、入、貫、紙入、ハコセコ、羽織紐等(七)貴金屬製品、金銀鍍、懷中時計、同鎖、指輪等(八)傘、履物、杖、男女洋傘、雨傘、パ



店全店服吳越三

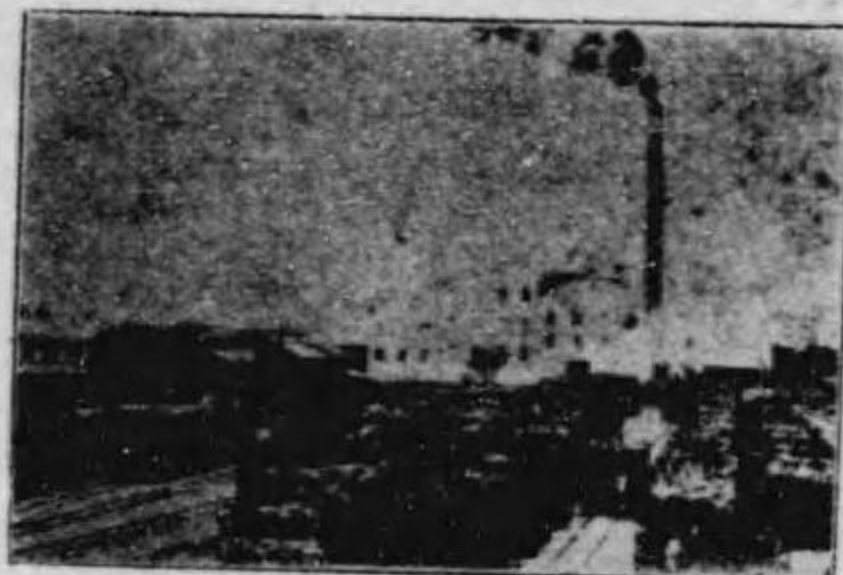
ラソール、ステッキ等九種、儀式用男女靴、踏踏靴等(一〇)兒童用品及玩具、雛人形、五月人形、和洋人形等(一一)文具、ペン、ペン軸、鉛筆、インキ、萬年筆等(一二)日本家具、机、箆筒、長持、鏡臺等(一三)西洋家具、刺繡、天鵝絨、扇、額、立、椅子、卓子等(一四)美術工藝品、繪畫、彫刻、茶器等(一五)寫真器械、攝影器具、現像藥液等(一六)西洋食器、珈琲、紅茶、器具一切等(一七)日本食器、膳、碗、鐵瓶等(一八)食料品、西洋酒各種、西洋菓子、罐詰類等(一九)茶、玉露、煎茶、番茶等(二〇)煙節、伊豆節、土佐節等(二一)海苔、干海苔

燒海苔等(二三)花切鉢植等二三音因贈答品等にして尙外には是等諸商品に對して商品券を發行せり斯くて業績年毎に隆々として揚り今大正八年上半期の決算に於て能く壹百五萬六千五圓の純益金を計上せり。

本店は本店を東京市日本橋區駿河町七番地に置き支店を大阪市東區高麗橋通二丁目京都市上京區室町通の二個所に出張所を群馬縣山田郡桐生町大字桐生新町朝鮮京城本町二丁目並に大連市大通りの三個所に設く現重役は取締役中村利器太郎朝吹常吉藤村喜七益田英作山岡才次郎室原健一小田久太郎監査役酒井良明鈴木梅四郎の諸氏なり。

### 明治製糖株式會社

同社の創立は明治三十九年十二月に在りて當初資本金五百萬圓を以て開業し臺南廳蕭壩に本店及び第一工場を設置す後ち蘇莖維新の二工場を買収し次いで四十四年及び四十五年の二回に互りて第二工場を嘉義廳蒜頭庄に第三工場を臺南廳蘇莖庄に開き本店を蘇莖に移し蘇莖維新の二工場を閉鎖し四十五年一月横濱精糖株式會社と合併し其の土地建物業を備品増設工事の一切を繼承し川崎工場と爲し以て製造能力に一層の増大を示すべく努力し大正二年六月又中央製糖株式會社と合併し更に其の規模を擴大し倉庫敷地として蕃仔田打狗嘉義に合計八百三十二坪停車場敷地として嘉義に二百九十三坪餘蕃仔田に五坪及び蕃仔田農場用水路土砂防止放牧用地として同所に連續する官有地十二甲の地面を借り入れ輕便鐵路を敷設して工場及倉庫を連絡し次第に各地に延長して運輸業を兼營し爾來時運の大勢に順應して常に規行以八拾八萬九千九百貳拾參圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり斯くて現在同社は臺南廳蕭壩庄に蕭壩工場を同蘇莖庄に總爺工場を嘉義廳大棟御西堡に蒜頭工場を南投廳南投に南投工場を設け尙ほ神奈川縣橋本郡御幸村川崎工場の外福岡縣遠賀郡戸畑町に戸畑工場を設けて共に精糖工場と爲し各工場の施設を改善し常に斬新なる機械を裝置し壓搾能力四千五百噸を有し巨然として臺灣糖業界の重鎮を以て稱せらる然して其の製品の優良無比なる從來幾多の博覽會共進會に出品して常に最高賞牌を領するを例とす蓋し同社の今日ある其の經營の宜きを得たる賜にして其の衝に當たれる重役諸氏の勞や眞に多とするものあり而も尙益々奮勵して將來の發展を圖りつゝあるを以て其の前途や洋々として洵に多量なりと云ふべきなり因に現事務取締役は相馬半治氏なり。

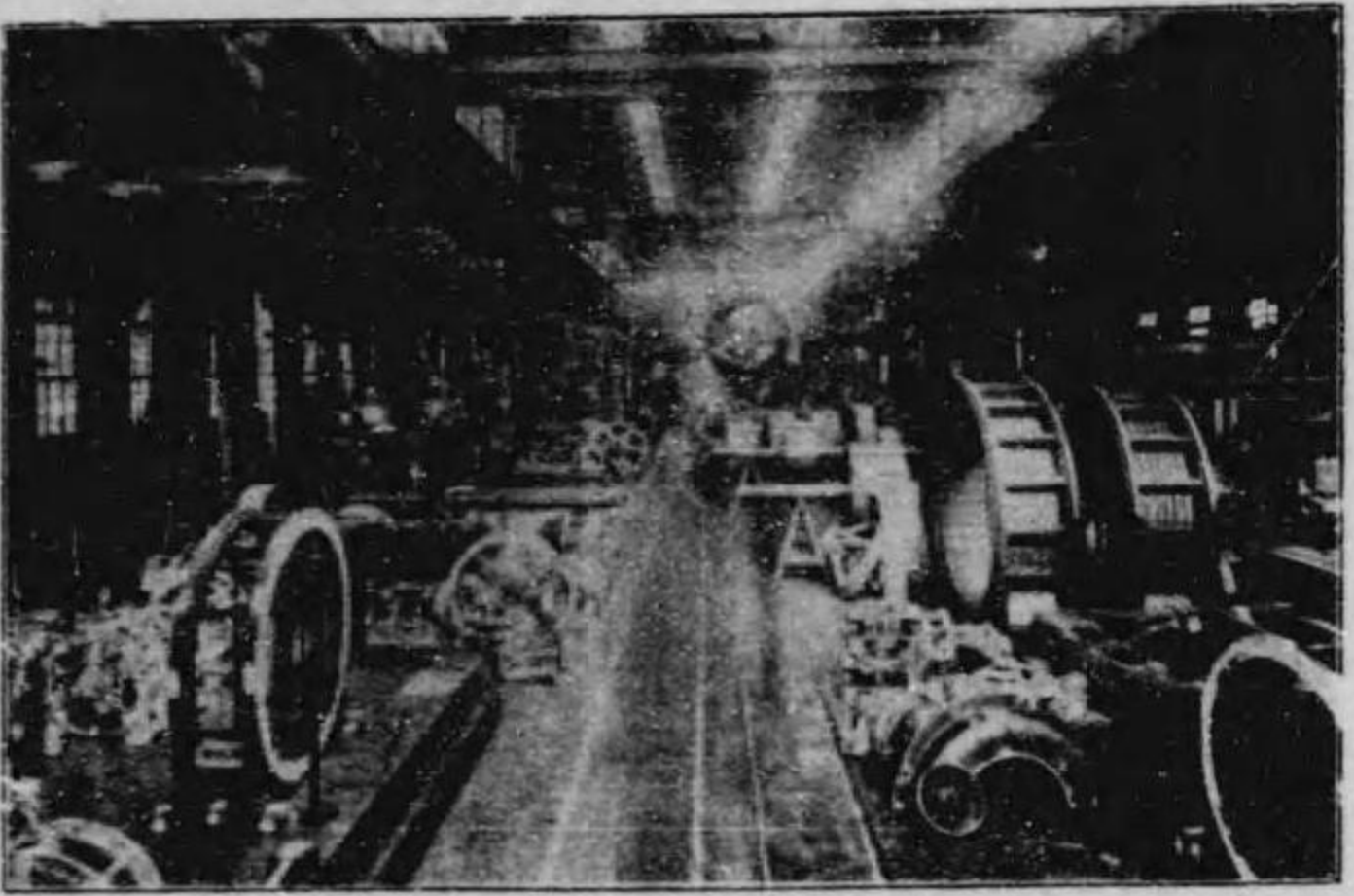


明治製糖株式會社

### 株式會社芝浦製作所

本邦電機製作業界の霸王株式會社芝浦製作所の由來を討ぬるに明治八年我が機械工業界の一偉人田中久重氏が田中工

場を創設せしに起因す。憾むらくは當時我國に於ける機械學の知識未だ進歩せず加ふるに職工の技術甚だ熟練を缺きしかば其の事業が顯著なる發達を致し得ざりしは異むに足らず。二十六年に至り三井家に於いて其の事業を繼承し代はりて經營する事となり初めて芝浦製作所と改稱せり。蓋し事業の元と困難なるが上に多大の資本を要せしを以て田中氏より三井家の手に委ねしなるが果して之に依り爾來豫期の發展を見るに至りたるは經營者及國家の爲め頗る慶祝すべきなり。後ち三井工業部三井礦山會社の管理に屬して電機蒸氣機一般機械類の製作に従事せり。三十二年太田黒重五郎氏の入りにて經營の衝に磨たるに及び更に面目を一新し累歲盛狀を遞加せり。次いで三十七年資本金壹百萬圓の株式組織に改め巨貨を投じ斬新の機械を設備し銳意して製品の改良を計り遂に外國製に較比して毫も遜色なきに至るや需要増進して止まず彌々社運の隆昌を致せり。是に於いて増資の必要を認め四十三年資本金を貳百萬圓となして一層業務の擴張を計り一面世界に有名なる米國の電機工場ゼネラル會社と提携して同社の設計にかゝる製作品の一切を製作するの特權を獲得せり。次いで四十四年に至りて工場施設に改善擴張を斷行すると共に汽罐煙突水管の三種を除く外從來の一般機械製作を廢止して主ら電機の製作に努め大正二年二月には資本金を一躍五百萬圓に増加し工場の擴大設備の完整に品め彌々發展を告げて本邦機械工業界の重鎮を以て瞻仰せらるゝに及べり。方今の事業界が電氣工業の時代に推移し來たれる大勢を看取しジエーアル、ギャリ、同團琢磨同太田黒重五郎同藤瀬政次郎監査役前田直行同綾井忠彦同小野友次郎の諸氏にして職員總人員九百四十四名勞役者二千八百二十一名を算す。現時同社の重なる製作品は即ち直流及交流發電機直流及交流電動機變壓器配電盤及用品扇風機等にして其の多くは同社の發明に係る幾多の特長を有し約百五十件の特許權を所有す。因に同社は本社並に工場を東京市芝區金杉新濱町一番地に置き同市京橋區尾張町一丁目一番地に銀座販賣店を設く。



芝浦製作所上機工場

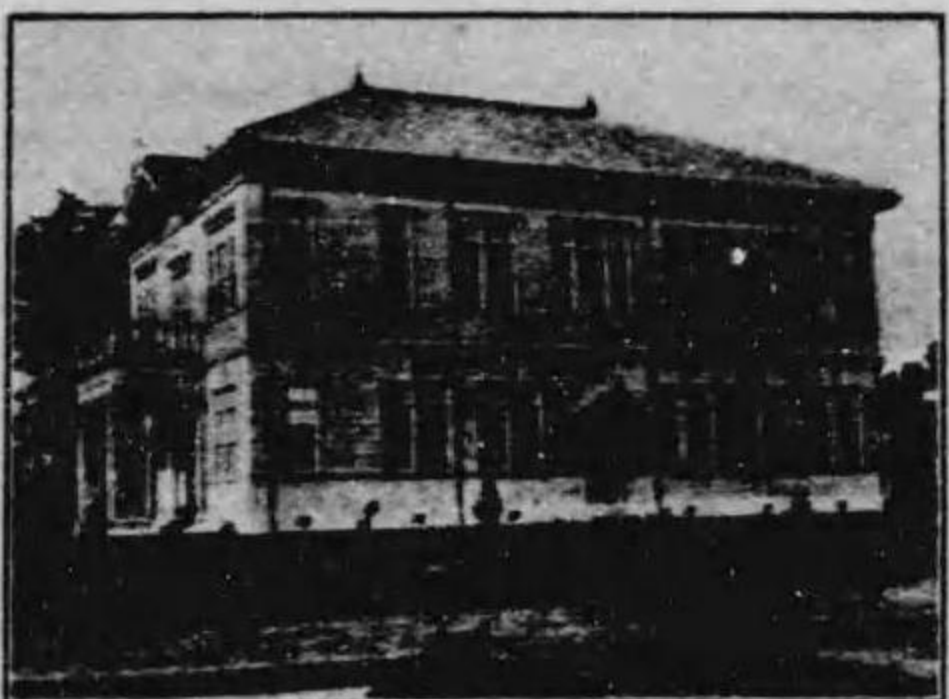
### 品川白煉瓦株式會社

本邦耐火煉瓦の鼻祖にして且つ現代斯業の覇者たる品川白煉瓦株式會社は遠く明治八年故社長西村勝三氏が佛國工學士ベンゲレン氏の指導を受けて創始したる煉瓦製造の家業を繼承し明治三十三年事業を擴張して合資會社に組織を更た



大戰亂勃發以來世を擧げて俄かに國產獎勵の絶叫を發する時に於て我が斯業者は既に着々として海外販路の擴張に努力しつゝありき豈又た快ならずとせんや而して同社の如き實に其魁なるものにして現に其製品は最も優良なるものを最も迅速に海外に供給し到る所として湧くが如き歓迎を受け目下其の製造能力の不足を告ぐるの盛況にあり且今日まで既に供給せられたる電線は其の數量頗る夥しきに拘らず未だ嘗て一度も不評苦情の聲を聞かざるは同社の密かに誇りとする所にして亦た以て如何に其の品質の優良なるの證左たるに足らん今試みに同社製品の重なるものを擧ぐれば一電燈電力用線護線線被鉛線東京線ケーブル鍍装線裸線パイロ線コード一電信電話電鈴及信號用線護線バラフイン線ケーブル銅索エナメル線コード一發電機電動機變壓器及コイル用線絹綯線綿綯線エナメル線ケーブルソイヤ一其の他特種電線類一切にして其の主なる販路は陸軍各工廠通信省鐵道院其の他の諸官衙全國各地の電燈電力業者並に電業者及び支那南洋印度南米北米英國露國南阿其の他の海外著名市場なり大正八年上半期の決算報告に依れば其資本金は壹百萬圓法定積立金參萬八千八百拾五圓別途積立金六萬壹千七百拾五圓にして總收入金壹百拾四萬七千四百拾四圓餘支出行金の成績を示せり同社は本社並に工場を東京府下南葛飾郡寺島村に置く現重役は専務取締役崎山刀太郎取締役渡邊貞次郎鈴木市之助小島周監査役長谷川榮太郎稻茂登三郎の諸氏なり

千葉縣立高等園藝學校

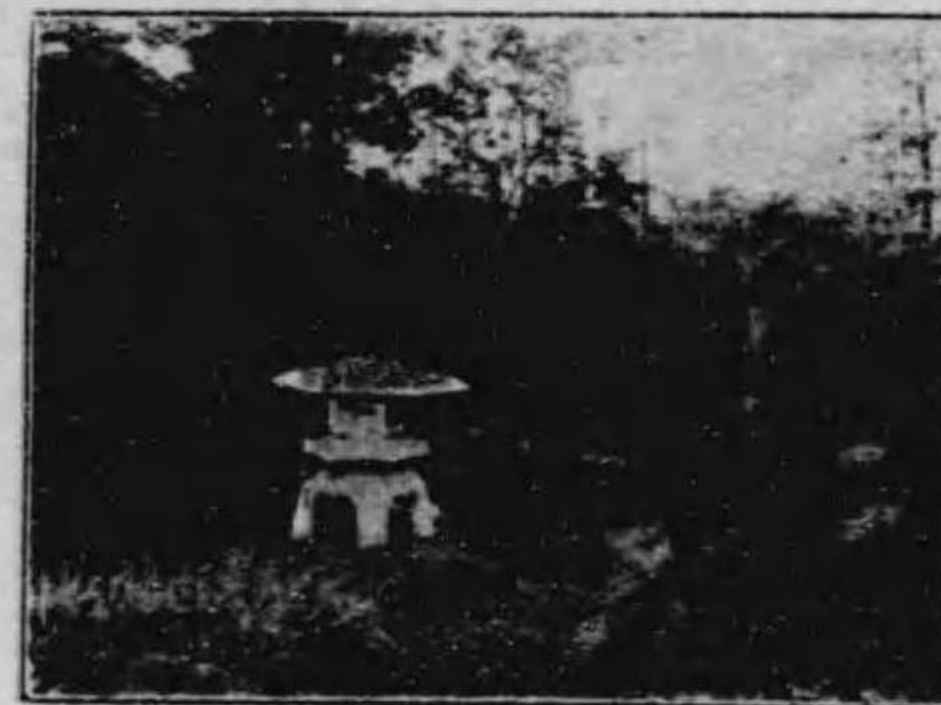


千葉縣立高等園藝學校

同校は千葉縣東葛飾郡松戸町の東南丘陵の上に在り、江戸川に臨み空氣清く松蔭幽靜の境洵に修學の好區寰たり抑々同校は明治四十二年三月二十五日、文部省の認可を得同年五月五日授業を開始せしものにして當初千葉縣立園藝專門學校と稱せしが大正六年四月以來校名を現名に改む專門學校令の定むる所により園藝に關する高等の學術技藝を教授するを目的とし文化の向上と園藝發達との要求に伴はんことを期せる本邦唯一の高等園藝教育機關なり現在校地總面積十二町二反二畝歩内一町九反四畝七歩は校舍敷とす建物の主なるものは本校舎五棟寄宿舎三棟附屬建物三十五棟農場附屬建物十一棟なり而して其の農場及庭園は果樹園蔬菜園觀賞植物園庭園及植物園品種改良試驗地雜用地等に分たる今試に其概要を述べれば(一)果樹園は三區に分れ第一區二町二反四畝歩第二區二反五畝歩第三區二反一畝歩總計二町七反歩あり内一町四反歩は主として試驗研究並に生徒の練習用に供せられ四反歩は各品種の見本園二反七畝歩は樹苗育成園二反歩は豫備園とす現に栽植する果樹は桃油桃日本梨西洋梨柿栗杏及李米國種及各種葡萄櫻桃蘋果枇杷等なり(二)蔬菜園は約二町一畝歩にして之を見本園生徒試作地共同實習地苗床促成場等に分つ(三)觀賞植物園は總て一町八畝歩に分ちて經濟的花卉園庭園用樹仕立園花卉見本園宿根花卉見本園路傍用樹仕立園盆栽用樹仕立園苗圃挿木園の數區とす(四)庭園及植物園の總面積三町四反六畝歩にして園内變化に富み、眼下に江戸川の白帆を眺むるあり廣大なる關東平野を隔て、富士の英姿を望むありて庭庭上頗る好適地たり現存する庭園を擧ぐれば日本式庭園洋式庭園コンテニースコート洋式校舍附屬庭園中壺日本式風致園中壺洋式花壇日本式花畑

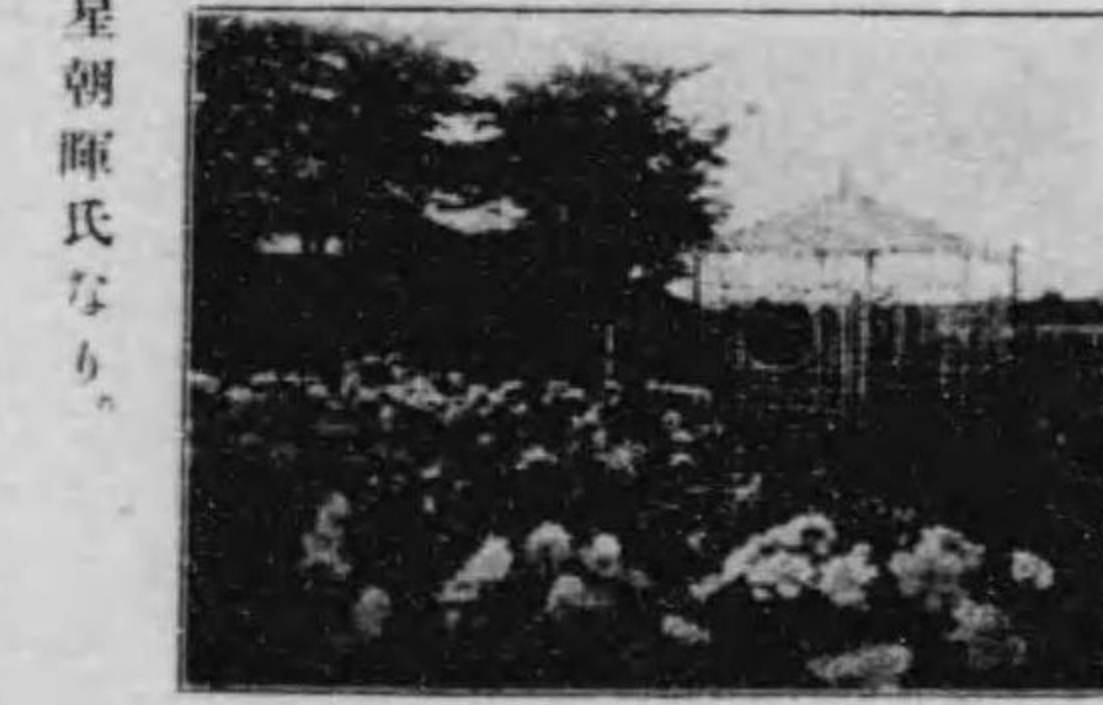
洋式毛氈花壇觀賞樹木見本園高山植物園野生植物栽培等にして様式種々なるも二三を除く外は相連絡して一大庭園をなす(五)品種改良試驗地は植物の遺傳作物の改良及新種育成に關する試驗地にして面積五反歩あり從來試驗せる主なる作物は南瓜茄子蕎麥麥類等なり(六)雜用地は收穫物干場荷造場其他の用に供せられ面積約五反四畝歩を算す其他花卉溫室盆栽室蔬菜栽培溫室輕便硝子室軟化室その他軟化用窖藏果樹溫室園藝加工室等ありて外に豚鶏蜜蜂各若干種の飼養動物あり

學科目は第一果樹園藝第二蔬菜園藝第三園藝生産物の利用法第四花卉園藝及造庭術の四類に分たれ修學年期は三ヶ年入學期は毎年四月にして年齢滿十七年以上品行端正身體壯健の男子にして一、中學校卒業生二、專門學校入學者檢定規定に依り試驗檢定に合格したる者三、專門學校入學者檢定規定第八



日本式庭園

條一號の指定を受けたる學校の卒業生四甲種農業學校の卒業生の一に該當する者は入學資格を有す現在大正七年十二月調在籍生徒數百三十二名にして卒業生總數二百二十一名を數す



專科園の一部

株式會社 銀行



菊池長四郎君

同行は大正七年六月一日群馬縣桐生町株式會社四十銀行と栃木縣栃木町株式會社四十一銀行との合併により創立せられたるものにして創業後日猶ほ未だ淺しと雖も營業の堅實と敏活とは日に大方の信用を博して行運頗る隆昌を極め更らに大正八年四月十一日栃木縣佐野町株式會社野商業銀行資本金六拾萬圓を合併し行務更らに一段の殷盛を致せり斯くて現在資本金四百六拾五萬圓諸積金壹百參拾六萬參千六百貳拾參圓餘を有し今大正八年上半期の決算に於て金五拾萬八千九百七拾四圓餘の純益金を擧げ内金五萬四千圓を法定積立金に金四萬貳千參百七拾六圓餘を別段積立金に金壹萬八千參百圓を役員賞與金に金五千圓を行員退職給與基金に各充當し年九分の株主配當を行ひ金拾八萬貳千七拾參圓を後期に繰越すの好成績を示せり尙同期末に於ける同行の諸預り金高は實に貳千八百九拾五萬五千四百六拾九圓を算せり亦以て如何に其の業務の盛大なるかを知らん

同行は本店を東京市日本橋區富澤町五番地に置き支店を栃木縣宇都宮市同栃木町同佐野町同足利町同群馬縣桐生町同館林町同上田町同沼沼町に設く現重役は取締役頭取菊池長四郎専務取締役大澤福太郎常務取締役菊池次郎同青木英作取締役森宗作同植竹三右衛門同阿由葉三郎同手束藤三郎同小室良七同阿由葉勝作同小林庄太郎監査役千葉喜一郎同幸島基太郎同高橋善十郎同中島友次同久保田健次郎同瀧澤民の諸氏にして何れも財界に鳴る



### 關東酸曹株式會社



社長 田中榮八郎 君

本邦化學工業製品製造の鼻祖にして現代新界の覇王たる同社は其事業の起源を明治十二年當時大藏省印刷局長得能良介氏の發意により輸入品防遏の目的を以て同局構内に於て抄紙の原料たる苛性曹達灰晒粉等を製造したるに發す大で明治十八年該工場を東京府北豐島郡王子村に移轉し之に硫酸の事業を加へ印刷局抄紙部製薬課と稱し専ら同局の製紙用藥品を製造し傍ら民間の需要に應じたるを以て一般の工業家は其便益を蒙る尠からず次で明治二十三年該工場を舉げて宮内省御料局へ引渡され御料局佐渡支廳附屬王子製糖所と改め主として佐渡金山又は生野銀山の製鍊用藥品を製造し且つ從來の如く一般工業者の需要を充たしたり。翌二十九年十月事業の擴張を圖り資本金を五拾萬圓に増額し關東酸曹株式會社と改稱し更に豐島工場を設け硫酸製造装置を爲し曹達晒粉工場一切を移轉し製品の改良に努め爾來社運益々順潮の發展を遂げ工場擴張と共に明治四十年三月資本金を壹百萬圓に増加し從來製品の外新に人造肥料の製造を創始し續て關西各地に於ける需要者の便利を圖り神戸市新在家に分工場を装置し主として肥料の製造販賣を開始せり爾來運年と共に異常の進展を來たすに伴ひ同社肥料は多年の經驗と嶄新なる學理に基き純精なる原料と最新式の機械を應用して製造せしものなれば其品質の優良にして價格の低廉なる夙に此師肥料覇王を以て稱せらる又同社製品の硫酸原料は從來硫酸礦を使用し來りしも時運の變遷に伴ひ含銅硫化鐵礦に變更したるより其殘滓を付して製銅事業を開始し事業の目覺ましき進展を來たすに連れ遂に明治四十四年四月に至り又五拾萬圓を増加して資本金壹百萬圓となし曩に歐洲の戦亂勃發するや時運の要求に適合すべく積極的發展を期畫し大正六年三月更に參百萬圓の増資を執行し總額五百萬圓の大資本を得て大阪府下中津町光立寺に大阪出張所を設け専ら藥品の製造販賣を開始し尙多年研究せし電解式中最も能率優秀なる最新式設備工場落成を見るに至り其製造能力も數倍加すると同時に多年同社の特色たる製品の精製は倍々其特性を發揮し一般農工業界に貢献する所あらんことを期しつゝあり其國家社會を裨補する所益大なりとす斯くて今や工場敷地六萬六千坪に達し従業員亦一千五百餘名を算し今大正八年上半期の決算に於て八拾萬四千六百七圓餘の純益金を擧げ年貳割の株主配當を行ふの好成績を示せり而して現時同社製品の重なるものを擧ぐれば硫酸強硫酸鹽酸晒粉苛性曹達曹達灰結晶硝磺硫酸化曹達螺印毒劑コロル石灰清澄劑ハイドロサルファイトSSブランクットKSS酸性亞硫酸曹達次亞硫酸曹達鹽化亞鉛專賣特許カーパナイザー等にして何れも製造工業上莫大なる用途を有し需要頗る盛なり若し夫れ是等各品の如何に優秀なるかは大正三年東京大正博覽會に於て名譽大賞牌を受領し次で同四年大正紀念京都博覽會に於て名譽大賞牌を受領し同じく同四年大正紀念神戶博覽會に於て名譽大賞牌を受領し更に大正六年東京化學工業博覽會に於て名譽賞



關東酸曹株式會社

牌を受領するの名譽を荷へるに徴して證せらる。因に同社は本社並に本工場を東京府北豐島郡王子町字豐島に置き兵庫出張所を神戸兵庫新在家町に大阪出張所を大阪府西成郡中津町光立寺字相生に置く現重役は取締役社長田中榮八郎常務取締役石川卯一郎取締役小西安兵衛同福原有信同森友徳兵衛監査役松村精一、同和田瑞同藤田好三郎の諸氏なり。

### 諸工業用機械材料工匠具電氣器械類

### 直輸出入及製作販賣

株式會社 岩田兄弟商會

本店 大阪市西區立賣堀通北六丁目

創業 明治二十八年 資本拂込高 金壹百萬圓也



岩田兄弟商會

陳列場

### 名古屋電燈株式會社

同社は明治二十年九月當時祿に離れし名古屋士族の窮狀を救はんが爲め士族の有志者三浦惠民氏等が時の知事勝間田稔氏と謀り農商務省に出願して士族九千餘名に對して貸下を受けし士族授産金七萬五千圓を基礎として創立せられたるものにして此時農商務省は該金額を貸下くと同時に勝間田知事に對して嚴重なる監督を命じたるを以て同氏は士族志有と慎重なる熟議を経たる後資本散逸の憂なく且成可く行ひ易くして而も確實なる公共事業として茲に同社創立の計畫を立つるに至りしものなり然れ共當時文明の度未だ低くして電燈の需要者極めて少なく同二十三年當時に於ける電燈數の如き僅かに四百餘燈を算するに過ぎざりしが時偶々第三師團の兵營に電燈を點するの議決せし爲め茲に俄然として同社の事業は好況に向ふの欣を見るに至りぬ斯くて同二十六年に至りては第一回の増資を行ひ其資本金を拾六萬圓となし更らに同二十九年三月愛知電燈株式會社を合併せる結果其資本金總額は參拾萬圓となりしが時正に日清の戰役終りを告げ我が事業界は空前の活況を呈せるの時なりしかば同社は之の機に乗じて益々業務の擴張を行ひ同年十月更に五拾萬圓を増資



名古屋電燈株式會社

せり、而して翌三十年には名古屋市水町に新築中なりし同社營業所竣工せしを以て爰に移轉せり、爾來事業益々順調の發展を遂げ同三十七年十月に至りては甚間送電則ち工業用動力の送電を開始するに至る、越えて同四十年三月東海電氣株式會社を併合し該社の田代川及巴川の水力發電所を活用して茲に水力發電經營の端緒を開けり、而して一方其の資本金は該社と合同の結果五百萬圓を算するに至る、此の年又長良川に木曾川に水力發電所を設くるの企劃をなす、次いで同四十三年十月三度名古屋電力株式會社を併合し資本金を七百七拾五萬圓となす、而して木曾川發電所の竣工後は更に大規模の擴張をなすべく同四十四年四月増資を行し同社資本金は茲に一躍して壹千六百萬圓の巨額を算するに至り、以て今日に及ぶ、尙同四十五年五月現在の營業所新築の工成り爰に移轉せり、斯くて今や同社の事業は電燈及電力の供給電氣機具の製造販賣及電氣工事請負並に電氣應用の化學工業及造林事業の廣に亘り、本社營業所を名古屋市中區新柳町に東京出張所を東京市麹町區永樂町に置き、東區營業所を名古屋市東區鶴屋町に、西區營業所を同市西區奉公人町に、中區營業所を同市南區熱田神戶町に設け、別に下廣井工作所並に試驗所を同市中區廣井町に設置し其の電燈供給数の如き實に約三十萬燈を算し、今大正八年上半期の決算に於て九拾四萬八千壹百四圓の純益金を擧ぐるの好成績を示せり、盛なりと云はざる可けんや。

巴川發電所は愛知縣東加茂郡盛岡村に取入口を設け、水路千六百間水量百個、落差百二十尺、發電力百五十キロワットにして、千種變電所に變電す、四小原發電所は愛知縣西加茂郡小原村に取入口ありて、水路七百間、水量十個、落差四百二十尺、二百キロワットを發電し、瀬戸變電所に送る、尙ほ同社は別に愛知縣熱田に一萬キロワットのステームタービンを据ゑ付たる豫備火力發電所を有し、又た外に長野縣三留野驛附近讀書村に於て二萬キロワット、同縣野尻驛附近大桑村に於て二萬キロワット合計五萬四千馬力を發電し得べき水利權を獲得せり、同社の前途や豈多望なりと云はざる可けんや。

同社は又長良川發電所の水源保護の爲め郡上郡西川村大字内ヶ谷に山林一千九百九拾町歩を所有し、爰に杉植を植付け、杉は植樹後四十年、檜は同五十年に伐採する計畫を立て現に向十五ヶ年間毎年千圓乃至五千圓宛の造林費を支出しつゝあり、斯くて同社は之れに對する収入として貳百七拾參圓を得るの見込みなりと云ふ、亦た盛ならずや、因に同社の現重役は社長福澤桃介、同副社長下出民義、取締役角田正喬、神谷卓男、後藤幸三、下郷傳平、草野清四郎、監査役松原誠、具浩、小山禎三の諸氏にして支配人は角田正喬氏なり。



社長 福澤桃介

永峯セルロイド工業株式會社



永峯セルロイド工業株式會社

同社は大正六年十一月、現取締役社長永峯清次郎氏が個人經營に係りしセルロイド工業所の業務一切を繼承して創立せられたるものにして、現在資本金壹百萬圓を有し、本社を東京市淺草區森田町三番地に置く、同社の工場は龜戸王子の二工場にして、兩者を合して敷地約三百坪を算し、目下三百九十餘名の男女職工を使用し、盛んに其事業に従事しつゝあり、製品はセルロイド及其の加工品たる玩具、自轉車附屬品、其他雜貨の各種に亘り、何れも品質優良を以て稱せられ、江湖の歡迎を受く、就中其の自轉車附屬品は世に噴々たる聲價を博せるものにして、從來此のセルロイド應用の自轉車附屬品は自轉車其の物と共に主として海外よりの輸入に仰ぎたりしが、同社加工品が市場に出づるに至りしより、其優良なるが爲めに多大の賞讃を博し、皆争ふて同品を使用し、以て漸次輸入を防遏し、今や却つて海外に輸出するの盛況を示せり、現在年産額壹百萬圓内外を計上し、前途發展の機運益々熟しつゝあり。

今試みに同社が最近の營業期たる大正七年十一月二十一日より同八年五月二十日に至る、大正八年度上半期に於ける營業概況を述べれば、前期末歐洲の休戰條約成立以來、船貨及製品相場の下落となり、内外市場は一般に注文手控の結果、果ては悲觀に傾きたり、就中濠洲南洋方面に於ける市場の打撃最も甚しく加ふるに、例年取引開散の季節たる十二月、一月二ヶ月の間は一層不況裡に經過せり、而も偶々一月米國の輸入制限撤廢の吉報に接するや、市場は幾分回復せしが、當時クリスマス註文期には未だ若干の時日ありしと、且前途に對する一般的不安の念全く去らざりし際として、新規註文を發する向甚だ僅少にして、主に既製品の取引行はるゝに過ぎざりし、三月に入りて、歐米市場の好況を告ぐると同時に、玩具類の新規註文續々到來せる結果、製品及原料市價は漸次昇騰し、期末に至りて更に英國に於ける輸入禁止令緩和せられたるを以て一層好況を呈せり、而して同社は前記の悲況時代に在りては、可成の生産を減じ、一方に於ては戰後に於ける歐米諸國の需要に應ぜんが爲め更に王子工場擴張工事を急ぎ、之れによりて雜貨類の生産を増大するの準備を進捗せり、之れを要するに同期は全期を通じて不況を續けたる結果、收益亦意の如くならずし、而も相應の好成績を擧ぐることを得、同期末の決算に於て金四萬八千八百八拾貳圓餘の純益金を得之に、金五千壹百四拾六圓餘の前期繰越金を加へ、合計金四萬六千貳拾九圓餘を計上し、内金貳千壹百圓を法定積立金に、金貳千壹百圓を別途積立金に、金四千圓を役員賞與金に各充當し、年壹割貳分弱の株主配當を行ひ、金四千八百貳拾九圓餘を後期に繰越せり、思ふに今後濠洲南洋方面に於ける市場の回復と英國其他の禁輸全然撤廢せらるゝの曉に於ては、一般セルロイド界は一層繁榮の状態に入るべく、同社將來の發展や更に益々刮目に値するものあらん、因に同社の現重役は取締役社長永峯清次郎、常務取締役加賀美理一郎、同永峯清三郎、取締役若旅喜一郎、同永峯兼松、同山口佐助、監査役若崎清七、同正田貞一郎の諸氏なり。



永峯セルロイド工業株式會社製品

株式伊藤醬油部

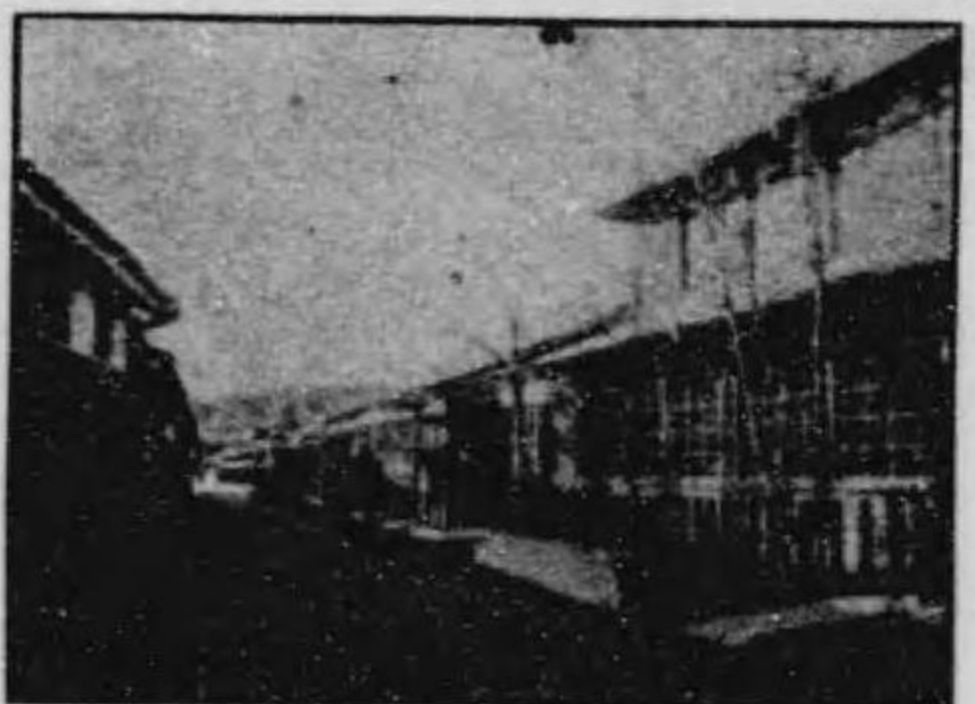
株式會社伊藤醬油部は三重縣室山の富豪伊藤小左衛門氏一族の經營する事業の一部にして遠く享和元年同家第四世小左衛門氏の創業に係り、而して創業當時は業務尙未だ頗る微々たるものにして其初年度の如き僅に大豆六石を以て醸造するに過ぎざりしが累世之を繼承して醸法の改良業務の擴張に努め其間天變地殊により幾多の波瀾と數度の蹉跌に逢遇せしも克く之を排除して益々發展を圖り今や其の原料大豆の一ヶ年消費高の如き實に約一萬石の多きを數へ又た其の製品産額の如き優に同縣下産出額の一割を占むるの盛況を見るに至り。



伊藤小左衛門君

同店は明治維新以來泰西文物の輸入日に加はり、我工業界の如きも科學應用一大進化の機運に際會するや卒先釀造試驗所を設置して力を醸造學理の研究に對し又傍ら碎身機械の發明に従事して遂に其の目的を達せり、其主なるものは穀類洗滌機及蒸豆碎煉機等にして何れも特許權を得たり斯くて同店の業務は年と共に異常の發展を遂ぐると共に本邦斯業界に貢獻する所せしめ之に貯藏する醃二千三百餘石と五萬貫以上の味増を失へり、然れ共爾來其夜兼行して餘燼を處理し急遽再築工事を起し翌三十四年約二百坪の倉庫を竣成し、次で同四十二年更に二百餘坪の倉庫を増設して優に一千餘石の製造力を増加せり斯くて爾後業運年と共に盛んにして遂に今日の盛況を見るに至る。

同店製品の種類を擧ぐれば(一)生引醬油 (二)室印伊藤印上赤印山小赤印 (三)山小印白印山小印別薄山小印 (四)混和醬油 (五)山小印三分山十印五分山十印七分山十印 (六)番醬油 (七)丸小印山三印 (八)味増等にして是等は何れも化學的と機械的との應用相俟て行はれ且つ原料の撰擇及調製上の注意は勿論殊に醃酵期間に至つては一定の長日月を經過せしめざれば決して販賣に上ることなし、故に微の發生及び酸味を附帶するの憂少し、嘗て印度臺灣の熱帶地方其他支那朝鮮布哇暹羅の諸國へ輸出したるに他生産地の製品は多く腐敗を來せしも同店醸造に係るものは少しも異狀を呈せず大に好評を博し近來臺灣の需用頗る多大なるに徴するも其一たり。



株式會社伊藤醬油部

尙同店製品は明治十一年三重縣物産博覽會に於て褒賞を受領せし以來今日迄内外各種の博覽會品評會等に於て最高の賞牌を受領せしこと枚擧するに遑あらず亦以て如何に其品質の優良なるかを知らしむらん、因に伊藤家の現主は七世伊藤小左衛門氏

私立大阪商業學校

組織改正 同校は大阪市北區上福島北二丁目に在り、創立以來三十年の歴史を有し、從來私人の經營に屬せしも今や時勢の要求は更に校勢擴張の機運を促がすものあり、其の目的を達せん爲め法人組織に變更するを以て急務とし、設立者は客年來銳意盡瘁する所ありしが、遂に此程に至り法人組織全く成り其筋の認可を受く、茲に於て同校の基礎永遠に確立せられたり、而して同校出資者は何れも大阪市屈指の實業家にして理事長には關西財界に德望高き近江銀行頭取池田經三郎氏就任せられ、氏は熱心經營の任に當らる。

校長以下新任

前校長武田貞之助氏は法人組織成立の結果、常務理事として經營の任に當られ校長としては文學士清水大樹氏の新任を見るに至れり、同時に學級増加に伴ふ準備として教師數名を招聘し目下の商界に適應すべき資性堅實にして意志強固なる優良生を養成せんことを期せり。

校舍増築 新學年に於ける定員増加に伴ふ校舍の増築計畫と特別教室其他内部設備の改善は目下理事團に於て之が實行を決定し來年度に於て一部の増築を見る豫定にして既に内部の改修に着手せり。



清水大樹君

校則改正 戦後經營の準備として同校に於ては新時代に適應すべき人才を養成せんが爲め此際學科課程の増減其他學則の改正を必要となし客年來夫々調査中の處過般結了を告げ既に申請中なるを以て不日認可せらるべく、新校長統率の下に新學則實施の上は同校教育の效果に於て一段の進歩を見るべく期待されつゝあり。

現在職員生徒 教師は邦人二十五名、外人一名にして現在生徒七百五十名を算す、卒業生總數千六百有餘名、内地滿鮮至る處夫れ、實業界に活躍し既に樞要の地位にあるもの尠ならずと云ふ、斯かる多數の同窓生を有することは同市に於ける此種學校中稀に見るところにして出身者に取り至大の幸福と云ふべし。

本年卒業生 本年三月の卒業生は約百三十名にして實業界よりの採用申込著しく増加し就職希望者は卒業式舉行前既に悉皆豫約済となりたる盛況を呈しき。

今後の發展 北大阪の一角に三十年の歴史を有する同校が時代の進運に鑑み、今や確實なる基礎の上に法人團體を組織し、之を統率するに池田氏の如き財界の有力者を迎へ、内部の大改善に着手したるは獨り同校の爲めに喜ぶべきのみならずして實に同市實業教育界に於ける一進展と見るを得べし、同校今後の發展や必ず利目して視るべきものあらん。

株式會社神田銀行と頭取神田鐮藏君

株式會社神田銀行は舊合名會社紅葉屋銀行の後身なり、紅葉屋銀行は明治四十四年三月の創立に係り、爾來日に月に發展の好運に向ひしが、大正七年七月一日時勢の進運に策應せんが爲め組織を改めて株式會社となし、名稱を改めて神田銀行となし、同時に從來の資本金壹百萬圓を五百萬圓に増加せり、爾後行運益々隆盛の域に向ひ、今や所謂證券銀行としての完璧を期すべく行員戮力倍々行務の進展に努力しつゝあり、今大正八年上半期の決算報告に依れば同行資本金五百萬圓積立金貳



萬圓諸預り金四百五拾四萬七千六百四拾參圓にして同期末の決算に於て拾八萬七千七百四拾八圓餘の利益金を舉げ内拾萬圓を積立金に貳千圓を行員恩給基金に壹千六百圓を役員賞與金に各充當し、八萬四千四百四拾八圓餘を後期に繰越すの好成绩を示せり亦以て如何に業務の繁榮なるかを知らん因に同行は本店を東京市日本橋區坂本町二十六番地に置く。



神田 田 已 君

取締役頭取神田田已君は愛知縣海東郡須成村の人、神田清三郎氏の嫡男にして明治五年を以て生る、年甫めて十七攝津灘に往きて酒造改良の研究に従事す、居ること三年家に歸り推されて海東郡酒造組合の頭取と爲る、而も酒造改良の事遂に成るに及ばずして已む明治二十六年名古屋株式取引所の創設さる、や驪然業を更へて其の仲買人と爲り幾もなく日清役後の株式熱狂時代に遭遇し乾坤一擲須臾にして陶朱の富を致す何ぞ圖らん反動大に至り二十九年以來打ち續ける財界不況の波濤は遂に君が虛榮の夢を遺憾なく洗ひ去り困敗僅に身を以て東京に逃る、維時明治三十二年冬十二月なりきかくて意色凄然暮れ行く帝都の歳月を日本橋區坂本町新炭商某の階上に送り翌三十三年二月日本橋區坂本町今の紅葉屋の一角を賃借して現物専門の業を創ひ蓋し無謀なる投機思惑の持むべからざるを深く身骨に徹したるを以てなり而も當時の資本たる僅々壹百圓に過ぎず況んや創業日尙は淺く東京市場の規則習慣に通ぜざるを以て動もすれば同業者の反感を招き爲に此等と懇親を結び意志の疏通を圖るの機會に乏しく遂に謂はゆる仲間取引より除外せらるゝに至る然りと雖も君素と意力堅實の人願みて尙かに惟らく我が試金石は是也強ち市場の仲間たらざるも客と客との仲立取引を行はゞ必ず立脚の地を見出し得べしと乃ち他の同業者が薄利厭ふべしとし其の取扱を好まざる公債取引に向つて其の全力を傾注せり是れ實に紅葉屋の運命に取りて轉禍爲福の一動機たりしなり、後ち故今村清之助氏の如き故米倉一平氏の如き幾多有力なる後援者を得て漸次財界の要路に識認せられ明治三十五年或有力なる大注文を引き受けて整理軍事の諸公債七百萬圓を買收し市場の人初めて紅葉屋の行動に目を敬つ是より先き君英文紅葉屋日報を刊行し帝國各有價證券の市價を表記し併せて財政の信用あり公債の確實なる所以を鼓吹し普く之を英佛獨白伊及び北米合衆國の市場及び銀行家に奉呈し以て帝國有價證券に對する國際信用の増進に努む三十七年日露干戈相ひ見ゆるや軍費の需要急なるに従ひ頻りに國庫債券の發行を見る、而も其の疏通の道に於て完備を缺ける故を以て浮動公債市場に流溢し動もすれば價格の動搖を免れざらんとし軍國の財政状態に對して多大の危懼を興へたり君乃ち其の宿論たる證券金庫設立の急務を主張し濠澤榮一男に謀りて銳意畫策する所あり遂に能く政府金貨支拂保證の裏書なき公債輸出の端を開き大に國家に貢獻せり越えて三十九年九月同志の現物業者銀行家及びビルブローカーと共に東京有價證券取引組合を組織し尋いで現物市場設立を出願せしむ時可ならずして認可を得ず而も此の動機ありしに依り未だ幾ならずして取引制度の更革を促したる實に皆君の力なり、四十一年暮國債信託部を開始して自から公債取引の改善に従ひ四十三年十二月組織を改めて資本金壹百萬圓の合資會社と爲し次いで四十四年四月別に資本金壹百萬圓を以て同行の前身なる合名會社紅葉屋銀行を坂本町に開設し經營機宜に



株式會社神田銀行

協ひて能く現時の盛況を見るに至らしむ、取締役三好海三郎氏は明治二十九年東京帝國大學法科卒業後直ちに官海に入り、長崎稅關長時代偶々神田田已氏の懇望により紅葉屋銀行の創立と同時に入りて専務理事となり、同行創立せらるゝに及び取締役となり以て今日に及ぶ同高木拾次郎氏は明治三十六年東京商業學校卒業後北海道拓殖銀行に入り、累進して東京支店副支配人となりしが大正八年三月二十九日入りて同行取締役となり以て現時に至る。

### 白木屋 吳服店

帝都の中央日本橋々畔に巍然空を摩する白屋の一大商舖あり、吳服太物を始めとし日用百貨の類一つとして備らざるなく其の業礎の堅實にして業務の盛大なる正に三越吳服店と併稱せられ、帝都斯界の双壁を以て目せらるゝものをデパートメントストア白木屋吳服なりとす。同店は遠く寛文二年の創業に係り爾來茲に二百六十年、波瀾萬疊榮枯常なき商業界に於て斯くの如きは實に同店の誇のみならず又實に帝都の誇なり、店祖は近江人大村彦太郎氏にして、淺井長政の後裔なり、幼にして孤となる、長ずるに及び大志あり始め京都に出で木材を鬻ぐ、白木の商號此に基く後江戸日本橋區一丁目に入り、反物の小賣を創ひ之れ同店の濫觴なり、爾來銳意店務の擴張を圖り、商は高利を取らず正直に善き物を買れ末は繁昌の一首は實に同氏が店誌として遺せるもの、代々能く父祖の志を體し其の精神を失はず、明治十年時代の趨勢に伴ひ大改築を行つて面目を一新し、十九年率先洋服部を設け、三十六年更に店舗を改築して歐米風の陳列式とし、吳服太物の外廣く日用雜貨品の販賣を兼ね、常に京都に住し名聲隆々市長候補に選まるゝこと數次其の他數多の名譽職を兼ね、現に東京商業會所議員たり。



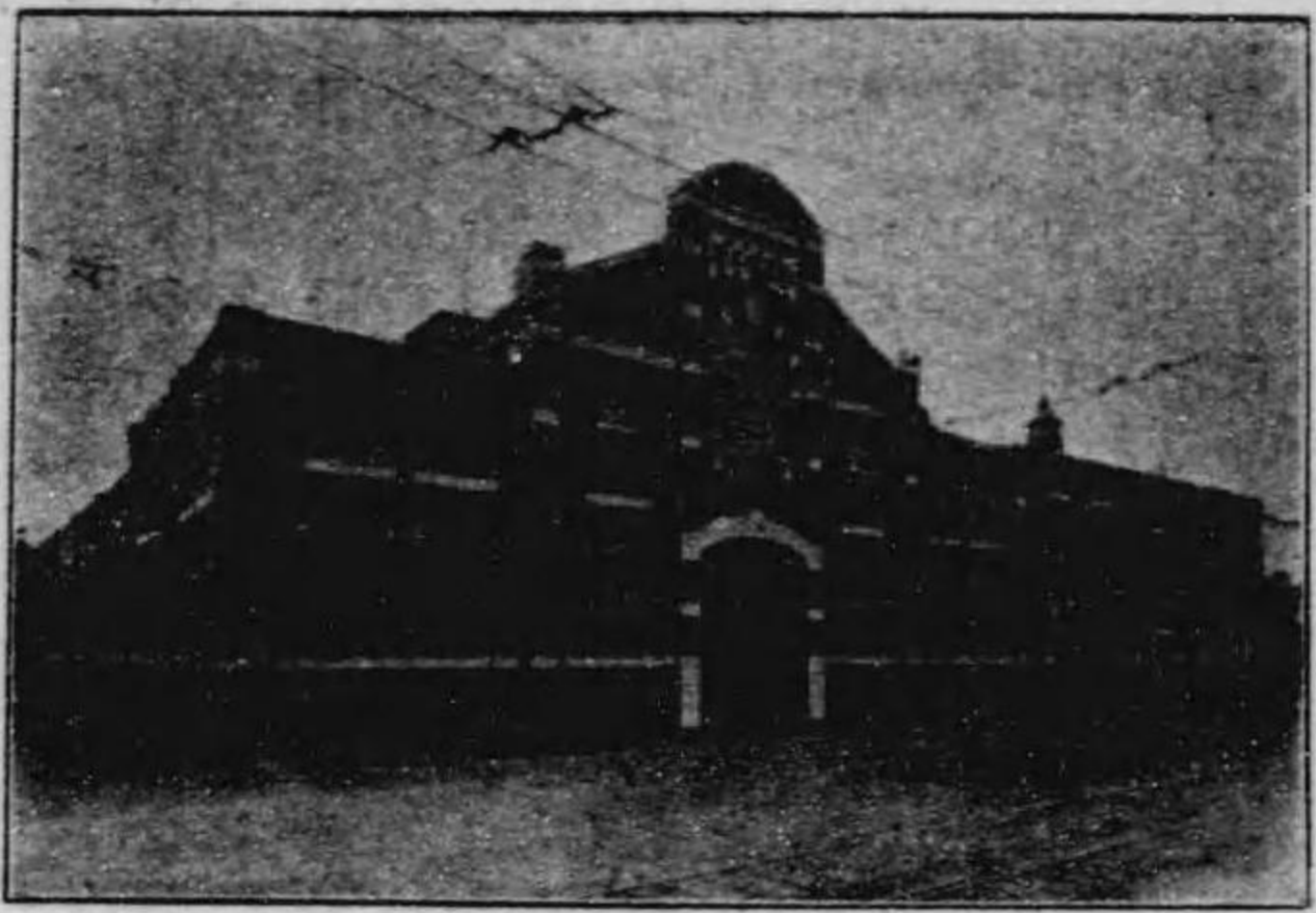
白木屋 吳服店

又た窓飾を創り、食堂を置き或は休憩室を開く等外觀の美は内容の實と相副ひ名譽頗に揚がる、明治四十四年市區改正の結果店舗の位置全都唯一の要地を占むるに至り更に一大増築を行ふと共に陳列販賣商品の種目を増し、又た寫真場餘興場を新設し、三越吳服店と共に帝都の二大商店を以て並稱せらるゝに至る、現店主彦太郎君は京都の人、明治二年を以て生る、先代彦太郎氏の長男にして實に第十世の店主たり、夙に東京の商業專修學校に學び十九歳にして單身歐米に遊學し、傍ら外國小賣商店の實務を習熟し、在る事十年、二十八年歸朝して家督を斷ぎ、今に至る、資性温雅篤實、風采亦之に稱ひ、悠揚迫らざる態度を、持し、茶道は已に堂に入り、禪學は竹田默雷師に就き、將に三昧に幾からんとし、又た撞球の術に長じ、ときに外國雜誌の翻譯に没頭す、君

### 株式會社池貝鐵工所

帝都鐵工業界の重鎮株式會社池貝鐵工所は東京市芝區三田四國町二番地に在りて、明治二十三年八月現社長池貝庄太郎氏が個人經營の下に創立せし、池貝鐵工所を以て其の濫觴となす、當時専ら高級工作機械の製造販賣に従事せしが業務の發展に伴ひ同二十九年より石油發動機並に瓦斯發動機の製作を兼營するに至れり、而して同三十九年六月、千葉松兵衛氏新た

に合資者となり業務の組織を合資會社に變更し合資會社池貝鐵工所成り業運益々旺んして工場は累年擴張しマシ



株式會社池貝鐵工所本分工場

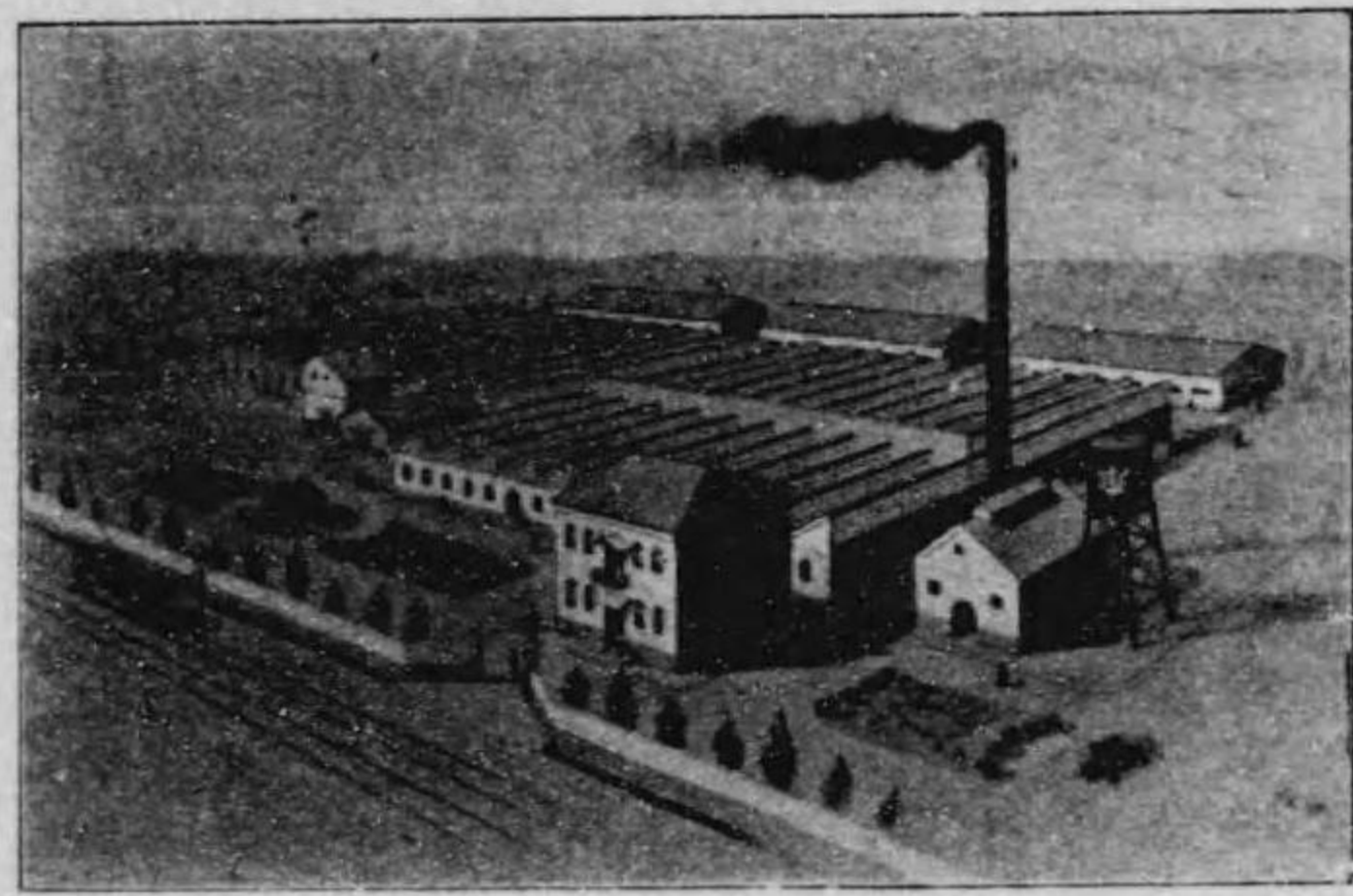
ル及石油發動機とも池貝式の名漸く各地に知らるゝに至れり既にして大正二年四月に至り業務擴張の必要上更に其組織を株式會社に變更し資本金を五拾萬圓となす爾來増資を重ねる事數回にして現在の資本金は貳百萬圓(全額拂込済)の巨額を算せり現時工場面積四千五百餘坪建坪二千七百餘坪にして職工八百名を使用し生産平均年額四百萬圓を下らず設備機械は最も最新優良なるものを選択し「レース」「プレーナー」「シラ」「グライNDER」其他諸機械四百餘臺を据付け注文常に輻輳し晝夜兼行して猶ほ及ばざるの盛況を示しつゝあり

同社製作機械に對し專賣特許權を有するもの二十三件實用新案權を有するもの七件あり尙ほ同社製品は今日まで各種博覽會共進會等に於て受賞せし事枚擧するに遑ならず亦た以て如何に其優秀なるかを知らん因に現同社社長は池貝庄太郎氏副社長は千葉恒次郎氏なり

### 市田オフセット印刷株式會社

皇國新日本の興隆に順應し近時旭日冲天的の發展に同業者を驚歎せしめ居れる市田オフセット印刷株式會社は極東市場の中心點たる大阪市北區梅田町三百六十一番地に本社を置き支店又は出張所を東京、臺北、上海、京城の各地に設けて羽翼を張り更に有力なる代理店を九州、天津、奉天、大連の樞要地に設置し常に國勢の伸展に並行して積極的活動に成功しつゝあるは常に印刷業者の權威なるのみならず現代有数の模範的會社と謂ふも溢美にあらざるべし況んや理想的の宏大なる新工場は建築は遠からず竣工せんとし又資本金も一躍壹百五十萬圓に増加されたるに於てをや

度以上の色彩を重ねし印刷物も僅々四度乃至六度にて原畫同様の餘韻とも云ふべき滋味を完全に表現し得而も是等は獨りオフセット印刷にのみ應用さるゝ大發明なるが故に俗に云ふ鬼に金棒此新銳の武器を得たる同社今後の活動は巔に價するもの有るべきを信ず又此廣汎なる營業勢力圏を一絲亂れず統轄し常に優秀なる地盤の開拓に成功しつゝ有は常務取締役林理夫君なり又繁劇なる工務と總務の部長となり組織的に最も鮮やかなる經營振を見せ居るは取締役兼支配人齋藤重康三氏なり其他の重役には關西實業界の重鎮岸本銀行頭取岸本信太郎氏あり又工業界の成功者遠藤美之氏あり又支那及鮮滿事情に精通する煙草界の成功者廣江澤次郎氏等常に樞機に參與し其隆々たる進運と實力を世界的に益々發揮しつゝあるは擇ぶべし同社の優秀なる技術は單に日本に於てのみならず英文印刷雜誌界の雙璧ナショナルリクダグロフ、アー及プリンチングアート等常に激稱しつゝ有り同社の重なる取引先を記すれば次の如し



市田オフセット印刷株式會社

帝國鐵道院、南滿洲鐵道會社、日本郵船會社、東洋汽船會社、大阪商船會社、大日本麥酒會社、キリン麥酒會社、帝國麥酒會社、東亞煙草會社、上海英公司、南洋兄弟煙草公司、上海スタンダード石油會社、ライジン、グアン石油會社、上海人壽保險公司、三越、吳服店、鈴木商店、住友總本店、リッヅアラザリス、石鹼會社、森下博藥房、桃谷美顏水本舖、株式會社明治屋、帝國礦泉株式會社

### 東亞煙草株式會社

同社は日本政府專賣局の特許命合に依り朝鮮、滿洲及び西伯利亞に我が國專賣局製造の各種煙草を輸出販賣するを以て目的と爲し明治三十九年十月資本金壹百萬圓を以て設立せらるゝ抑々其の前身は三十七年八月の組織に係る韓國煙草組合及び同年五月の組織に係る日本煙草株式會社並に三十九年六月の組織に係る官營煙草輸出組合にして即ち此の會社二組合の合同より成る爾來漸次各地樞要の都邑に販賣機關を設置し銳意販路の増進を圖りたるを以て業務大に發展し前記官營煙草の販賣を爲すの外更に朝鮮及び外國に於て煙草の製造販賣を爲すの頗る有利にして且つ必要なるを認め明治四十二年日本政府の特許を受け先づ朝鮮京城及び清國營口の兩地に製造所を建設し同年十一月より口付兩切紙卷煙草及び刺煙草の製造を開始し官營煙草と共に之を發賣するに至れり而して同社製造の各種煙草は其の作業方法の範を全然日本政府專賣局に採りたるを以て其の品質の優秀なるは勿論其の風味等頗る絶佳にして最も日支鮮人の嗜好に投じ之を一度市場に出すや好評噴々需要日を遡うて激増し就中朝鮮に於ける賣行最も盛にして爲に供給相繼がざるの好況を呈し施設の不足を感ずるに至りたるを以て四十四年十一月平壤に分工場を設け以て産額の増加を圖り漸く之れが必要に應ずる

に至れり、次いで又た滿洲方面に於ても需要漸次増進し、加ふるに新に北清方面に輸出販賣を爲すの特許を得たるを以て更に生産の増加を圖るの頗る急務なるを看取し、大正二年三月資本金貳百萬圓を増加して一躍參百萬圓と爲し、以て工場を増築すると同時に、一面販賣機關を増設し、更に同年六月朝鮮全州に工場を設け、同年九月より其の操業を開始し、尙又大正八年七月社業大擴張の社是を確立すると同時に、資本金を増加して壹千萬圓となすの議を決し、直に内金七拾萬圓の株金を公募し、極めて優良なる成績を収めたり、斯くて今や如上の各工場に對し、益々諸般の設備に改良を加へ、以て供給上些の遺憾なきを期しつゝあり。

同社の販賣に係る各種煙草の種類は口付として、不二、數島、芙蓉、大和、武藏、朝日、八雲、霞、金鐘、千代田、兎、紫陽花、曙の十三種あり、兩切としては、オリエン、スター、ハネビー、バー、ウエルス、アルマ、鏡龍、烏、元寶、ダンス、ボリ、トル、デン、ダリア、胡蝶、コー、の十四種あり、又た刻としては、水府、薩摩、福壽草、白梅、さつき、あやめ、はぎの七種あり、専賣局製造煙草を除く外、全部同社の製造品たり、同社の本店は、東京市麹町區有樂町一丁目一番地にあり、支店を朝鮮京城支那營口の兩地に置き、製所並に總販賣所を各支店所在地に併置し、分工場を朝鮮平壤、朝鮮全州に出張所並に販賣所を朝鮮京城、仁川、新義州、釜山、群山、木浦、元山、清津、支那營口、新民屯、大連、奉天、新民、安東縣、長春、遼陽、鐵嶺、四平街、吉林、間島、哈爾濱、齊齊哈爾、海拉爾、天津、北京、芝罘、濟南に置き、尙ほ販賣の擴張に伴ひ、漸次増設を企圖しつゝあり、而して同社の經營に努めつゝある重役諸氏は、取締役社長に菅野盛次郎氏あり、専務取締役は藤田虎之助氏あり、取締役は江副廉藏、杉山孝平、川村桃吾、長崎英造の四氏あり、監査役に石部泰藏、山口吉渡、邊榮次の三氏あり、何れも識見卓拔才幹非凡の名士たらず、其の經營の巧妙なる能く、時運の推移を精察して、其の機宜を誤らず、常に良好の成績を収めつゝあり、現に大正八年四月末同社營業決算報告に見るも、參拾七萬八千八百八拾四圓餘の純益を擧げ、其の他法定積立金參拾萬參千六百圓、別途準備金五拾萬參千五百圓、地所建物等八百八拾貳萬八千四百八拾八圓、機械器具六拾貳萬七千貳百餘圓、葉煙草參百六拾貳萬參千參百餘圓、材料品貳百八拾參萬貳千九百餘圓、半製品拾八萬參千壹百餘圓、商品九拾九萬參千五百餘圓等の多きを計上せり、以て其の營業の盛大なる基礎の鞏固なるを窺知するに難からざると共に、同社が將來更に益々偉大なる活躍を東亞の地に試むべき時期して待つべきのみ。

### 東京電氣株式會社

同社は明治二十三年藤岡工學博士が本邦電氣機械製造の元勳たる故三吉正一氏と協力し、鑿に歐米官遊の歸途請購ひ歸りし電球製造機械を以て與せし電球試驗所を合資組織に更めて京橋區館屋町十番地に設立せし白熱舎を以て其起源とす、然も當時尙試驗時代に屬し、其の製品の如きも極めて少く、爾後刻苦勵勵の功空しからず、製産額も漸次増加を來し、明治二十九年に至り工場を芝區三田四國町に移し、資本金拾五萬圓となし、株式組織に改め、同時に社名を東京白熱電燈株式會社とし、白熱舎の事業を繼承せり、爾來幾多の艱難を経て、明治三十二年社名を東京電氣株式會社と改む、時に現専務取締役副社長新莊吉生氏技師長監事として入社する者あり、英斷以て業務の刷新を謀り、千辛萬苦設備に技術に改善を加へ、大に製造方法を改良せしと雖、當時尙外國品の流入する者多く是等輸入品と差烈なる競争を來し、經營爲に一頓挫を來せり、於茲乎機を賭る



(所造製鮮明) 社會式株草機亞東

敏なる新莊氏は米國ゼネラル電氣會社と提携の事を企劃し、明治三十八年遂に日米合同の約成り長を採り短を補ひ、鋭意技術の改善に勉め、技益を進み、外品に比し、毫も遜色なきに至り、遂に世界に於ける電球工場として第五位を占むる今日の隆盛を現出せり、斯くて現在同社は本社を神奈川縣川崎町に置き、工場を川崎、大井、深川、惠比須の四ヶ所に有し、又販賣部出張所を日本全國各重要地點及び支那大連、上海に置き、工場敷地約五萬坪最新米國式の建築法により、建設せられ、宏裝雄大、一見以て如何に社運の隆々たるかを思はしむ、而して社内を分ちて工業部、販賣部、經理部の三部とし、各部に部長副長ありて、事務を處理す、分業理想的に行はれ、一糸紊れず各自其任する所に従ひ、勇往邁進業務の進行と製品の改良とに腐心し、五百の職員と三千の職工とを役使して、一日約十萬個の電球を製出する事を得るに至れり、茲に特に注意すべきは、照明課設置の一事にして、照明實驗室を設け、多大の費用を投じて、照明強度の向上良好なる散光の普及及び燈火の應用の促進等、尙も人工照明に關する者は、細大疎さず研究を重ね、斯界に貢獻しつゝあり、今試に同社製品の特長並に設備の概要を述べれば左の如し。

「マツダランプ」の特長 製品の主なる者は電球にして同時に電燈器具及び附屬品積算電力計、ギバ、レントゲン管球、投光器等なり、而して「マツダランプ」の特長とする所は、其線條がタンングステン金屬を白熱電燈球として使用するに適當の太さに引伸ばしたる「ドローン」ワイヤ、タンングステンより成り各種電燈球の線條中に於て最も強靱なる點なり、而して之を在來の馬蹄形なる「プレックス」タンングステン線條に比するに太さ及び品質一様なるを「テン」アーク燈等にして、殊にX光線管球は、斯界の權威藤浪醫學博士指導の下に完成したる者にして、電氣界並に醫學界に於ける重要な生産物と云ふべし。

慰安及び衛生設備 日能率増進なる語の喧傳せらるゝは、皆人の知る處にして、苟も工場經營に功を奏せんとする者は、工場利益の大部分を形成せる工場能率の増大に留意せざるべからず、即ち工場能率増進の最大要素たる職工の慰安健康等は、特に注意を要す、而して健康の保全は衛生設備の完全に俟つ者多し、以て同社は特に此點に注意し、其作業室の如き採光換氣の設備を完全にし、冬季に於ては蒸氣暖房装置により、溫度を調節し、特設醫院を設けて診療をなす、慰安機關としては、娛樂室を設け、其他運動に關する一切の設備を有し、尙松風會なるものを組織し、高僧名士を招携して、毎月一回或は二回精神修養に關する講話をなす等、實に至れり盡せりと云ふべし。



社會式株氣電京東

模範的實驗室 單に製造能力の増大を期するのみならず、益々品質の改良を圖り、年額貳拾萬圓以上の巨額を投じて實驗室を起し、元東京高等工業學校の講師たりし藤井鐵也氏指導の下に、新進氣鋭の理學士、工學士、外高工卒業生數十名を督勵し、物理實驗、化學實驗、特種原料品、藥品、光力試驗、電球壽命試驗、特殊電球試驗、水素、酸素、其他特殊瓦斯發生等多方面の設備を有し、之が研究に従事せり、而して此實驗室によりて完成せられたる者は、ギバ、レントゲン管球、アルゴン電球、水銀蒸氣電球、デライト電球、タンングステン電球等なり、而して電氣界並に醫學界に於ける重要な生産物と云ふべし。

尙同社は逐年生産能力増大し販路擴張するに加ふるに歐洲戰爭勃發以來露英佛諸國より巨額の注文幅狭し來り日夜兼行是が製作に従事するも到底十分に其の供給を充す能はざるの盛況にあるを以て更に資本金を六百萬圓に増加し新工場を増設し一大發展を畫しつゝあり此の工事完全の曉には職員約六百職工約四千五百人を容るゝ大會社たるに至る可し斯くて業績隆々今大正八年上半期の決算に於て年貳割の株主配當を行ひ金拾貳萬六千餘圓を後期に繰越するの好成績を示せり現重役は専務取締役副社長ジエール、ブル、ヤリ、同新莊吉生取締役イ、ダ、ブル、ユ、ライ、ス、同エ、エル、バ、グ、ナ、ル、同立川勇次郎同山口喜三郎同ゼラード、ス、ウ、オ、ー、ブ、同岩田邦彦監査役川崎芝之助同シー、イー、ランドル、同渡邊修の諸氏なり。

### 鐘淵紡績株式會社

本邦紡績界の霸王たる同社は明治十九年十一月資本拾萬圓を以て棉花の賣買を目的として東京市日本橋區本町に創立せられたるを以て其の前身となす越えて翌二十年資本金を百萬圓に増加して綿絲紡績所を東京府南葛飾郡隅田村なる鐘淵に設置し初めて綿絲の紡績に従へり。當時の鐘淵は未だ二萬九千鐘に止りしも二十一年三井家が其の主なる出資たるに及び社名を改めて鐘淵紡績株式會社と稱し棉花の賣買を廢し専ら力を紡績事業の經營に注げり。由來我國の綿絲は婦女子が僅に農隙を利用して手挽きせしものにて其の原料たる棉花は内國産を以て尙ほ餘りありしも今や機械紡績の勃興するに達して漸く缺乏の嘆を生じ政府が棉花の栽植を奨励せしに拘らず風土氣候の適せざるより良結果を挙げ難かりし他方我が當業者は之と競争するに頗る苦しみ乃ち綿絲紡績聯合會を組織して印度棉花の輸入を圖りしより茲に至り同社は實に此機運に乗じて設立せられたるものとす。然るに當初は創業時代に屬し事業尙ほ振はざりしも二十五年財界の巨人中川上彦次郎氏入りて社長と爲り事業界の傑物朝吹英二氏が専務取締役



武藤山治 比谷平左衛門

たるに及び社運は頗る順調に赴き二十六年鐘淵第二工場を二十七年兵庫工場を新設し以て遂に増加し來たれる需要に應ぜり。日清戰役後綿絲の販路支那市場に擴張せらるゝに伴ひ順に新業の興起を促がし後幾くならずして之が反動現はれ殊に幾多小會社の競争は益々其の沈衰を誘ひしかば同社は此の群小割據の狀を打破し更に局面を展開して對支輸出に活躍せんことを期し乃ち先づ上海紡績會社を兵庫支店に併合し次いで河州紡績會社、淡路紡績會社、柴島紡績會社等を併し更に三十五年九州紡績會社、中津紡績會社、博多綿紡績會社を買収合併し其の後又兵庫に試験的織布工場を起して着々其實を擧ぐ。而して斯界の反動的不況の際に乗じて合併買収の舉に出でしは同社經營者の手腕を見るに足ると共に是れを紡績事業界の向上進歩と云ふに躊躇せず。日露戰役後復た又各種事業熱の勃興とともに紡績事業も新會社の設立舊會社の擴張を促せしこと甚しかりしかば前例に由つて復たもや反動不振の時代を當然に招來し操業短縮を餘儀なくせしめたるが然も鐘淵紡績會社は倍々擴張擴大の方針を執りて渝らず。四十年末日本絹綿

紡績會社を併合し四十一年東京に第三工場を新設して瓦斯絲の製造に従ひ更に京都絹絲第一工場を興し尋いで翌年又第二工場を新設し尙ほ同年洲本支店第二工場、中津織布工場、高砂綿絲工場を設置し、四十三年兵庫と博多とに織布工場を新設し、四十四年絹絲紡績會社を合併し新たに新町前橋、京都上京、同下京、岡山備前西大寺、和歌山の各工場を加へ、四十五年東京に極薄物綿布の製織工場を開始し尙ほ大正二年兵庫支店に第四工場、第五工場を起して、瓦斯絲紡績、瓦斯巾の製織を創め更に洲本第二工場、高砂中島備前の各工場を擴張し又同年八月東京本店内に第五工場を各設置する等其進取的の經營施設は年々歳々に加はりて殆ど應酬に遑なからんとし殆ど一々之を算へて詳記するの煩に勝へざる盛況にあり。斯くて今や其の資本金は壹千七百四拾貳萬七千六百五拾圓内拂込金壹千五百七拾八萬六千九百七拾圓を算し外に積立金壹千六百四拾參萬八千九百九拾圓を有し之に諸基金を加ふれば貳千五拾四萬四千八百九拾壹圓餘となり又其の工場は四十三個工場の多きを數へ其据付鐘數並に臺數實に綿絲紡績鐘數四十七萬二千〇二鐘、絹絲紡績鐘數五萬七千七百七十二鐘、織機臺數七千八百四十四臺を算し業績隆々今大正八年上半期の決算に於て壹千拾參萬九千三百九拾二圓餘の純益金を擧げ年七割の株主配當を行ひ五百貳拾四萬四千七百餘圓を後期に繰越すの好成績を示せり斯くの如くにして同社の基礎は年と共に益々鞏固と爲りて財界一時の好況と否とに依り小動るぎだもせざるに至り既に旭日昇天の時代を過ぎて正さに煌々赫々天に沖せるかの概あるも同社の展進發達は固より向後歲を迎ふる毎に彌々著しきものありて殆んど底極する所なかるべきは想像に難からず般なりと云はざる可けんや。因に同社は本店を東京府南葛飾郡隅田村に置き、兵庫支店を神戸市東尻池に、住道支店を大阪府北河内郡住道村に、中島支店を同府西成郡中島村に、洲本支店を兵庫縣津名郡洲本町に、三池支店を福岡市大牟田市に、久留米支店を久留米市篠山町に、熊本支店を熊本縣肥前郡春日町に、中津支店を大分縣下毛郡豐田村に、博多支店を福岡縣筑紫郡住吉町に、京都支店を京都市上京區高野上開町に、高砂支店を兵庫縣加古郡高砂町に、岡山支店を岡山市花畑に、和歌山支店を和歌山縣海草郡中之島村に、大阪支店を大阪府城東村に設く。現在重役は、取締役會長日比谷平左衛門、専務取締役武藤山治、取締役正純、長尾良吉、前山久吉、山口八左右橋爪捨三郎、福原八郎、望月榮作、監査役平賀敏野崎廣太、清岡邦之助、安田善三郎、室田義文の諸氏なり。

### 富士製紙株式會社

本邦製紙界の霸王たる富士製紙株式會社は明治二十年十一月を以て創立せられたるものにして本社を東京市京橋區三十四間堀一丁目一番地に置き工場を静岡縣富士郡鷹岡村入山瀬に設け同二十三年一月其の製造を開始したり爾來年々増する事茲に三十有餘年業運年と共に益々盛んにして當初金貳拾五萬圓を算するに過ぎざりし資本金は今や數回の増資の結果實に貳千四百七拾五萬圓の巨額を算するに至り工場を増設すること内地に五箇所、北海道に三箇所合計八箇所を數へ又其の業務の如き皆に各種製紙事業のみならず電燈電力の供給事業をも兼營し其規模の宏大にして業績の隆々たる洵に駭目に價するものあり若し夫れ同社が製紙界に貢獻せし偉功に至つては眞に擧げて數ふ可らざるものあり事毎に國民衆の感謝せざる可らざる所なりと雖も就中是等偉功中の偉功として特筆大書せざるは實に同社が他に率先して夙に清國に派出所を設置し以て海外に販路を擴張すると同時にメカニカルパルプ及ガラ紙の製造を開始せしこと是れなり。蓋し同

社の營業當初にありては我國洋紙事業の趨勢未だ幼稚の域を脱せず隨て外國紙の輸入夥しく内地製紙の價格下落すること甚しく一般製紙界の大恐慌を來せし折なりしが同社が此の間に處して外國紙と競争しザラ紙の抄造を開始して逐年其生産能率を高め遂に輸入紙を全然防遏して今日の盛大を見るに至る同社が帝國經濟に資益せし所向に深大なりと云はざる可らず、宜なり明治二十七年二月 今上天皇陛下未だ 東宮に在せし時 長くも同社富士工場へ行啓の光榮を賜ひしより此の方屢々他の工場にも 親臨御覽の榮を賜ひ又同三十九年七月 長くも宮内省の御思召により同社株式一萬株を帝室御財産中に加へらるゝの榮譽に浴せし事や、乞ふ以下此の名譽なる大會社の過古蹟に現在に於ける事業の概要を敘せん。



同社創立以後本邦文運の開發と印刷術の進歩とは漸次洋紙界の好況を加へ業務年と共に股眼を呈するに伴ひ漸次供給不足を告ぐるに至りしを以て同社は明治二十六年一月抄紙機械の増設に着手し同年十二月竣成す翌二十七年一月株式増加の必要を感じ資本金を壹百萬圓に増せり既に同二十八年二月販路を海外に拓く目的を以て東洋各地に見本紙を送り尚同月板紙の價格を維持せんが爲日本板紙販賣合資會社發起人に加盟し同社へ一手販賣の特約を締結せり。越えて同二十九年一月日清戦後全捷の餘光は事業界一般に未曾有の好況を呈し洋紙の賣行も亦般盛を極め供給不足を告ぐるに至りしかば資本金を壹百五十萬圓に増加して創業當時静岡縣入山瀬に建設せる第一工場の外第二工場を同縣富士根村に第三工場を同縣大宮町に設置することに決し翌三

十年十月工事竣成則ち操業を開始するに及びたり、之れより先き業務の隆盛は更に増資の必要を來し同年七月資本金を貳百萬圓に増加せり既に同三十二年十二月社員を清國及香港に派遣して販路の擴張に努め翌三十三年五月には原質技師來國チャールズ・ス・ジェー、ジョー・ド氏を聘する事となり、同三十三年北清事變後は支那の文物に急激の發展を促し隨て同國向連史紙の輸出額に増加し其の前途益々有望なるに徴し第二工場に抄紙機械の増設を計り同三十四年五月之れが据付を終り、翌三十五年五月には前田正名氏等の經營せる紙料製造合資會社に參加し其の組織を更めて北海紙料株式會社を創設し同三十七年五月には清國天津に派出所を設け、販路の擴張を圖れり、同三十九年四月資本金を四百六拾萬圓に倍加し富士工場を改造すると同時に北海道に江別工場を設置す、同年七月曩に組織したる北海紙料株式會社を買収して之を第四工場となす、同三十九年七月更に清國漢口に派出所を設置す、越えて十二月日露戦争平定後新聞用紙及一般紙類の需用著しく増加を告ぐると共に支那輸出も頗る好況を來たし供給不足を告ぐるに至りしを以て第五第六第七の三工場を新設する事に決し工事に着手す、同四十年三月大阪の日本製紙株式會社を併合して資本金を壹千萬圓に増加し之を第七工場となす、翌四十一年四月第八工場竣成す、然るに同年六月頃より經濟界漸次不況を呈し紙況軟弱加ふるに對清貿易も亦不振となり、同四十年年に入りては一時恐慌状態に陥り容易に挽回の緒に就く見込立たざりしを以て同年八月止むなく第四工場を一時閉鎖するに至りたり。

同四十一年九月曩に工事に着手したる第六工場竣成を告げ十二月には第五工場も亦竣工す同四十三年十月經濟界の狀況漸次順調に向ひたるを以て清國上海に派出所を設置し翌四十四年一月には一時閉鎖したる第四工場に於て紙料製造を再開するに至り更に大倉喜八郎氏と共に東海紙料株式會社を設立し静岡縣島田町に碎木工場を建設し營業を開始せり、同年十月第五工場に使用の瓦斯發生器より生ずるコールドタールを精製して硫酸安母尼亞を採取すべき計畫を立て機械据付中の處竣成す、既にして世は大正の御代に入るに及び同二年四月第一第二第八及第五工場の生産額を増進せん爲改善工事に着手し第一第二第八工場は同年十二月第五工場は同三年五月竣成す、同四年十一月兵庫縣川邊郡小田村の野田製紙所を買収し之れを神崎工場と改稱し同六年一月には北海道旭川電氣株式會社を併合して資本金を壹千五百萬圓となし、製紙事業の傍電燈電力の供給を兼營する事となれり、之れより先同社は同五年江別工場に供給するの目的を以て石狩の國空郡空知川の水力を利用して二萬馬力の電力發生を企て同河流域に四箇所の發電地を選定し先づ野花萌及奔茂尻の二箇所に發電所を起すべく其の工事に着手せり、尙同社は歐洲戰亂勃發以來外國紙の輸入杜絶したる結果内地製洋紙の海外輸出額に激増したるを以て之れが供給に應ずべく同六年六月一日より資本金を一躍貳千壹百萬圓に増加せり、斯くて同社



富士製紙株式會社工場

願みれば同社が嗚々の聲を擧げてより星霜を閱する事爰に三十有餘、此の間偶財界不振輸入紙激増等の打撃を受けし事無きにしも非ざるが耐苦勇奮常に能く是等の難關を突破し毎期優良の成績を擧げて國家經濟に資する所多くなり殊に同社の誇りと爲すに足るべきは苟くも洋紙と名附くるものは如何なる種類と雖も製造し能はざるもの之れなき事にして今や一箇年に於ける總生産額は約二億萬封度の巨額を算し本邦總生産高の約三分の一に當り特に模造紙及び厚紙類の製造に至つては到底他の企圖すの製造に至つては且つ其規模が如何に

雄大なるかの一端を示さんが爲め現在同社が有する各工場の概況を述べん。  
 (一)第一工場 静岡縣富士郡藤岡村入山瀬に在り、明治二十三年一月四日の開業にして工場用地三萬五千四百餘坪、建坪五千六百餘坪抄紙器械 九十八時フオドリニヤ式一臺、八十四時同一臺、八十六時ハーバー式一臺、蒸解罐 六基、碎木器械 三

臺灣原動力。水車、千五百馬力ウオータータービン、電動機九百十馬力の設備を有し、製品の種類は上等印刷紙類、普通印刷紙類、色紙類なり。

(二)第二工場。静岡縣富士郡富士根村字小泉に在り、明治三十年十月六日の開業にして工場用地二萬二千二百餘坪、建坪四千七百餘坪、抄紙器械、百時フオドリニヤ式二臺、八十六時ハーバー式一臺、蒸解罐二基、原動力、水車千八百五十馬力ウオータータービンの設備を有し、製品の種類は上等印刷紙類、普通印刷紙類、唐紙、煙草口紙類、洋半紙類なり。

(三)三工場。静岡縣富士郡大宮町字黒田に在り、明治三十年十月六日の開業にして工場用地一萬八千八百餘坪、建坪三百六十餘坪、原動力は水車二千馬力ウオータータービン、碎木器械七臺を据付け主としてバルブの製造に従事す。

(四)第四工場。北海道釧路國釧路町に在り、明治三十九年七月一日を以て開業す、工場用地五萬九千四百餘坪、建坪二千二百十餘坪なるが不幸に祝融氏の災する所となり目下休業中なり。

(五)第五工場。北海道石狩國札幌郡江別村に在り、明治四十一年十二月一日を以て開業す、工場用地六萬七千六百餘坪、建坪八千四百餘坪、抄紙器械、百時フオドリニヤ式三臺、蒸解罐四基、碎木器械三臺、原動力、瓦斯三千三百八十四馬力汽機七

百八十七馬力電動機三百九十馬力の設備を有し、製品の種類は新聞用紙類、包紙類なり。

(六)第六工場。北海道石狩國空知郡南富良野村字金山に在り、開業は明治四十一年九月一日にして工場用地十七萬八千六百餘坪、碎木器械三臺、原動力、水車二千三百馬力ウオータータービン、汽機四十馬力の設備を有し、バルブの製造をなす。

(七)第七工場。大阪市西區西野下の町番外一番地に在り、明治四十年三月一日を以て開業す、工場用地一萬五百餘坪、建坪三千五百餘坪、抄紙器械、百八時フオドリニヤ式一臺、八十時同上、蒸解罐六基、原動力、汽機一千四百九十九馬力の設備を有し、製品の種類は普通印刷紙類、連史類、和半紙類、煙草口紙類、包紙類なり。

(八)第八工場。静岡縣富士郡加島村字平垣に在り、明治四十一年四月一日を以て開業す、工場用地四萬七千二百餘坪、建坪五千三百餘坪にして抄紙器械、八十六時シリンドラー式一臺、七十六時同上、一臺、九十二時ヤンキー式一臺、九十二時フオドリニヤ式一臺、蒸解罐八基、原動力、電動機一千五百三十五馬力の設備を有す、製品の種類は上等紙類、表紙類、和半紙類、製用紙類、切符用紙類、板紙類なり。

(九)神崎工場。兵庫縣川邊郡小田村の内常光寺村に在り、大正四年十一月二十六日を以て開業す、工場用地一萬五千三百餘坪、建坪三千二百八十八坪にして抄紙器械、六十四時ヤンキー式一臺、九十六時ヤンキー式二臺、七十六時フオドリニヤ式一臺、八十時同上、一臺、蒸解罐四基、原動力、蒸氣六百五十馬力、電氣五百五十馬力の設備を有し、製品の種類は上等半紙類、印刷紙類、ロール半紙類、包紙類なり。

重役は取締役社長窪田四郎、専務取締役穴水要七、常務取締役高橋貞三、取締役原邦造、植原啓藏、小野耕一、大川平三郎、監査役楊井清八、佐藤博愛、伊志田平三郎の諸氏なり。

### 沖電氣株式會社

同社は大正元年八月二十六日の創立に係り、大正六年二月五日合資會社沖商會を合併したるものなり。抑舊沖商會工場は明治十四年一月故沖野太郎氏が京橋區新着町十九番地に於て電氣諸機械製造業を創始したるに起原七、邇來幾多の困苦を排し不屈不撓の發展に努力し基礎漸く成りし折柄、明治二十七八年戰役に際し陸海軍の兵器通信

機類の製作下命を受けるの光榮に浴し、同二十八年京橋區新榮町一丁目十番地に工場を分置し更に同三十四年京橋區月島西海岸三丁目に第二工場を増設し以て駭々たる世運の進展に伴はんとを期せり。

明治三十七年東洋の風雲急にして日露戰端を開くや再び陸海軍より兵器通信機器類の製作下命を受け多大の好評を博せり、仍は戦後は一層力を事業の擴張と技術の研鑽とに盡し諸官廳始め一般需要家の眷顧と益厚きを加ふるに至りしかば同四十年四月従來の組織を更めて資本金六拾萬圓の合資會社を設立し同四十二年十二月更に金拾萬圓の増資を執行し營業所及諸機械製作場を現在の芝區田町四丁目二番地に移轉し新榮町工場に於ては専ら電線類の製造に従事することとせり、然るに近年本邦に於ける電氣事業の發展眞に驚くべきものあり、殊に通信事業の發展は當社製品に對する需要をして益多端ならしめ船舶用無線電信機の製作の如きは實に新界に獨歩するの進境に達し同四十五年一月更に金壹百萬圓を増資し其後大正元年八月に至り別に資本金五萬圓を以て沖電氣株式會社を創立し該株式會社は大正六年二月舊合資會社を合併して金百五萬圓の株式組織に統一し同年五月金二百萬圓に増資したり。



伊東祐忠君



淺野一雄君



沖電氣株式會社全圖

電話事業の擴張、通信機器器具需要の増加に伴ひ現在の工場にては其の供給上猶ほ遺憾の點あるを以て作業設備を擴張整備するが爲め大正八年一月市外大崎町に土地及建物を購入し同所に分工場を設置せり。大正四年以後大正七年に至る同社製作品總價額並電話機及交換機製作價額は左表の如し。

年 度

大正四年  
大正五年  
大正六年  
大正七年

製作品總價額

電話機及交換機製作價額

六〇四、一九四、六一〇	二九、九六九、〇八〇
一、〇〇一、八八七、一六〇	四八、六五七、〇〇〇
三、二二三、六四八、七三〇	五八、一七四、五五〇
二、〇九一、六〇六、五一〇	一、〇一〇、五一一、八〇〇
四、九二一、三三三、七一〇	二、四六九、五二五、三〇〇

斯くて業運降々今大正八年上半期の決算に於て金貳拾參萬五千九百七拾壹圓餘の利益金を計上するの好成績を示せり、現重役は取締役會長淺野總一郎常務取締役伊東祐忠取締役安田善三郎八十島親徳木下英太郎川住鏡四郎監査役伊藤潔井上鋼太郎の諸氏なり。

### 富士瓦斯紡績株式會社

同社は當初社名を富士紡績株式會社と稱し、明治二十九年三月資本金貳百萬圓を以て創立せられたるものにして、創業後間もなく一般經濟界の沈衰に際し、事業振はず、將に蹉跌に垂んとせしが、同三十四年、和田豐治氏入つて専務取締役となり、營業方針の改善製品の改良等、鋭意業務の刷新を圖りし結果、幸にして頗勢を既倒に挽回し、同三十五年末に至りては整理の實大に舉り、同三十六年小名木川綿布會社を合併して綿布製織業を兼ね、又日本絹紡績會社を買収して絹絲織數を増加し、更に同三十九年東京瓦斯紡績株式會社を合併して社名を現時の富士瓦斯紡績株式會社と改稱せり、次いで同四十年、山第三工場を、同四十二年保土ヶ谷工場を、同四十三年小山第四工場を、大正三年小山第五工場を、同四年川崎第一工場を、各新設し、尚日下建設中に係るものに川崎第二工場ありて既に其の一部は運轉を開始せり。又水力電氣に在りては明治四十年漆間發電所の完成を始めとし、亞いで、峯須川山北内山の五發電所を新設し、大正三年更に相模水力電氣株式會社を合併せり、而して現在新設中のものに河内川發電所あり、此の如くにして祖連の發展年と共に著しく今や資本金壹千八百萬圓の巨額を算し、七百七十三人の職員と一萬七千八百六人の職工とは日夜夜々として社業に精勵し、最近一ヶ年間製品額一、綿絲一、七八六四、二、絹絲一、七〇、一、八二、二、綯絲一、五、一、六、五、四、一、展縮五、七、六、〇、八、一、綿布五、〇、三、五、九、八、反一、絹布一、八、二、三、七、三、二、碼を數ふるの盛況を呈せり、尙同社の最近營業狀態の概要を述べれば、大正八年上半期末に至り、絹絲共に世界の大需要を見越し、人氣沸騰正に戰時中の最高位の疊を舉げんとする盛況裡に在りて、同期末の決算に於て、金五百九拾萬四千七百圓餘の純益金を舉げ之に前期繰越金參百貳拾四萬六千四百圓餘を加へ、合計金九百拾四萬六千八百參拾壹圓餘を



和田豐治君

同社は當初社名を富士紡績株式會社と稱し、明治二十九年三月資本金貳百萬圓を以て創立せられたるものにして、創業後間もなく一般經濟界の沈衰に際し、事業振はず、將に蹉跌に垂んとせしが、同三十四年、和田豐治氏入つて専務取締役となり、營業方針の改善製品の改良等、鋭意業務の刷新を圖りし結果、幸にして頗勢を既倒に挽回し、同三十五年末に至りては整理の實大に舉り、同三十六年小名木川綿布會社を合併して綿布製織業を兼ね、又日本絹紡績會社を買収して絹絲織數を増加し、更に同三十九年東京瓦斯紡績株式會社を合併して社名を現時の富士瓦斯紡績株式會社と改稱せり、次いで同四十年、山第三工場を、同四十二年保土ヶ谷工場を、同四十三年小山第四工場を、大正三年小山第五工場を、同四年川崎第一工場を、各新設し、尚日下建設中に係るものに川崎第二工場ありて既に其の一部は運轉を開始せり。又水力電氣に在りては明治四十年漆間發電所の完成を始めとし、亞いで、峯須川山北内山の五發電所を新設し、大正三年更に相模水力電氣株式會社を合併せり、而して現在新設中のものに河内川發電所あり、此の如くにして祖連の發展年と共に著しく今や資本金壹千八百萬圓の巨額を算し、七百七十三人の職員と一萬七千八百六人の職工とは日夜夜々として社業に精勵し、最近一ヶ年間製品額一、綿絲一、七八六四、二、絹絲一、七〇、一、八二、二、綯絲一、五、一、六、五、四、一、展縮五、七、六、〇、八、一、綿布五、〇、三、五、九、八、反一、絹布一、八、二、三、七、三、二、碼を數ふるの盛況を呈せり、尙同社の最近營業狀態の概要を述べれば、大正八年上半期末に至り、絹絲共に世界の大需要を見越し、人氣沸騰正に戰時中の最高位の疊を舉げんとする盛況裡に在りて、同期末の決算に於て、金五百九拾萬四千七百圓餘の純益金を舉げ之に前期繰越金參百貳拾四萬六千四百圓餘を加へ、合計金九百拾四萬六千八百參拾壹圓餘を



富士瓦斯紡績株式會社工場

計上し、年五割の株主配當を行ひ金參百四拾貳萬壹千七百參拾壹圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり。  
同社製品の重なるものは綿絲各種縮布キリヲ、金中綾木綿厚織、小倉等縮絲、袖絲、展縮縮布、富士縮縮小倉等にして、何れも品質優良を以て、聲價内外の市場に高く、其の販路は日本内地一圓は勿論遠く朝鮮支那、印度南洋諸島、南米、英、佛、北米、伊、太、利、瑞、西に及び外に電力の供給販賣に従事し、あり、同社は本店を東京府南葛飾郡大島町五丁目百十五番地に置き、本店出張所を東京市日本橋區箱崎町四丁目一番地に設け、工場を靜岡縣駿東郡小山町神奈川縣橋本郡保土ヶ谷町同郡川崎町東京市本所區押上町、東京府南葛飾郡大島町に設置せり、現重役は取締役社長和田豐治、常務取締役持田巽、同宮本清三郎、取締役川崎榮助、同森村開作、同三村君平、同日比谷新次郎、監査役藤井諸照、同伊東要藏、同湯山壽介の諸氏にして、日比谷平左衛門男爵、森村市左衛門の二氏相談役たり。

### 株式會社東京石川島造船所

本邦造船業界の鼻祖にして現代斯界の重鎮たる株式會社東京石川島造船所は、東京市京橋區佃島西町三丁目六番地に在りて、其濫觴は遠く安政二年に創る當時水戸藩水師に志すこと深く、本所に於て始めて朝日丸を製造し、次で幕府亦君澤形及軍艦千代田形を建造し、明治政府に至りて之を兵部省の管轄に移し、造船局製造所と稱し、次で茲に主船局を設置せしが、明治九年海軍省が主船局を築地兵器局に合併し、船艦造船の工事は専ら横須賀に於て行ふに至り、本所存在の要なきに至りしを以て、當時斯界の先覺者たりし平野富二氏同所が船艦造船の業に適するを見、海軍省の允許を得て、獨力造船所を建設し、石川島平野造船所と稱し、明治九年十月を以て開業せり、是れ本邦民設洋形船艦製造所の嚆矢なり、爾來着々發展歩武を進め、十二年工場擴張の爲、横濱石川島なる海軍製鐵所を借り、英人技師を備聘して、船用汽罐及器械製造修理を營み、更に十七年海軍省の允許を得て、横濱石川島製鐵所の工場全部を石川島に移し、事業の大擴張を行ひ、十八年軍艦建造の命を受け、



平野富二君

増資の必要に迫られ、澁澤男爵其他二三の同志と相謀り、匿名組合となし、工場設備を完成し、二十年八月排水量六百十四噸の軍艦島海を進水せり、之れ我私設造船所軍艦製造の第一次にして、同所の榮譽として、特筆すべきなり、斯くて時勢の進運に伴ひ、二十二年一月組織を改めて株式會社となし、三十二年相州浦賀



株式會社東京石川島造船所

に一大船渠と造船工場を建設して、分工場となす、然るに當時浦賀渠株式會社の設立せられたるを以て、三十五年分工場一切の設備を舉げて、同社に譲渡し、斯くて造船の傍ら、陸用機關、橋梁、桁骨、建築、其他一般鐵工業を營み、四十四年五月芝浦製作所の機械製造事業を繼承し、尙ウードンン水管式汽罐の日本及支那一手製造權並にクラークチャポン專賣權、類似の日本一手製造權を買収し、益々業務の擴張に努め、業運日に隆盛を極め、今や資本金五百萬圓の大會社たるに及び、而して曩に歐戰の勃發以來、我工業界の物興と海運

界の活躍に連れ船船並に諸機械の需要額に増加したるを以て造船及船渠の擴張場及機械設備の増設を行ひ大いに其面目を一新して船舶汽機汽罐船用諸機械各種唧筒水車煙突鐵管鐵橋鐵桁架線用鐵塔鐵骨家屋各種起重機及捲揚機空氣壓搾機電動機付諸機械鐵道用諸機械瓦斯貯蓄器水壓諸機械等の製造をなし注文高非常に激増してその製作に忙殺せられ日も亦足らざるの盛況を呈し今大正八年上半年の決算に於て金壹百九萬參千四百拾四圓餘の利益金を擧げ之に前期繰越金貳拾六萬四千七百六拾六圓餘を加へ合計金壹百參拾五萬八千八百八拾圓を計上し内五萬五千圓を準備積立金に拾九萬五千圓を別途積立金に拾五萬五千圓を役員賞與金に參萬五千圓を使用人手當基金に各充當し年參割の株主配當を行ひ四拾四萬五百八拾圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり現重役は社長工學博士渡邊嘉一取締役清水釘吉取締役佐藤一雄同田中茂同横山徳次郎同兼支配人内田徳郎監査役佐藤政五郎同富岡周藏の諸氏なり

### 大日本麥酒株式會社

同社は明治三十九年三月日本麥酒株式會社元札幌麥酒株式會社元大阪麥酒株式會社の合併したるものにして現時資本金貳千貳百萬圓の鉅額を有し事業規模の雄大にして業務の殷盛なる正さに覇を東洋の釀造界に稱せり而して現在製品はビールとしてはエビスビール、サッポロビール、アサヒビール、サッポロ黒ビール、ミュンヘンビール、青島ビールを清涼飲料水としてリボンシトロン、リボンラズベリー、リボンタンサン及モルトコーヒー等を數へ、營業所として本店を東京府荏原郡目黒村に置き東京出張所を東京市橋區竹川町に、京城出張所を朝鮮京城南大門通に、上海出張所を支那上海閘行路に、大阪支店を大阪府三島郡吹田村に、大阪支店出張所を大阪府高麗橋二丁目、札幌支店を北海道札幌區北二條東四丁目、九州支店を福岡市博多下店屋町に有し更に工場所在地を掲ぐれば東京府荏原郡目黒村に目黒工場あり、東京市本所區中ノ郷瓦町に吾妻橋工場あり、保土ヶ谷工場を神奈川縣橋樹郡保土ヶ谷町に置き、大阪府三島郡吹田町に吹田工場を、北海道札幌區北二條に札幌工場を、支那山東省青島に青島工場を設く何れも廣大無比にして設備の完全機械の整頓は云ふに及ばず堂々東洋麥酒界に一大權威を有す同社の麥酒釀造は凡て獨逸法に基き之れを邦産麥芽の性質に基き改良したるものにして麥汁製造は二回マツシ若くは三回マツシの方法を執り醗酵には凡て底面醗母を使用す醗酵液は之れを地下室若くは地上室の冷蔵庫に導き約三箇月間以上之れを成熟せしめ然る後濾過發賣すること、なせり、麥酒原料たる大麥は主としてゴールデンメロン種及びシパリー種を使用す其の産地は北海道、栃木、茨城、千葉、神奈川、長野、埼玉、京都、大阪、山口、福岡の諸府縣とし忽布は北海道に於ける同社栽培の忽布園及長野縣試作のものを使用し又海外より之れを購入し而して其主要なる販路は本邦内各所に需要せらるゝは勿論に効發せし世界戰亂が我輸出貿易に及ぼせし好影響と其製品の品質優良とは其



社長馬越恭平君



大日本麥酒株式會社工場

販路をして近時異常の發展を實ならしめ、今や戰爭前の輸出仕向先なる支那、英領香港、同海峽殖民地、同印度、蘭領印度地方への輸出數量は戰前に比し十數倍に増加し且從來輸出を見ざりし波斯、メソポタミア、埃及、地中海沿岸、亞非利加東海岸地方に至るまで販路を進展するの盛況を見るに至れり、斯くて業績隆々、今大正八年上半年の決算に於て貳百八萬七百八拾八圓の利益金を擧げ年參割の株主配當を行ひ五拾六萬貳千貳百拾六圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり、現重役は取締役社長馬越恭平、常務取締役植村澄三郎、同高杉晋同武内常太郎、同藥學博士上野金太郎、同男爵大倉喜八郎、同農學博士澤木久太郎、監査役大橋新太郎、同宅徳平、同仲田慶三郎の諸氏なり

### 京津電氣軌道株式會社

同社經營の電車線路は京都市三條大橋より滋賀縣大津市の中心たる札の辻に至る六哩六分六厘にして本社は京都市三條大橋東詰に置く、而して其の創立は明治四十三年三月二十八日にして同年八月より起工、大正元年八月開通し營業を開始せり、軌道間隔は四呎八吋二分の一、全線複線なり

電車運轉は日々朝五時、冬期は六時より夜十二時迄數分毎に發車し全線三十分にて達す、斯くて同社の電車開通後は京都、江州間の交通全く一變革し、京都、大津兩地は同電車に依り大に密接するに至り、兩市民は殆んど同一の市内に在るかの如き感を生ぜり、而て近來は實に實用的電車客のみならず、春花秋葉の好季節には京阪兩地より近江八景、琵琶湖遊覽等の觀客多く頗る賑へり、狀況斯の如くなるが故に同社の營業は近時益々盛況を加へ、大正七年上下兩期共年七五厘の配當を爲すの好成績を示せり、現重役は取締役社長奥繁三郎、取締役工學博士岡胤信、平井仁兵衛、谷口賢次郎、根津嘉一郎、監査役川崎安之助、内藤爲三郎、中井三郎兵衛、支配人羽室龜太郎の諸氏なり

### 羽州屋伊藤總本店

伊藤總本店は關西事業界の一方に雄視せる鐵業界の重鎮にして營業を分ちて工業部、地所部に大別し各般の施設企劃宜しきを得て何れも隆盛を極めつゝあり、工業部は一般高等諸機械製造各種鋼材鑄造品、スモールツル、船舶用諸汽機、コークス製造等を主とし、大阪市外大仁に同店の經營に係る大阪機械工作所あり、又市外佃に伊藤製鋼研究所を置き、諸官省會社との取引大なり、尚同店の製品、萬能研磨機械、炭素鋼、煖炭工具、用炭素鋼及高速度鋼、過滿滿滿、俺俺加里等は、曩に大阪化學工業博覽會に出品して噴々たる賞讃を博し、殊に其の萬能研磨機械は工作機を以て形造られ、又は仕上げたる工具及機械の主要部分殊に燒を入れたるものを正確に仕上る時に必要なるものにして之れが使用に際しては、特種の裝置を要せず、單に附屬せる器具の應用を以て自動的に而も迅速に萬分の一時も誤差なく如何なる形状の器具も意の儘に仕上げ得る便あるを以て非常の好評を博し、審査の結果出品に對し銀牌を授與せらるゝの名譽を荷へり、又船舶部には大阪丸(一六〇〇噸)、第二大阪丸(一六〇〇噸)等あり、近海並に滿韓方面の運送に從事して着々成果を收む尙ほ地所部は土地建物住宅經營等を目的とし、現に佃椿ヶ丘方面には直營の住宅八十餘軒に上り、開墾地としては最近九州八幡洞海岸沿岸にて十二萬餘坪を買収してその經營發展に從事しつゝ、あり更に朝鮮、清南、道海美方面に二百町歩餘の開墾を企劃し、玆に殖民するの計畫あり、目下着々企業進歩しつゝ、あれば是等施設の完成と共に同店の事業は更に見るべきものあらん



### 大阪電機製造株式會社

抑、同社は明治四十四年十二月資本金壹百萬圓を以て在愛媛縣松山市舊才賀電機商會附屬工場を譲受け松山分工場の名稱にて電氣諸機械の製造販賣をなす目的を以て事業を開始したるに創る。

同社工場は總建坪一千六百餘坪にして新淀川畔なる府下西成郡神津村今里の地に一萬二千餘坪を卜して明治四十五年二月起工し大正二年三月諸機械の据付を竣了作業を開始せり大正五年八月現社長松風嘉定氏事業を繼承自ら經營の任に當り井上龜之助氏專務取締役として之を補佐し銳意事業の刷新内容の充實を測ると共に機械の設備工場の擴張に努めたり其後時運の進展と共に幸ひ江湖の同情好評を得て需用益々激増するに至り猶大正八年一月多年研究せられたるありし在大阪市外本庄松風工業株式會社計器部を買収して當社計器部工場の名稱を付し計器類の製作に着手し齊しく近時需用額に増加せる電燈器具の製作をも畫策し近く作業の開始を見んとす而して之等激増せる需用に對應すると共に益々製品の精良を期し諸般の改善充實を圖り機械を増設し専ら製作上の能率を増進するに力めざる可らざるを以て大正八年五月資本金を金貳百五十萬圓に増加し時運の推移に鑑み漸を遂て益健全鞏固なる發達を期せり斯くて業績隆々今大正八年上半期の決算に於て總收入金七拾壹萬六千八百拾圓總支出六拾七萬壹千八百拾圓差引金五萬貳千六百參拾四圓の純益金を得之に前期繰越金壹萬四千四百拾五圓を加へ合計金六萬六千六百八拾圓を計上し内貳千六百五拾圓を法定積立金に五千貳百七拾圓を機械家屋償却金に壹千五百七拾圓を從業者扶助基金に五千圓を役員賞與金に各控除し年貳割の株主配當を行ひ壹萬四千六百九拾圓を後期に繰越すの好成績を示せり同社は本社並に工場を大阪府西成郡神津村大字今里に置く現重役は取締役社長松風嘉定專務取締役井上龜之助取締役加島安治郎大瀧新之助平田重兵衛同兼技師長龜田兼計器部長黒田豊監査役石野半七鶴谷忠五郎寺田元之助の諸氏なり。

### 京阪電氣鐵道株式會社

同社は明治三十九年十一月を以て創立せられたるものにして電燈及び電力の供給並に運輸を營むを以て營業の目的とす創業以來社運年毎に隆盛の境に向ひ最近の發展洵に驚くべきものあり殊に同社經營の京阪電車は千年の歴史を有し日本大都市として世界的發達を遂げつゝある京阪大阪の兩都を連絡する須要の交通機關にして沿線名だる名勝勝跡に富み本線三條、天滿橋間二九哩六九鎮支線中書島、宇治間四哩七五鎮を算し乗客年と共に其の數を加ふ今大正七年下半年期自大正七年十月一日至同八年三月三十一日の同社營業報告によれば同期間に於ける同電車乗客人員並收入貨金は乗客人員一千一百二十四萬二千三百八十一人收入貨金百貳拾壹萬〇八百七十壹圓餘にして一日平均乗客人員六萬一千七百七十一人一日平均收入貨金六千六百五拾參圓餘に當り又乗客携帶手荷物收入貨金は收入貨金壹萬壹千參百七拾貳圓餘一日平均收入貨金六拾貳圓餘貨物收入貨金は收入貨金貳萬五千四百拾貳圓一日平均收入貨金百參拾七圓餘なり而して又同期末現在電燈及電力取附數並に同期間に於ける電燈料、電力料等は電燈取附總數六萬五千五百八十四燈電燈料及貨具料等拾七萬五千九百七拾六圓電力取附總數二千六百四十九馬力電力料及貨具料等拾壹萬參千七百貳拾圓等を算せり亦以て如何に其の

業運の隆々たるかを知るに足らん斯くて同期末の決算に於て四拾五萬壹千貳百五拾圓餘の純益金を舉げ之に前期繰越金七萬參千四百貳拾八圓餘を加へ合計金五拾貳萬四千六百七拾九圓餘を計上し内貳萬參千圓を法定準備金に壹萬貳千圓を職員恩給基金に貳萬圓を役員賞與金に各充當し參拾九萬貳千七百圓を株主配當金とし七萬六千九百七拾九圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり向同社資本金は從來壹千五百拾圓餘なりしが業務の隆大に伴ひ昨大正七年増資の議を決し今や實に壹千五百萬圓の巨額を算せり因に同社は本社を大阪市北區天滿橋詰に置く現重役は取締役社長岡崎邦常務取締役太田光熙取締役渡邊嘉一、同林謙吉郎、同濱崎健吉、同篠野乙次郎、同馬場齊吉監査役田中源太郎、同村井貞之助、同秋岡義一の諸氏なり。

### 神谷酒造合資會社

神谷酒造合資會社は明治三十六年十一月を以て設立せられたるものにして本社を東京市本所區中ノ郷瓦町十九番地に置き酒類醸造販賣及開墾牧畜を以て營業の目的とす營業開始以來社運年と共に盛大の域に進み日に隆々たる業績を舉げつゝあり同社の主なる出資社員を神谷傳兵衛近藤利兵衛神谷傳造原田虎太郎の諸氏とす。

同社の創立者たる神谷傳兵衛君は安政二年を以て愛知縣幡豆郡衣崎松木島村に生る神谷兵助氏の二男也。天資明敏夙に商業に志し具さに辛酸を嘗む既にして雄心勃勃禁ずる能はず乃ち米穀の取引を試み忽にして一舉數萬金を贏得し、も後ち一敗地に塗れ十九歳の時七十餘金を懐にし東京淺草に小酒舖を開く是れ君が他日鉅萬の富財を獲る第一關也。應て葡萄酒の醸造を試む蓋し君少少より父君に其醸造法を聞けるに原づけり。果して世の嗜好に適し父君の雅號香齋を取りて香齋葡萄酒と名く。爾來需要大に加はり今日の盛況を呈するに至る。然して茨城縣の牛久に葡萄酒醸造場を設け佛國產葡萄酒を移植し今や牛久葡萄酒の名聲遠近に馳す其の規模の大醸造力の優ぐる、他同業者の企及し得ざる所とす。君神谷酒造合資會社に無限責任社員たるの外旭製藥株式會社、三河鐵道株式會社、各社長、東洋耐火煉瓦株式會社、輸出食品株式會社、九州炭礦汽船株式會社、日本製粉株式會社、富士革布株式會社、東京製紙株式會社、東洋遊園地株式會社、各取締役等を兼ね財界一方の重鎮として仰がる君又近時其の藏する所の寶玉を舉げて帝國博物館に寄附し以て一般民衆の觀覽に供せり、公共公利の念厚き人に非らずんば焉能く事茲に至らんや、君の如きは眞に現代模範的の紳商として敬すべし。

### 王子製紙株式會社

本邦製紙界に在りて富士製紙株式會社と駢馳して覇を斯界に稱し聲威赫々たるものを王子製紙株式會社となす、今同社の沿革を按ずるに明治五年中時の大藏省三等出仕たる澁澤榮一氏は夙く時勢の趨向を察し一大製紙會社を創立せん事を計畫し案を具して三井組、小野組、島田組等に勧誘する所あり先づ資本金を拾五萬圓と定め會社設立の願書を紙幣寮に提出せり蓋し明治維新以來泰西文明の大輸入と共に百般文物の改善進歩洵に顯著なるものあり特に當時大藏省紙幣寮に於いて公債證書、紙幣印刷物の發行あり加ふるに印書局の創置ある等洋紙の需用應に旺盛すべき機運に向へるのみならず洋紙製造の業は萎微不振の状況に在り之が供給は悉く外國品に仰ぐの有様なりして以て茲に同社の企畫を見しものにして實に本邦洋紙製造業の嚆矢となす翌六年二月會社設立の認可を得社名を單に抄紙會社と稱し七年九月地を城北王子村に

相し英國機械技師フラーチースマン、米國製紙技師トーマスボットムリットの兩氏を聘して工場建築に着手し同年十二月資本金を貳拾五萬圓に増加し翌八年六月工事全く竣成せり明治八年七月に至り諸般の準備整頓して愈々業務を開始するに至りしも當時尙民間の知識程度甚だ幼稚にして新聞雜誌其他刊行物の如き未だ發達を見ざりしが故に洋紙の需用とて



は唯だ官邊の公用に供するに過ぎず爲めに需用供給の權衡を得ること能はず製品の販路に非常の困難を見たりと雖も同社は飽く迄文運の隆昌に資せんことを期し奮勵刻苦克くその難に耐へ依然其の營業を繼續したりき然るに時なる哉明治十八年來活版業の發達と共に新聞雜誌の發刊小説翻譯等出版界は逐次殷盛を致したるを以て洋紙の需要亦急に激増し同社の業務日に旺盛を見るに至りしのみならず供給不足を來し其規模を擴張するの必要を生ぜしめたり乃ち二十一年

三月資本金を五拾萬圓に増加し第二工場を増設し更に遠州周智郡氣多村に分工場を置き木材を原料として低廉なる紙類の製造を開始せり二十六年改正商法の規定に從ひ社名を王子製紙株式會社と改め益々業務の發展を策せり越えて二十七八年日清戰爭以來は赫灼たる國威の發揚と共に言論出版界は驚くべき長足の進歩を遂げ洋紙の需用日に月に増進し尙將來の増加殆んど豫測すべからざる趨勢なりしを以て二十九年二月資本金を百拾萬圓に増加し翌年四月には更に之を百六拾五萬圓に三十二年十一月には更に復た之を貳百萬圓に増加し製紙原料たる樺材の豊富なる長野縣下伊那郡和田村外四個村の共有林を買収し水力の便を考慮して工場を遠州磐田郡佐久間村に増設し三十二年一月來進んで新聞用紙の製造に従事せり更に三十八年日露戰役の起るや新聞洋紙の需用は益々驚くべき激増を呈し爾來外國製紙の輸入頻々たるの故を以て更に生産力を増加して輸入を防遏するの必要を感じ三十九年一躍資本金貳百萬圓を三倍して六百萬圓と爲し北海道膽振國勇拂郡苦小牧の地に東洋無比の稱ある一大製紙工場を建設したるがその規模の宏大施設の完備せるスエズ以東に巨額を唱ふに至れり越えて大正三年七月更に資本金倍加の議を決して壹千貳百萬圓の大資本となし四年七雄大業務の旺盛なる燦として斯界の霸王たり今大正八年上半年の營業狀態を見るに法定積立金百參拾萬五千圓別途積立金五百參十萬圓當期利益金參百拾五萬貳千四百七拾五圓を擧げて普通配當壹割貳分の外特別配當貳割參分の好績を示し



王子製紙株式會社工場

月三井合名會社の經營に係る樺太紙料工場を買収して大泊工場と唱へ始めて化學的パルプ工業の創製に従事し次で歐洲大戰の勃發以來益々洋紙の需用を激増せしめて將來の發展豫測すべからざるを以て同社は之に應ぜんが爲め十二月更に樺太に豊原工場を新設し大正五年二月には大阪市に於ける帝國製紙株式會社の事業を買収し大阪工場の充て尙ほ五月に至りては印刷局抄紙部分工場と稱せり斯て今や同社は本社の外是等の八大工場を掌理し資本總額實に貳千五百萬圓の鉅きを算し規模の

現重役としては取締役會長三井得右衛門事務取締役藤原銀次郎常務取締役高島菊次郎高田直屹小笠原菊次郎取締役大橋新太郎有賀長文林健藤野龜之助堀越壽助監査役中井三郎兵衛西村秀造廣瀬瀨三郎飯田邦彦等の諸氏各就任せり。

### 株式會社 島津製作所

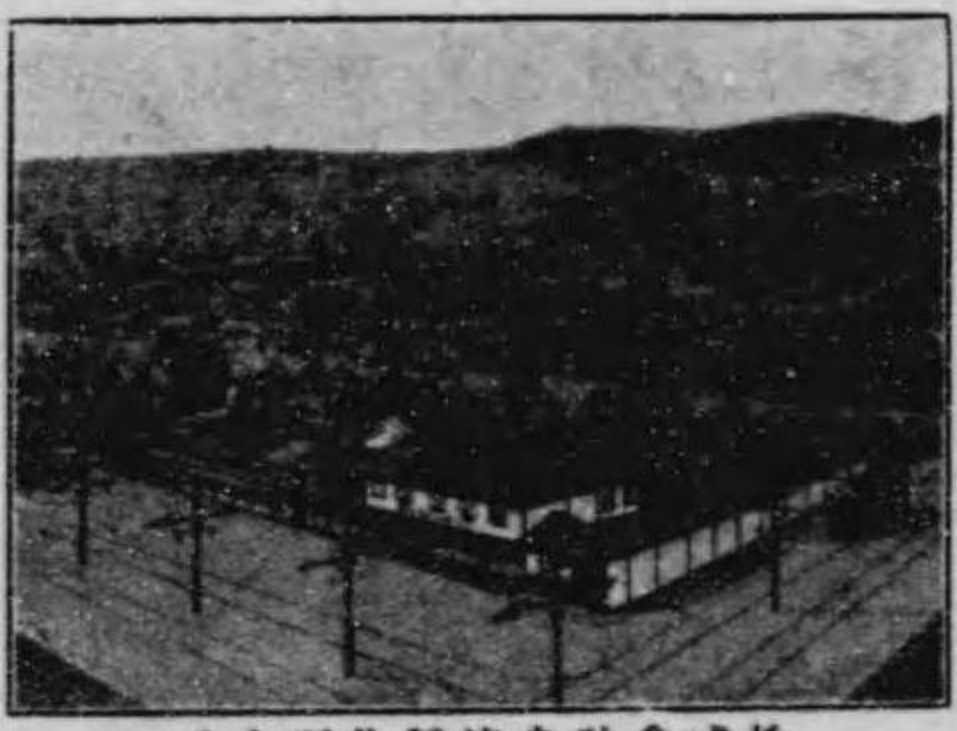
株式會社島津製作所が今日の隆盛を致したるは全く先代島津源藏君の功績著大なるに依るものにして同所の沿革現況を記す以前に於て先づ島津源藏君の成功傳を述べしめよ。

抑々維新後文運大に興り教育の普及せんとするを達觀せし京都の人島津源藏君は理化器械の製造に着目し明治八年六月京都市上京區木屋町二條下る西生洲町四番戸に於ける此種製造の開祖となす。却説株式會社島津製作所は社長島津源藏君一人にて經營しつゝありし島津製作所の業務一切を繼承して組織を變更し資本金貳百萬圓を以て大正六年九月一日創立總會を開きて愈々設立を告ぐるに至れり其の起源は遠く明治八年現社長の嚴父たる先代源藏君の創業に係り過去四十有餘年の長き歴史を有するものなり其當時我國の文運未だ開けず窮厄を極めしと雖も百折不撓遂に事業の基礎を固め明治二十七年現主源藏君父の遺業を繼承し日夜精勵事業日に隆盛に赴き今日の盛況を見るに至る。明治四十二年農商務大臣より功勞賞を受け大正五年賞勳局より勅定の綠授褒章を賜れ



る亦故なきに非ず從來島津製作所の事業中蓄電池に關するものは六年一月三菱大倉兩系と合同して資本金參百五拾萬圓の日本電池株式會社を起し現に良好の成績を擧げつゝあり而して現今の株式會社島津製作所の營業科目を示せば學術用器具製造にては理化器械測定用精密器械等之に屬し多年の經驗と熟練とにより中外に其名聲を轟かし米國印度及濠洲等に販路を擴大し頗る望矚せらる。化學工業用機械の製造は高度真空唧筒鋼製高壓ダイセスターノイルターブレ

ス等卓越せる製品を斯界に供給し多大の信用を有し殊に本邦唯一の耐酸鐵合金アリロン製品は化學工業界に一大福音を與へたり。其他純硝子製品SOP化學磁器及フューズドリカ製品を發賣して好評あり。若し夫れ醫療電氣器械の製品は醫療電氣器械中エツキス線器械は島津製作所が多年の經驗と獨特の技能を以て歐米品を凌駕するの製品を出し學界に好評を博せるものにして就中其の一種たるユーエム式エツキス線發生機の如きは世界に誇るに足る發明品にして斯界學者の賞讃措く能はざるものなり。尙近時發賣したる新式デアアルミ装置は透熱治療具として刀圭界に甚大なる歡迎を受つゝあり。其他アルソンプリザチオン装置、プラクリンザチオン装置、電氣デタルエンデン等何れもノ一八に九州支店を福岡市西中州に、大阪支店を大阪市東區北濱二丁目、標本部を京都市上京區木屋町二條南に、東京支店



株式會社島津製作所全景

標本部を東京市神田區鍛冶町二八に設く、現首腦者は取締役社長島津源藏、常務取締役島津源吉、同島津常三郎、取締役藤井善助、同内貴清、兵衛同松村甚右衛門、同鈴木庸輔、監査役稲畑勝太郎、同川崎助太郎、同乾康平、本店支配人鈴木庸輔、東京支店支配人組谷定治郎、九州支店支配人奥村辰三、大阪支店支配人松尾孚、標本部支配人小川弘太郎の諸氏なり。

### 東京毛織株式會社

金壹千四百萬圓の巨資と金貳百貳拾萬圓の積立金とを擁し、我が毛織物業界に横行調歩せる同社は、大正六年三月東京毛織物株式會社、東洋毛織株式會社並に東京製絨株式會社の三社合同により創立せられたるものにして、各種毛織物の製造販賣を以て營業の目的とし、現在本社營業部を東京府在原郡大井町に置き、工場を東京府下千住、同王子、同大井並に岐阜縣大垣の四個所に設け、堂々たる營業振りを發揮しつゝあり。



抑、同社前身の一なる東京毛織物株式會社は、日露の風雲漸く收まり、我が財界逐次好況を呈するに至りし明治三十九年十一月、資本金貳百萬圓を以て創立せられたるものにして、男爵澁澤榮一、諸井恆平、日比谷平左衛門等の諸氏之れが發起人たり、創業以來營業漸次伸張の勢を示したるも、當時羅紗販賣業者間に恐惶を來せる爲め同社株主中其の大部分を占むる羅紗販賣業者は不幸破綻の厄に罹れるもの續出し自家の整理上多大の資本金を要する結果會社の解散を迫るもの勢なからず爲めに一時同社は非常の困厄に陥りしも、當時毛織物の大部分は未だ之れが供給を外國に仰ぎ、内國の生産は微々として振はず、一般の大勢は既に斯業の前途頗る有望なる事を示し、日用被服は勿論其他諸種の用途開け販路日に擴張せしを以て能く斯の難關を突破し加ふるに四十四年の關稅改正

は同社の事業に便益を與ふること非常に多く爾來社運年と共に其の發展の度を加へ本社並に工場を東京府下千住町に置き、其の主なる製品は地方絨類、市中向ザージ、鐵道院向メルトン絨、市中向メルトン絨、支那向軍絨、陸軍用毛布及軍絨、市中向毛布セル、ネル、帽子等の多きを算へ、而も品質優良、價格低廉、噴々たる好評を海の内外に有したり。

又同社前身の二なる東洋毛織株式會社は、明治四十年四月の創立にして、資本金參百萬圓を算せり、元、後藤毛織株式會社と稱し其の起元は遠く明治十三年に在り之れより先き同七年故森有禮氏の全權公使として清國に赴任するや、偶、同社前社長たりし後藤惣作氏は同氏の知遇を得て共に清國に至り同國產の羊毛が一度歐米に輸出され、更に毛織物となりて再び東洋に輸入せらるゝを目睹し、大に其の國家的經濟上の不利益なることを慮り率先自ら製絨毛織業を經營せんことを企圖して苦心慘憺其の技術を修得し、十一年歸朝して十三年其の製造業に着手す、是れ實に我國に於ける毛織物紡績の濫觴にして抑、又同社の發端なり、爾來幾多の波瀾曲折を経て後四十年四月に至り組織を變更して株式會社となし、自ら之れに専務取締役として銳意其の經營に任じ更に一大工場を東京府下大井町に新築し、次で大垣市に大垣分工場を建設せり、既にして大正三年端なくも歐洲大戦亂勃發するや、露國より多數の軍需品の注文を受け、爾後空前絶後の活況を呈して發展せり、越えて大正四年三月後藤惣作氏専務取締役を退くや、藤田謙一氏代りて専務取締役となり、益々内外事業の刷新を圖り、其の營

業種目は各種毛織物、絹、シヨールの製造及び毛織類の加工並に製品毛絲紡績の販賣業にして、製品の優秀、販路の廣大、正に巋然として斯界に雄視したり。

同社前身の三なる東京製絨株式會社は、初め東京毛絲紡績會社と稱し、明治二十年八月の創立に係り、先代川崎八右衛門宮部久先代町田徳之助等諸氏の發起に成りしものにして、資本金參拾萬圓を有し、是れ亦た頗る重きを我が斯業界に爲せしものなり。

斯くて以上三株式會社の合併によりて創立せられたる同社は、營業開始以來、業運隆々として旭日冲天の概を示し、製品の優良、海内比なく更に大正七年十二月大阪泉尾綿毛紡績株式會社を合併して、社運一段の殷盛を加へ、今や其の販路は、内地一圓は勿論遠く支那、印度、濠洲、露國に及び、今大正八年上半期の決算に於て、貳百參拾參萬七千六百八拾參圓餘の利益金を得、年四割の株主配當を行ふの盛況を呈しつゝ、あり、現重役は専務取締役藤田謙一、常務取締役日下吉平、同津田五郎、同塚口慶三郎、取締役諸井恆平、同井田亦吉、監査役大橋新太郎、同野重九郎、同宇佐美薰次の諸氏なり。

### 藤倉電線株式會社

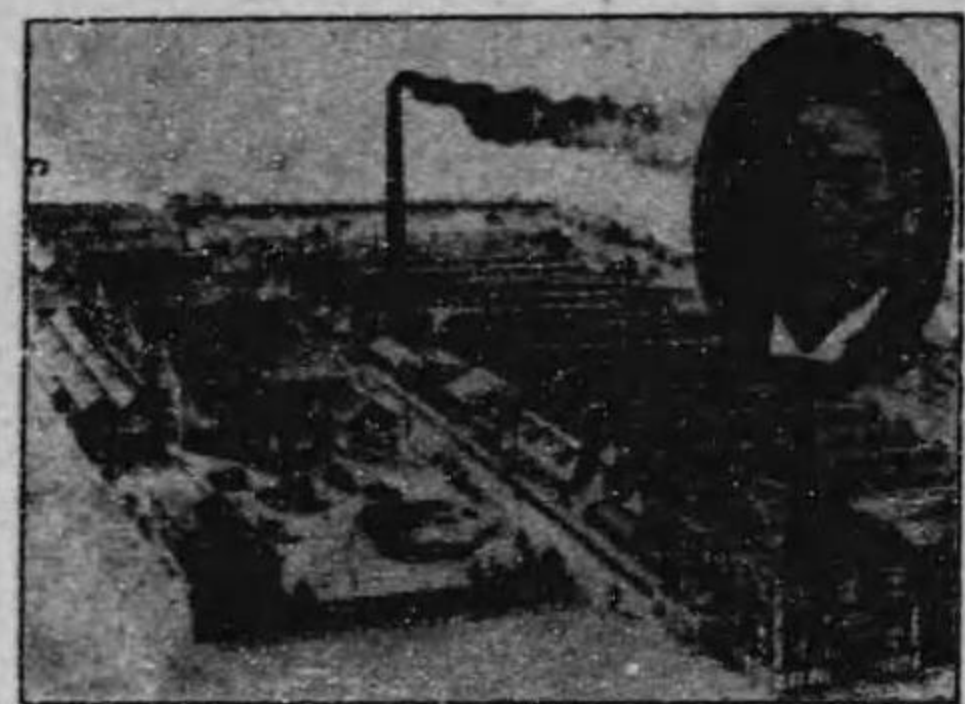
同社は遠く明治十八年故藤倉善八氏が神田區淡路町に於て組紐業を營むの傍ら、絹綿捲線の製造を開始したるに端緒を發す、是れ我が國に於ける電線製造業の嚆矢にして、又實に藤倉電線株式會社の今日ある第一歩なり。

當時電氣事業の幼稚なるに伴ひ、同製造業も其だ微々たるものなりしが、炯眼なる善八氏は、該事業の前途多望なるを觀察し、明治廿一年四月工場を新宿御料地内製絲工場跡に移し、専ら、パラフィン線、東京線、コード類の製造に従事せり、其後電氣の應用年を逐うて發達普及せられ、電線の需用又從て増加したるも、護謨被覆電線の如きは總て之を海外に仰ぐの狀態なるに鑑み、明治廿三年六月外國品輸入防遏の目的を以て護謨被覆電線の製造を企圖せり。

時恰も米國に遊學中なりし善八氏、弟たる現社長松本留吉氏歸朝したるにより、相共に被覆電線製造の實地研究に着手し、機械の不完全と技術の不熟練等名狀すべからざる苦心を忍び、明治廿六年一月遂に護謨被覆電線の性状の具備せるものを製出するに至れり、茲に於て規模擴張の必要に迫られ、明治廿九年工場を現在の地に移し、低壓護謨被覆電線の製造を開始せり。

是より先き、斯業研究の爲め米國にありし現常務取締役岡田顯三氏は、登雪の功を積み、明治三十三年八月に至り歸朝し、同所の事業將に革新せられんとする明治三十四年十月不幸善八氏病魔の爲に遂に起らず、事業上一頓挫を來せしが、近親相倚り故人の遺志を繼ぎ、資本金貳萬五千圓の合名會社を組織すると共に、新に護謨引防水布の製造をも兼ね、拮据經營すること一年有半、遂に明治三十六年六月從來内地品を使用せざりし逓信省に於て本邦最初の指定製造所たるの命を得たり、是れ同社の最も誇とする處なり。

然るに同年秋八月大旋風の爲め工場全部倒潰の厄に遭遇し、會社の基礎未だ健全ならざる時なれば、其困難筆紙に盡し難かりしも、不撓不屈其工を督し、同年末には工場の復舊並に擴張工事を完成し、捲土重來の勢を以て、益々業務の發達を期せり。



社會式株電線藤倉と君吉留本松

翌三十七年五月逕信省の警告に基き危険多かりし薄護謄式電球線に換ふるに混合護謄被覆の電球線を製出し大に需要家の賞賛を得直ちに東京砲兵工廠其他の指定を受け爾來時勢の進歩は年と共に同社の發展を促し海軍に於ては陸用電信線の指名製造所となり陸軍に於ては日露戦役の實験に鑑み技術審査部の考案になる水底線被覆線中被覆線等の指名製造を受け明治四十年には斯界の最難技と稱せられたる高等護謄線絶縁線の逕信省指定製造所たるに至れり。

一方事業の發展は顯著なる進境を示し資金は増加に重なるに増加を以てし遂に明治四十四年四月電業界の趨勢に鑑み電球製造業と防水布製造業とを分離し電線製造業を株式組織に更め資本金を五拾萬圓となし只管斯業の發達に努力せり然るに急劇なる電氣事業の進歩は同社を驅て又々擴張の機運に向はしめ翌四十四年九月資本金を壹百萬圓に増加し工場

其の増築及製品の改善を遂行して製造力を倍増せしめ遙かに面目を一新せり。

其の間逕信省に於て共電式エナメル局内ケーブル線に付き本邦唯一の指定製造所の命を受けたのみならずエナメル線線藤倉式七球線藤倉式絶縁體オケライト、ミネライト等に付特許を受け紙ケーブル裸體線の製造を開始する等若々製造上の刷新を行ひ其施設見るべきものあり大正五年七月更に資本金を貳百萬圓に増資し諸般の設備を完成したるを以て將來の活躍將に刮目して觀るべきなり。

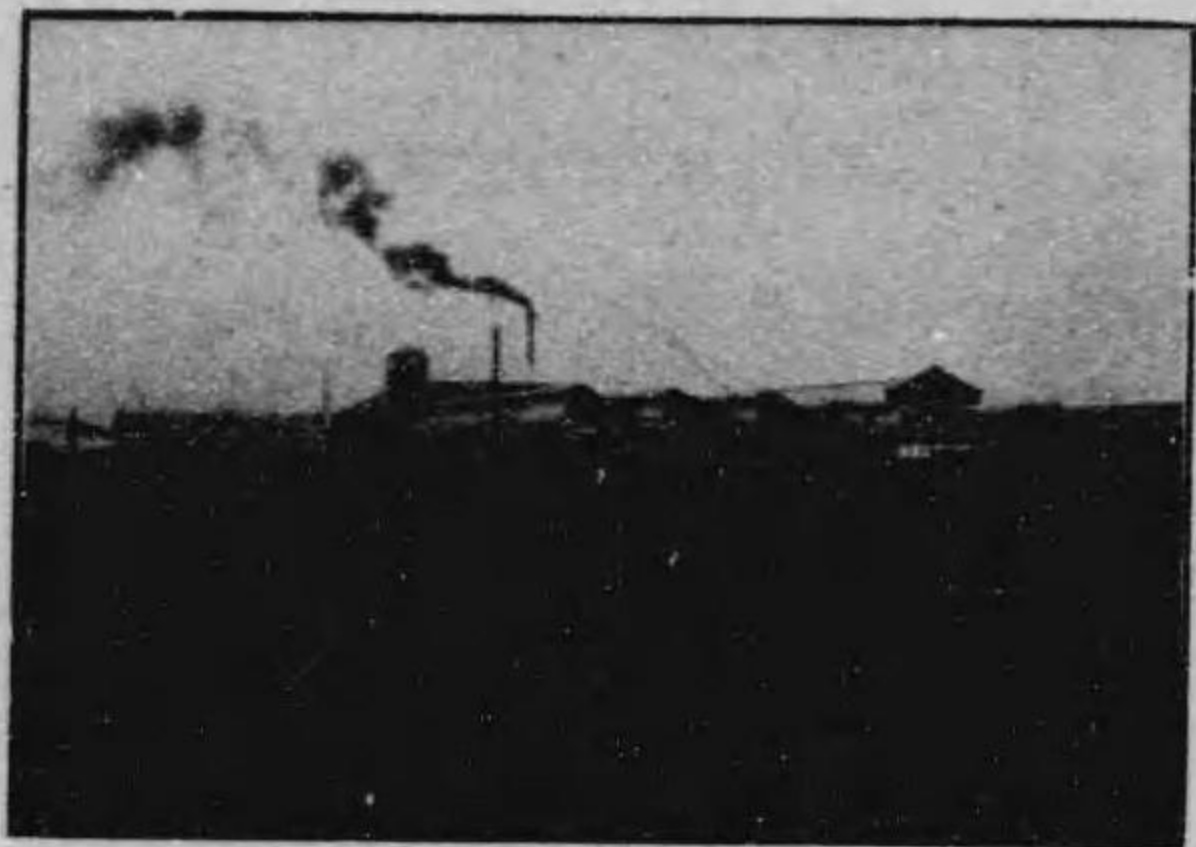
我國に於ける工業は殆ど其の範を歐米先進國に採り之に用ふる諸機械工具の數も是れに依らざるなきに同社は機械類の孰れも同社同人の考案發見に成るもの多く而かも現時歐米品に比して毫も遜色なき良品を製出し居れるは誠に異數にして全く他會社と其趣を異にするものなり又以て同社同人の努力を稱揚せずんばあるべからず。

而して一方明治四十三年分離したる防水布製造業は松本留吉氏を代表者とする藤倉合名會社に於て經營せられ東京府下大崎町に工場を有し我國に於ける護謄引防水布業の權威者として其製品は防水布の一般に及べるも就中エンパイアクロース絶縁布衛生材料用品航空機用品絶縁コンパウンド等に於て完全なる優良品を出し其販路遠く印度、澳洲に及べりと云ふ因に現在同社は本社を東京府下千駄ヶ谷九二二に置き出張所を大阪市西區粉南通二ノ二二、並に福岡市下新川端町八一に設け北海道、臺灣、朝鮮、印度、南阿大洋洲なる三井物産株式會社を以て代理店となす。

### 東洋燐寸株式會社

本邦燐寸製造界の巨星たる同社は大正五年九月瀧川辨三氏の個人經營たりし清燐社と明治十九年に設立せられたる良燐合資會社との二社合同に依りて組織せられたる瀧川燐寸株式會社が更に大正六年二月資本金を四百萬圓に増加せられたる其に社名を東洋燐寸株式會社と改稱せるものにして其事業たるや我が製燐界に最も古き歴史を有し斯界の一大權威者として稱を稱せり、今其の前良たる清燐社及良燐合資會社の沿革を掲ぐれば清燐社は明治十三年六月瀧川辨三氏有志と謀り工場を兵庫新場に設け初めて燐寸製造の業を創めしに濫觴し當時事業草創に屬し製造の方法頗る幼稚にして販路又意の如くならず翌十四年頃には經營の困難其極に達し同業者相次いで廢業せり、清燐社同志亦解社を望むもの多く到底持續すべからざるを認め、同年九月該事業の全部を瀧川辨三氏に譲渡し、茲に清燐社の事業全部は瀧川氏の個人經營に屬せり、爾來氏は東奔西走喜悲交々辛酸を嘗め刻苦到らざるなかりし、斯業の大勢逐年悲境に赴き同十七年に及んでは殆んど輸出社絶の悲運に遭遇せり、乃ち暫し方針を轉じ主として内國向燐寸の製造販賣に従事するの止むなきに至れり、斯くして漸次顧客の

信用を博し輸出燐寸の悲境に反し空前の盛況を呈したりしも斯業の發達は到底國內の限りある需用を以て満足すべきにあらず、百方苦慮する處あり翌年に至り再び海外へ輸出するの氣運回復の曙光を顯はし爾來年と共に内外の需用増加し到底一工場の生産を以て其の需要に應じ難きに至り遂に明治二十年神戸市加納町に續て同二十五年同市中道通に、二十七年



東洋燐寸株式會社工廠

淡路志筑町に各工場を増設し更に二十八年には神戸市葺合の一工場を買収して製出高の増加を計ると共に品質の統一改善を圖り價格の低廉に力む斯くして日清、日露兩戦役後我國威の宣揚と共に本邦對外貿易の發展は斯業の發達を促すこと亦頗る大なるを以て、更に明治三十七年神戸市大開通に、同四十一年淡路生穂に、大正元年淡路江井に、同五年一月神戸市下澤通りに各一工場を増設し瀧川燐寸株式會社設立當時には工場七ヶ所を算するに至れり、又同四十年四月北海道に日本燐寸軸木株式會社を設立し、軸木自給の策を樹立し後良燐合資會社と共に同事業を繼承して現に五箇所の製燐工場を經營するに至れり、以上

の如く本社は設立以來三十八箇年を閱し創業當時は年額僅に八千七百五十哥なりしもの、日清戦役後には一躍百八十餘萬哥に上り、日露戦役後には三百四十餘萬哥に進み、大正五年には僅々八箇月間に三百五十萬哥の巨額に上れり、其の發展の偉大なること本邦當業者中未

ば其比を見ず、明治三十六年春、明治大帝陛下親臨神戸港頭大觀艦式の盛儀に際し特に侍從北條子爵を勅使として同社中道工場に御差遣あり、無上の光榮と稱すべきなり。

良燐合資會社は明治十九年の創立にして當時泉田某の個人經營なりしを明治三十年瀧川辨三氏等工場其の一切を繼承して合資會社に改め良燐合資會社と改稱せり、當時は工場僅に三箇所に瀧川氏の之が社長となり明治三十四年に至り瀧川合資會社をも合併し工場

三箇所を加へ同時に女婿儀作氏社長となり専ら經營の任に當れり。明治三十七年専ら荷造の完成を期する爲め神戸市に製燐部を特設して一切の容器製造を直營することとし續いて明治三十九年商標印刷所を設け歐米商標の研究並に意匠の改良に従事し又同四十年北海道に於ける御料林の拂下を受け同地に小函素地工場二箇所を開き同時に神戸市内に附屬小函製造工場を設け品質の統一改善を計れり。又夙に主要原料たる軸木自給の緊要なるを認め明治四十一年北海道函館に本社を有する資本金五拾萬圓の日本燐寸軸木會社を買収し、後瀧川清燐社と共同の下に製燐業を繼承し五箇所の製燐工場を經營したる外神戸市に専屬の製燐會社を起し、茲に全く獨立自給の策を確立するに至れり、由來燐寸製造作



專務取締役瀧川儀作君

して商標貼付機械を購入し其の使用を始む之れ實に本邦燐寸界に於て本器使用の嚆矢となす、爾來當業者之に倣ふもの日に多きを加ふるに至れり、續いて百方苦心の末同社獨得の頭藥浸點機を考案し各工場に於て使用せしが其成績頗る良好にして現に同社の特許品たり、其他箱詰機械、小箱張機械等を應用の研鑽に従事すること久しく今や完成の域に達せんとしつ

つあり製産額の増加と共に意を販路擴張に致し、夙に上海青島、カマッカ、朝鮮等に出張所を設置し、直輸の道を講じ、一面明治四十年以來極力内地向燐寸の供給に努め、社長自ら米國に渡航し、同地の燐寸業を調査し、併せて本邦燐寸の販路開拓に盡せり、爾來其發達頗る顯著にして、内地向燐寸の大半は實に同社の供給する處なり、就中燕燐寸、荷燐寸の如き夙に人口に膾炙する處彼の米國輸出燐寸の逐年激増し、今日の盛況を呈するに至れるもの、又同社苦心の賜と謂ふべきなり、上の如く同社は創立以來三十有二年を経、殊に瀧川儀作氏社長として、就任以來機械力の應用、原料の自給、品質の精選、販路の擴張等萬般の施設は積極進取を主義とし、只管時運の進歩に後れざらんことに銳意したるの結果、社運駸々として進み、明治三十年當時の工場僅かに三箇所、製産額百萬圓に過ぎざりしもの、年を逐うて増加し、大正五年には燐寸製造工場七箇所、特種工場七箇所、製産額六百萬圓に達す、而して今やその生産額の夥多品質の優良なる實に東洋に稱するに止まらず、基礎益々堅實にして、歐米先進國の壘を靡せんとし、今大正八年上半期末の如き實に金貳拾萬七千餘圓の利益金を計上するの好成績を示せり、現今重役は専務取締役瀧川儀作、常務取締役古河倍造、取締役瀧川英一、鈴木岩次郎、窪田平吉、監査役吳錦堂、椋野武吉の諸氏にして、相談役は瀧川辨三氏なり、其工場は燐寸製造工場十四箇所、調劑工場印刷工場、鑄造工場各一箇所、小函工場、外面工場各二箇所、製燐工場十箇所を有し、直接作業に従事する職工五千餘人、其他二萬餘人を使用し、安全燐寸の年産額三十萬噸を製出し、販路は内地は勿論支那、香港、英領印度、暹羅、英領海峽殖民地、佛領印度支那、蘭領東印度、北米合衆國、比律賓、濠太刺利、朝鮮、臺灣等に輸出し、多大の好評を博しつゝあり。

株式近江銀行

行礎の鞏固と、營業の堅實とを以て關西の金融界に重きを爲すものは株式會社近江銀行を推して其第一に算せざるべからず、蓋し近江實業家の美風を正に表示せるなり、同行は實に江州出身の大坂富豪が明治二十七年三月資本金五拾萬圓を以て設立せしものに係り、本店を大阪市に置き、近江國愛知川に支店を設置したり、然るに日清戰役を経て一般財界の膨脹し、新設及舊來の銀行會社の拂込増資相繼ぎしに方り、同行も時運に順應して業務を擴張するの必要を認め、二十九年二月資本金を倍加して壹百萬圓に上らせ、以て其發展を計りしが、幾くならず一般經濟界は反動的沈衰不況に淪み、金融界も之が影響を受けて困憊の狀に陥れるもの多く、同行亦た其の例に泄るゝ能はざりしかば、竟に内部の整理を急務として、三十四年九月に至り拂込資本金中より四拾萬圓を切捨て、五拾萬圓に減資し、謂ゆる壯士解腕の英剛に出づると共に、銳意して行務の刷新を圖り、主ら着實を旨とし、洋碼頭努力の結果、而來能く行運を挽回し、更に進展の機運に嚮ひ、三十八年十二月には江州の長濱銀行を合併して七拾萬圓に増資し、其後尙ほ各地の銀行を合併すること四行の多きに及び、資本金亦た四十六年一月には四百萬圓に躍増するの盛運に至れり、現に本店を大阪市東區備後町二丁目に置き、東京市その他に十又五の支店を全國樞要の地に設置し、本支店相呼び相應へ、敏活に而も堅實に營業し、信用愈々厚く業務倍々展張せるを以て、大正六年三月資本金四百萬圓の全部拂込を終り、次いで増資を行ひし結果、今や其の資本金は實に壹千五百萬圓の巨額を算するに至る、今大正八年上半期の營業報告に據れば、法定準備金百八拾七萬圓、諸預り金壹億五千參百八拾五萬七千貳拾九圓餘にして、同期純益金八拾六萬五千七拾六圓を計上し、内拾五萬圓を法定準備金に、五萬圓を配當平均準備金に、各充當し、年九分の株主配當を行ひ、拾四萬六千五百七拾圓餘を後期に繰返すの好績を示せり、即ち其利益金額に於いても配當利率に於いても共に極めて秩序

的に増進しつゝ、あるを認むべし、現今同行の首魁として經營に任ずる重役は、頭取池田經三郎、取締役瀧尾喜兵衛、西田庄助、阿部房次郎、伊藤忠三、下郷博平、須田鏡造、朝倉茂次郎、監査役北川與平、阿部市太郎等諸氏にして、何れも資望隆々たる一流の實業家たり。

日本紙器製造株式會社



社長 野島 君

同社は、大正二年八月、現専務取締役田島志一氏の個人經營に係りし日本紙器製造所の事業組織を株式會社に変更したるものにして、當初工場を東京市日本橋區本町に置きしが、組織の變更と同時に、神田區小川町に移轉し、前工場に比較して十數倍の製造能率を増加せり、其後事業益々膨張し、殆んど底極する所を知らざるに至りて、三たび工場の移轉を必要とし、大正六年四月、四谷區元町に新工場を建築する及べり、其地、南は赤阪、青山の兩御所に面し、北は甲武線に沿ひ、廣袤二千餘坪、建坪一千餘坪を越ゆ、同社の發展が此く顯著なるは經營の宜しきに由るの少なからずと雖、亦た其の事業が本來頗る有望なるに基かず、非ざるなり、即ち世界の雜貨、香水、石鹼、化粧品、製藥、時計、指環、煙草、書籍、其他凡百の商品が其の包装せらるべき外、函に由りて一段の美を増し、一段の價值を加ふる而、已ならず、益々轉移を便ならしめ、つゝあるの事實は、文明の進歩と共に彌々繁多を加ふることを世界の一大潮流とも觀るべきなり、則ち各種の紙函が世界的に歳々驚異すべき速度を以て需要を急進せしめ、つゝある固より怪むを須むず、殊に包装紙函に至りては、一度び使用するの必要の劇増は、各國を通じて之を棄却し去りて顧みざるなれば、自ら消耗品に屬し、隨つて需要の劇増は、各國を通じて、其高率たるを見る、加ふるに社會の商品の向上は、包装紙函を驅りて一面に亦た優良ならんことを要求しつゝ、あるなり、然して紙器を製作供給する工業は、各國とも過去に於いて他の工業よりも幾層の發展を遂げ、現今また過去に遡らざる、而も紙函需要の無限に増進しつゝ、ある一事は、各國の斯業者をして倍々大發展を爲さしめ、つゝ、大正五年に於いて、今後十箇年間、米國に年額六拾萬圓の供給をなすべき契約を結び、同六年初春には、又加奈陀に十箇年間、年額參拾萬圓供給の契約をなせり、尙ほ一面支那、印度、澳洲等より需要多大なるも、内國需要の劇増と、右米、加に對する供給契約を了せん爲め、總べて拒絶せるの實狀なり、是に於いて同社は、五拾萬圓の資本金を一躍して、貳百五拾萬圓に増加せり、是れ大正六年四月の事となす、又同社は、從來常に歐米各方面に互りて紙器に關する機械に付精密なる調査を遂げ、以て最新精銳なる機械の購入に努め、工場設備、從業員の配於ては、内地にて容易に他の企及を許さざる根柢を有するが上、常に世界に於ける斯業の技術的方面に於いて、歐米人と其



専務取締役 田島 君

鏡を競ひつゝありて之が進歩發達に就き不斷的奮勵努力を怠らず。是れ同社が内外に多大の信用を贏ち得たる所にして又た迅速の發展を見るに至れる所以なり。同社經營の方針既に此くの如し更に這回の大増資を以てす將來の大發展、足る企て、待ち首を翹げて見るべきなり。現在同社の業務は一、意匠部、二、寫真部、三、製函部、四、彫刻部、五、加工部、六、手工部、七、用紙特製部、八、特種印刷部、九、凸版印刷部、十、石版オフセット部、十一、斷裁部、十二、材料部等に分ちて、其の製品種目の夥多にして形状亦た千差萬別、一々枚舉に遑あらずと雖、一切の紙一切のボール類を用ひて製作せるものは如何なる種類の容器たりとも一と製して製出せられざるなしといへば足る。因に現任重役は取締役社長星野錫専務取締役田島志一常務取締役酒田啓次郎取締役森山章之丞同嶋山一郎同越山太刀三郎監査役松井方利平沼久三郎笠原孝太郎の諸氏なり。

株式會社 神戶電機製作所



株式會社神戶電機製作所營業部

業後日尙未だ淺き同社は今や一躍關西電業界の花形を以て噴稱せられ頗る斯界に重きを爲しつゝあり、尙同社の製品、据置蓄電池、携帯用蓄電池、自動車用蓄電池、列車用蓄電池、手提用電池等は曩に化學工業博覽會に出陳して入賞するの榮譽を荷へり、以て亦如何に其の優良なるかを知るに足らん。

現今重役として同社の首腦に任ずるは取締役社長小曾根貞松、専務取締役直木三郎、常務取締役柴田楠三、同取締役原可吉、取締役岡崎忠雄、同岸本孝太郎、同野澤定吉、監査役乾鼎一、同谷口茂雄、同菅井角之助、營業主任眞島偉次郎の諸氏にして技師として工學士中尾新太同北村秀造等の諸氏あり。

三共株式會社

本邦製藥界の霸王たる三共株式會社の起原は明治三十二年現専務取締役鹽原又策氏が横濱に於て現取締役社長高峰讓吉博士の發明に係る消化劑タカヂアスターゼを其製造所たる北米パークデビス會社より輸入して發賣を開始せしにあり、既にして同三十五年鹽原氏東京市に移り箱崎工場を設け製藥事業を始め他面に於て主として北米合衆國の各種工業會社

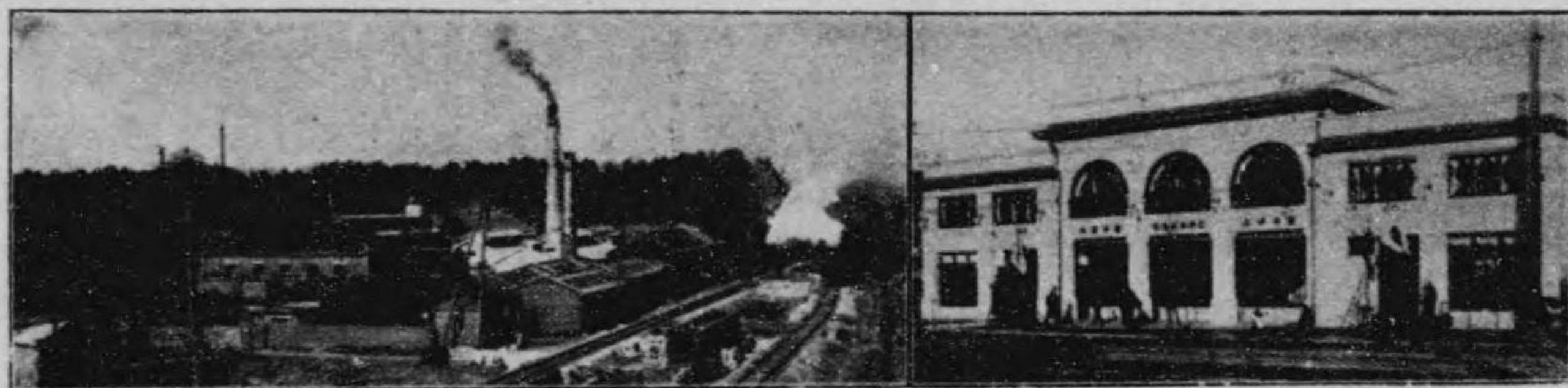
に接近し其の代理店として化學工業用品及機械類の輸入販賣を力め業務年と共に隆盛を致せり、次で大正二年に至り業績の隆大は鹽原氏をして從來の個人經營を株式會社組織に改めしめ茲に同社の設立を見るに至る、爾來社運日に益々殷んにして殊に世界戰亂勃發以來本邦藥品界が主要藥品類の海外輸入杜絶せし爲め該品の缺乏に苦しむに當り率先して之等輸入藥品の製造に着手し僅かにしてサリチル酸、アセチルサリチル酸、アスピリン、アナンチリン、フェナセチン、ザロール、アンチヘブリン、アルサミノール(六〇六)、ネオアルサミノール、ヘキサメチレンテトラミン(ウロトロピン)、デメチルアミドアンチピリン(ピラミドン)、サリチル酸ナトリウム、カフエイン、ロミン、ヂウレチン、石炭酸、乳酸及其鹽類、枸橼酸、安息香酸、ナトリウム、カフエイン等の世界的藥劑を製出するに至りて事業更に一段繁榮を加へ今や本邦最大の醫療藥品製造業者として斯界に稱する外各方面の化學工業に出資して社業の發展に努めつゝあり。



専務取締役鹽原又策君

斯くて同社現在の營業事項は醫療用品類の製造及輸入品取扱、工業用品類の製造及輸入品の取扱、硬化油の製造、醫科器械類の製造及輸入品取扱、化學工業用機械類の製造及輸入品取扱、ベークライト各種製品及其塗料類の製作、耐熱性グモン、ヘミット、テギット各種製品及電氣用具の製作、フアイバー、マイカナイト、プラスチック等の絶縁材料製作及輸入品取扱、サトウライト株式會社製品類一手販賣各種化學工業事業に出資等の多きを算し、尙紐育ナイヤガラ、フオール、ス市、フゼネラル、ベークライト會社、ウイスコンシン州、ミルウオーキー市、ガランド、ヘンニング、ニューマチック、モルト、ドラム製造會社、ミシガン州、デトロイト市、パークデビス會社、紐育市、チースプロ製造會社、紐育州、パツワロー市、ジェー、ビー、デバイン會社、ペンシルバニア州、ピツバーク市、ラヂウム藥品會社、紐育州、パツワロー市、スベンサー、鏡玉會社、ニュージャージー州、ニューブランズウィック市、ジョンソン、エンド、ジョンソン會社等の北米諸大會社と連絡を有し是等の東洋代理店として其の業務を執りつゝあり、今大正八年上半期の決算報告に依れば同社の現在資本金は五百六拾萬圓にして諸積立金六拾九萬圓、研究調査資金六拾萬圓、職員退職手當及職工慰安積立金拾壹萬壹千餘圓を算し、同期末決算に於て

代表的事業



三共株式會社 同品川製藥工場

同期利益金及前期繰越金合計金五拾萬參千八百四拾四圓を計上せり、亦以て如何に其業務の盛大なるかを知るに足らん、因に同社は本社を東京市日本橋區室町三丁目に出張所を大阪市東區平野橋東詰並に北米合衆國紐育市パークロー十五に置き工場を東京市外北品川、東京日本橋區箱崎町、東京深川區小名木川、東京向島、大阪野田町及北米ニュージャークリフトンに設く、現重役は取締役社長高峰讓吉、専務取締役鹽原又策、取締役大橋新太郎、同植村澄三郎、同古田宗二郎、同福井源次郎、同湯淺武孫、監査役室田義文、同大谷幸之助、同萩原勘助の諸氏なり。

### 神戸瓦斯株式会社

同社は明治三十一年七月を以て創立せられたるものにして本社を神戸市相生町五丁目百七十二番地の四に置く創業以來時運の進歩と共に社業年毎に隆盛の域に進み今や資本金四百七拾五萬圓を算し外に約貳拾參萬圓の積立金を有し隆々たる業績を挙げつゝあり今大正八年上半期の營業報告に依れば同期末の瓦斯需用家戸數は二萬八千五百九十七戸瓦斯送出總量三億七千六百一萬九千七百立方呎にして之を前年同期に對比すれば一割四分の増加となり又同期に於ける副生物產出高は、コークス四千五百九十六萬四千三百二十六封度、コールタール七千六百四十三石一合〇六を產出し外に硫酸安母尼亞三十四萬三千八百七十封度を算せり、斯く久保正助取締役瀧川辨三監査役小野權四郎同丹波謙藏同杉山利介の諸氏なり。



神戸瓦斯株式會社

同期末の決算に於て總益金八拾八萬九千參拾壹圓餘總損金五拾八萬八千參百四拾四圓餘差引金參拾萬六千八百六拾六圓餘の利益金を得内五萬圓を諸債却金に壹萬壹千五百參拾四圓餘を市報償金に再差引き金貳拾參萬九千壹百五拾貳圓餘の純益金を上げ之に前期繰越金拾萬五千六百七拾八圓餘を加へ合計金參拾四萬四千八百參拾壹圓餘を計上し内壹萬六千圓宛を積立金並に役員賞與金とし年壹割の株主配當を行ひ拾壹萬八千六百六拾六圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり現重役は専務取締役社長松方幸次郎常務取締役

### 合資會社竹内金庫店



竹内金庫店

合資會社竹内金庫店は本邦金庫製造界の重鎮にして本店を東京市日本橋區馬喰町二丁目一番地に置き工場を同本所區南二葉町三十七、八、九、四十四、四十一、四十三番地に設け而して其の創業は今を距る事五十有餘年前なる慶應三年六月に在りて實に本邦金庫製造業の鼻祖なりとす爾來業運年と共に盛んにして遂に從來の個人經營を以てしては百事不便を感ずるに至りしを以て近時業務の組織を改めて資本金參拾萬圓の合資會社と爲し専ら金庫及鐵扉の製作に従ひ以て今日に至る、斯くて同店は毎に斯界の先驅を爲し不斷の努力を製品の改良進歩に怠りずして製法の研新と品質の卓越とは夙に一般世上に認容せらるゝ所なり特に現今噴々たる好評を博し非常の賣行を示しつゝある竹内製ベント式金庫は範を歐米に於ける最新最優の金庫に採り英米獨各國より數十種の機械を輸入し極めて優良なる材料を用ひ熟練せる技術者をして一紙の微に至るまで細心周到なる注意の下に全然機械作業を以て製出しつゝあるものなるが故に其の規模の宏大にして工作の完全外觀の優美製産の夥多價格の低廉等之を僅かに一局部のみ機力に依り大部分手工的製作なる他の金庫に比すれば眞に霄壤の差ある東洋唯一の理想的金庫にして今や大方の需用日に月に激増しつゝあるもの洵に偶然ならざるなり。

良確實の名江湖に喧傳せらる、殊に其の一種の金庫の入口鐵扉は回轉射を裝置し扉の四周は所謂印籠形なる深き喰ひ合せを成し總て平削機及グライディングマシンを以て仕上げ其の表面は一種の合成鐵板を用ひ以て及物又は瓦斯、電氣等の火に依る破壊を防禦す而して鎖鑰は米國エール會社製最新式時計錠と壹億變化數字合符號機とを備へ極めて堅牢なるものにして又た他の一種の金庫入口鐵扉は全部鋼鐵を以て作り表面及喰ひ合部分は總て平削機仕上となし鎖鑰は堅牢緻密なる專賣特許變換錠と米國エール會社製百萬變化數字合符號機とを備へ最も安全なるものなり、又其手提金匣の外部は鋼鐵を用ひ内部は鐵製掛子を備へ總て機械を以て壓搾したるものなれば堅牢の度優美の點遠く他製品の及ぶ所にあらず殊に錠前は新式堅緻なるものにして安全の締りを爲し、尙ほ之に空ら錠を設け取扱に便ならしむ同社製品の精良や夫れ既に斯の如し爰を以て是等製品は今日迄各種博覽會品評會等に出陳して名譽ある賞牌を受けたること枚擧すること尠ならず今試みに其重なるものを擧ぐれば明治二十年東京府工藝品共進會に於て二等賞銀牌を同二十三年第三回内國勸業博覽會に於て進歩二等賞を同二十九年五回全國品評會に於て進歩二等賞を同三十年創設二十五年紀念博覽會に於て名譽銀牌を同四十一年第二回特許品展覽會に於て金牌を同四十二年發明品博覽會に於て銀牌を大正三年大阪發明品博覽會に於て金牌を同年東京大正博覽會に於て彌々刮目に値するものあらん。

### 上田力商店

同店は店主上田力氏の經營に係れる大阪市著名の機械金物商店にして現今其營業は營業部、鑛業部、代理部の三部に分れ(一)營業部の營業科目は諸機械並金物、電氣機械器具、電氣用各種テンプ、電氣鐵板、金剛砥石、瓦斯管、鑛山用鋼鐵管、ツヤード、ツブ、フランカン、各種旋盤、セメント、チエン、プロック、レール、ベルト、ワックス、銃鐵、アスベスト各種、パツキング、(二)鑛業部の營業科目は愛知縣東春日井郡寶來炭坑第一坑、同第二坑、岐阜縣可兒郡寶來炭坑第三坑、產鑛石、金、銀、鉛、滿、倫等に於て(三)代理店部にて專賣特許第二八五八二號第三〇五九六號蒸氣治療器の販賣を營み業運隆々頗る重きを斯界に爲せり同店代理部に於て代理販賣に従事しつゝある蒸氣治療器は廣島市竹屋町の人萩原太十郎氏の發明に係り曩に帝國政府の特許を得たる良器にして四百四病に對して特效あり其の裝置は極めて簡單にして簡便なる蒸氣機關を作り此の蒸氣機關より護謨パイプを以て全身用の安臥箱若しくは局部用の治療器に蒸氣を送り適當に全身若く



上田力商店工場上田力君

は局部を温むるにあり、洵に生理と化學とを應用せる完全にして輕便而も身體何れの患部にも隨意に應用することを得る發明器にして科學療法の發達せる近世に於ける最も最新且つ效能顯著なるものなり、尙同器の效能に就きては夙に廣島病院長澄川醫學博士、小久保病院長小久保博士、大坂東條產科婦人科病院長東條醫學博士、大阪緒方病院内科長緒方ドクトル、同内科緒方醫學博士、同皮膚科田村醫學士、同産科婦人科内野醫學士、同外科

田中醫學士大阪府天下茶屋真本醫院真本先生、京都佐伯病院長佐伯ドクトル、東京耳鼻咽喉科病院秋月醫學士渡邊陸軍々醫正、京都府醫師會長齋藤醫學博士、同市醫師會長田中先生を始め、他の醫學博士或は諸大醫の實驗好評に依り、或は同器使用患者の成績に徴して明かなる所にして、現に海軍病院、廣島病院、廣島船入傳染病院等に使用して其効果を認められ、今や一般に其の使用を推奨せられ、家庭に於て必要不可欠からざるものなりとの高評を博し、つゝ、あり、今同器の急性疾患に對する作用に就き説明せんに、蒸氣治療は之を人體に施せば、(イ)全身の新陳代謝機能を旺盛にし、(ロ)健康素の含量を豊富にし、(ハ)血液を以て鮮紅純潔ならしむ、從て其の結果として、(一)血液の抗毒力を強大にし、(二)有害微菌を殺滅し、(三)有害殘滓物を酸化中和せしめ、(四)内膜を強力完全ならしむ、斯の如く同器治療が他の藥物治療に比し、特に優良なる治績を擧ぐる事を得るは、是れ同療法の最も合理的治療法として、大に誇るべき特長なるなり、又た蒸氣治療は之れを慢性肋膜炎、慢性腹膜炎の如きものに施せば、自然的に病勢を弱め、而して終に治癒せしむるに至るべし、蓋し其作用は血液の健康素含量を豊富にし、鮮紅純潔に至らしめ、從て自然の本能を復活するは、原因す、胃弱、胃腸加答兒、消化不良、咽喉加答兒等に應用するに、食慾を亢進し、消化力を強盛ならしめ、且つ便通を佳良ならしむ、又神經痛、ロイマチス、關節炎、子宮内膜炎等に施せば、其患部に滯溜せる毒素を酸化且つ中和して、遂に健康體に復せしむる效力を有す、因に同器には、第一號より第五號に至る全身並に局部の各種ありて、定價は參拾八圓より七拾五圓まで、汽罐共五拾八圓より百五圓までなり、因に同店は大阪市南區順慶町二丁目四十七番地(電話船場五九六番振替口座大阪三八二七二番)に在り。

株式會社 山田洋紙店

同店の創業は遠く明治二十二年に在り、明治二十五年春富士製紙株式會社關西代理店と爲り、明治三十年秋より我國の洋紙を率先支那方面に輸出して多大の功績を擧げ、同四十二年十月個人營業より合名會社に改めしが、大正七年四月更に業務の擴張と共に社會の進運に鑑み、資本金壹百萬圓の株式會社となしたるものなり、而して現に重役としてその經營に任ずるは、専務取締役藤岡貞次郎、常務取締役菊原敬次、同兩宮親重、同松原常興、同山田莊五郎、監査役小菅四郎、同狩野伊兵衛等の諸氏とす。



株式會社山田洋紙店専務取締役 藤岡貞次郎 君

同店の營業所は大阪市北區南森町四十四番地に在り、創業以來多年の努力は、逐年業務の繁榮を來し、今や斯界の重鎮として、牢固たる地盤を有し、内外の信用頗る厚し、營業品目は上等印刷紙、普通印刷紙、煙草口紙、表紙、和洋半紙、包裝紙、各種漉色紙、ロール紙、模造紙、新聞紙、更紙、繪葉書用紙、各種板紙等にして、年額五千萬封度以上に達し、主なる販路は内地全國は勿論、朝鮮、支那、印度、フィリピン、南洋諸島、アフリカ、濠洲方面に至る迄、年々多額の製紙を輸出し、最近に至りては更に歐米各國に迄輸出するに至り、その製品は品質の佳良、體裁の優美を以て、汎く内外市場の好評を博し、あり、されば從來各所の博覽會共進會等に出品して、名譽賞牌等を得たること多く、最近に於いては大正四年十一月京都大禮紀念博覽會に於いて、名譽賞牌を大正五年五月大阪貿易品共進會に於いて、紀念狀を同七年大阪化學

工業博覽會に於て、金牌を各受領するの榮を得たり、以て品質の優秀なるを推知すべきなり。同店は創業以來多年の間、専ら顧客本位の營業方針を以て、逐次堅實なる地盤を建設擴張せるを以て、其經營の健全にして、諸般設備の完整せる、斯界稀に見る所なり、而も同店は之を以て満足せず、更に如何にして需要に好適なる優秀品を廉價に供給し、以て戦後列強の競争場裡に備ふべきやに、意を注ぎ、製品の改良、輸送の安全、需用狀況等に關し、常に熱心なる研究を怠らず、益々海外市場に調歩して、販路を開拓し、以て我國商權の確保に貢獻せんことを期し、つゝ、あり、斯くて業運隆々、今大正八年上半期の決算に於て、金貳萬四千七拾圓餘の純益金を擧ぐるの好成績を示せり、顧みれば、近時文運の發達と經濟界の好況とは、洋紙の需用を益々多大ならしめ、製紙界は異常の發展をなしたり、と雖も、歐洲戰亂以來、洋紙の輸入杜絶して、紙價の昂騰甚しきは、需用家の遺憾とする所なり、此時に當り、多年關西の斯業界に雄飛して、名譽を博せる山田洋紙店が、堅實なる營業方針を以て、優良なる製品を市場に供給するのみならず、遠く製品を海外市場に輸出して、我國貿易界の開拓に努力し、つゝ、あるは人意を強うするに足るものあり。

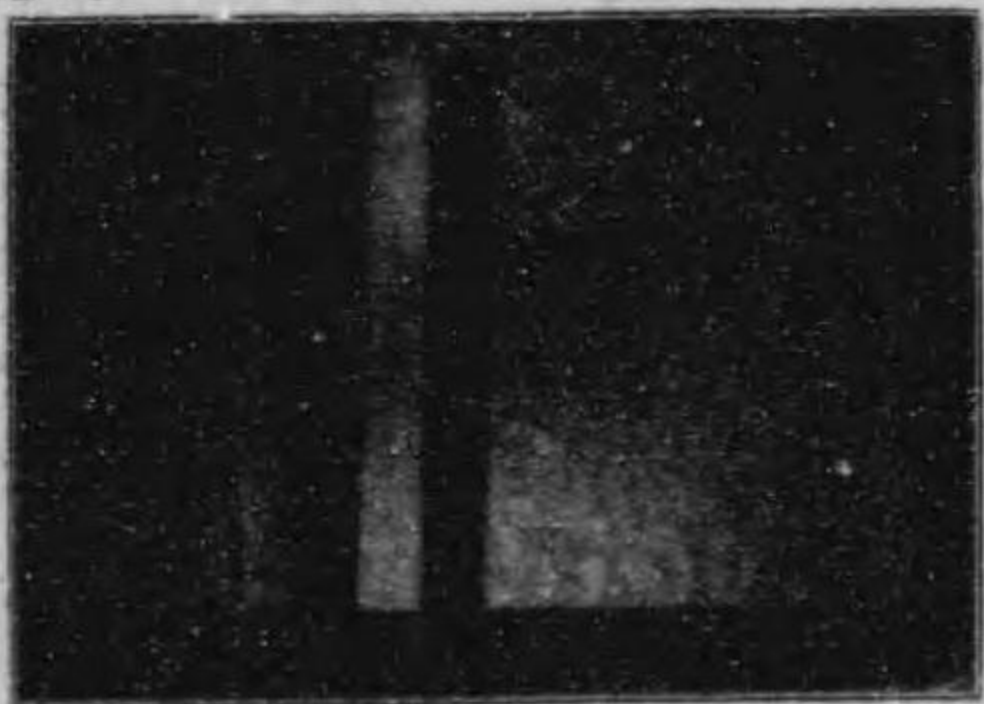
淺野木工工場

淺野木工工場は淺野式合板並にセメント樽、輸出箱材、製材建築家具用材、設計加工板、輸出木工品一般を以て、其營業科目とする大工場にして、其の創立遠く明治二十二年に在り、創業以來年と共に隆盛の域に進み、今や一ヶ年の合板製産能力實に一千萬平方尺を算するの盛況を示せり。



淺野吉次郎 君

抑々淺野式合板は同工場が專賣特許第二七五號、第二五五二號、第二八七五號及第二九〇三號を所有し、其方法設備により製造するものにして、ベニヤ板又はアナノ板と略稱せらるる今之れを簡單に説明せば、薄き木板を縦横に三枚乃至數枚張合せたる後、表面を普通の鈎にて削り仕上げたるものにして、使用上普通木材と更に相違なく、木材として最貴重なる色澤光輝は永久に損することなきものなり、而して(一)其加工木材の種類は別に制限する所なく、如何なる樹種にても、顧客の希望に應ずることを得、桐柳の如き柔軟なるものも、樺、黒檀の如き硬堅なるものも、更に區別なく、悉皆木材加工をなし、つゝ、あれども平素在庫品として多數の持荷準備あるものは、檜、榎、樺、楓、樺、楓、桐、檜、榎等なり、とす、同板の(二)特長として、舉ぐべきは(イ)幅廣し、幅三尺もの迄は、幅の廣狭に依り、建直に區別なく、更に幅幅のものも注文に應ずる事を得、(ロ)美麗なり、在來の柾目板目の如き平三、尺もの迄は、幅の廣狭に依り、建直に區別なく、更に幅幅のものも注文に應ずる事を得、(ハ)美麗なり、在來の柾目板目の如き、或は渦卷の如く、又は速に比すべき雲に擬ひ、花に競ふが如し、(ニ)堅牢なり、全理縦横に練り著けられ、ば普通板材に比し、數倍の耐力あるのみならず、剝離割裂することなく、彈性に富み、容積僅少にして、大なる負擔力に堪ふ(三)歪まぬなり、木質の自然性を矯正し、あれば伸縮狂歪の虞なし、(ホ)使用簡單なり、普通木材に比し、仕上に手数を要せず、加工極めて容易にして、如何なる緻密精巧なる加工應用にも使用せらる(ヘ)値段安し、天然材にては、金銀にて得られざるものを容易に供給する事を得等にして、尙(三)其用途は建



淺野木工工場製出品



築用一般木板の用途のみならず其の應用は頗る多く日々新らしき方面に利用せられつゝあり就中(一)和洋建築造作及び裝飾用竿張り天井格天井寄木張天井折上天井切抜き又れ象箱入天井鏡欄間張壁張床板椽踏込寄木敷込欄床板地板階段唐戸等二家具指物一式裏板抽出底板羅紗張下地其他裏板使ひ表板としては衝立書棚椅子卓子机ストロー飾簾筒火鉢茶糊鏡臺額戸襖戸唐戸押入戸唐紙腰障子見切間仕切引違戸トランプ帽子箱蓄音器等三船舶車輛飛行器自動車用材及裝飾用材木型用材機械取付盤製圖板機筒等四漆器素地塗下地及び木摺用等五彎曲細工象箱切抜押出し細工用六荷造外箱樽ケース等(七)廣告看板用等にも最も適當し好評噴々たり因みに同場は本店及工場を名古屋市西區上島町電話一四一〇八〇番に置き東京販賣店を東京市神田區三河町一丁目十五番地電話神田長一六五三番に置く

株式會社 今橋 商會

今橋式自動敷島八千代精米機其の他各種精米機械器具の製造販賣店として盛名隆々たる株式會社今橋商店は大正四年十二月資本金貳拾萬圓を以て從來社長今橋芳松氏が個人經營に係りし精米機械製作販賣の業務一切を繼承して創立せられたるものなり今橋氏が身を斯業に委ぬるに至りし由來の概要を述べれば元來同氏は永年精米業に従事せしが其の間新式と稱する精米機を購求使用すること八種の多きに達せしも皆な大同小異にして未だ時勢の要求に適したるもの一つとしてなかりきこれ畢竟是等考案のものが總て機械營業専門家の技術に出でたるものにして其の目的は販賣にのみ重きを置き眞に着實なる精米營業者の希望と實益を參酌したるものなきが故なり是に於て氏は慨然奮起して多大の費用と數多の日子とを擲ち自ら躬を斯機の改良に投ずるに至りし斯く之が研究に苦心すること多年遂に能圓を別途積立金に九百六拾圓を役員賞與金に各充當し年壹割の株主配當を行ひ四九百八拾八圓餘を後期に繰越すの好成绩を示せり



今橋商店

今試に同社の主要製品たる今橋式八千代敷島精米機の特長を述べれば一機械の構造堅牢簡單にして精巧なる事一自動繰上機により人手を省き努力を要せざる事一運轉に震動と音響無く頗る靜穩なる事一破損修繕の憂ひ最も少き事一精白高迅速多量にして無熱米質を損せざる事一搗減僅少にして精白清麗佳良なる事等の諸點なりとす同機の優良や夫れ既に斯の如し宜なる哉今や其の販路は海内一圓に洽く註文日に殺到して日夜之れが製作に忙殺せらるゝの盛運を示せる事や尙同社製品は今日迄各種博覽會共進會等に出陳して最高の賞牌を授與せられたること枚擧に遑あらず亦以て如何に其の

東洋鐵合資會社

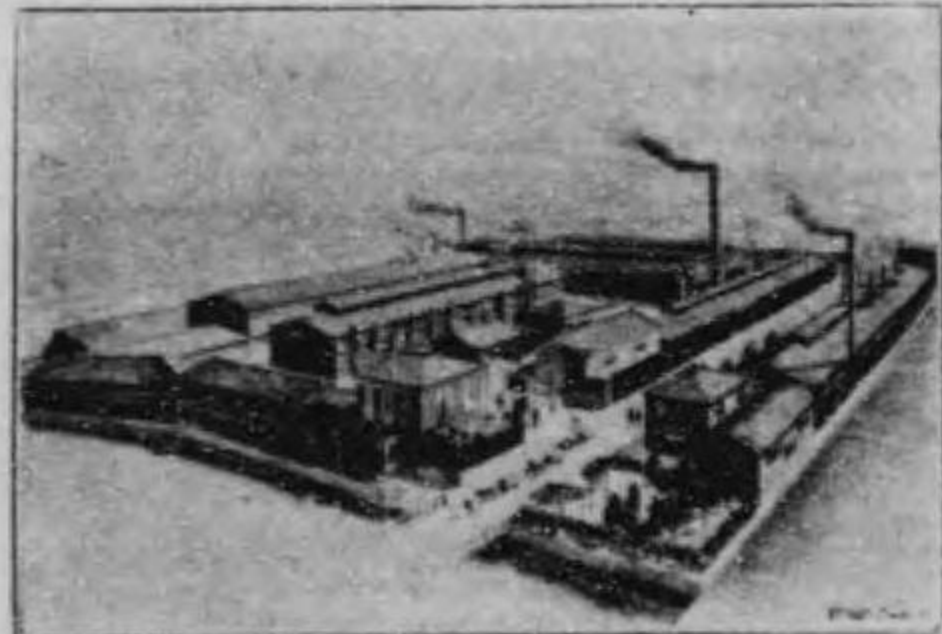
優良なるかの證左とすべし想ふに同社將來の發展や益々利目に價するものあらん因に同社は營業部並びに製作部を大阪市西區江戸堀北通三丁目四十六番屋敷に置き第一製作場を同町四十八九番屋敷に第二製作場を同市南區難波稻荷町二丁目に東京支店を東京市芝區櫻田久保町に廣島出張所を廣島市猿猴町に九州出張所を福岡市博多上吳服町に設く現重役は専務取締役社長今橋芳松取締役今橋作太郎同千々岩真次同堺勝太郎監査役廣渡源七同福井健造の諸氏なり



社長 伊藤 義明 君

同社は明治四十一年五月を以て創立せられたるものなり蓋し當時本邦に於ける鐵製造の技術未だ幼稚なりし爲め優良品を必要とする需要家は多く之れが供給を外國製品に仰ぎ其内國品を採用するものに至つては極めて僅少を數ふるに過ぎざりしを慨せしに依るれば創業以來深く期する所あり専ら品質本位を以て營業の第一義となし一意工場並に機械の改善を圖り一面歐米最新式の機械を購入して之が研究に努力すると同時に他面孜孜として斯品製作技術の練磨に精勵刻苦し兩々相俟つて只管精良なる製品を得る事に努めしかば其效幸にして空からず漸次優良品の製出に成功するに至り茲に於てか同社は之れを陸海軍各工廠並に三菱造船所等に提供し實地試験を受けしに其の優秀なる事を認めらるゝに至りたり爾來同社の製品は從來外國品のみを使用し來りし陸海軍各工廠及び三菱造船所等の納入品となり殊に長崎造船所の如きは全然輸入品の使用を廢止し之れに代ふるに同社の製品を採用するに至りぬ

斯くて同社の業務は日に隆々として繁榮の域に進み需要年と共に激増するに至りしかば同四十四年更に大工場を新築して移轉し以て製造力を倍加すると共に品質の改善に一層努力を加へたり既にして大正六年七月株式會社廣島鐵製作所の敷地工場機械全部を買收して之を分工場となすに及びて更に其の製産力は一段の増加を見るに至り尙之れより先き大正三年同社は別に鑄造製作部を設けて各種合金則ち黃銅青銅滿庵青銅アルミニウム等の鑄造仕上並に鋼鐵製諸機械の製作を開始し汽機汽罐の附屬品艦船水道紡績電氣鐵道等の用品各種ポンプ製糖機ベイント製造機其他各種鐵工用諸機械の製作をなし各方面の需要に應ぜしが就中同四年十二月以來大阪砲兵工廠より啄螺隔飯信號管本體著螺大中小藥盤各數萬個の製作を命ぜられ何れも豫定の如く之れを完納し又同五年一月より露國政府の注文に係る速射野山砲榴散彈用藥素製二十二秒復働信管二十五萬個の製作を受負ひ之れ亦た全部約束期日に完納し次で又大阪砲兵工廠の注文に係る信管部品及鐵工用諸機械等の製作を了せり斯くて同社の製品は聲價年と共に内外市場に噴霧せられ昨大正七年四月大阪化學博覽會に於ては金牌を授與せらるゝの榮譽を荷ひ今や其の販路の如き内國一圓に洽きのみならず遠く支那印度澳洲及露國に及ぶの盛況を示しつゝあり因に同社は本社を大阪市北區西野田大開町に置く同社業務執行社員社長伊藤義明君は實に同社の創立者にして曾て福島合名會社に在りて識力才幹群を抜き夙に他日の飛躍を想はしめしが果然同社を創立するに追て其才能は遺憾なく發揮せられ同社をして遂に能く今日



東洋鐵合資會社全景

### 阪川牛乳店

の殷盛を見るに至らしむ偉なり云ふ可し。

帝都幾多の牛乳店中に在りて特に其營業品の品質優良なると業務の殷盛とを以て盛名を噴稱せらるゝものを東京市麴町區麴町三丁目なる阪川牛乳店となす同店は明治三年五月先代阪川常晴氏の創立に係る當時牛乳の需要極めて少なく僅かに松本病院及陸軍病院等に納入したるに過ぎず經營困難を極めしが氏は克く斯業を維持し松本男爵監督の下に益々業務に奮勵し漸く一道の曙光を見るに至りしも十七年一月不幸にして病歿せしが當主阪川壽及同登の兩氏は當時尚ほ幼冲なりしを以て爾後僅かに老母の織手に依りてその遺業を維持せられしに過ぎず而も「正直は信用の礎にして信用は成功の基なり」との格言を唯一の店則とせる多年の誠實なる營業振りは世上の信任を博し二十七八年戰役に際しては陸軍衛成病院の御用を蒙り次で順天堂病院等の採用する所となり業務日に繁榮を加へたり而して衛生思想の普及と共に乳汁消毒殺菌の必要を唱へらるゝや三て販賣石數一躍二十五倍の多きを數へ今や青山御所、北白川、朝香兩宮家を始めとし高貴へ納乳するの光榮を荷ひ其の販賣區域は東京市内十五區は勿論之に隣接せる諸郡に亘り其の哩數五百三十六哩に達し乳兄弟姉妹は五十餘萬人を算するの盛況を示せり又同店は大正四年更に牛乳工業部を設け乳の素石鹼、マキバ乳洗粉等を苦心發明せしが時恰も歐洲の輸入杜絶に際し品質の優良なる遙かに外品に勝れるを以て貴婦人紳士の愛用する所となり好評今に至りて益々噴々たり目下同店の營業品目の重なるものは衛生牛乳、阪川育兒牛乳、濃厚衛生脱脂の三種あり特撰消毒牛乳、消毒牛乳、山羊の乳、滋養靈品、フヒール、長養靈品、ヨークル、純良クリーム、梅花印コンデンスミルク、新鮮バター等にして外に牛乳を原料とせる高等化粧料、乳素石鹼一號、ニクソン石鹼二號、ニクソン洗粉等の諸品あり何れも品質優秀を以て名聲高く從來幾多の博覽會共進會等に於て受賞せること三回に及べり噫、同店現時の殷盛を見るもの洵に偶然ならざるなり。



君業川阪と店本川阪

津野慶太郎氏に乞ひ奉先消毒装置を完備して消毒法を勵行し且つ萬般の經營は同博士の指導監督を受くること、なり品質の優良と相俟つて益々繁榮に赴けり依つて三十四年府下代々橋村字橋ヶ谷に牧場を設け超えて三十八年津野博士の歐米視察を



君登川阪と場牛乳川阪

終へて歸朝し斯業改善の要を説くや同店大に感奮する所あり三十九年二月十一日の佳節をトし阪川牛乳を精製發售し大に好評を博し需用日に増加せるを以て四十年更に最新式の衛生牛舎を新築して業務の大刷新を行ひ發賣後僅かに二年を以

### 武市森太郎君

帝都木材界の雄傑武市森太郎君は徳島縣阿波國勝浦郡大谷の人武市虎藏氏の三男なり嘉永二年七月二十日を以て生る

夙に雄志あり郷關を辭し東京に出で同郷の久志目氏の經營に係る材木問屋に入りて徒弟と爲り精勵拮据、夜々として斯業に従ひ幾くならずして擢んでられて支配人たり、後明治二十二年に至り同店を辭し、獨力材木問屋を開業し、稀觀の手腕と絶倫の精力とを提げて其の發展を圖り、創業日尙ほ深からざるに遂に斯界に一頭地を抜くに至る、又た餘力を諸多の事業に割き現に株式會社東京堅鐵製造所、秋田木材株式會社の各監査役たり、又た推されて東京木材問屋組合組長と爲り、其の振興發展を企劃し、神補する處頗る大なり、之れより先き明治十八年三井物産會社の支那に鐵道を布設するや君之れが枕木の注文を引受け當時桑名、日取、山林局より一手拂下げを受け即時同社と契約して引渡を了せしめて枕木賣買の契約をなし、君は直に秋田青森の官林拂下げを受け更に北海道にて官有林の拂下を得て枕木を製造し天津に輸出して巨利を占む、之れより先き同十九年君獨力を以て秋田縣下の官有林十箇年繼續拂下の許可を得着々伐採の業を進む現時本邦木材會社の重鎮たる秋田木材株式會社の事業は實に君が斯事業に其の基礎を置けるなり、君天資眞摯にして雄邁且つ頗る仁慈の徳に富む其の見其の識常に時流を抜き或は木材の集散東北地方と關西方面との不統一を慨し、或は業務の競争劇甚なるの除弊は延いて山林の濫伐と爲り、益々良材の減少を來すを憂ひ、常に其の弊を矯めて以て林業の爲め社會の爲め將た同業者各自の利害の爲めに其の裨益する所倍々大ならん事を苦慮す、亦た以て君が抱負の那邊に存するかを窺知するに足らん、夫人チカ子は福島縣の人永田佐吉氏の次女にして夙に貞淑を以て聞ゆ。



君那太森市武



君那太森市武



君那太森市武

### 横濱電気株式會社

本邦電氣界に於ける一方の重鎮として逐年隆々たる業績を擧げつゝ、ある横濱電気株式會社は初め横濱共同電燈會社と稱し明治二十二年七月田沼太右衛門氏外十一名の發起に成り、遂に上野幸八外六名の發起に係る横濱電燈會社の營業權を譲り受け横濱市及び其の附近町村を營業區域と爲し、資本金參拾萬圓を以て同市常盤町一丁目に發電所を設け、二十三年十月一日を以て營業を開始せり、當時電燈の事業尙ほ幼稚にして一般の需要者亦た其の利便を知悉するに至らず、爲に幾多の困難に遭遇せし、二十五年八月木村利右衛門氏社長に就任するや上野吉二郎氏を支配人に聘し、茲に面目を一新するの端を開き、二十六年上半期に至り始めて五分の利益配當を爲し、降つて三十一年に至り實に壹割貳分の利益配當を爲すの好況を呈せり、茲に於て第一回増資參拾萬圓を加へ、裏高島町二丁目に發電所を新築し、三十八年再び參拾萬圓を増資し、三十五年より四十年に亘り壹割五分の配當率を持續し、四十年神奈川電燈株式會社資本金拾貳萬圓を併せ、尋いで三たび増資して九

拾八萬圓を加へ四十年箱根水力電氣株式會社資本金百貳拾萬圓を併合し商號を現稱に改め同時に水力電氣と火力電氣を併用し四十三年峯送電線路及び峯變電所を建設し四十三年横須賀送電線路及び返子變電所を建設して横須賀海軍へ電力の供給を開始し又た一般電燈料金を低減して大に電燈の普及を圖り更に四たび増資して參百參拾萬圓を加へ横須賀電燈瓦斯株式會社資本金五拾萬圓を併合して横須賀支店を設置し尋いで江之島電氣鐵道株式會社資本金五拾萬圓を併して江之島電氣鐵道部を設け大正元年横須賀支店經營の瓦斯營業を開始し又た市内千若町一丁目神奈川



社長 野上 吉郎 君

火力發電所を新築し二年十二月本社を現在の裏高島町二丁目三番地に移轉せり爾來社業年と共に盛んにして今や其の資本金は壹千五百萬圓の鉅額を算し今大正八年上半年に於ける決算に於て總收入貳百八拾參萬九千四百八拾餘圓總支出金貳百拾七萬參千四百四拾貳圓餘

### 九州電燈鐵道株式會社



本社と箱根の發電所

差引六拾六萬六千參拾八圓餘の利益金を舉げ之に前期繰越金拾八萬參千五百七拾五圓餘を加へ合計金八拾四萬九千六百拾四圓餘を計上し内參萬五千圓を法定準備金に五萬圓を諸機械電線路建物償却準備金に壹萬圓を職員年功手當積立金に貳萬參千參百拾壹圓を役員賞與及金に各充當し年壹割壹分の株主配當を行ひ貳拾壹萬五千六百七拾八圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり夫れ斯業は世上文明の進歩と共に益々發達すべきものたるや論なからん同社將來の發展亦想ふべきのみ因に同社の現重役は取締役社長上野吉二郎常務取締役駒井宇一郎取締役原富太郎同太田黒重五郎同若尾幾造同渡邊福三郎同川崎榮助同木村庫之助同白杉政愛同監査役戸塚森太郎同大西正雄同平沼久三郎の諸氏にして何れも財界知名の士たざるはなし



松永 安左衛門 君

其の資本額に於て將た其の營業狀態に於て巨然として雄を我が電氣業界に稱せるものを九州電燈鐵道株式會社と爲す同社は當初博多電燈福博電軌九州電氣の三會社合同に其基礎を立て爾來佐世保電氣外六會社を併買收し更に大正五年五月長崎電氣瓦斯馬關電燈久留米電燈の三會社を併合して各其の事業を聚合統一し今や其の資本金總額は實に壹千八百萬圓の鉅額を算し其の營業は電燈電力供給瓦斯電氣鐵道輕便鐵道の廣きに及び雄風沈々昔に九州電氣業界の霸王を以て稱せらるのみならず正に帝國斯界の一巨星を以て仰がるものにして現在本社を福岡縣福岡市天神町五十八番地に置くを以下少しく其事業の現況を述べん

(一)營業狀況 (A)電燈及電力 同社營業の主たる電燈電力の供給區域は現在福岡佐賀長崎の三縣並に熊本及山口二縣の一部に及び範圍の廣大蓋し海内稀れに見る所に屬し二百有餘哩の送電線と一千有餘哩の配電線を有せり由來九州の地たるや氣候和順地味肥沃加ふるに諸工業の原動力たる發電水力並に石炭の豊富なるのみならず其他の礦物又た隨所に産出するを以て輓近諸事業の勃興洵に眩目に價するものあり之に因りて各都市並に村落は日を遂うて異常の繁榮發展を示し從つて電燈電力の需要を激増せしめ目下全供給區域を通じて電燈數約四十二萬燈販賣電力數約一萬四千馬力の多きを算せり而して將來に於ける發展は更に益々甚だしきものあるべく同社は之に應ぜんが爲め既設二萬五千餘馬力の外新に火力水力に於て約三萬一千馬力の建設に着手し更に計畫中のもの約一萬五千餘馬力を數ふるが故に近き將來に於ては優に七萬餘馬力の一大發電設備を以て是等の大需要に應ずることを得べし (B)瓦斯 同社長崎支店に於ては電燈電力の外瓦斯供給を兼營し逐年燈用熱用共に増加しつゝありしが最近に至り更に熱用に於て増加の傾向あり加ふるに同社も亦た熱用方面に進展せんことを勉めつゝあるが故に斯業の將來も亦た益々多望なりと謂ふ可し大正六年上半年に於ける需用口數は燈用七六七〇孔熱用五〇〇五孔を示せり (C)電氣鐵道 鎮西第一の大都市福岡の中樞を縱貫せる大街道に敷設せる延長五哩七鎮を有する廣軌電氣鐵道にして大正五年最新式九十三磅米國製溝型軌道に敷換へしものなり東は箱崎八幡宮前より起り東公園を縫ひ市内に入り吳服町に於て博多停車場へ分岐し一方幹線は更に福岡縣廳九鐵新築本社前より西公園を通り市の西端今川橋に至りて北筑軌道と連絡す開通以來市の發展に伴ひ乗客收入共に逐年増加し目下有する客車五十五輛は常に滿員の盛況を呈し最近一日平均乗客數約四萬一千五百人此の賃金約九百六拾圓を算するに至り前途益々多望なり茲に特筆すべきは同業創始當時の建設費僅かに八拾七萬圓即ち一哩平均約拾七萬圓に過ぎず從つて創業當時より優に年壹割の利益配當をなし尙多額の積立金を剩し得たるの一事にして大正六年下半年に於ける收入額約拾七萬



九州電燈鐵道株式會社

便鐵道の布設せらるゝに至らば土地の繁榮と共に本軌道の業も亦た益々有望なるや論なし (二)發電所變電所及送電線配電線 (A)發電所 大正六年十月末に於ては同社の全供給區域に互り下關營業區を除くの外何れも水力火力を併用運轉せり而して其既設發電所は川上川第一同第二同舊廣瀨住吉長崎同下關の八個所にして此發電設備總計二五、二四四馬力にして工事着手及準備中の發電所は廣瀨長崎山本の三個所發電設備合計一四、二三〇馬力なり (B)變電所 は住吉早良箱崎多良岩尾相知唐津佐賀第二大川大牟田安武三藩武雄佐世保大村長崎神崎佐賀第一馬柄西久留米東久留米の二十一箇所にして此總容量二〇、〇四五キワット變壓器數合計七十四個所なり (C)送電線路配電線路 前者は互長計二〇七哩餘支持物合計鐵塔八八〇本木柱三三〇八本コンタクト柱五二九本にして後者は電壓二、三〇〇及三、五〇〇ヴォルトの二種に依り各營業區共電燈及電力線に分れ互長一、一五九哩支持物三八、八四六本なり (三)本支店營業所支所及び發電所所在地 上述の如く同

社本店は福岡市天神町に在りて電燈課及び電車課は本店内に置き、東車庫は同市外東公園に、西車庫は同市今川橋に在り、而して長崎支店を長崎市袋町に、佐賀支店を佐賀市唐人町に、下關支店を山口縣下關市竹崎町に、佐世保支店を佐世保市戸尾町に、久留米支店を久留米市日吉町に、大牟田支店を大牟田市築町に、設け、尚ほ、絲島出張所を福岡縣絲島郡前原町に、柏屋出張所を同縣柏屋郡仲原村に、宗像出張所を同縣宗像郡東郷村に、諫早出張所を長崎縣北高來郡諫早町に、柳河出張所を福岡縣山門郡柳河町に、小城出張所を佐賀縣小城郡小城中町に、武雄出張所を同縣武雄郡武雄町に、鹿島出張所を同縣藤津郡鹿島町に、伊萬里出張所を同縣西松浦郡伊萬里上下町に、有田出張所を同縣佐賀郡久保田村徳力に、早津江出張所を同縣中川郡早津江に、尼寺出張所を同縣春日村尼寺に、早岐出張所を長崎縣東彼杵郡早岐村中町に、相浦出張所を同縣北松浦郡山口村相浦に、江ノ浦出張所を福岡縣三池郡江ノ浦村に置き、別に唐津營業所を佐賀縣東松浦郡唐津町に設置せり、斯くて業績隆々年々異常の成績を示し、大正八年上半期の決算に於て總益金貳百八拾四萬八千貳百拾六圓、總損金百七拾五萬六千八百七拾五圓を算し、差引利益金百九萬千參百四拾壹圓餘の利益金を得、内貳拾萬圓を固定資本價却金に當て、八拾九萬壹千參百四拾壹圓餘の純益金を擧げ、之れに前期繰越參拾萬參千六百拾參圓餘を加へ、合計金百拾九萬四千九百五拾四圓餘を算し、内四萬五千圓を法定積立金とし、參萬八千圓を役員賞與金とし、年壹割貳分の株主配當を行ひ、參拾八萬七千四百圓餘を後期に繰越すの盛況を示せり、現重役は取締役社長伊丹彌太郎、常務取締役松永安左衛門、同田中徳次郎、取締役山口恆太郎、同小林作五郎、同原庫次郎、同野口忠太郎、同大島小太郎、同中野實、同古賀春一、同寶邊岩次郎、同川津龜治、監査役深川喜次郎、同吉田久太郎、同各務幸一郎、同橋本辰二郎、同岡部忠太郎、同脇山啓次郎、同松尾琢三の諸氏にして、相談役は福澤桃介、評議員は本村庄平、國武喜次郎、幸積徳助、關谷福太郎、則元由庸、中村綱次、藤永恆太郎の諸氏なり。

藤田組と男爵藤田平太郎君



藤田組は明治財界の英傑として名聲一世に震ひし故男爵藤田平太郎君の創設する所に係り、現に男爵藤田平太郎君之を董督す、平太郎君は傳三郎翁の嫡男にして明治二年に生まる、壯時慶應義塾に理財學を修め、卒業後海を航して英京倫敦に遊學し、殊にアルオマン礦山に礦業の實地を研鑽して造詣頗る遠く、歸朝してより藤田組の事業に心力を凝き、尋いで副社長の樞要に居りて、拮据策畫して、同組をして今日の盛狀を致さしめたるもの固より唯だ父翁と君と戮力協心の結果なるのみ、四十五年家督を相續して社長と爲り、父翁の遺業を繼承して更に恢弘し、萬般の施措曾つて過まらず、謂ゆる計に失なく、算に遺なくして、更に望高く、海内の長者を以て世の景仰する所となり、殊に有爲の人物を宏く求めて、適材を適處に置き、現に前新瀉縣知事として、各名噴々たりし坂仲輔氏を延きて、總理事の任に膺たらしめ、其の精力の勝ぐれて、且つ資望材幹の高きや、藤田組社長たるの他に幾多諸會社の重役となりて、其の經營に參畫し、或は内國勸業博覽會評議員、日英博覽會評議員、日清協會會長、東洋協會大

阪支部長等に推され、公私の各方面に互りて竭力盡瘁し、世の垂拱長者と全く選を異にせるの最も欽敬すべし、現に従五位勳五等たり。

藤田組の事業は則ち平太郎君の家業にして、現在其の經營事業の主要なるものに、鑛業あり、農業あり、林業あり、而も皆規模を傾倒して新機械を使用し、新學理を應用し、施設萬端、曩時と全く面目を改めしかば、果して累歲發展し、採掘額の多大なるに及び、故男爵の素懐空しからざるを得たり、然して從來鑛業界に不可能視せられたる黒鑛製煉法を大成したるは、同鑛山の盛狀をして一層の躍進を致さしめたるものとす、而來、土鑛採銀作業を閉鎖して、銅鑛の作業に従ひ、或は鑛業用五千馬力の水力電氣を裝置し、或は延長十七哩の掘



君那大德田藤

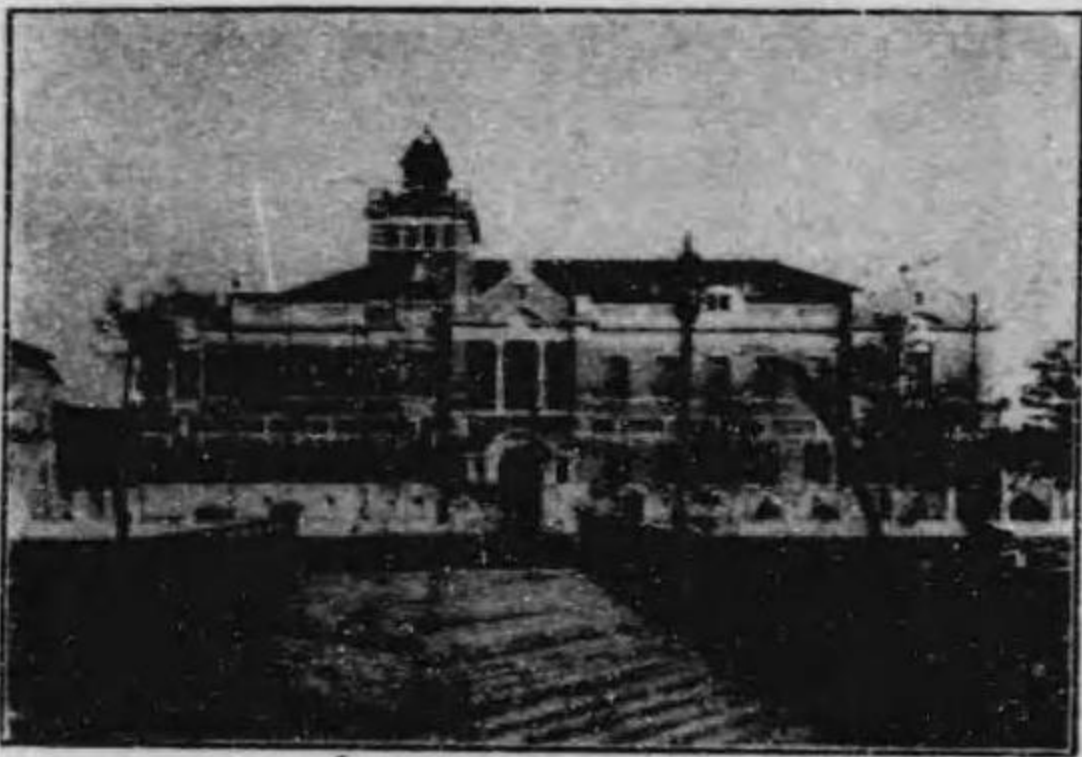
りて、明治二十年藤田組の經營に移り、金、銀、銅等を産出し、前年採鑛製煉法に改良を加へしより、産額著増し、現今は百萬圓内外を産す、(三)大荒澤銅山は岩手縣和賀郡に在り、大正二年以來、焙鑛爐を新設して製鍊業に従ひつゝ、あり、黃銅、黃鐵、酸化銅を出だす、(四)松岡鑛山は主として金を産出し、其他銀、銅、鉛等も尠ならず、所在地は秋田縣に在り、(五)田子内鑛山は是亦た秋田に在り、主鑛は金、銀にして、黃銅、黃鐵、方鉛、亞



君那三産田藤

鉛等を産出す、(六)帯洗鑛山は主鑛を銅とし、銀之に亞ぐ、所在地は岡山縣都窪郡なり、(七)虎岡鑛山は近く大正四年より藤田組の經營に歸し、銅を主要鑛とし、銀之に亞きて、金及銀を産出す、(八)瑞芳鑛山は臺灣基隆堡瑛仔寮庄に在り、同組が領臺後、爾

他の鑛業家に先鞭を著けたる鑛山にして、主要鑛を金と爲し、最新式の方法に依りて掘鑛及製鍊に從ひ、設備大且整はり、同島に於ける模範鑛山の稱あり、安突蘇民鑛山は朝鮮に在りて世に知らる、其他將來に採掘せらるべくして未だ着手を見ざるもの甚だ多し、最近大正六年福岡縣美奈木鑛山(銅鑛)岡山縣棚原鑛山(銅鑛)硫磺鑛(同縣瀬戸鑛山)銅鑛(同縣小百鑛山)銅鑛を買収し、孰れも採鑛を終ると共に、相前後して大規模の計畫の下に採鑛を開始すること、なれり。



島灣埋立を官廳に出願して認可を得たるは明治二十年の事に屬せしが中道種々の障害に逢着せしも遂に三十二年實地工事に着手することとなり而來工事が進捗し灣内五千數百町歩の埋立地には大農法を採用し、諸種の設備全く整ひて東

栗原紡織工場と場主栗原幸八君

同工場は東京市本所區柳島横川町十一番地に在りて當主栗原幸八氏の母堂イネ子刀自が明治二十一年九月地を同區若宮町八十七番地に相し、僅々參百圓に過ぎざる資本を投下して内機十四臺出機十七臺を裝置し、以て東京雙子織の業を初めたるに濫觴す、當時其の製品は日本橋區久松町下村、同區伊勢町中島等の商店に於いて販賣せらる、爾來拮据經營其の發展に致々勉勵し、亞麻織、細子、瓦斯四ツ織、袴地等の製織を爲し、二十六年更に毛絲肩掛、縮毛織、セル地等を製出し、此年始めてジャーカード機織機を買入れ、紋織の業を創め、二十七年機臺を五十餘臺に増加し、次で二十八年機臺を六十餘臺に増し、二十九、三十の兩年には同工場の新工夫に成る瓦斯振風通織、瓦斯大島織を製出版賣するや、非常の時世の嗜好に投じ、江湖の需要頗る増加す、三十一年機臺を九十餘臺に増加し、内ジャーカード機三十五臺、瓦斯八丈オランダ織、羽衣上布及リボン織を併ひ、四十二年力織機四十八臺を増設し、手織機は八十臺に減じ、次いで力織機を六十臺に増し、原動力にモーターを使用するに至り、モーターを生地六百十二號は其の賣行益、旺んにして市内の販賣は杉村、山崎の兩店を主として大阪地方にも漸次販路を擴張せり、既に大正元年一月より紡績作業を始め、同二年紡績十二臺を増し、其の製品は専ら杉村西村の兩店に販賣し、其製品は専ら毛絲及びモスリンと爲す、爾後業運と共に益々殷んにして今や工場敷地六千五百餘坪男女職工五百餘名紡績簽數七千七百織機二百臺、年産額モスリン生地六百十二號五百萬碼、綾モスリン二百萬碼を算するの盛況を見るに至る蓋し同工場の今日ある賢夫人栗原イネ子刀自と、當主栗原幸八君の多年奮勵努力の結果に外ならずして、單り同家の爲めのみならず、實に邦家の爲め欣幸に堪えざる所なり、向イ

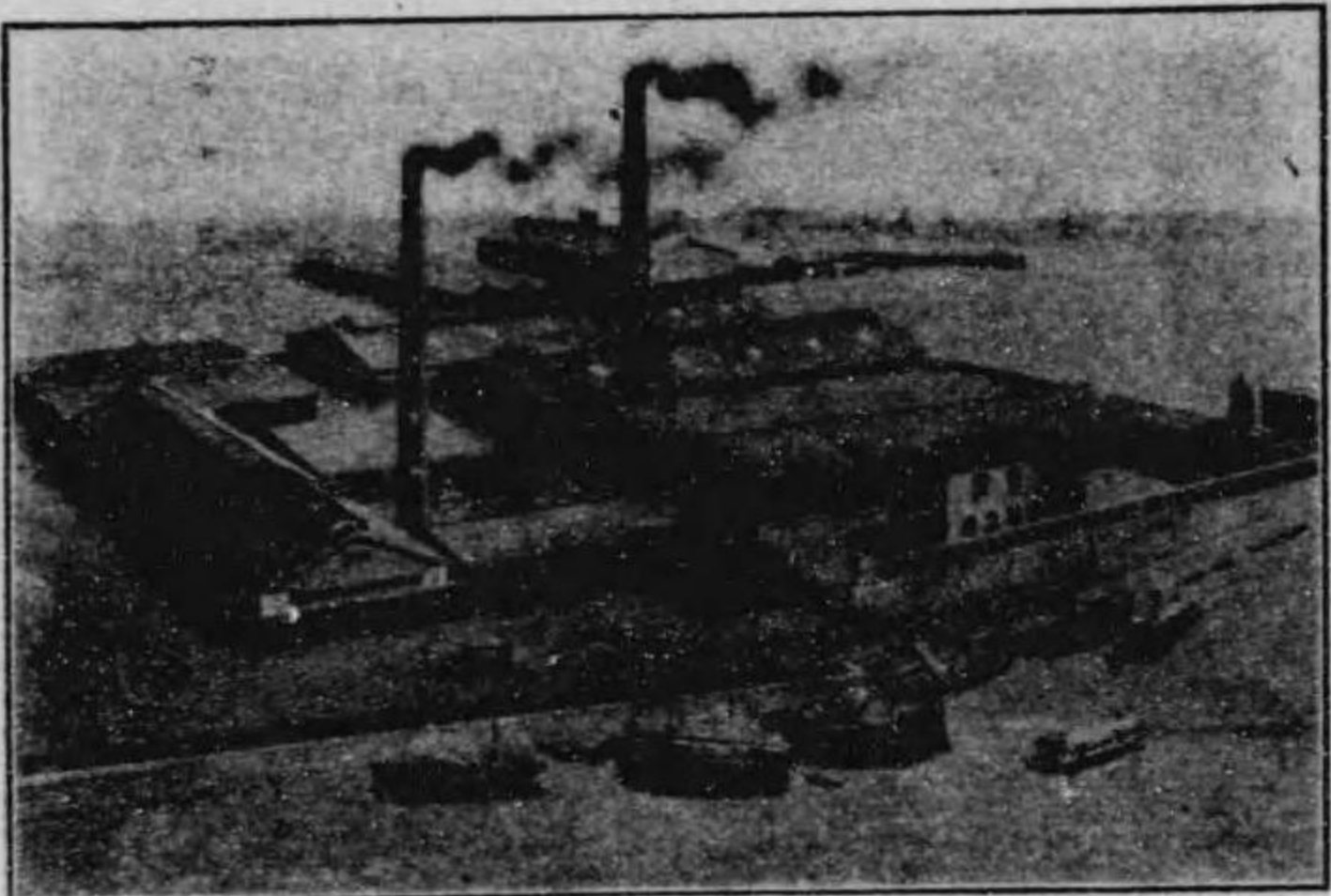


栗原幸八君

ネ子刀自が連年織業に精勵し本邦新界に貢獻せし偉功は官の認むる所となり今年春勅定の綠綬褒章を授與せらるゝの名譽を荷ふ同家一門の光榮何物か之に若かん。

日本エナメル株式会社

同社は明治四十五年五月を以て創立せられたる本邦最大の珪瑯磁器製造會社にして工場敷地六千坪、従業員六百餘名、年産額貳百萬圓を越え、其製品の優良無比なるは世既に定評あり、昨大正七年四月大阪化學工業博覽會に出陳して金牌を授與せらるゝの名譽を荷ひし一事に徴するも明かならざれば、其販路の如き數年來内地一圓は勿論遠く支那、印度、濠洲其の他南洋諸島に向つて盛んに輸出せられ、斯くして業運と共に隆大の域に進み、今や其資本金は六拾萬圓の多きを算し、今大正八年上半期の決算に於て五萬七千五百六拾八圓餘の利益金を擧げ、内貳千參百圓を法定積立金に、五千圓を別途積立金に、壹萬圓を固定資本償却金に、六千圓を役員賞與金に各充當し、年産額削減の株主配當を行ひ、六千參百六拾八圓餘の後期に繰越すの好成績を示せり、尙同社は歐洲新式の設備を有し、其製品は品質に於ても將た價格に於ても之れを獨逸品に比し、毫も遜色なきのみならず、反て之を凌駕せり、又同所は由來地利上の優越なる地位を有せるのみならず、又大に時局に鑑みる所あり、今や諸原料の自給と職工賃銀の低廉等に就き、深慮を廻らしつゝ、あるが故に歐洲戰亂終熄せ



日本エナメル株式會社

の姓を冒す、天資英邁、淺野總一郎氏深く其の人と成り、愛敬し石油部支配人に擧げ配するに其の女を以てす、二十八年日清戰後事業勃興の影響を受け、航海運輸業亦一大進展を來せり、此時に當り東洋汽船株式會社創立せられ、君は之に入つて支配人となる、三十一年社命を以て歐洲諸國を巡遊し、航海運輸事業を視察して歸る、三十三年四月、主事となり、桑港支店長を命ぜられて渡米し、經營頗る努む、三十五年七月歸朝して取締役となる、爾來我が財界に於ける君の位置は年と共に進み、今や同社社長たるの外、株式會社淺野造船所取締役、株式會社大島製鋼所取締役、華川無煙炭株式會社取締役、株式會社淺野晝夜銀行頭取、外數十社の重役を兼ね、名聲隆々たり、又同社現專務取締役にして、技師長たる北島安五郎氏は多年獨逸及埃太利に在りてエナメル事業を研究し、歸朝後奮然起て同社を創立し、爾來一連社務經營の衝に當り、以て今日に至れる人にして、實に同社

福岡鑛業株式會社

の中柱たり、其他の重役は取締役岸本吉左衛門、同近藤會次郎、同廣瀬情一、監査役森田茂吉、同工學博士今泉嘉一郎の諸氏なり。



幾多本邦に於ける鑛業會社中に在りて、當に現在業務の盛大なるのみならず、特に前途事業の有望を以て目せらるるもの、を福岡鑛業株式會社となす。同社は、大正三年二月を以て創立せられたるものにして、石炭採掘賣買及附帶事業を以て營業の目的とす。創業以來業務年毎に發展し、殊に鑛木屋瀨採炭株式會社を合併するに及び、業運更に一段の繁榮を加へ、今や其の資本金は總額壹千萬元、拂込金額四百萬元、現存財産の總額は壹千六百七十八千五百參拾八圓餘の多きを算し、堂々たる營業振りを發揮しつゝ、あり、尙同社は、今大正八年七月業務の積極的刷新を圖るべく、一、受託會社株式會社日本興業銀行、各債の金額壹百圓、五百圓、壹千圓の三種にして、無記名式利札附一、社債の利率年七分、一、償還の方法及期限發行日より一ヶ年間据置き、其後毎年七拾五萬圓以上抽籤償還し、四ヶ年以内に全部償還一、擔保物上擔保附社債、一元利金支拂保證、日米信託株式會社は同社債に對し、元利金支拂の保證をなす等の各條件を以て、社債金壹百萬元を公募し、極めて良好なる結果を見たり、想ふに前途の飛躍や益々、刮目に値するものあらん、因に同社は、本社を東京市京橋區銀座三丁目三番地に置き、鑛業所を福岡市外西新町に設け、東京市京橋區銀座三丁目三番地株式會社松昌洋行大阪府西區北堀江三丁目同大阪支店、福岡縣若松市本町二丁目同若松出張所、同縣門司市棧橋通門司出張所、同古屋市西區船入町同名古屋出張所、福岡縣福岡市外西新町同福岡出張所を以て、一手販賣所となす、現社長は現代我が事業界の巨擘として、盛名噴々たる山本唯三郎氏にして、福岡鑛業所支配人は高崎勝文氏なり。

東洋モスリン株式會社

同社は明治四十年一月資本金貳百萬圓を以て創業せられたるものに係り、其の愈々營業を開始せしは四十二年の上半期にして、同年下半期に及び、參萬餘圓の利益を收め得たり、爾來銳意事業の發展に努め、着々順調の域に向ひ、製絲に製布に其の製產高逐次増加しつゝ、ありしが、料らざりき四十三年には、關東大洪水の被害を蒙りたり、而も同社



は之に屈せず、益々進展積極の方針を執り、四十五年五月には日本モスリン紡織株式會社を買收して之を第二工場として、更に拾餘萬圓を投じて、諸般の設備を改善し、三百餘臺の紡織機を増加したり。斯くして、創業日尙淺きに拘らず、克く幾多の先進會社を凌駕して、斯業界の重鎮として、旭日冲天の概を示さる。同社は、夙に綿織子製織の有望なるを看取し、その設計に頗る力を注ぎ、更に支那市場を開拓して、一大發展を計らんとするの企畫ありしが、大正四年十月諸般の施設を完成し、愈々その製織に着手して、異常の

好績を挙げ、その製品は支那印度を始め海外に盛に輸出せられ、現にモスリンは一箇月五十萬ヤールを製し、綿布は約百萬ヤールを製出するの盛況に在り、されば同社第二工場の子生地、の如き目下主として支那市場に需要せられ、註文殺到して、現在の生産能力を以てしては、到底その一小部を充足し得るに過ぎざるより、更に工場擴張の必要を感じ、目下その増築に着手すると共に、五十四時織機七百二十臺、二十六時千臺を増設するに決し、右の一部機械は既に到着して、運轉を開始しつゝ、あり、而して綿織子製織は、今や益々盛大を加へ、海戦後と雖も確實を挙げ得べきは、勿論其賣行は、東洋市場に好況一を保ちつゝ、あれば同社の如何に有望なるかは、推して知るべし。尙同社は、大正五年四月、社業擴張の爲め増資を行ひし結果、今や其の資本金は四百萬圓を算し、今大正八年上半期の決算に於て、九拾五萬九千四百六拾六圓餘の利益を得、内八萬圓を本社工場建物機械器具原價消却金に拾萬圓を第二工場同上金に六萬圓



を戰時利得税に充當し、年貳割五分の株主配當を行ひ、九萬八拾壹圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり、同社の本社及工場は、東京府下龜戸町に在りて、現在重役は取締役會長神戶一、專務取締役田中海、一、取締役若尾幾造、渡邊福三郎、前川太兵衛、菊地長四郎、小池國三、監査役渡邊勝三郎、若尾尾八、山星德太郎の諸氏なり。

株式會社 鴻池組

關西土木建築請負業界の巨擘、大阪府西成郡傳法町北三丁目三十一番地株式會社鴻池組は、現社長鴻池忠三郎氏の先代鴻池忠治郎氏が明治三十三年を以て創業せし、土木請負業、鴻池組の業務組織を大正七年七月時世の進運に鑑み、株式會社に變更したるものなり、同社は先代の創業以來常に業務の擴張を圖り、又一方市内に於ける重量運搬業並に製材所をも兼營し、一意専心事業の向上發展を怠らざりし結果、漸次基礎鞏固を致し、一般社會の認むる所となれり、依て先代忠治郎氏は曩に事業を嗣子忠三郎氏に譲りて、大阪近郷に退隱し、靜かに老を養へり、現主亦父業を繼承せし以來、益々堅實の方針を以て、慎重策を按じ奮勵以て事に當り、先きに海外に遊びて知見を弘め、歸來一層の努勉を家業の進展に致せり、是に於てか業務彌々隆昌の域に進み、各地に支店出張所を設け、組織漸次膨大するに至りしを以て、大正七年七月業務の組織を株式會社に改め、同時に東京支店を東京市京橋區三十三番地三丁目三番地に設置せり、斯くて業運隆々、今や資本金壹百萬圓を有し、上記本支店の外出張所を神戸市相生町四丁目福岡縣遠賀郡戸畑町並に名古屋市西區港一號地に設け、堂々たる營業振りを發揮しつゝ、あり。今試みに同社が創業以來請負ひたる主たる工事中、金額五萬圓以上のものを擧ぐれば、日本鑛場鑛物工場及鍛冶工場並に砂場倉庫等新設工事、住友鑛場鑛物工場、大阪織物合資會社煉瓦造工場及汽罐室煙突新築工事、日本火山灰會社工場及倉庫新築工事、福岡縣戸畑町明治紡績合資會社新設諸工事、明治專門學校校舍新築工事、堺セルロイド會社敷地盛土及原動機室其他工事、福岡縣工科大学南教室及附屬建物工事、福岡縣戸畑町戸畑鑛造株式會社工場其他附屬建物新設

工、帝國魚油精製株式會社工場及附屬建物新設工事、福岡工科大学本館裏側教室煉瓦造二階建新設工事、合資會社大和紡績工場新築工事、福岡縣明治紡績所第二工場煉瓦造新設工事、倉敷紡績株式會社工場増築外六階工事、大阪織物株式會社大和川工場増築工事、住友電線製造所敷地埋立並に附屬工事、住友道頓堀鐵筋コンクリート倉庫工事、大阪府立江戸堀高等女學校々々其地工事、大日本人造肥料株式會社四貫島倉庫外二階工事、帝國製紙株式會社原料室外十七階工場、大阪市西區市岡町外二ヶ町埋立工事、帝國製紙株式會社追加工事、天保山運河掘鑿及護岸工事、天滿織物株式會社城北工場及倉庫煙突其他新築工事、日本グリセリン工業株式會社敷地盛土及蒸溜室増築工事、大阪織物株式會社工場増築工事、日本グリセリン工業株式會社住上工場地下室煙突新設其他工事、天滿織物株式會社食堂炊事場其他社宅工事、東洋製鋼所敷地盛土及工場新設工事、大日本製業株式會社工場新設工事、松岡紡績株式會社大和田工場事務所及職工住宅其他増築工事、化學肥料株式會社橫濱工場鉛室上家焚鑪爐其他工事、住友鑄鋼所鍛造工場増築及トラバサ延長工事、同所第二回二三號棟工場増設外七階工事、大阪晒粉株式會社鑄室焚鑪爐其他工事、大阪織物株式會社紡績工場寄宿舎其他工事、東洋油脂工業株式會社敷地盛土及工場新設其他工事、日本ラミー紡績株式會社三原工場、大阪晒粉株式會社電解工場新設及同盛土工事、住友鑄鋼所第二鍛工場増築基礎外十二階工事、大阪市電島町南恩加島町線布設工事、吹田製紙工場及其他新設工事、帝國製麻工場増築及舊工場修繕工事、藤田男爵家高井田山墓所新設工事、大阪府三島郡大冠村大塚堤防堰止工事、内田信也氏須磨別邸新築工事、大阪アルカリ株式會社大野工場諸工事、神戸内田汽船株式會社事務所新設工事、大阪化學肥料株式會社橫濱工場諸工事、大阪アルカリ株式會社島川水力電氣第一、二水路工事、日本ラミー紡績株式會社三原工場諸工事、住友川岸町倉庫入堀工事、大阪アルカリ株式會社大野工場第二期工事、日本製紙株式會社敷地盛土及工場新設工事、大阪化學肥料株式會社住上工場増築工事、大阪亞鉛鑛業株式會社西島工場住上工場電氣爐室其他野工場新設工事、同運河掘鑿其他九階工事、行橋明治紡績株式會社工場新設工事、福岡縣筑豐鑛山學校々々新設工事、東洋製鐵株式會社汽罐室其他三階工事、大阪市廳舎基礎工事、株式會社三十四銀行朝日橋支店新設工事等なり、亦以て如何に其の業務の殷盛なるかの一端を知るに足らん同社の第二回決算報告に依れば、今大正八年上半期に於ける同社の利益金は拾五萬六千七百七拾四圓餘を算し、内各貳萬五千圓宛を法定積立金並に家屋減價却金に參萬五千圓を工事器具什器減價却金に壹萬圓を役員賞與金に各充當し、年壹割四分の株主配當を行ひ壹萬壹千八百七拾四圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり、盛なりと云ふ可し、同社の現重役並に重要職員は取締役社長鴻池忠三郎、專務取締役脇本米司、取締役池小六、同仁科員一、監査役吉田八十綱、土木課長保科圭三郎、建築課長心得松本勝太郎、會計課長心得池内龍、庶務課主任松尾茂の諸氏なり。

南滿洲鐵道株式會社

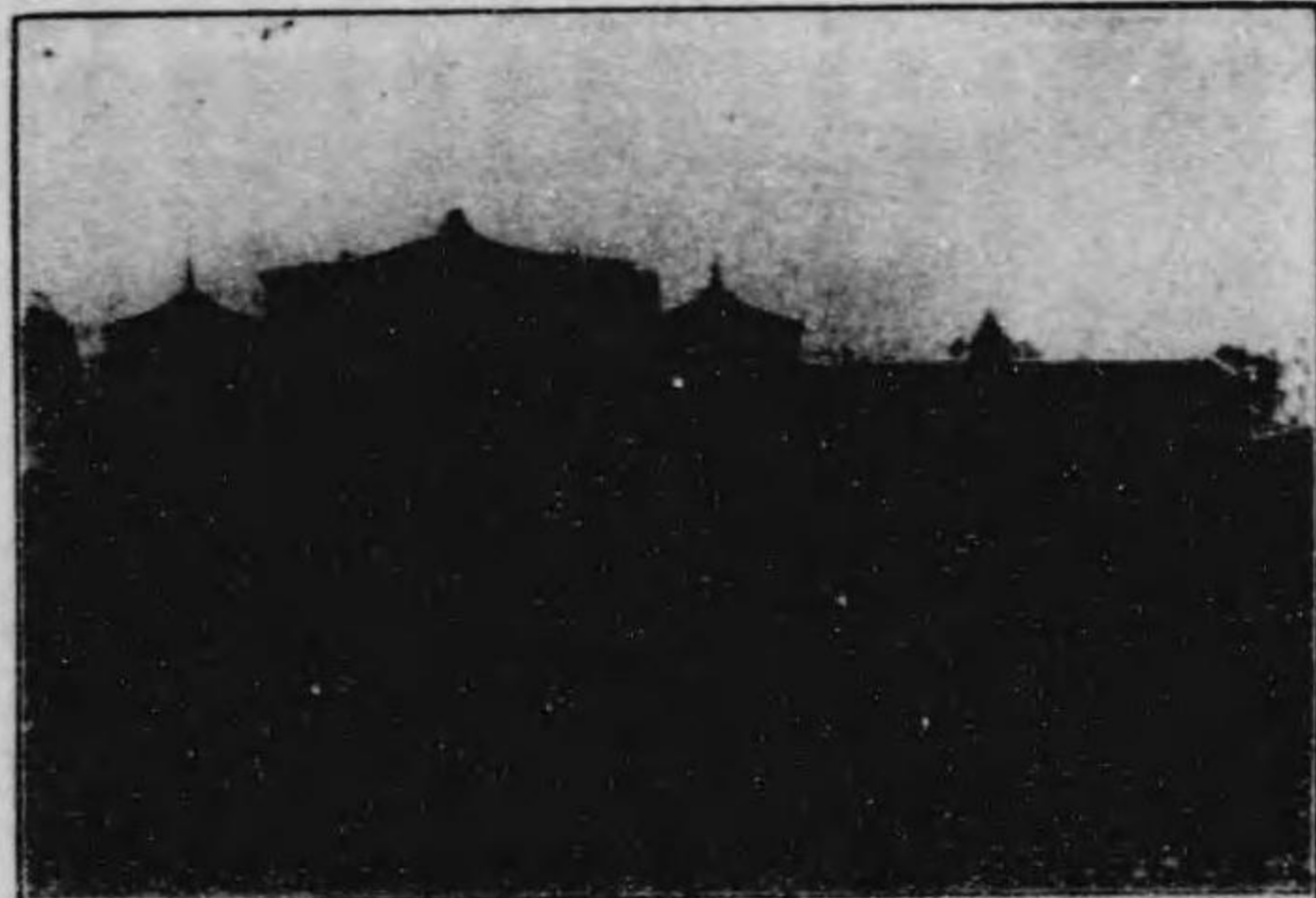
東洋の一大富源地として亦た日東男兒の覆業の象徴地として世界に重視せられつゝ、ある我が滿洲開發の中樞機關たる南滿洲鐵道株式會社は鐵道海運港灣炭坑電氣瓦斯旅館地方經營試驗所等各種事業を經營し設立以來銳意之れが開發に努め十有五年前彼の偉傑乃木將軍が山川草木轉荒寒を詠ぜし滿洲の野も今や全く面目を一新するに到る之れ皆同社の力に

依らざるはなし其功績や大なりと謂ふべし。今其の組織及事業に關する概況を擧げん

抑々同社は明治三十九年一月の設立に係り本社を大連に置き支店を東京に設け、而して役員には社長副社長各一人理事九人監事五人を置き資本金貳億圓を以てせり、内壹億圓は政府の出資に係り第一回及第二回株式募集に於て殘額壹億圓中の六千萬圓を募集し以て貳千萬圓の拂込を行ひ其餘の社用資金は之れを社債に仰ぎ前後數回に分ちて英國より之を募集せり其の現在額は五分利付六百萬磅四分五厘付六百萬磅合計壹千貳百萬磅此換算金額壹千七百拾五萬六千圓なりとす。

(一)鐵道事業 現在同社の經營線路は滿鐵本線の四百三十七哩六分、安奉線の百七十哩六分、旅順線の三十七哩一分、營口線の十二哩九分、合計六百九十哩三分に達し、尙ほ煙臺炭礦專用線九哩七分、長春より陶家屯石砬嶺兩炭坑に通ずる二十三哩合計三十二哩七分の專用輕便線を有せり、之れに依りて常に同社は旅客交通運輸の便益の増進並に地方開發に努め、東清鐵道京奉鐵道朝鮮鐵道其他の關係鐵道並に大阪商船會社日本郵船會社韓國義勇艦隊線等の間に旅客及手荷物の聯絡輸送を協定し以て歐亞交通の國際的機關たらしめ、又た殊に荷主の便益を圖り貨物運輸の成績を益々向上せしめんとして大連外十六驛に於て倉庫業を開始する等幾多の設備を爲し逐年異常の成績を擧げつゝあり。

(二)海運事業 同社斯業の創始は明治四十一年八月廣軌列車の開通に伴ひ歐亞交通上の便宜を圖らんが爲日本郵船會社汽船神戸丸を備入れ、次で四十二年五月更に西京丸を備入れ、大連しむるの目的を以て設計せるものにして同社之を承繼して其の設計を襲ぎ、工事を進捗せしめつゝあり、而して其の主要なるものは埠頭岸壁の改築防波堤の築造及び港内淺濶等にして、内既に竣功せるもの、東防波堤築造工事、第二埠頭西部岸壁築造工事、工場用地築造工事、第一埠頭其他各所に於ける既成岸壁の基礎修築工事、濱町海面埋立工事等にして、目下尙工事中の主なるものは西北防波堤工事、港内淺濶、寺兒溝海面築造工事、第三埠頭製造工事等にして、之れ等は皆大正八年度中には完成すべく、尙築港の進捗と共に埠頭設備の整頓に努め、倉庫の新築、豆油タンク、小蒸汽船十六隻、浮船大小二十四隻、給水船二隻、救鼠船二隻、淺濶船一隻を設備し、浮標信號裝置等をも改良し、今や船舶の出入着離貨物積卸保管等多大の便宜を與ふるに至れり、其他船渠は大正三年以來六千噸級の船舶を入渠せしめ得るに至れり。



(三)港灣の施設 此の港灣施設事業亦た同社事業中の一主要事業にして、大連營口、安東、旅順の四港を經營せり、就中大連の築港は露國が一箇年百萬噸の荷役力を有せしむるの目的を以て設計せるものにして、同社之を承繼して其の設計を襲ぎ、工事を進捗せしめつゝあり、而して其の主要なるものは埠頭岸壁の改築防波堤の築造及び港内淺濶等にして、内既に竣功せるもの、東防波堤築造工事、第二埠頭西部岸壁築造工事、工場用地築造工事、第一埠頭其他各所に於ける既成岸壁の基礎修築工事、濱町海面埋立工事等にして、目下尙工事中の主なるものは西北防波堤工事、港内淺濶、寺兒溝海面築造工事、第三埠頭製造工事等にして、之れ等は皆大正八年度中には完成すべく、尙築港の進捗と共に埠頭設備の整頓に努め、倉庫の新築、豆油タンク、小蒸汽船十六隻、浮船大小二十四隻、給水船二隻、救鼠船二隻、淺濶船一隻を設備し、浮標信號裝置等をも改良し、今や船舶の出入着離貨物積卸保管等多大の便宜を與ふるに至れり、其他船渠は大正三年以來六千噸級の船舶を入渠せしめ得るに至れり。





八鹿貯木場の地積五千餘坪内には圓材併積換材置場貯木池倉庫換材工場粉工場等を完備し以て如何なる長大材にても迅速に搬出製材し得る機關を整備し其の伐採せらるる一箇年の材量は約三萬五千尺一箇月の運材量約五千尺八鹿の貯木場には長短各種の丸太材五千尺乃至一萬尺を常に貯蔵す猶妙見杉の販路は北は北海道、南は臺灣の各市場に



石時事務所所岸川集材の景

て海岸に蓄積せられある十數萬石と此の冬季に伐採せし分とを合せ二十萬石に近き材積を準備せり材種はマツ松トド松を重なるものと俗に呼ばるる北海産材に比する時は大體に於て木は細きすに在り製炭額は昨年より本年初春に至りて約七萬俵を算し、推計の栽培は七年度に於て楡木約三萬本を伏せ込み本年春より之が採集に従事しつゝあり。



古丹川岸集材の景

朝鮮慶尚南道河東郡所在智異山に於ける事業も亦同家の重要な事業の一なり山は九州帝國大學所の演習林にして其地域約二萬町歩に生立する林木の特賣を受けて伐採及製炭に推計の栽培を爲す



木材流送作業の景

（四石見安藝の事業）同家の事業は島根廣島兩縣に各二箇所ありて前者は松材の伐採販賣と製炭と推計の栽培を行ひ後者は杉材の伐採販賣をなすつゝあり。以上は現在同家の經營に屬する重なる事業にして是等業務の機關としては大賣商店本店を東京市深川區門前仲町に置き同支店を兵庫縣養父郡八鹿町に、同事務所を樺太東海岸敷香管内泊岸港朝鮮慶尚南道河東郡智異山並に島根縣那賀郡高城村の三箇所設け以て着々經營の歩武を進めつゝあり尙同家は夙に南洋諸島に於ける天然林に注目し既に技師數名を派して之が伐採の計畫に着手し又近時木材需要の趨勢に鑑み他の有力なる本邦材業者と相結びて帝國に隣れる滿洲西伯利亞蘭蘭印度に於ける廣大豊富なる天然林を利用すべく種々協議中なり同家將來の飛躍や更に益々利目に値するものあらん。

### 株式 大阪貯蓄銀行



大阪貯蓄銀行

同行は明治二十三年十二月を以て創立せられたるものにして營業開始以來業務順調の發展を遂げ今や其營業振りの堅にして經營に選任者を得以て信用の厚高なる殆ど他に之が匹儔を見ず。之を以て現在資本金は五拾萬圓に過ぎざるも諸積立金は貳百四拾五萬圓の鉅額を算し實に資本金の五倍に近く貯蓄預金は資本金に對する八十倍強即ち四千貳百四拾五萬圓餘に上れること洵に驚嘆に堪ゆとせん。然して今大正八年上半期の決算に於て七拾壹萬五千四百拾壹圓餘の利益を擧げ内貳拾壹萬圓を諸積立金貳萬圓を行員恩給基金貳萬壹千六百圓を役員賞與金とし年八分の株主配當を行ひ四拾貳萬四千餘圓を後期に繰越すの好成績を示せり因に同行は本店を大阪市東區伏見町三丁目に置き現重役は頭取山口吉郎兵衛專務取締役平瀬三雄取締役外山捨造同坂野兼通監査役宅徳平同芦田順三郎の諸氏なり。

### 淺沼商會と會主淺沼藤吉君



淺沼商會

本邦寫真機械業の鼻祖にして現代斯界の權威たる淺沼商會は會主淺沼藤吉氏の創立し經營せる巨舖にして店舗を東京市日本橋區本町二丁目に置き淺沼藤吉君は千葉縣安房郡長尾村瀧口の人淺沼善四郎氏の男なり嘉永五年十月を以て生る十九歳にして帝都に出で初め叔父の經營せる乾物海苔問屋山形屋に入り更に藥種商稻村嘉平氏の下に斯業に従ふ事九年二十一歳にして獨立す而も先輩蔚然として雲の如く其の成功の甚だ覺束なきを看取るや時運の推移に鑑み日本橋區吳服町に寫真機械及附屬諸材料の販賣を創む時に明治四年なり當時寫真思想頗る幼稚なる爲親戚故舊擧つて君の志望を諷しめんとせしも君之を斥けて奮然所志の遂行を期し最も心を乾板製頓に繁盛を加へ店舗の狹隘を感ずること頗る切なり依つて從來店舗に併置し來りし臺紙工場を本所横綱町に試験所を日本橋駿河町に移せり次いで君は治ねく歐米諸國を歴遊し三十三年歸朝して大に業務の刷新を圖り三十五年合名組織に革め大阪京都に支店を廻町に分店を設く四十年英國ソイツク乾板製造會社のネルソン氏と提携して資本金壹百萬圓の日本乾板製造株式會社を設立し多年の志望を初めて貫徹す四十二年秋其の竣成を告げ東海道平塚に在りて今や全く輸入を防遏するに至る又た巨資を投じて店舗を改築し二個所の臺紙工場及暗函金屬木工等の各工場を有し供給年額優に數百萬圓算をす別に寫真新報を發刊し斯界の振興に貢獻する所多し嗣子龍吉氏は東京の人永井瀧藏氏の二男にして明治十二年十

代表的事業  
二月を以て生る天資英敏長ずるに及びて淺沼家に入り嗣子となり現に淺沼商會の最高幹部員として經營の樞機に參し材幹非凡を以て稱せらる。

### 合資 谷 道 商店

本店は明治四十二年我が東京市に於ける船舶仲介業の鼻祖谷道英橋氏の個人業務たりし船舶仲介業並に廻漕業の一切を繼承し其の業務の組織を谷道清之助谷道耕太郎中井昌雄三氏の合資會社となしたるものにして現在資本金壹萬圓を算し谷道清之助氏業務執行社員に當る現時の重なる得意先は郵船古河三井三菱大阪商船日清汽船等の大會社にして業務隆大頗る重きを斯界に爲せり同店は本店を東京市日本橋區西河原十二號に置き支店を神戸に出張所を横濱に置く。



店商道谷社資合

### 九州製紙株式會社

本邦洋紙一造界一方の重鎮たる九州製紙株式會社は元と東肥製紙株式會社を買収して其の事業を繼承せるものにして



なり。

明治三十六年七月を以て創立せられたるものなり爾來業運年と共に隆盛の域に進み今や其の資本金貳百五十萬圓を算し今大正八年上半期に於ける製品總量壹千參百參拾五萬七千六百七十八封度の多きを數へ同期末の大決算に於て金四十參萬九千九百貳拾參圓餘の純益金を擧げ之に前期繰越金川拾四萬九千七百拾六圓を加へ合計金五拾八萬八千八百參拾九圓餘を計上し内參萬圓を法定積立金に五萬圓を別途積立金に壹萬五千圓を社員職工三養老基金に各充當し年貳割の普通配當年參割の特別配當を行ひ金拾五萬圓八拾九圓餘を後期に繰越すの好成绩を示せり因に同社は本社を熊本縣八郡代郡上松求麻村に置き東京出張所を東京市京橋區柳町五番地に八代出張所を佐賀縣八代町に三角出張所を佐賀縣三角港峰崎に江代出張所を玖摩郡江代に置く現重役は取締役社長大川平三郎專務取締役長谷川太郎取締役田中榮八郎同玉城直太郎監査役林千八同田村久八同藤田好三郎の諸氏

### 株式會社 中井商店

株式會社中井商店は京都中井三郎兵衛一族の經營に係り明和五年西曆千七百六十八年の創業にして百五十一年の經歷を有す。祖先の三井家より出で、業を究むるや日用品にして向上的なるを探り薄利にして知識的なる紙に定むとあり。徳川氏中世の識見として寧ろ高遠に過ぐるの感あり。爾來四世其意を體して其の業を勵み明治維新後西洋紙の渡來するや西智東播の要樞として率先之が取扱に従事し明治八年京都府立梅津製紙所の開業に際し製品の販賣方を官命せられ明治十年大阪に支店を設けて洋紙の專售を始む。實に本邦洋紙商の濫觴たり。文化に應じ世運に副ひ明治十九年東京に支店を設け(現在の本店)明治二十一年更に名古屋に支店を設け數年にして内地の販賣緒に就くと共に明治二十六年人を上海に出張常駐せしめ和製洋紙輸出の嚆聲を擧ぐ。(現在の大秦商會)明治三十三年巴里大博覽會に際し嗣子三之助(現在の社長)理事谷野彌吉(現在の大阪支店專務取締役)の兩氏歐米諸邦を巡遊して彼地紙業界の情勢を洞察し歸朝後直ちに洋紙直輸入の端を啓けり。明治三十五年二月組織を合名會社に變更して業務の發展に資し大正五年十二月更らに株式會社として資本金を貳百萬圓に増加し左の役員を擧げて益々斯界に雄飛す。

取締役社長 中井三之助 名古屋支店專務取締役 中井己次郎 京都支店專務取締役 乾 茂  
大阪支店專務取締役 谷野 彌吉 監査役 中井三郎兵衛

世界大戰の初期に於て中井商店は從來の海外輸出に一層の力を注ぎ戰時中輸送の困難と相俟つて遂に支那西比利亞方面の用紙供給を大半其の手に收め南洋諸島印度各國にて歐米製紙と輸贏を決し遠く埃及墨國に迄販路を擴充したり。一方内地の需要は急激の増加を來し供給之に伴はず價格逐日昂騰して現品集散の状態平滑を缺く秋に處し必要の程度を測り緩急を按じ紙の分配に腐心して大過無く益々其の實力と信用とを認められしが昨大正七年中の取扱高は左表の如く日本全國生産高の三分の一を超え本邦輸出高の四割を算せり。

輸出高 參千八百參拾萬封度 價格 七百九拾五萬圓  
取扱の數量は前掲の如くなると共に日本に産出する紙の種類は凡て網羅して剩さず。就中新聞用紙書籍用紙包装用紙、隣寸用紙煙草用紙等は大半中井商店の供給に係り一手に製品の販賣を引受けたる製紙機械三十二臺にして特別の契約を有する製紙機械四十臺に達す。  
支那に對する輸出は率先明治二十六年(西曆千八百九十二年)より勝れ爾來孜孜として用途を究め嗜好を闢ひ新聞紙連史紙有光紙染料紙印刷紙等にして中井商店の經由せざるもの少く將來猶支那の土産紙に代りて低廉至便の紙を供給するに遺漏なからむ事を期待しつゝあり。

- 東京本店 東京市日本橋區十軒店町七番地
- 名古屋支店 名古屋市西區傳馬町七丁目七十八番戶

代表的事業

京都支店 京都市下京區三條通東洞院西入梅忠町二十一番戶  
 大阪支店 大阪市東區瓦町丁二目五十七番地  
 大森商會 支那上海英租界泗涇路九號  
 因に海外輸出取引は大阪支店に於て主として取扱ひ居れり。

### 日本陶器株式會社

日本陶器株式會社は愛知縣愛知郡中村字則武に在り其前身は日本陶器合名會社にして大正六年十二月を以て其組織を變更して株式會社となしたるものなれ共經營者は悉く同一なるを以て主義方針も亦從て何等異なる處なし日本陶器合名會社の沿革は即ち日本陶器株式會社の沿革なり。

日本陶器合名會社は明治三十七年一月一日を以て男爵森村市左衛門大倉孫兵衛の兩氏外數名の同志者に依り日本陶磁器の改良を唯一無二の目的とし進んで歐洲先進國に覇を唱へずんば止まざるの決心に基きて設立せられたるものにして其動機は遠く明治の初年森村氏が率先開拓を試みたる對米輸出貿易業に胚胎せり當時大倉氏は森村氏を補けて鋭意貿易業に従事し主として日本製陶磁器の輸出に従事したりしが森村氏の事業漸く緒に就くに從ひ歐米先進國の現狀亦從て詳かとなり日本陶磁器の幼稚なるを痛切に感知し當時の狀況が到底永く輸出品たる可き資格を具へざるものと斷じ茲に初めて日本陶磁器改良に従事する決心を固め同志と相謀り全力を傾けて研究に従事するに至りたるものなり今日に至りて當時の事を懐へば洵に隔世の感に堪へず現社長大倉和親氏は大倉孫兵衛氏の令息にして始終父君を輔けて研究に従事し相携へて歐米に航す



日本陶器株式會社全景

る事數回歐米の實況を視察し自ら研究に従事し技師を特派する事又數回堅忍研究に従事する事十數年に涉り漸くにして其目的を達し遂に日本陶器合名會社を設立するに至れり同社原動力室基石の下に創立者の署名せる左記誓約を記したる一陶版を埋めありと云ふ。

森村組創立以來日本陶器の完全ならざるを慨し改良の爲めに盡瘁する事茲に二十有餘年今や我陶器をして歐米の精品に比肩せしめ益完美の域に進め以て我國の貿易を隆盛ならしめんが爲め茲に日本陶器合名會社を設立す誓て至誠事に當り以て素志を貫徹し永遠に國利民福を圖る事を期す

明治三十七年一月一日  
 爾來同社の主義方針は此陶版の如く變はる事な堅實の進歩を成し歐米向食器裝飾品卓上用具の全部に亘り歐米の精品と肩を比ふるに至り茲に日本磁器の面目は一新せられたり日本に於ける白色硬質磁器製造の月桂冠は同社の有する處にして又我帝國の誇りなり

同社は更に進んで送電用碍子の製造の研究に従事して成功し本邦に於ける高壓碍子の製造を開始し品質又歐米の製品を凌ぎ廣く日本内地の電氣業者に供給するに至り今や輸入碍子は事實に於て其

跡を絶つに至り益々進んで海外に輸出するに至れり我日本に白色硬質磁器の存する限り同社の名は永遠に忘る可からざるものなり。

今左に同社の素地焼成用本窯基數増加の経路を記し以て同社發展の狀況を知る便に供せむ。  
 明治三十八年現在一基 明治三十九年現在三基 明治四十年現在五基 明治四十一年現在七基 大正元年現在十一基 大正四年現在十三基 大正五年現在二十二基 大正六年現在二十八基  
 本窯の増加に伴ひ其他の諸設備も亦從て増加し常に率先して最新の設備を怠らず東洋に於て唯一無二たるは勿論量に於ても質に於ても世界に於ける屈指の大製陶工場たるに至れり同社は此成功に甘んぜず更に進んで衛生陶器及白色硬質陶器の製造を企て既に九州小倉に於て歴大なる土地を購入し資本金壹百萬圓を以て東洋陶器株式會社なるものを作り既に第一回の製品を市場に出すに至れり兩者相携へて世界陶磁器界に雄飛するの日は遠からじ。

- 資本金貳百萬圓
- 工場敷地參萬參千坪
- 建築物貳萬六千坪
- 使用人職工男女四千八百人
- 使用馬力七百
- 畫付窯各種併て七十四基
- 原石粉碎機四同調合粉碎機二十六土絞機九土煉機四箱原料粉碎機三臺箱土煉機六箱造機十七攪拌機十一泥漿ポンプ
- 八機械機軸三百二十
- 製品 洋食器卓上用具裝飾用品送電用高壓及低壓碍子
- 販路 北米合衆國を主として英國及歐洲諸國濠洲支那南洋諸島海峽殖民地を主とし一小部分内地の需用に應ず。
- 製産能力 一ヶ年參百萬圓以上
- 取締役社長 大倉和親
- 取締役 廣瀬實光 同 田中幸三郎

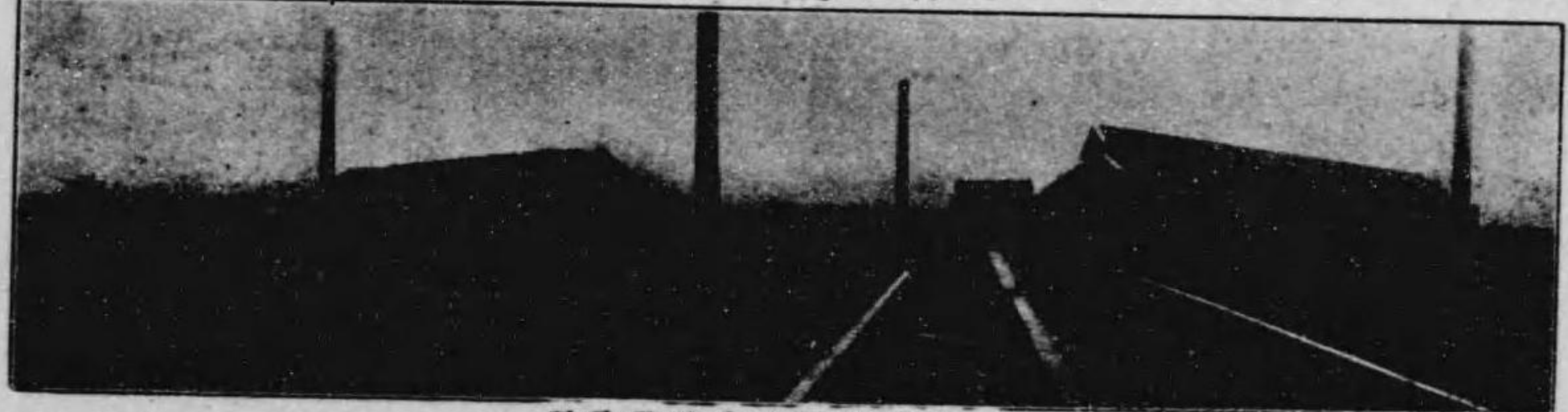
### 大阪電燈株式會社



代表的事業

近世本邦に於ける諸事業中最も利便多くして且つ最も需要の大いなるものは電燈事業を以て其の首位に推さるを得ず是を以て都鄙を通じて斯業の發達は年と共に著しく今や其の盛其の大洵に駭目に値するものあり此の間に在りて其の規模の大と業績の隆と二つながら嶄然頭角を斯界に抜き巨然として正に泰山北斗の位置を占めつゝあるものを大阪電燈株式會社とす同社は實に今を距る事三十餘年前なる明治二十年十二月を以て創立せられたるものにして當時僅かに金四十萬圓の資本金を以て營業を開始せしが時猶未だ幼稚にして人智進まず爲め市にあたり是の文明の利器も之を利用するもの極めて少なく其の需要高は大阪全盛況よりして僅かに五百燈を算するに過ぎざりき今之を滿街電光煌々たる現時の經營は頗る困難を極め苦心云ふべからざるものありしも其後世運の進歩發達に伴ひ需用者漸次増加するに至りしを以て隨て營業狀態も亦次第に順調に向ひしが由來好事者多同二十八年の頃より反對會社を設立して同社と競争を試みん

とするもの續出し、一時其の前途頗る憂慮に堪へざるものありしも、同社は一面極力彼等と健闘を續けると同時に他面其の營業に積極的方針を執り、鋭意奮闘遂に是等反對會社を買収して斯業を其の一手に獨占し、社礎益々鞏固を加ふるに至れり、既にして同三十六年第四回内閣勸業博覽會の大阪に開催せらるゝや、需要頗る激増し同社の業務は更に一段の殷盛を加ふ、越えて同三十九年大阪市の間に報償約を締結したる結果其の業礎も愈々鞏固となり、社運益々發展の機運に乗ぜしが、偶々日露戰後に當り、一般の財界著しく其況を呈せしかば、茲に其の社運は亦一層の伸展を見るに至れり、爾來同社は全力を擧げて逐次其の勢力範圍を擴大する事に努め、遂に其營業區域は大坂堺の二市及廿近郊は勿論、遠く舞鶴、佐世保、門司地方に及びしが、後營業の都合上、門司及佐世保二市の事業は之を九州電燈軌道、京都電氣の二株式會社に譲渡せり、而して今は唯單に營業統一上の打算より爲せるものに過ぎず、して當時に於ける同社の營業狀態は更に何等の不安あるなく、依然として向上の域に進みつゝ、ありしより斯くて爾後、電燈需要の趨勢は益々良好となり、其の需要は供給力と權衡の一致を見るの盛況を呈するに至りしかば、爰に同社は其發電力を充實するの必要を見るに至り、則ち大阪市北區安治川に最新式の發電所を建設し、尙進んで宇治川水力電氣株式會社との間に電力供給を受けるの契約を締結し、亦一層の進運を見るに至れり。



大阪電燈株式會社發電所

以上吾人は餘りに過去の事を叙するに多くの頁を費やせり、乞ふ以下更に筆を新にして最新我財界の大膨脹に依つて來せる同社の活躍振りを紹介せんとす。

現在同社は金貳千六百拾萬圓の巨資と金參百拾萬圓の積立金を擁し、其の營業の範圍は電燈電力の供給より電氣機械器具の製作に及び、最近に於ける供給點燈數は大坂市内に於て百二十六萬二千九百餘個の多きを數へ、三百八十八個の弧光燈の外に電動機八千三十馬力、電力裝置三千二百十八キロワットと云ふ驚く可き數字を示し、市外に於ては電燈數三十七萬三千三百個を供給しつゝ、尙更に於て大書せざる可からざるは其の電氣機器製作の事業にして、今や同社は大阪市西區安治川に宏大なる製作所を設置し、電燈電力の供給以外別に百餘の電氣機械器具の製作販賣に従事し之れ又逐年異常の成績を擧げつゝ、あり、斯くて同社の業務は近時益々異常の進展を遂げ、業績隆々、譬へば朝陽の東天に昇るにも似て、昨大正七年下半年の決算に於て能く金百七拾五萬參千有餘圓の純益金を擧げ、内金八萬圓を法定積立金に、金拾五萬圓を別途積立金に、金貳萬圓を特別積立金に、金四萬五千圓を役員賞與及交際費に各充當し、年壹割貳分の利益配當を行ひ、金拾六萬貳千餘圓を後期に繰越すの好成績を示せり、終りに現在同社は本社を大坂市北區中之島五丁目六十番地に置き、舞鶴支店を京都府加佐郡新舞鶴町字濱に、天滿營業所を大坂市北區源助町二十七番地に、高津營業所を同市南區瓦屋町五番地に、幸町營業所を同市西區幸町二丁目一番地に、堺營業所を堺市龍神橋通二丁目二番地に、平野營業所を大坂府下東郡平野町字泥堂に、天下茶屋營業所を同郡天下茶屋村に設け、現首腦人物は取締役社長田所美治、常務取締役千原茂壽、取締役寺田甚與茂、同島德藏、同坂仲輔、同宮崎敬、同祇園清次郎、監査役河盛勘次郎、同瀧川伊之助、同岸田奎の諸氏なり。

### 株式會社八木商店と社長八木與三郎君

輓近本邦紡績界の振興は寔に偉大にして世界大戰以來加速度を以て異常の伸展を遂げ、殊に綿絲布の輸出増大より倍、財界に燦然たる盛觀を呈せり、而して此の隆盛前古無比なる斯界に在りて業礎の確固不拔と信用の博大とを以て雄飛高翔、巨然として覇を唱へつゝ、あるものを株式會社八木商店となす、同店は元關西綿業界の重鎮八木與三郎氏の個人創業に係るものにして、大正七年五月開業二十五週年を期し、時勢の進運に伴ひ多々益々業務の發展を期すべく、其の組織を株式會社に變更し、個人經營の業務一切を繼承したり、而して現在本店を大坂市東區南久太郎町二丁目一、取締役社長に八木與三郎氏、専務取締役に杉道助氏、取締役に渡邊榮、小室一平、八木寅太郎の三氏、監査役に藤本清兵衛、谷村一太郎の二氏、支配人に河野幾次郎、村上静夫の二氏各就任し、新組織の下に着々發展すべく陣容既に齊ひ、尙目下海外支店設置の計畫中なり。



八木與三郎君

きは畢竟同店が二十有餘年間時に重疊せる幾多の波瀾を突破し、百折不撓、辛酸奮闘を経て築成せし確固不拔なる勢力の表現にして、彼の近時時局の爲めに射伴の的中によりて簇生せる所謂成金輩とは全く其の選を異にする所なり、斯くて今や同店は時代の要求に適應する新組織の下に上記經營の才に富める各重役を擁し、益々其の施設に改善を加へ、終始一貫誠意と堅實のモットーの下に勇進邁往して、我が戰後の貿易に全力を傾注し、以て益々我が財界に光輝を放たんとす、多望なりと云はざる可けんや。

同商店の隆運駭々として能く今日あるを致せるもの一つに之れ現社長八木與三郎氏が非凡の才幹と多年の奮闘の賜にして、同氏が過去に於ける活躍は寔に我が近世商界の偉觀たらざんば、あらず、乞ふ吾人をして其の經歷の概要を記せしめよ。



八木商店内之景

各地は勿論、遠く支那、印度、南洋の市場に及び、到る處として偉大なる信用を以て迎へられつゝ、あり、而して斯の如く、業務の發展を期すべく、其の組織を株式會社に變更し、個人經營の業務一切を繼承したり、而して現在本店を大坂市東區南久太郎町二丁目一、取締役社長に八木與三郎氏、専務取締役に杉道助氏、取締役に渡邊榮、小室一平、八木寅太郎の三氏、監査役に藤本清兵衛、谷村一太郎の二氏、支配人に河野幾次郎、村上静夫の二氏各就任し、新組織の下に着々發展すべく陣容既に齊ひ、尙目下海外支店設置の計畫中なり。

同店の取扱品は綿絲、綿布、絹布、及加工綿布にして、其の商權の及ぶ所、全國の信念を抱きて、始めて大阪に來り、其の叔父にして彼の一時豪華の財界に雄飛し、噴々として其の英名を顯はれたる先代藤本清兵衛氏、當時同家は米穀商を營みつゝ、あり、の店に身を寄せ、刻苦勞勉せ、刻苦勞勉

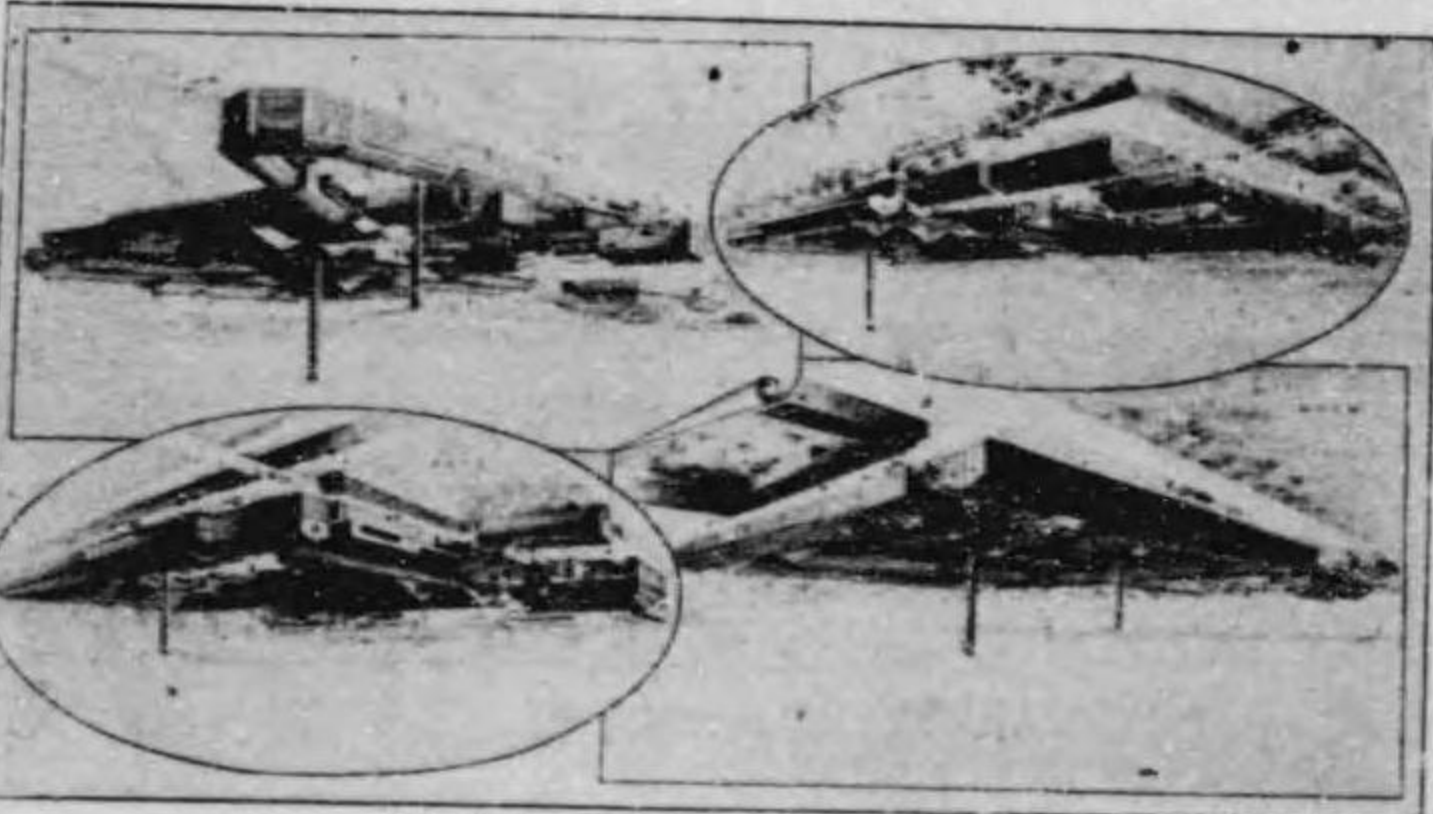
龍日に加はる、斯くの如くなる事、爾後十二年の久しきに及びしが、明治二十六年に至り始めて獨立して一商舖を起し、綿絲業を開始す、爾後由來精力無比にして活力衆に絶せる君は日夜寢食を忘れて業務の發展に努め、其の店運をして當初の微々たる業態より漸次向上進展せしめ遂に着々成功を収めて徳望信用日に加はり、斯界の覇者たる現時の盛運を見るに至らしむ、噫君の如きは真に我が商界の一偉傑なりと謂はざる可らず、而して今や君に將に來らんとする戦後の商權爭覇戦に臨み自家商店に幾多の刷新を加へて其の組織を新にし堂々乎として更に活躍飛動の道程に上らんとす、斯くの如きは嘗に同店一個の爲めに祝すべきのみならず、邦家斯界の爲め洵に欣幸に堪へざる所なり。

### 銚子醬油株式會社

同社はヒゲタ印醬油の醸造元にして現在資本金壹百萬圓を有し、本社を千葉縣海上郡本銚子町二百八十五番地に置き、第一醸造場を同縣同町に、第二醸造場を同縣銚子町に、第三醸造場を茨城縣東下村に、第四醸造場を千葉縣佐原町に、第五醸造場を同縣本銚子町に設け、一ヶ年の醸造石高實に約四萬石を算す、以下其の沿革並に現狀の大要を於ける、醬油の階級は上中下の三等にして價格の標準亦之に因りし、明治元年六月幕府深川に初設假設所を置き、諸物價の高低を整理するに當り始めて醬油に最上品なる名稱を與へ、斯界の上位とせり、之が選に入りしもの野田の三印、銚子四印にしてヒゲタ印、銚子は即ち其の一なり、斯くて明治維新となり、都を東京に移さるゝや、ヒゲタ印は帝室大膳寮御用の榮譽を荷ひ、大正元年十一月宮内省御用の醸造庫を新設せり、大正三年九月合資組織に變更以來更に新しき學理と機械とを應用し、日々研究を怠らず、現に大阪高等工業出身の山崎技師主として監督をなし、五ヶ所の各工場全力を擧げて益優良なる製品の醸出に努力しつゝ、あり、猶ほ本社は之に甘せず、大正



同社の創立及内容。同社は大正七年九月の創立にして、従前田中濱口、深井三氏の個人經營なりしを、大正三年合同して合資會社となし、經營しつゝ、ありしが、同七年九月に至り、時勢の趨勢に鑑み、社長濱口吉藏、御兵衛氏を中心とせる家族的株式會社の組織に改め、資力の充實を計ると共に、益、優良なる製品の醸出、醸造力の増大を企圖し、一意専心製品の改善に努力せり、斯くて今來他の企及すべからざる秀逸なる特徴を有するを以て、其の聲價は日に益々高く、社業の隆盛、旭日冲天の概を示しつゝ、あり。



同社の沿革と設備。抑、ヒゲタ印醬油の起源は元和二年田中氏の中祖が始めて醸造したるものにして、攝州西ノ宮の人眞宜氏の勳勞を受け、農業の餘暇を以て、醬油の醸造を營み、印を商標と定め、江戸に發賣せり、之れ即ち關東醬油の濫觴なり、爾來屢々改良を加へ、元祿十年の頃始めて醸法を現今の如き關東醬油とせり、其頃江戸府中に

六年四月第一醸造場内に専有の研究所を新設し、斯業に造詣深き松田技師外數名の技術者を雇聘し、益改善の方法を講じ、既を得たる眞價をして更に有終の美を擧げしめんことを期せり。

ヒゲタ印醬油の原料と銚子の風土。醬油の良否は其原料の選擇如何による處多きは論をまたず、故にヒゲタ印醬油は特に此の點に苦心し、最も優秀なる品質を選擇使用しつゝ、あり、即ち大豆は茨城縣產出の本種、赤鞘裸等及び朝鮮產、龍山長端等を用ひ、小麦は茨城縣產、白鞘富國等を主とし、千葉縣產の二三等小麦を以て之が不足を補ひ、食鹽は内地鹽及び關東州產の最上鹽を撰び使用しつゝ、あり、而して茲に特筆すべきは銚子地方は本土の東端に位し、太平洋上に突出せる爲め、夏涼しく冬暖く氣温常に平均し、殊に空氣に濕氣を帯ぶるを以て、諸味の醗酵に最もよく醸造地として好適の地なりとす。

ヒゲタ印醬油の特長と耐久力。斯の如く優良なる原料と完全なる設備により、操作せられ、而も天與の恵に浴するヒゲタ印油は、滋味共に他に卓絶し、獨特の芳香と色澤とを有せり、殊にヒゲタ印醬油は一見他に比し、淡色なるも前記の醸造法に依れるを以て少量にして、能く使用の目的を達し、貯藏久しきに互るも腐敗することなし、茲に一例を擧げん、明治九年の醸造品を同十年開催の第一回内國勸業博覽會に出品し、其を參考品として保存し、置き、明治三十五年十二月、田原東京衛生試驗所長の來銚に際し、出示したるに、學術上參考として分析の要ありとの勸告に従ひ、同月、内務省東京衛生試驗所に提出したるに、滿二十六年の星霜を、毫も腐敗の徴候なかりしは、ヒゲタ印醬油の大に誇りとす、所也、其他、明治四十四年四月一日、横須賀軍港拔備の遺英艦隊、鞍馬利根の兩艦に分載方を依頼せるに、熱帯地域を往返航海し、格納庫内の温度最高百〇五度、最低八十二度の間を昇降したるに、係らず、少しも異状なく、品質優良にして、一般の嗜好に適したるを賞せられたり。

ヒゲタ印醬油の名譽と販路。ヒゲタ印醬油は内外博覽會共進會品評會に出品する毎に、斯業家の出品中最優等の賞に漏るゝことなく、既に三十個の名譽大賞牌及十五個の名譽金牌を始め、數十個の進歩及有功金牌を有し居り、前記略述せる如き古き歴史と卓絶せる特徴を有するヒゲタ印醬油は、上下共に非常なる賞美を受け、内地は勿論、北米、布哇、南洋、或は滿鮮、臺灣、支那等邦人足跡の印する處、必ずヒゲタ印醬油を見ざるは、なく、常に供給の不足に苦しむつゝ、あり。

重役。同社の現重役は、取締役社長濱口吉兵衛、常務取締役深井吉兵衛、取締役遠山市郎兵衛、同濱口録之助、監査役大村五左衛門、同木村平右衛門、相談役濱口吉右衛門、同田中直衛の諸氏なり。

### 佐々木平次郎君と其事業

本邦漁業界の巨星として、將た北海道財界の重鎮として、名譽海の内外に噴々たるものを、佐々木平次郎君となす、君は秋田縣金浦町の人、北能喜吉氏の二男にして、明治六年四月を以て生る、年十七、同縣象潟町の吳服商佐々木小次郎氏の養子となり、其の姓を冒す、天資豪膽、最も進取的氣象に富み、少壯身を漁業界に投じて、奮闘努勉、遂に能く今日の富と名譽とを贏ち得、今や新進氣鋭の實業家として、隆々たる盛名を馳せ、其の鋭敏なる着眼と堅實なる營業振りは、各事業の上に顯はれて、着々成功の域に進みつゝ、あるのみならず、更に各方面に涉りて、事業の發展に邁進しつゝ、あり、氏の前途や、眞に洋々として多望なりと云ふべし。

氏の經營せる事業としては、明治三十年以來、露領樺太の漁業を經營し、漸次漁場數と經營計畫の膨脹を來せるが、日露戦役に際して一時休止せるも、戦後南部樺太の我が有に歸するや、更に其事業を發展し、年を逐うて、漸次漁場數を増加し、其生産額

の激増を來せるが、同四十年より更に露領樺太及カムサツカの漁場經營に着手し、現今樺太に於ける鯨、鱈、鮭の漁場十三ヶ所を算し、露領カムサツカ及オコック方面の漁場を合して九ヶ所計二十二ヶ所の多きを算し、現在北海屈指の大漁業家を以て目せられ、年生産額實に百五十萬圓以上に達す、氏は明治四十年以來商店部を開設して専ら海陸物産の委託及賣買を營み、更に同四十三年合資會社共同清酒を設け、之が代表社員として業務經營の衝に當り、専ら貨主及船主の利便を計るに努力せる結果、年々業運の發展を來し、現今に於ては大阪商船株式會社及北日本汽船株式會社の函館代理店たり、而して同店の營業主任として、敏腕の聲高き今西彌三郎氏其任に在り、猶鋭敏なる氏は更に進んで海運界の將來有望なるに着眼し、大小の汽船數隻を購入せるが、時恰も歐洲の戰亂に際して、斯界の急速なる活況を呈せる爲め、事業は著しく好調に進み、今や北海に於ける海運界に雄飛するに至れり、而して氏が現在所有せる船隻は第二福井丸重量二千六百噸、第三福井丸同千六百噸、福榮丸同千八百噸、金浦丸同千五百噸、伏子丸同二百五十噸、西海丸同七十噸等なりとす。



佐々木平木君 向氏は昨大正七年春に至り、時運の趨勢に鑑み、以上事業の發展と統一を期する爲め、從來個人經營に係りし該業務の組織を變じて株式會社と爲し、次の二會社を組織せり。

一、佐々木漁業汽船株式會社 資本金貳百萬圓 四分の三拂込済



佐々木漁業汽船株式會社

一、佐々木商業株式會社 資本金參百萬圓 四分の二拂込済

而して前者は營業の關係上本社を樺太大泊に設け、函館に其代理店を設け、後者は函館仲濱町に本社を設け、兩々相扶けて實業界に活躍を試み、右兩會社の現重役は取締役社長佐々木平次郎、同副社長佐藤平吉、專務取締役森榮作、取締役佐々木仙太郎、監査役北能喜市郎、同加川退藏の諸氏なり、猶又精力絶倫なる氏は以上諸事業の外、夙に支那方面の貿易に志を抱き、今大正八年六月同志と謀り、資本金參拾萬圓の日華貿易株式會社を創立して、自ら社長に當り、本社を函館仲濱町に置き、専ら北海道支那向きの海産物の輸出に従事し、亦一方個人として、佐々木倉庫を經營し、つゝあり、其面積二千數百坪を算し、函館區屈指の大倉庫と稱せらる、氏温厚篤實にして、人格高潔、今や如上の活躍を我が財界に試み、つゝあるのみならず、曩に衆議院議員總選舉の行はるるや、區民の輿望を負ひて、同議員に選出せられ、國民利福の爲に獻身的努力を盡し、つゝあり、氏又

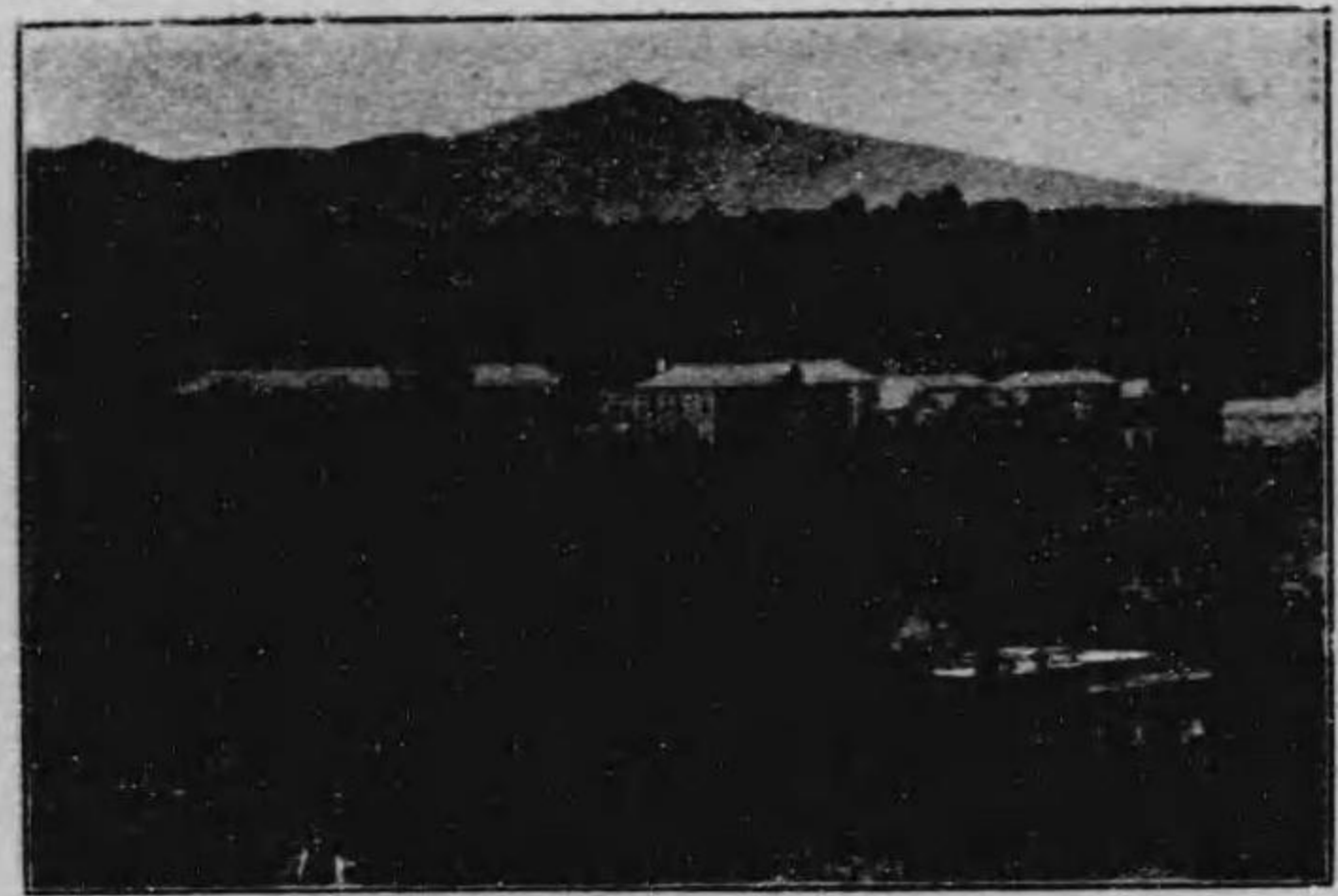


佐々木商業株式會社

夙に函館區會議員及商業會議所常議員の公職に在りて、國民の囑望を負ひ、猶樺太建網漁業聯合組合の組長たる外、露領水産組合常議員の任にあり、且、北日本汽船株式會社の監査役外、幾多諸會社の重役の任に就き、日夜不斷の活動を爲し、つゝあり。

### 秋田鑛山専門學校

同校は明治四十四年四月授業を開始したる本邦唯一の鑛山専門學校にして、藤田岩崎、古河三男爵より寄附せられたる參拾五萬圓の創立費により設立せられたるものに係り、實業學校令及専門學校令に依り、高等の學術技藝を教授するを目的とし、學科を分ちて探鑛學科、冶金學科の二となす、而して其設立の地たるや、本邦中最も鑛山に富み、幾多の研究材料は眼前に横はり、學徒の採るに任かせらる、從て其向ふべき方針に於て、將た其充實せる内容に於て、特殊の色彩を有するは實に同校の最主眼とする所なり。



秋田鑛山専門學校全景

同校は授業開始以來年々を閱すること、茲に七年餘卒業生を出すことと、互回採鑛九十七名、冶金五十三名を算し、時勢の進運に伴ふ鑛業界の偉大なる發展は、同校と同校卒業生の奮闘努力と相俟ちて益々同校の將來を有望ならしむ、之れ獨り同校の爲めに祝すべきのみならず、亦た實に國家の慶幸と謂はざる可らず、同校の修業年限は各三ヶ年にして、學年は四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終り、各學科第一學年に入學を許すべきものは、品行正志、望業固年、齡滿十七歲以上、二十五歲以下、各學科第一學年に入學を許すべきものは、品二、専門學校入學者檢定規定に據り、試験檢定に合格したる者、三、専門學校入學者檢定規定第八條第一號に據り、一般専門學校の入學に關し、無試験檢定の指定を受けたる者、四、工業學校を卒業したる者の四、該中其の一に該當する者なる事を要す、尙同校は創立以來、鑛山諸會社の好意に依り、貸費生若干名を置くことを得たるは、深く同校の感佩して、措かざる所にして、將來に於ても、斯學獎勵の趣旨に基き、近時新に貸費生規則を設け、學力人物兼に勝れ、而も學資に窮する者の爲めに便宜を計ること、したり、該規則は九條より成り、現在承諾を得たる學費貸與者は、藤田鑛業株式會社、三菱鑛業株式會社、合名會社、古河鑛業會社、三井鑛山株式會社、北海道炭礦汽船株式會社、久原鑛業株式會社、株式會社、日本製鋼所合名會社、鑛山鑛業部株式會社、安藤組、島鑛業株式會社、佐々木漁業汽船株式會社、同諸會社なり、因に同校は秋田縣秋田市字形に在りて、現校長は工學博士、横堀治三郎氏なり。

### 株式會社鈴木商店

同社は元鈴木三郎助氏個人名義の經營なりしが、漸次業務の發展と共に、大正元年六月家族を擧げて合資組織となし、次で大正六年六月更に時代の趨勢に應じ、組織を變更して株式會社となしたるものにして、營業の目的は各種製造工業及物品の賣買其他之に附帯する一切の業務にして、主として味の素及び沃度の製造に其副産物の製造販賣に力を注ぎ、聲名天下に治し、而して此の「味の素」は東京帝國大學理科教授、理學博士、池田菊苗氏の發明にして、學名を「グルタミン酸ナトリウム」

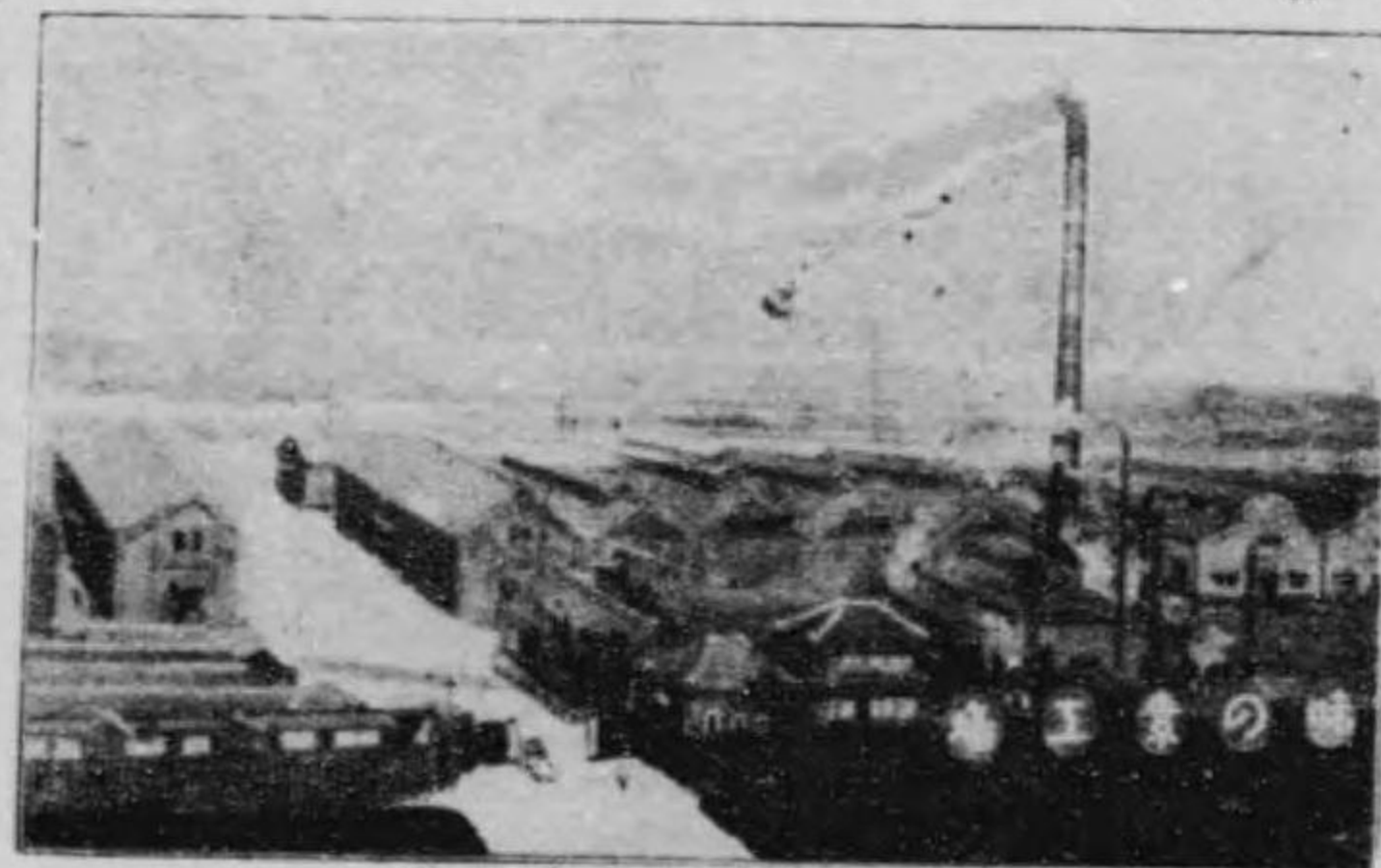
と稱し、日英米佛各國政府の專賣特許を得て明治四十二年七月初めて社會に發表せしものなり、當時は神奈川縣逗子町に工場を設け製造しつゝありしが大いに世人の歡迎を受け需要増加せしより大正三年五月神奈川縣川崎町に大工場を設け製造を開始し、其の激増する需用に應ぜり而して其の製造産額は一ヶ年實に十三萬貫の多きに昇り此金額六百五十拾萬圓



其副産物として澱粉一ヶ年二萬噸此金額四百八拾萬圓に達す尙右産額以上の製造能力を有する工場設備ありと云ふ又販路は内地は勿論臺灣朝鮮樺太支那南洋布哇及歐米各國に及び今や全世界に普ねく行渡れり尙化學研究所を設立して篤學有爲の士及十數名の學士技師等の學術的研究に本依り「味の素」の副産物より香料「ホイットロース」人造麴香醫藥染料三及び甘味料澱粉よりは乳酸「デキスリン」滋養糖等の製造をなし我が化學工業界に誇る可き事實を現せり。

治二十年の夏大日本製藥會社技師村田春郎氏を仲子が案内して三浦海岸を散歩せる際浪のまに、海藻類の漂着して堆積しあるを見て何等か利用すべき途を同氏に問ひたるに同氏は歐洲にては之等海藻より沃度と稱する藥品を製造することを答へたり之れを聞きたる仲子氏は女性ながらも種々と苦辛研究を重ね又村田氏の助力を得て遂に研究的實驗を遂げ最初は小規模なる製造所を設置せり之れ斯業の濫觴にして爾來其の後を繼承して幾多の苦心奮闘努力の結果今日の成功を遂げたるものにて我が醫藥及化學藥品の一新紀元を畫し其の貢獻する處實に大なり製品は鹽化加里、鹽化加里、硝酸加里、硫酸加里等の加里鹽類及沃度諸劑等にて外國品以上の良品を製出し海外販賣の如き市價漸次騰貴し輸出額亦益々多きを加へつゝあり是れ獨り同店の利益のみならず本邦界の大發展を劃せる次第にて當主鈴木三郎助氏は之が爲めに大正五年二月三日勅定綬章を賜はり其功績を表彰せられたるは今尙世人の耳に新なる所にして是れ蓋し其榮譽の大半は亡母仲子刀自の功勞に歸すべきものとす。

同店は前記の沿革にて株式會社なるも實は鈴木一家の經營に屬し會社組織は名義上のみにて從來の個人經營と何等異なる處なく主義方針は最も堅實にて年と共に穩健なる發達をなし今日に至れるものにて之れが主腦者鈴木三郎助氏は現代實業界に錚々たる名士にして其關係方面極めて廣く苦辛慘憺たる行運は多岐多端にして茲に列記すれば殆ど數十頁の多きに達し宛かも一篇の立志傳を爲すは特に世人の知る所なるを以て茲には省略して其一二を紹介せん、即ち明治二十年以來沃度事業を創始し次で沃度加里を製造し同二十七年には硝石を製造して陸軍省に納入して日清戰役用にし、日



株式會社鈴木商店工場

露戰役當時には智利硝石綿火藥原料を輸入して陸軍省に納入し又硫酸及硝酸等の如き綿火藥原料をも製造納入して軍國の急務に應じ、關東沃度製造同業組合長鹽化加里の製造の創始日本化學工業株式會社の設立帝國肥料總房水産、東遠製藥、三重沃度製造、東信電氣株式會社、日本釀造株式會社等の各會社を設立し、其他關係會社に至りては一々枚舉に遑あらず而して現在同店重役は社長鈴木三郎助、専務取締役鈴木忠治、取締役鈴木百太郎、鈴木三郎、鈴木六郎、塚口慶三郎、監査役青木大三郎、太田惣七、支配人高梨新三郎、副支配人井上哲の諸氏にして何れも達識の名士にて殊に専務取締役鈴木忠治氏は鈴木三郎助氏の實弟にして横濱商業を卒へ爾來専ら商工業界に力を傾けし内外の知識を吸収し博識多才機略縱橫洵に同店の參謀長たり、取締役鈴木三郎氏は同店の若主人公にして當主三郎助氏の嫡男なり京華商業を卒へ實務經驗を積み更に米國に留學し天資頗る商機に富み頭腦甚だ綿密なり、取締役鈴木百太郎氏は明治三十六年千葉醫學專門學校出身にして現に葉山工場長たり、取締役鈴木六郎氏は明治四十三年帝國大學化學科出身にして目下川崎工場長たり、而して何れも當主三郎助氏の愛婿にて其手腕力量共に傑出し令名高し、監査役青木大三郎氏は其實同店の顧問にして明治十七年出身の工學士なり、元横濱大坂等の郵便電信局長たりし人圓轉滑脱にして辯舌甚爽快殊に最も座談に富み且つ人格の人として夙に朝野の名士に知己多し。

高梨支配人は同店創業以來の中心人物にして頭腦明晰、公裁快斷流るゝが如く資性亦濃厚篤實衆望専ら斯人に集り人心夙に其人格に服す同社今日の發達には其貢獻する功績頗る大なり。井上副支配人は明治三十一年東京高商出身の俊才にして日本ベインント會社の營業部長たりしが大正六年六月同店株式會社組織となり更に海外貿易に専ら力を傾倒せんとするや當主三郎助氏之を拔擢して其任に當らしむ資性敏慧能辨快舌頗る春秋に富み今や内外の商機に乗じて縱橫の才腕を發揮しつゝあり尙商事課長矢部豐吉、外國課長戸田棟之助氏其他課長各出張所長何れも新進氣鋭の秀才を以て網羅せり而して同社内部の組織は調査課營業部外國課、商事課廣告課庶務課會計課、工務部工場監督等に分れ廣告課の如き毎月多額の廣告料を支拂ふと云ふ。營業所は東京市京橋區南傳馬町なる本店の外に大阪東北、上海、紐育、ブラジル、倫敦等に各出張所を設け本店と相呼應して益々業務の發展を計れり。

工場は神奈川縣川崎町相州葉山、東京府大島北海道濱中宮城縣鹽釜等に設置せり。營業成績は極めて良好にて毎期貳割以上參割の配當をなし尙多くの積立金を有し社礎最も鞏固にして行々は全國關係諸會社を取纏め資本金參千萬圓の大會社と爲すの計畫ありと聞く。

### 土橋電氣製鋼所と所主土橋長兵衛君

土橋電氣製鋼所は所主土橋長兵衛氏の個人經營に係る本邦有數の製鋼所にして現在第一工場を長野縣東筑摩郡島内村に第二工場を同縣松本市清水町東に第三工場を同縣伊那郡中箕輪村松島に設置し其の資本金は第一工場、金參拾萬圓固定資本貳拾萬圓、流動資本拾萬圓、第二工場、金拾萬圓固定資本七萬五千圓、流動資本貳萬五千圓、第三工場、金貳拾萬圓固定資本拾五萬圓、流動資本五萬圓を算し、工場坪數第一工場、建物四百八十二坪、用地一千五百五十坪、第二工場、建物二百五十坪、用地八百六十五坪、第三工場、建物五百九十八坪、用地四千八百五十坪を數へ外に貨物ホーム延長四十二間、電車引込線軌道

延長八十七間あり、現在従業者。第一工場。事務員九人、職工六十五人。第二工場。事務員三人、職工二十人。第三工場。事務員五人、職工四十五人にして各工場据付の重なる機械は第一工場蒸汽機三臺、加熱爐十二個、鋼材燒鈍爐三個、電氣爐三個、スチームハンマー七臺、スチームエンジン四個、モーター一個、旋盤一個、平削盤一個、ドリルマシン一個、ニューマチックハンマー一個、變壓器三個、各一個、百キロワット、ライシントンポンプ四個、研磨器一個、第二工場電氣爐二個、變壓器三個、各一個、百二十キロワット、第三工場電氣爐十二個、變壓器三個、各一個、百キロワット、多きを數へ、電力は熔解用電力第一工場、二百キロワット、安曇電氣會社より供給を受け、同第二工場、二百五十キロワットは松本電燈株式會社より供給を受け、同第三工場、一千キロワットは伊那電車軌道株式會社より供給を受け、尙第二工場の電力供給量は三百キロワットとなりしが、供



橋本兵衛君

渠株式會社を始めとし、其他民間各工場に洽く業績隆々、定に朝陽冲天の概を示しつゝあり。所主土橋兵衛氏は明治元年八月一日を以て生る、家は信州上諏訪町土橋の總本家にして、同地方の重鎮に曰く諏訪の龜屋か龜屋の諏訪かと亦以て其一斑を知る可し、當時諏訪に於ける諏訪鋼の産出は藩是として又た地方産業振興策として其名聲の噴々たると共に官民の共に甚大なる注意を拂ひし所なりしも、而も其原料は全部大阪商人の手を経て輸入せられ殆ど其蹊に委せざる可らざる状態にありしかば、藩の有志之を憂へ、賄賂あり、鉅萬の資を有せる長右衛門氏を召し之が救済の方法を諮る、同氏則ち一諾を以て之に酬ひ、南佐久郡モライ山に鐵山を經營し、京阪地方より多數の職工を備聘し、ブイゴ式製法に依り、銑鐵の産出を企てたるも不幸失敗に歸し、多大の損害を負ひ、殆



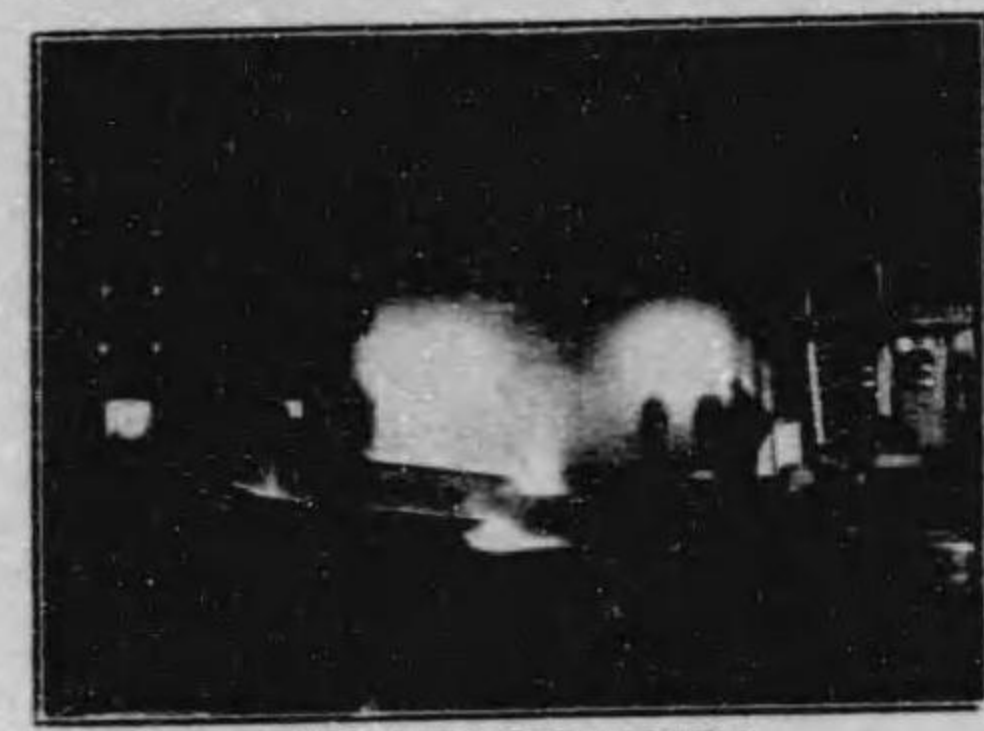
橋本新製鋼電氣工場

給會社の電力に不足を生じたるが爲め、如上の減少を見るに至れるものにして、第三工場の動力は更に附近天龍川支流の一なる澤川の水力を利用し、目下自家用電力發生の計劃中なるが故に、今大正八年七月以來は送電するに至るべし、斯くて現今以上各工場に於いて製出する製品目並に一ヶ年の製造力及非常時に於ける製造能力を示せば、第一工場。高速度鋼。數量百五十噸、非常時の製造力二百噸。第二工場。高速度鋼塊數量百五十噸、炭素鋼塊及其他的鋼塊數量二百噸。第三工場。鐵合金類數量一千二十噸、鋼塊のみを製造する時(千七百噸)。



橋本島所製鋼電氣工場

ど立つ能はざるに至れり、時に忠僕名取傳右衛門氏なる者あり、家道を扶け子女の扶養と家運の復興に励め、三代の主仕へて現代主たる長兵衛氏に至る、名取氏は後継者を受け現存す、同氏夙に父祖の業を繼ぎ、金物商を營み、併て鑄造工場を設け、各種の鑄造に従事せしも、重なる鋼鐵類は殆ど全部を外國の輸入に俟ち、内地の製造更に奮はず、而も尙獨り起て之が研鑽に當るものなきを憤慨し、則ち自ら鋼鐵界に於ける一種の發明をなし、以て國家に貢獻し、且つ祖先の遺志を繼承して之を大成せんことを決意し、奮然として之が研究に身を委するに至る、斯くて明治三十七年七月より電熱應用の製鐵製鋼の研究に従事せるも、當時内地には之に關する著書は勿論之を研究したる學者、技術者更に無く已むを得ず、自己考案の簡單なる電氣爐模型數種と其他必要なる附屬器具とを創造し、東京電燈橫濱共同、松本電燈安曇電氣等各會社の電力を買受け試験せしが、蒐集に就きては東西に馳せ、南北に奔り、各地の山岳を跋渉し、惡戰苦闘の末、漸く苦灰石及び之に配合する數種の特殊材料の完全な爐壁を保つものを發見し、試験の結果、明治四十二年に至りて遂に製鐵製鋼に適應せる電氣爐を考案創造せり。因に電氣爐は高熱なる電力を使用するを以て其爐壁を保つ事の必要なるは勿論、爐壁に含有する礦物成分が直に製品に重大なる關係を有するを以て、現今各工場は皆之が秘密を嚴守しつゝあり。



橋本製鋼電氣所製鋼電氣工場

(一)電氣冶金 更に氏は其發明創造せる電氣爐に依り、爾後冶金の研究實驗を重ねたるも、益々事豫期と違ひ、意の如くならざるを以て、試験の結果を携へて上京し、帝國大學の侯博士並に海軍工廠の某々技師等の門を叩きて、教を乞ひ、大に得る所あり、更に學理と實驗とを究め、併て別に製鋼上必要なる分析法を獨創し、以て次の諸研究に没頭する事正に二ヶ年餘、刻苦精勵の結果、遂に能く多年の宿望を完成するに至れり、偉なりと云はざる可けんや。

(二)電氣爐 電氣爐に要する耐火性材料の研究實驗を重ねたるも、益々事豫期と違ひ、意の如くならざるを以て、試験の結果を携へて上京し、帝國大學の侯博士並に海軍工廠の某々技師等の門を叩きて、教を乞ひ、大に得る所あり、更に學理と實驗とを究め、併て別に製鋼上必要なる分析法を獨創し、以て次の諸研究に没頭する事正に二ヶ年餘、刻苦精勵の結果、遂に能く多年の宿望を完成するに至れり、偉なりと云はざる可けんや。

(イ)高速度鋼及特殊鋼の製造 (ロ)兵器鋼材の製造 (ハ)鐵塊鑄及砂鐵より銑鐵の製造 (ニ)銑鐵より鐵及鋼の製造 (ホ)重石爐よりフェロタングステン(ト)の製造 (ヘ)クロム鐵鑄よりフェロクロムの製造 (ト)硅石よりフェロシリコンの製造 (チ)滿鐵鑄よりフェロマンガンの製造

蓋し本邦に於て電氣爐を用ひ、高速鋼及其他的鋼鐵、鐵合金を製造せるは、同工場を以て嚆矢とし、就中高速鋼なるものを内地に於て製造せる鼻祖なりとす、而して其の製品は海軍省及鐵道院に



橋本製鋼電氣所製鋼電氣工場



橋本清水所製鋼電氣工場



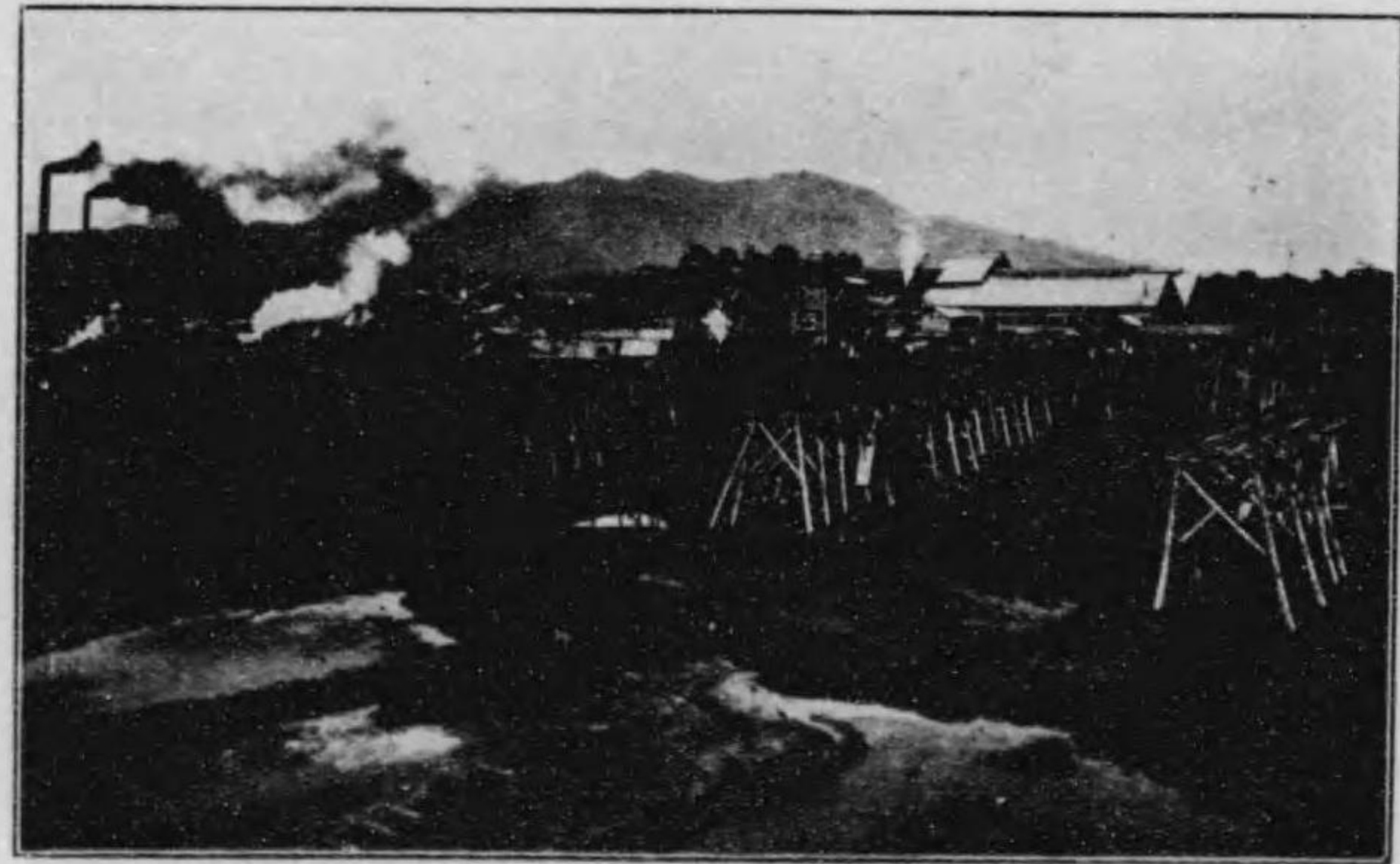


て孜孜努勉する事あり、同八年同坑々長兼技術長となり、精勵其の經營に從ひ、功を擧ぐる事極めて多大なり、當時同炭坑の口産額は漸く五十噸内外を算するに過ぎず、且つ坑内には屢々瓦斯爆破の爲め大火災のあるあり、坑外には惡疫の蔓延流行するあり、加ふるに坑内坑夫等の喧騒、闘争日に劇烈を極め、紛難困厄洵に名状すべからざるものありしも、剛毅練達なる君は能く百難に耐へて事業を進行せしめ、遂に同十一年の交に至りては百事漸く其の緒に就くを得せしめ、同十三年に至つて日々の出炭額は實に一千五百噸を數ふるの盛況に達せしめ、後ち同坑の三菱家の有に歸するや、同十五年同坑を辭し、長崎香焼炭坑及中ノ島炭坑の技術長となり、是れ亦た非凡の成果を收めしめしが、同十八年更に同坑を辭し、竹内綱氏と共に協同して唐津芳谷炭坑の開鑿に着手し、同十九年同炭坑着炭採掘開始、同坑技師長となる、爾來君が炭坑界に於ける地位は年と共に進み、事業亦た日に成功の域に達し、同二十八年推選せられて唐津鑛業組合長となる、翌二十九年一月唐津相知炭坑を開創し、相知炭坑株式會社を組織し、選ばれて専務取締役となり、事業一切を管掌せしが、同三十三年十一月同坑を三菱合資會社に賣渡せり、越えて同三十四年杵島郡赤阪口炭坑及福母炭坑を買収し、同四十二年十二月更に杵島炭坑を買収經營す、斯くて君が事業は其の規模と内容と二つながら年々擴大充實するに伴ひ、遂に大正六年五月に至り、業務の組織を合資會社となし、高取合資會社を設立し、自ら社長に就き、次で翌七年四月更に其の組織を株式會社に改め、高取鑛業株式會社と稱し、依然社長として業務經營の衝に當り、以つて今日に至る、君天資剛邁卓犖にして、風采堂々、一見して其の凡人たらざるを知る、曩に多年炭坑事業に従事し、功績偉大なるの故を以て、勅定の綵綬褒章を授與し、其の功績を表彰せらる、又た以つて榮譽と稱すべきなり。

### 宇治川電氣株式會社

宇治川電氣株式會社は金貳千五百萬圓拂込金壹千五百六拾貳萬五千圓の巨資を擁し、電力の供給販賣及電氣工業並に電氣に關する機械器具の製造販賣を以て營業の目的とせる關西有数の大會社にして、本社を大阪市北區曾根崎上二丁目位置く、今左に其の沿革並現況の概要を述べむ。

(一)沿革 同社營業の目的は前記の如くにして、明治三十九年四月四日會社發起人に於て、淀川沿岸滋賀縣滋賀郡石山村より京都府久世郡宇治町に至る間に發電用水路を開鑿し、琵琶湖より一秒時二千立方尺後二千二百立方尺に増加の水量を引用する第一期工事の許可を得、同年十月二十五日會社を設立し、同年十一月五日電氣事業經營の許可を受け、諸般工事着手の準備をなし、同四十四年十二月二十五、二十六の兩日、水路の起終兩點に於て起工式を擧げ、大正二年七月土木電氣兩工事全く竣成



高取鑛業株式會社杵島炭坑第二坑

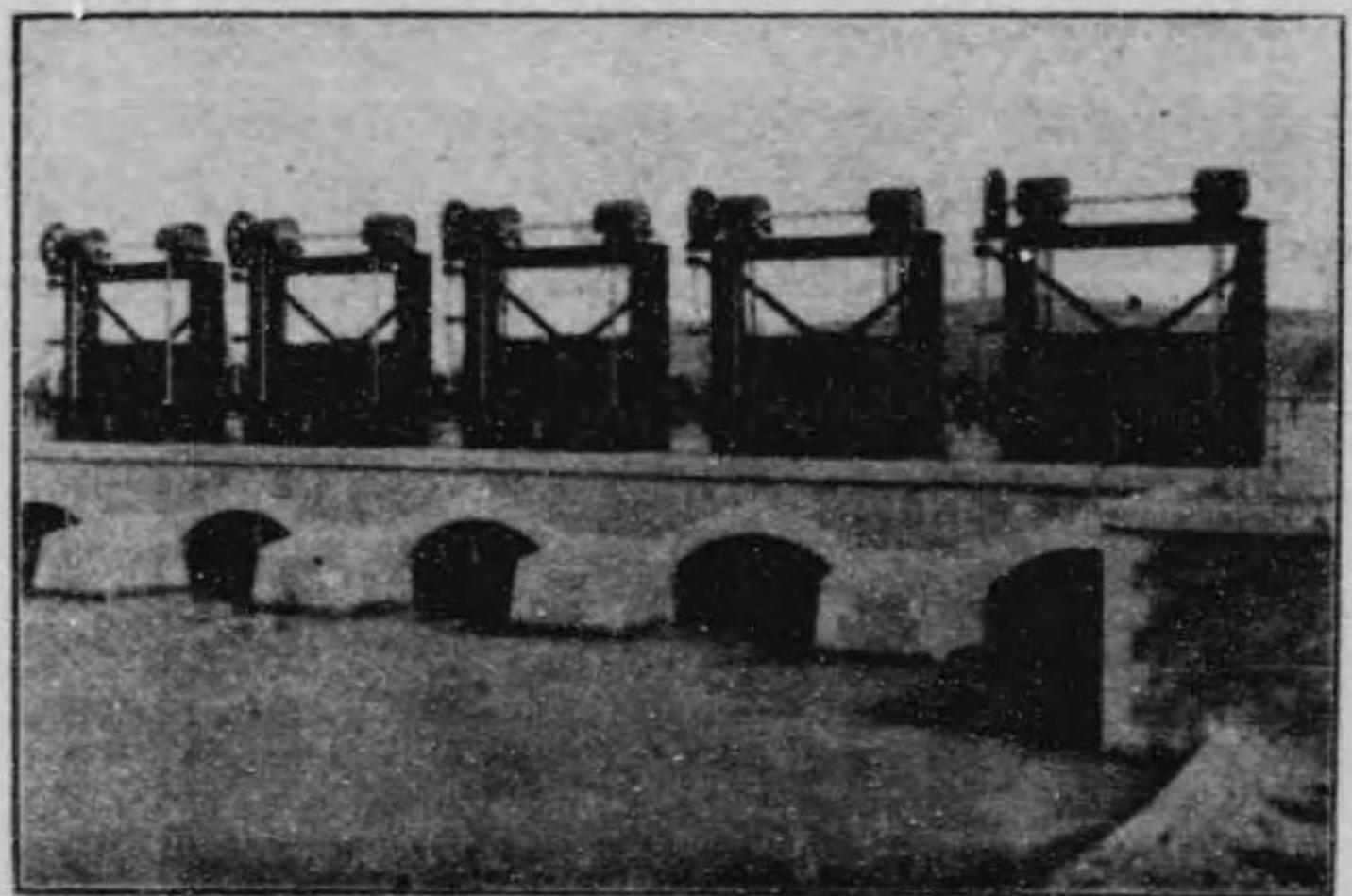
の上其の筋の監査を經、同年八月一日より營業を開始せり、猶右第一期工事の設計梗概を述べれば、(イ)水路 南郷宇治間の水路は總延長六千三百三十一間五勾配全水路を通じて二千分の一落差二百〇三尺七七七、發電所の設備其他 宇治發電所に於ては八千馬力のアンペラシス形水車並に三相交流田磁回轉型七千キロワットアンペラ發電機各六臺を据付け、四萬八千六百馬力の電氣を發生せしめ、五萬五千ワットの電壓を以て大阪に、一萬二千ワットの電壓を以て京都に送電し、つゝ、ふるものにして該送電線路は何れも架空線式にして、宇治大阪間凡二十二哩、宇治京都間約八哩なり、(ロ)配電設備 前項記載の如く五萬五千ワットの電壓を以て大阪方面に輸送せられたる電氣は、大阪市外野江變電所に到り、同所に於て其の一部は三千四百五十ワットに降壓して、同地附近の工場に供給し、其餘の大部は之を一萬一千ワットに降壓して、地中電纜に依りて本社道頓堀、海老江、島屋町、尼崎、玉造及大和川の各變電所に配電し、更に之を三千四百五十ワットに降壓して、本社配電線路に依り、電力需要家に送



宇治川電氣株式會社代表取締役 中川 啓

電す而して大阪電燈株式會社への送電は上記野江變電所に於て一萬一千ワットに降壓し、同所に直に同社に授受するものとす、次に京都方面への送電は本社京都送電線に依り、京都市東九條に於ける京都電燈株式會社東寺變電所に到り、此所に於て晝夜共同社へ一手に供給するものとす、斯くて同社電力供給營業開始後、諸工業の勃興に伴ひ、動力の需要日に驟々として増加し、終に供給電力に不足を告ぐるに至りしを以て、一時應急策として、大阪電燈株式會社より電力の供給を受け、各需要家に送電すると共に、一面淀川筋に於て約三萬キロワットを發生せしむべき第二期水力電氣工事達成の計畫を以て、其設計の變更を其筋に申請し、尙火力發電の設備を前後二回に其筋に申請し、何れも既に其許可を受けたり、右設備は兩者共其發電容量三萬キロワットにして、第一回は現に建設中に屬し、遠からず竣成すべく、又第二回は分は目下着々起工準備中にして、是等の諸設備全部完成の曉に於ては、同社の發電力は十數萬キロワットに上り、益々關西工業界に資する所多大なるべし。

事業概況 同社の大正七年九月末日現在に於ける工場動力用電力の送電馬力數は六萬三千五百六十三馬力、一五此の需要家數五千四百六十二軒にして、之を前期末現在に比較するに、送電馬力數に於て一萬四千四百五十八馬力、八五、需要家數に於て六百八十一軒の増加を示し、平均一ヶ月増加馬力數二千四百九馬力、八一、需要家數日十三軒餘の増加に當れり、猶大阪市並に其附近地に於ける同社配電線路は營業狀態の進捗に伴ひ、漸次擴張せられ、同年に於ては大和川變電所を新設し、既設の野江、道頓堀、海老江、島屋町、尼崎及玉造の各變電所の分を合し、總計五十九幹線によりて供給區域各方面へ配電するに至り、同年



宇治川電氣株式會社發電用水路

九月末日現在に於て其互長三〇〇哩六九三、延長一、一四四哩三八九に及び、今左に大正二年八月同社開業以來の工業用電力供給状況及利益金計算表を掲げ、以て如何に同社の業務が逐年隆盛の域に進みつゝあるかを示さん。

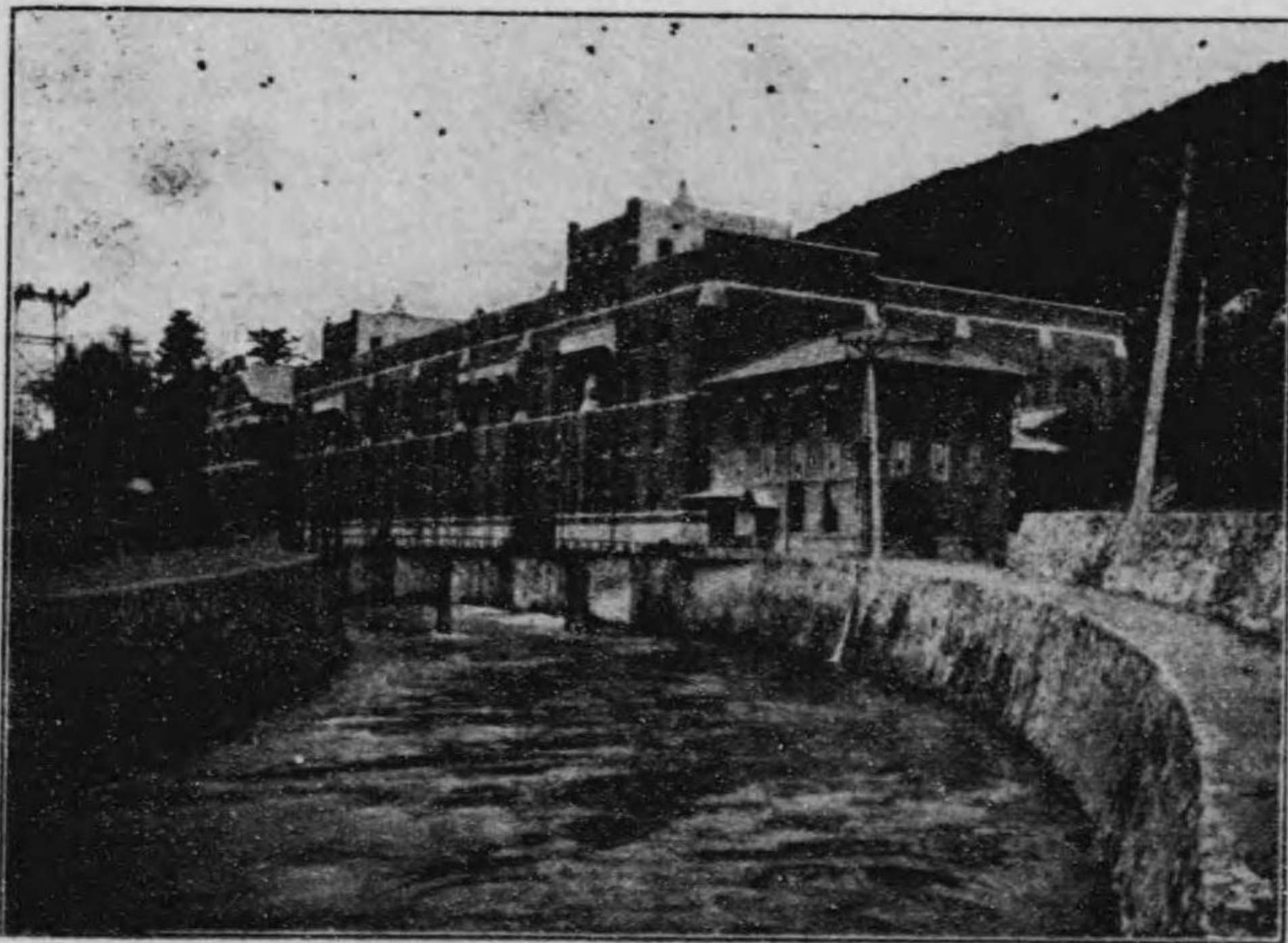
事業年度	期末取付馬力数	同需要家数	利益金	諸積立金	配當金	率	後繰越金
自大正二年八月	四三二	九六	二五、二四〇	一〇、〇〇〇	一〇、四二七	五朱	八、八七〇
至同三年三月	八一六	一四七	四三、九四〇	五七、〇〇〇	三七五、〇〇〇	六朱	三三、〇三三
至同三年九月	一、二八二	一八四	四六、九三三	九九、〇〇〇	三七五、〇〇〇	六朱	二二、〇三三
至同四年三月	一、七〇九	二一四	五九、〇八七	一五、〇〇〇	四七、五〇〇	七朱	三三、〇三三
至同四年九月	一九六六	二五三	五八、六七〇	二〇、〇〇〇	四八、七〇〇	七朱五	四〇、一三二
至同五年三月	二、〇〇四	三〇八	五九、九五六	二六、〇〇〇	五〇、〇〇〇	八朱	三六、七二七
至同五年九月	三、二八九	三四九	一、五二、九七九	一、三三、一五五	六四、二五〇	八朱	六二、二六六
至同六年三月	三、九二六	三七九	一、八四、九四九	一、〇七、一五五	六五、〇〇〇	八朱	一四、六七五
至同六年九月	四、三三二	四二九	一九三、二二六	一、〇三、一五五	六五、〇〇〇	八朱	三三、八三三
至同七年三月	四、九一四	四六一	一九三、〇〇七	一、四〇、一五五	六五、〇〇〇	八朱	五三、三七七
至同七年九月	五、五三三	四八七	一九八、五三五	一、四八、一五五	六五、〇〇〇	八朱	六九、九二五

備考 自大正五年四月至同年九月利益金中には新株募集プレミアムの金額を含む。

自大正七年四月至同年九月利益金の減少したるは石炭騰貴の爲め大阪電燈株式會社より購入の上需要家に供給せる電力購入代金に割増を要したるに由るものにして同社の供給電力料金には次期より割増を受け居れり。

以上供給動力の外主として電燈用として大阪電燈株式會社に最大二萬二千四百キロワットを、主として電機用として大阪市に點燈時間外に限り二千キロワットを、京都電燈株式會社へ晝夜を通じて四千キロワットを供給しつゝあり。

同社の特長 同社の特長として擧ぐ可きものに次の數點あり、一、主として水力を以て發電するが故に石炭價格の變動に懸念すること少し、二、送電線の延長、宇治、大阪間約二十哩、宇治、京都間約八哩に過ぎずして大規模の水力電氣としては最も短



宇治川電氣株式會社宇治川發電所

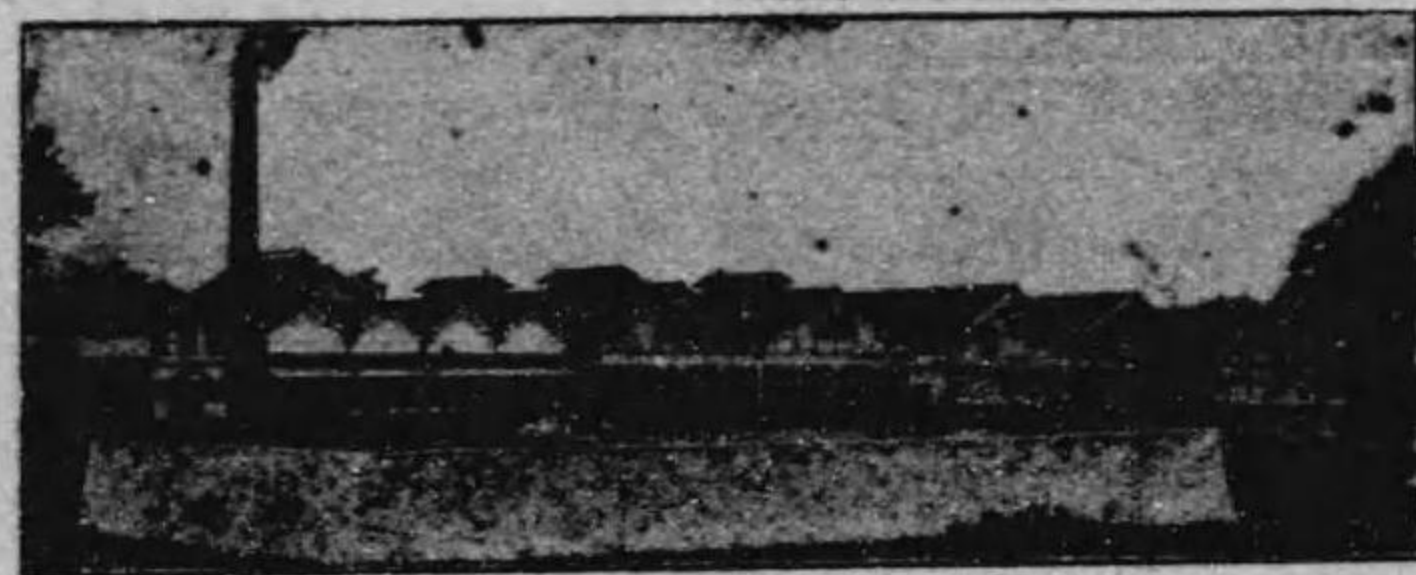
距離なること、一、送電線は全部平野を通過し雷害皆無なること、二、大阪市と報價契約を締結し毎年一定の報價金を納付し、市の管理に關する道路橋梁其他公共の工作物を無料にて使用し、尙市の供給する動力用電力の供給區域並に供給量を制限し、又大阪電燈株式會社とも締約して該社動力用電力の供給量を限定せるを以て同社は大阪市及其附近に對して動力用電力の供給上頗る優越なる地位に立てり。

現重役 同社の現重役は取締役社長中川淺之助常務取締役林安繁取締役淺見又藏同野日遼同山岡順太郎監査役男爵大倉喜八郎同福原有信同松方五郎の諸氏なり。

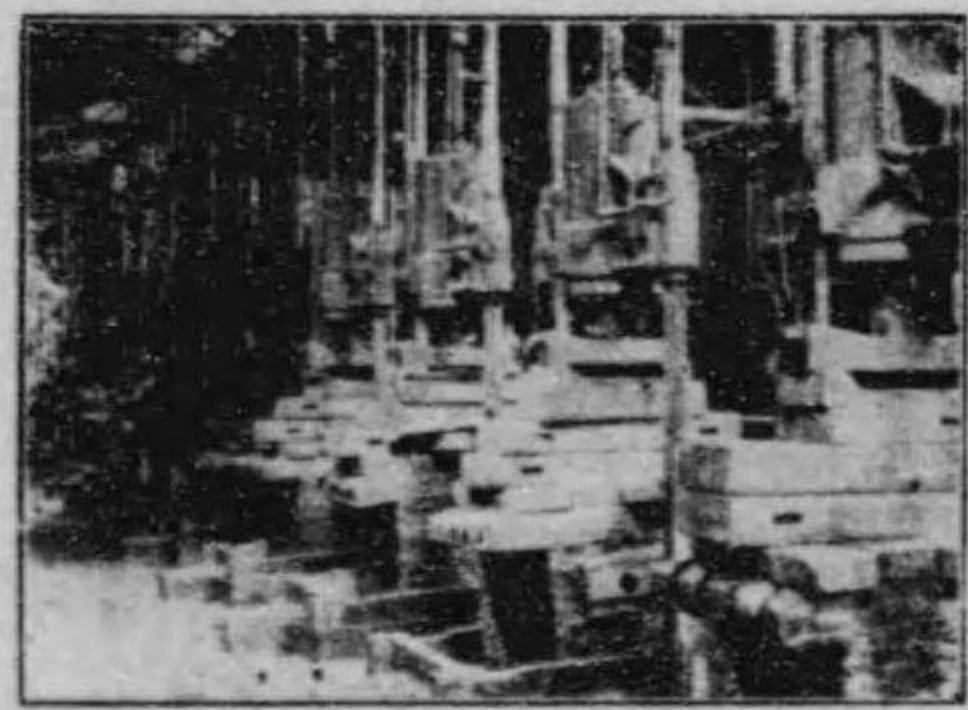
### 野田醬油株式會社

同社は千葉縣東葛飾郡野田町に在り、大正六年十二月從來野田町に於ける八大醬油醸造業者の合同によりて創立せられたるものにして現在資本金七百萬圓(全額拂込済)を有し、醬油の醸造販賣を以て營業の目的とす、抑、野田醬油は今を距ること二百餘年前、茂木高梨兩家の創業に係るものにして爾來此の一族八家は年と共に發展し、野田醬油の名は天下に普く、就中其の龜甲萬木白、上十の三印の如きは古來天下一品、海内醬油中の白眉を以て稱せられ、特に龜甲萬は曩に、畏くも宮内省御用の榮譽を擔ふに至れり、而して同社設立後は日猶未だ淺し、雖其の製品は上述の如く數百年來の名譽ある歴史を有せる逸品にして、且つ其の經營者は由來本邦斯界の重鎮を以て許さるゝ人々なるが故に社運の進展譬へば順風を帆を操つるにも似て日に異常の旺盛を現はし、今や本社の外出張所を大阪市西區江戶堀北通一丁目二十四番地並に横濱市元濱町三丁目十八番地に設け、工場十五箇所を本社の所在地たる野田町に、同一個所を同縣同郡行徳町に設置し、百三十餘名の店員と一千二百餘名の職工とは日夜孜々として其の業に精勵し、製品年産額實に三十餘萬石を算するの盛況を示しつゝ、尙上記十六個所の工場は何れも設備の完全無缺にして最新式機械を具備し、其の蒸氣力は一十馬力を超え、特に場内に於ける衛生施設には最も多大の注意を拂へるが故に場内到處として清潔にして整美を極め、眞に斯界に於ける模範工場たる實を具備せり、又別に特設醸造試験所の設ありて原料品の良否、製品の優劣、醸造法の改良等に就きて夫れ、専門の技師を備聘して嚴密なる研究に努力しつゝあり。

同社の製造品は醬油並に其副産物たる醬油粕、同溜なりとす、而して其の醬油の最上物は龜甲萬木白、上十、櫛形、水上、一山、龜甲、分銅、萬上等にして是等は皆原料を精選し、多年の經驗と最新の學理を應用して醸造せるものなるが故に其の品質の純良にして香味の卓絶せるは夙に天下萬人の熟知せる所なりとす、宜なる哉、明治十年以來内外博覽會共進會等に出陳して其の都度最高の賞牌を受け、特に龜甲萬印の如きは上述の如く曩に宮内省御用の榮譽に浴し、正に本邦醬油界の第一位を占むるの名譽を荷へる事や、尙同社は帝都



野田醬油株式會社工場全景

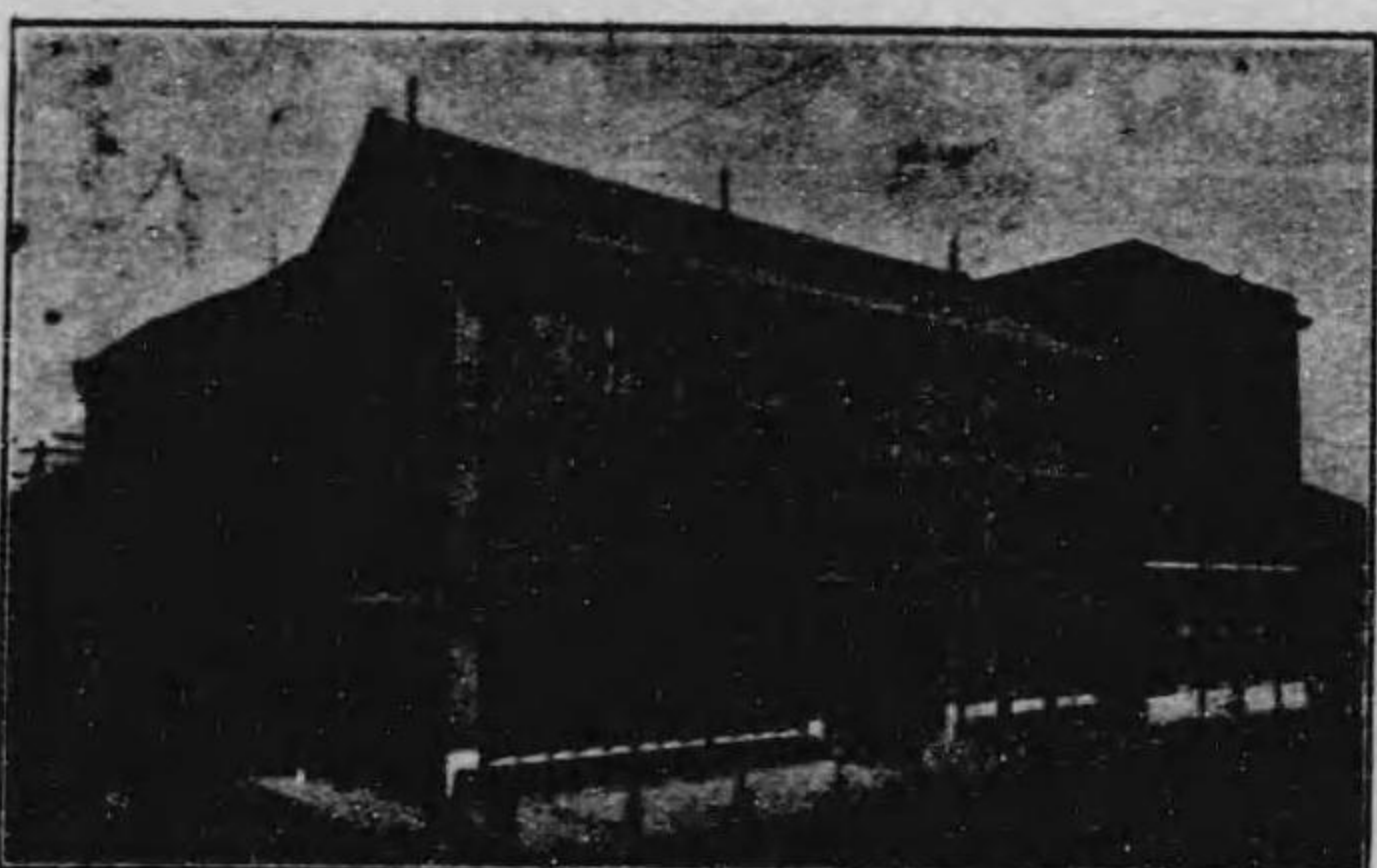


野田醬油株式會社工場内景

を去る二十哩の地點に在り、且つ水陸交通の便を有するが故に其の製品の販路は年と共に擴張せられ、現に内地一圓は勿論臺灣、朝鮮等の新領土並に支那、南洋より遠くは布哇、南亞米利加、歐洲諸國に及び、尙くも本邦人の行く所として同社醬油の隨はざるなき盛況に在り、同社の過去現在に於ける盛運や夫れ既に此の如し、想ふに將來の發展や更に益々驚異に値すべしものあるや必せり、多望なりと云ふ可し、因に同社の現重役は社長茂木七郎右衛門、元木白醬油醸造主、常務取締役茂木佐平治、元龜甲萬醸造主、同茂木七左衛門、元クシガタ印醬油醸造主、取締役高梨兵左衛門、元上十醬油醸造主、同茂木房五郎、元水上醬油醸造主、同茂木啓三郎、元龜甲萬醸造主、同茂木勇右衛門、元一山醬油醸造主、監査役中野長兵衛、東京醬油問屋、同堀切紋次郎、元分銅萬上醬油醸造元、諸氏なり。

### 伊藤忠合名會社と伊藤家の事業

同社は現社長伊藤忠兵衛氏の先代忠兵衛氏が元治、慶應の頃、所謂近江商人と伍し、自ら店員を率ひて中國、四國、九州地方を跋渉し、吳服、太物、麻布類の行商に努めし時に於て其基礎を築成せり、後明治五年、大阪本町に店舗を開きて吳服商を營み、更に同十五年に至り、京都に支店を設けて縮緬、京染、吳服類の販賣に従事し、又同十八年伊藤海外組を組織し、歐米向直輸出を開始し、其の本店を神戸に支店を米國桑港に設け、既に同十九年大阪瓦町の店舗にて羅紗、毛織物の輸入を創始せり、爾來店運年と共に發展するに伴ひ、同二十六年大阪安土町に絲店を開きて縮緬の取引を始め、次いで支那貿易に手を染め、同二十八年日東合資會社の下に清國上海に我が縮緬の輸出支那棉花の輸入並に織物類の輸出入業を營み、同四十二年伊藤上海支店と改稱せり、爾後大に支那、菲律賓に力を注ぎ、各地に支店又は出張所を設けて縮緬、布雜貨の輸出原料品の輸入に努め、今や同地方に於ける紅伊藤忠の勢力隆々として當る可らざるものあり、此の間同三十六年先代の病歿と共に當主忠兵衛氏年少にして家督を相續し、銳意家業の進展に努め、歐米漫遊後は大に其面目を一新して新經營に向つて全力を拂ひ、大正三年神戸支店を根據として對南洋、歐米一般輸出貿易に従事し、活躍日に加り、業績大に見る可きものあり、超えて同四年遂に伊藤一族より成る伊藤忠合名會社の成立を見るに至る、斯くて歐洲大戰勃發以來同社の業運は年と共に益々旺んじて同七年七月に至りては印度、カルクッタ、米國、ニューヨークに支店を設けて對印、對米貿易實行の期に入り、社業亦一段の殷盛を加ふるに至る、斯くて同年十二月規模の擴張に連れ、時運の推移に促され、茲に伊藤家事業の組織變更を斷行して、合名會社の増資と共に更に二大株式會社の新組織を見るに至れり、今其の概目を叙すれば左の如し。



伊藤忠合名會社本店

- (イ) 資本金 貳千萬圓
- (二) 株式會社伊藤忠商店
- (イ) 資本金 五百萬圓

- (ロ) 營業科目 吳服、毛織物、東京、吳服
- (ハ) 營業所 本社、大阪市東區本町二丁目、支店、京都市室町
- (ニ) 伊藤忠合名會社
- (ロ) 目的 一般企業
- (ハ) 本社所在地 大阪市東區本町二丁目
- (ニ) 社長 伊藤忠兵衛氏

通四條下ル、(三) 社長伊藤忠三氏

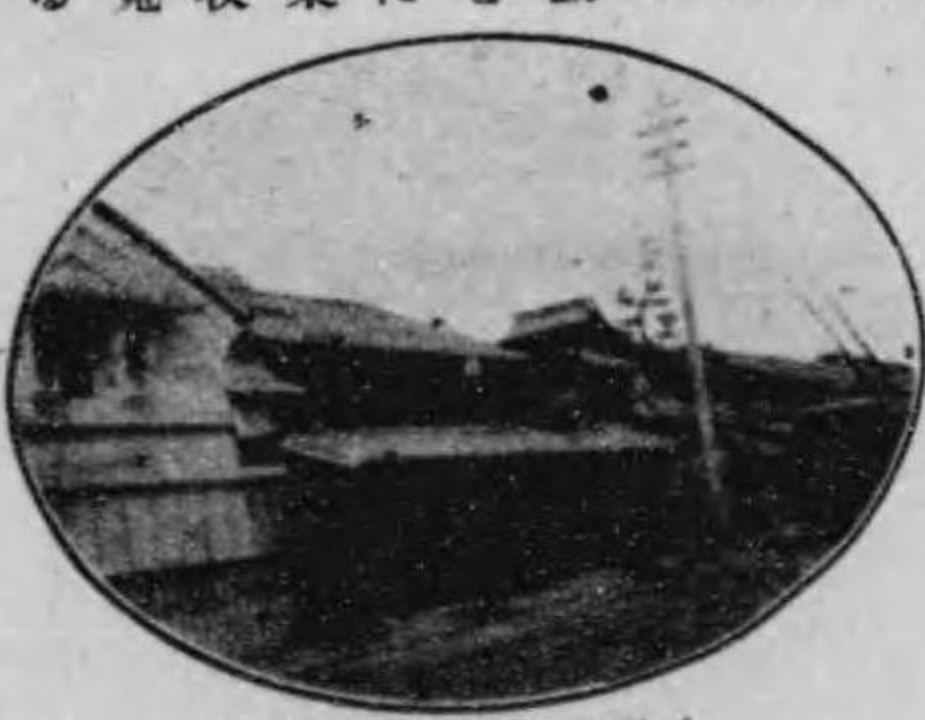
(三) 伊藤忠商事株式會社  
(イ) 資本金 壹千萬圓 (ロ) 營業科目 綿絲布及一般輸出入貿易 (ハ) 營業所 本社、大阪市東區安土町二丁目、支店及出張所、東京、神戸、横濱、上海、漢口、天津、青島、紐育、マニラ、カルクッタ、(ニ) 重役 社長伊藤忠兵衛氏、專務取締役伊藤竹之助氏  
以上の全社員七百名を超え、社長幹部以下年少氣鋭、激潤たる元氣に滿ち、其同一致を旨として専心事業に當り、今や鮮滿、支に、漆洲に、米國に、將た歐洲諸國に、幾多の出張員を派し、其の事業の範圍と規模の廣大にして、業績の隆々たる洵に驚異に値するものあり、正に東の方横濱市に於ける茂木合名會社と東西相對して我が海外貿易業界の二明星を以て稱せらる、想ふに將來の發展や更に益々豫測すべからざるものあらん。

### 速康散本舖 久保田庄左衛門君

靈藥そげぬき速康散の製造販賣本舖として盛名海の内外に噴々たる久保田庄左衛門家は本店を京都市西洞院通五條南入小柳町に有す、抑々同家は近江國坂田郡顔戸村より出づ、同村は古平等院村と稱し、草分七戸ありしが、同家は其の一に居ると云ふ、建久四年富士の裾野に工藤祐經を殺し、父の讎を報じ、以て孝子の譽を千載に残せし曾我兄弟の遠裔なりと稱せらる、而して久保田家は初代の名を有と稱へ、二代目より庄左衛門と改めしが、氏が天稟の才氣は終生を草深き田舎に送るを好まず、決然志を立て、京都に出で西洞院五條下る所に卜居し、當時襖其の他に雲母の需要多かりしを以て其の原料を三河國より取寄せ、汝々として之が製造業に努め、せり、爾來業運日に榮え、名聲漸く高く、遂に町年寄を勤むるに至れり、斯くて三代、四代共に雲母の製造を業として益々盛大に赴き、五代目に至りては更に當時馬淵義啓なるもの家傳の妙方、速康散なる藥を洛の内外に賣弘めしを取次販賣し、後之を買収



久保田庄左衛門君



久保田庄左衛門本店

して製劑の傳を受け、長へに久保田家の家傳となしたり、之れ今を距る事二百五十有餘年前、即ち寛文年間、の事なりき、爾後歴代相承、斯業を兼營せしが、十代目に至つて雲母製造業の有利ならざるを見て、斷然之を廢止し、全力を擧げて速康散の業に注げり、斯くて其の名益々昂上し、十一代現主庄左衛門君其の事業を承繼し、以て今日に至る。

抑々久保田そげぬき速康散は、服滿脚氣、子宮、血の道、リウマチス、痛氣、癩氣、水腫症、脊髓病、神經痛、其の他總ての疲勞に對して、靈效あるのみならず、諸種の毒蟲にさされ、れ、又、か、ま、れ、打、身、怪、我、一、切、尙、竹、木、の、そ、げ、と、げ、と、も、云、と、を、抜、き、殊、に、威、冒、に、は、著、し、き、效

ある盛業にして今や其の販路は獨り内地一圓に治きのみならず、遠く朝鮮滿洲方面に及び需用日に激増、好評市場に高し。現主十一代庄左衛門氏は十代庄左衛門氏の次子にして幼名を幸次郎と云ふ、長兄死亡に依り家督を相続す、天資恭謙能く家業に精勵し、屢々諸國を視察して時代の變遷と共に種々方法を講じ、且原料の精選に留意する等大に速康散の販路を宏大ならしめ、以て今日の盛況を見るに至らしむ、其他風邪に卓效あるヘブリン散、梅毒、リウマチスに驚くべき效果ある沃度加里等を賣出し、之れ亦非常なる賞讃を博し、累年異數の發展を來しつゝ、あり、猶茲に一挿話として掲ぐべきは、同氏發賣の速康散、其他の商標に關する一話なり、元來同店發賣品の商標は、『雲形中に久保田の久の字を記し、是に雷形を添へ』たるものを用ひ來りしが、時恰も明治二十三年七月二十四日、一天俄に播曇り雷鳴烈しく、懸がてすさまじき音諸共久保田邸裏なる倉庫に落雷したるも、何等大なる損害を見ることなかりき、是れぞ、正しく商標に應じ、雷神の趣向せしものと、一同大に喜び、爾來一層の精勵を業務に致せしが、其後速康散の賣行、實に疾風迅雷の勢を以て増加し、家運愈々、殷盛を極めしは一奇と云ふ可し、現主庄左衛門氏の家督を相続するや、只に獨り家業の進展に日夜努力するのみならず、亦夙に力を京都一般の財界並に公共事業に注ぎ、寄與する所尠からず、是を以て今や巨然として頗る重を京都市に爲し、京都賣藥同業組合長たること、前後三回大正七年二月辭職して、現に其の名譽顧問に推され、其他市會議員、市參事、會員、學務委員等の公職を帯び、傍ら京都商工貯金銀行、監査役、京都工商株式會社監査役、日の出土地株式會社社長等の重任に當り、聲望高し、猶同家には連慶以來の名工と稱せられし、佛師清水隆慶翁の名作十數種を藏し、技工精妙洵に天下の逸品と稱せらる。

### 熊本電氣株式會社

同社は明治二十四年七月、熊本城下鹿崎梅屋敷に資本金七萬五千圓を以て創立せられたる熊本電氣株式會社を以て其の濫觴となす、同社は後同三十年十二月に至り、熊本市外本山村に移轉し、同三十七年五月資本金を拾萬圓に増額し、名稱を株式會社熊本電氣株式會社と變更の上、營業を繼續せり、而して同四十二年六月内部の大革新を行ひ、安田善三郎氏社長に當選就任し、資本金を五拾萬圓となし、同時に社名を現名に改む、然るに電燈及電力の需用は社會文明の進展に伴ひ、益々増加し、從來の火力發電所にては到底其の需用を充たす能はず、を以て大正元年八月二日、貳百萬圓に増資し、黒川水力電氣工事に着手し、同三年三月落成したるを以て、同年四月以後、熊本縣下一市、十一郡に電燈電力を供給せり、斯くて社業年と共に盛大を加ふるに、伴ひ、同年四月、更に倍額の増資を斷行せし結果、其の資本金は五百萬圓の巨數を算するに至り、而して同年四月、社長安田善三郎氏辭任し、後任として、紫藤猛氏當選し、以て今日に至る。今試に同社營業の概況を示さん、が爲め、同社が大正七年上半年に於ける營業狀況の一端を述べれば、(一)電燈、同期當初は熊本市外百二十七ヶ町村の供給區域に對し、電燈數、休燈を除き、各獨混合計十一萬九千六百七十九燈なりしも、前期に引續き、各區域内配電幹支線路を延長し、一面には新供給區域の配電幹支線路を新設し、一般供給に應じたるを以て、總燈數十三萬一千七百三十三燈、即ち同期中に於て一萬二千〇五十四燈の増加を示せり、(二)小口電力、前期末に於ては時局の影響を受け、變壓器の供給意の如くならず、爲めに百二十馬力以上の小口動力需用に應ずること能はざりしが、更に同期に入りては石炭



熊本電氣株式會社

の騰貴底止する所を知らざる有様なりしを以て、従つて小口動力の申込は益々多く、同期中受理せしもの及前期未済とを合せ計二百件、五百二十八馬力半に達せり、然れ共、如何せん到底全部の需用を充たすことは不可能なるを以て、能く緩急を計りて、其の幾分の需用を充たし、其餘は之を後期に繰越せり、而して同期末に於ける總燈數は五百五十萬四千四百十五馬力なりとす、(三)大工場電力、熊本專賣支店、九州製紙株式會社、電氣化學工業株式會社、大牟田工場並に日本セメント株式會社に對しては、前期同様引續き供給せり、斯くて同期末に於ける決算に於て、能く參拾六萬九千四百餘圓の純益金を擧げ、之れに前期繰越金九萬七千六百餘圓を合し、計金四拾五萬九千圓餘を計上し、内金貳萬圓宛を法定準備積立金、諸機械修繕線路保存準備積立金並に配當積立金に各充當し、金貳千圓を使用入退職恩給傷病者救済基金、金四千圓を役員賞與金とし、年壹割の株主配當金、年參分の特別配當金を行ひ、金拾萬八千八百餘圓を後期に繰越すの好業績を擧げたり、亦以て如何に其の業務の隆盛なるかを知らん、因に同社の營業所は本社、火力事務所、水電事務所、八代出張所、宮原出張所、松橋出張所、御船出張所、來民出張所、高瀬出張所、大津出張所、新町出張所、宮地出張所、の十一個所にして、水電事務所は之を熊本市新屋今町に置く、現重役は取締役社長紫藤猛、取締役安田善三郎、同安田善之助、同高橋長秋、同清浦保、同安田善助、同長野關吉、同吉永爲己、同原田十衛、同山田珠一、監査役片山次雄、同長松篤、同葉田善太郎の諸氏なり。

### 千葉醫學專門學校と千葉縣立千葉病院

千葉醫學專門學校は千葉縣千葉町に在り、明治九年公立千葉病院内に醫學教場を設け、縣費生十七名、私費生四十名を募り、一般醫學を教授せしに、胚胎す、後同十五年同院の組織變更と同時に、縣立千葉醫學學校と改稱せられ、其卒業生は無試験にて醫師開業免狀を請求し得る事となりしが、越えて同二十年八月第一高等中學校醫學部の千葉町に設置せらるゝや、翌二十一年同校生徒百九十四名は同部に收容せらるゝこととなり、茲に同校發達の基礎は成りぬ、次で同二十七年第一高等學校醫學部と改稱せられ、更に同三十四年四月に至り、同校の獨立始めて成り、千葉醫學專門學校と改稱せられ、同四十年其卒業生は校名を冠せる學士の稱號を得る事となり、爾來校運年と共に益々盛んにして、今日に至る、現在同校の課程は醫學科、藥學科の二大學科に分れ、在校生徒數、醫學科五百三十三人、藥學科二百二十人、合計六百五十三人を算し、其卒業生は醫學科二千三百八十八人、藥學科三百七十三人、合計二千六百六十一人を數ふ、大正六年四月、同校の建物總坪數は創立當時僅に七百二十坪を數ふに過ぎざりしが、現在實に一千八百六十五坪餘の多きを算し、又其の經費の如き、明治二十二年度に於て、貳萬壹千八百五拾圓に過ぎざりしもの、大正六年度に至りては、實に六萬六千八百九拾參圓を算す、亦以て如何に同校が逐年偉大なる發展を爲しつゝ、あるかの一端を知るに足らむ、因



千葉縣立千葉病院



熊本電氣株式會社

に現校長は醫學博士三輪德寬氏なり。  
 千葉縣立千葉病院は今を距ること四十六年前なる明治七年三月千葉縣千葉町の有志者が壹千貳百參拾五圓の融金を以て同町本町一丁目民屋を賃借し其立病院を設立せるに播種せられ越えて同九年同縣に於て同町吾妻町三丁目病院を新築し十月移轉公立千葉病院と改稱せるに發芽せり後同十五年銚子北條木更津の三分院を廢止すると共に同院の組織を變更し縣立千葉醫學學校甲種と改稱し病院之に附屬せしむ同二十一年三月醫學學校に同院を廢し更に縣立千葉病院を置き同院を以て第一高等中學校醫學部生徒の臨床實習用に供するものとせしが同二十三年に至り從來地方稅支拂たりし同院經費本年度より特別會計となり病院收入金を以て支拂することとなり十一月猪ノ鼻臺上の新營病院に移轉す爾來連年其の規定に改正を加へ又屢々病室の増築を行ひ擴張に次ぐに擴張を以てして現時に至る今試みに同院が如何に逐年其の規模と設備に於て伸長しつゝあるかの一編を知らしめんが爲め過去に於ける検査部細菌検査部化學検査部庶務部の十一番となし院長一部長十四副部長三司療醫九藥劑司二醫員二八藥劑員六書記七技手六雇員一三看護婦百〇六備人七九合計二百七十三名の職員に備人を置く現院長は醫學博士三輪德寬氏なり。



士博輪三長院と校學門專學醫業千

同校經費並に敷地建物等の對比を示さんか先づ其經費に於て明治二十年度貳萬五千參百七拾參圓餘なるに對し大正五年度に於ては實に約拾八萬貳千圓の巨額を來し又其敷地建物如き其創立當時なる明治九年に於て敷地七百六十坪建物百四十五坪に過ぎざりしもの同十七年には敷地二千六百九十六坪建物六百六坪となり同二十三年に至りては敷地一萬五千三百坪建物千八百八坪となり更に大正三年に入るに及びては建坪實に三千八百三十七坪の多きを數ふるに至る誰か其の發展の異常なるに驚かざる者ぞ現在院内を分ちて第一内科部第二内科部第一外科部第二外科部眼科部小兒科部産婦人科部脳疾科部皮膚泌尿器科部耳鼻咽喉科部齒科部藥劑部病理部

### 函館船渠株式會社

同社は明治二十九年十一月資本金百貳拾萬圓を以て創立せられたるものなり今其の沿革を按ずるに明治の初年我が北海道開發の議朝野の間に喧傳せらるゝや殖民政策の綱領は先づ交通運輸の途を開き其利便に依り開拓を進捗せしむるを以て主眼とするにありされば同道開拓使も明治八年布達を以て爾後同道を定案とする大和船船五百石積以上のもの新造を禁止すると共に西洋形船舶を新造するものに對しては官金貸與の奨励法を設け専ら船舶改良の途を開きたり即ち同道の咽喉たる函館に於ても造船所及船渠築設の必要を喚起し延て同社設立の因を爲せり爾來官民熱誠の協力に依り港灣の改良船渠地の選定等を申請稟請せしを以て道廳長官は交々肥田濱五郎英人メーク廣井勇の三氏を派し實地調査に任じたり船渠敷地の現在の地に卜せられたる實に其結果に外ならず是に於て發起人會は東京澁澤榮一氏を委員に推し茲に同社の設立を見るに至れり爾後同社は逐年巨艦大船増加の趨勢あるに鑑み一萬噸内外の艦船を容るゝに足るべき船渠と一

千二百噸内外迄修理に任ずべき船渠とを築造し又は是に伴ふ機械器具の設備を爲し専ら顧客の吸收に力めしが偶々日露役の起るに及び航行船舶の減少は事業の閑散を呼び社運の發展に一頓挫を來せしを以て爾後資金の増加を行ひ制度の刷新に勉め以て業務の發展を計りしも財界の不況海運界の萎靡百出して社運の伸長意の如くならざりしを以て明治四十五年根本的の改革を議し投下資金百四拾五萬圓の整理を決定し資本を減額し定款を改正して營業の範圍を擴張すると共に世運の進歩に伸ふ諸般の設備を改善して内部の充實を計り堅實なる方針を樹立して専ら業務の隆盛を計り爾來北日本



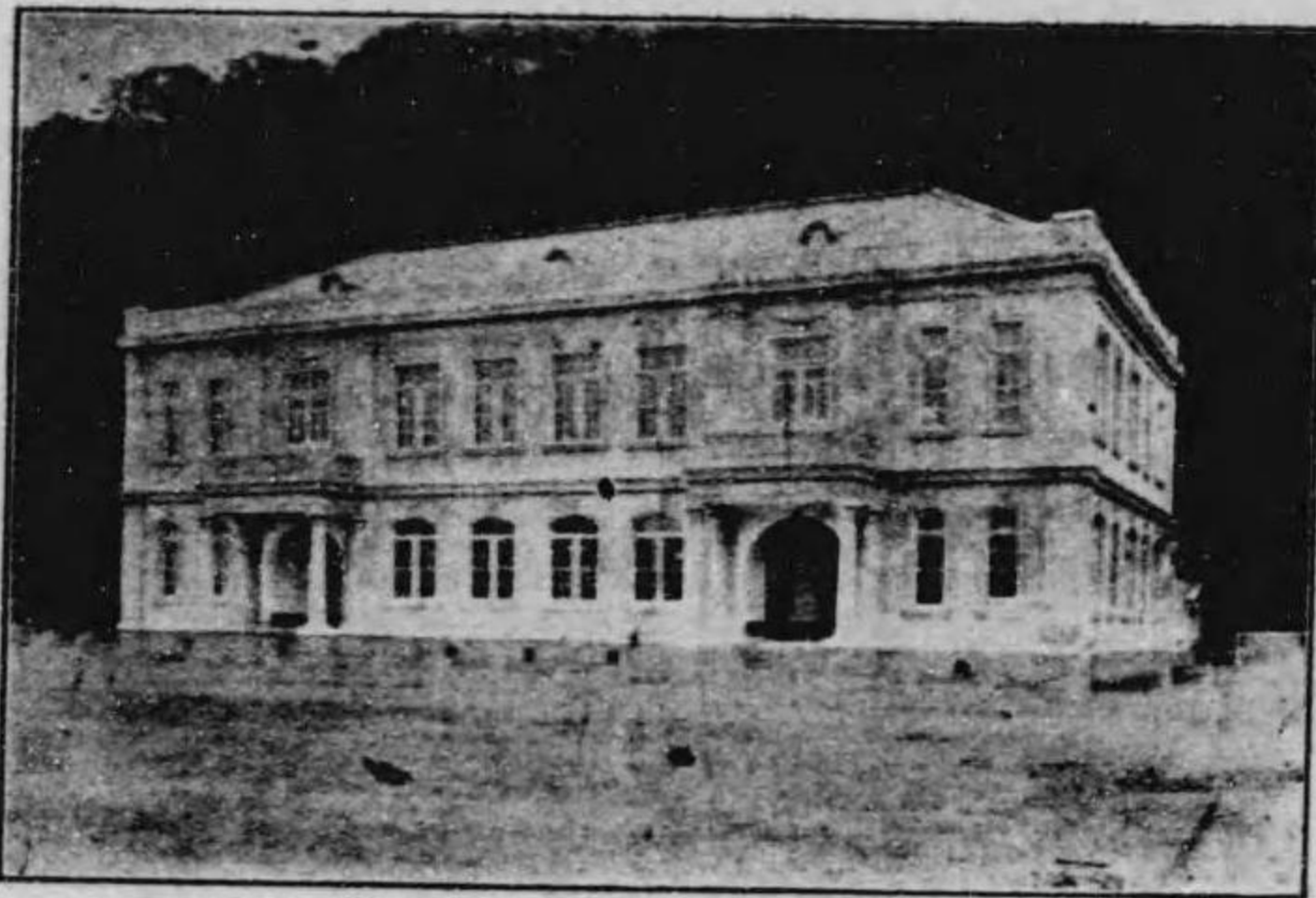
景全社會株式渠函館

の航運界が逐年多忙を加ふると共に同道内地の進歩に伴ひ物與發達せる公私の事業は陸上諸機械の需要を喚起し同社の業務は漸次繁榮の域に進み終に現時の殷盛を見るに至れり。  
 現在同社の業務組織並に工場設備の概要を述べれば職員は主事を中樞とし事務員工務員工場員より成る則ち庶務係調度係會計係工務係製鐵係の五係に上旋盤鍛冶模型鑄物銅工木工製鐵電氣綱具の十工場を設け主事を總括して其指揮監督に任じ各員に其擔任業務を分掌せしめ統一上各係に主任各工場に工場長を置く工場敷地一萬七千餘坪にして此の築造物坪數六千七百餘坪なり而して原動力は電力及蒸氣力を主とし水壓力壓搾空氣力を併用し全能力を擧げて各般の作業を完からしむ又オキシニアセチレン瓦斯切斷鋸接器をも備へて工作の便を助け機械は常に最新なるものを選び時代の進歩に伴ひ益々改善増設に努む尙工事物件の海陸運輸を全する爲め陸上には各工場を連絡圍繞して縱横に軌條を布設し五噸移動起重機を運轉せしめ海上には三十噸浮起重機を備へ且つ曳船兼用の小蒸氣船及發動機艇數隻を備へて作業上に遺憾なからしむ又船渠は内部の長五百三尺幅入口にて上部八十二尺下部七十二尺深平常満潮面より盤木上面迄二十九尺ありて總噸數一萬噸内外の艦船を入渠せしむるを得船渠は英國ヘンリーベリー會社の製造に係る新式の水壓機により總噸數一千二百噸迄の船舶を自由に揚卸せしむ斯くて業運隆々昨大正七年下半年の決算に於て能く八拾貳萬參千六百五拾貳圓餘の利益金を擧げ年四割の利益配當を行ふの好成績を示せり因に同社は現在(一)各種船舶並に船用及陸用汽機汽罐製造修理(二)鑛山並に築港用諸機械其他陸上各種諸機械工具製作(三)建築用鐵骨及橋梁鐵材製造組立(四)製帆及綱具製作(五)運難船舶の救助曳船貨船を以て營業科目とし本社を北海道函館區辨天町に置く現重役は取締役社長川田豊吉専務取締役近藤勝之助取締役岡本忠藏同樺山愛輔同榊茂夫監査役松下熊槌同遠藤吉平の諸氏にして相談役は男爵近藤廉平男爵川田龍吉の兩氏主事は品川久太郎大塚巖の二氏なり。

### 德島縣立光慶圖書館

德島縣立光慶圖書館は大正二年十二月同縣會に於て今上陛下御即位の大典を記念し奉らむ爲めに文獻の造園を策し之を後見に傳へ昭代隆昌の一助と爲し以て縣民一同敬虔の誠意を章徽せむとの全會一致の建議に基き同五年五月曩に臨時縣會に於て議決せられたる建設費五萬圓を以て起工せられ同六年六月工事の竣成を告げ同月二十四日開館式を舉行し同月二十七日より一般公衆の閱覽を開始せしものなり而して之より先き同縣教育會は明治四十三年四月以來圖書館を開設し其の規模狭小なりしも巡回文庫を施設して縣下の讀書界に貢獻する所大なるものありしが更に其の規模を擴張して

圖書館の新築を爲さむとし建設資金寄附募集に着手し其の額既に六千餘圓に達せしが同館設立の計畫成るに及びて同館は其の建設を見合せ進で該資金を以て圖書を購入し在來の藏書八千餘冊と共に之を同館に寄附せり斯くて現在同館の經營費は一ヶ年五千餘圓にして大正七年度末に於ける藏書數和漢書一萬六千九百九十九冊洋書四百六十六冊合計一萬六千三百



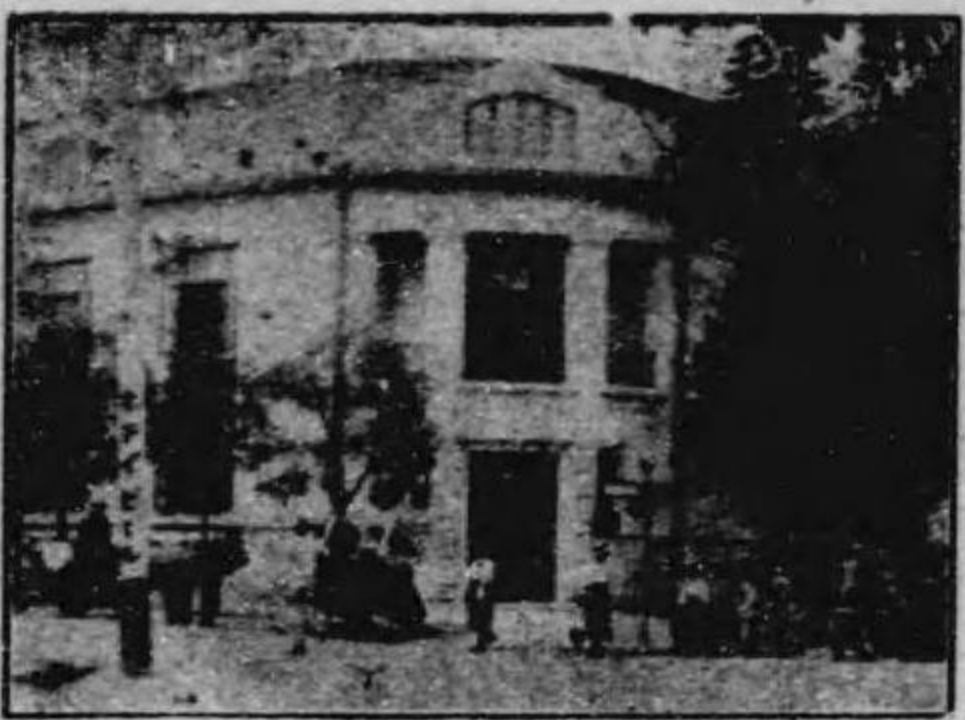
德島縣立圖書館全景

同館の本館は南面す其の正面に二個の玄関ありて一は閱覽人以外の登館者の出入に供し他は平素閉鎖し其の側面より新聞閱覽室を通して下足室に至る事を得新聞閱覽室は九坪あり混泥土間に新開見臺を備へ下足の儘にて縦覽するに便す電燈は二十四燭光四燈を備へ兒童閱覽室は三十一坪五合にして中央に六尺机二脚を並列し圖書陳列兩八個を置き其の兩側に六尺机六脚宛と之に相當する腰掛とを排列す主館の階下には此の外に事務室十二坪館長室六坪豫備室十坪五合あり又東附屬家に宿直室小使室浴室便所あり西附屬家に休憩室雜庫便所あり而して階上には應接室六坪特別閱覽室普通閱覽室婦人閱覽室出納所あり特別閱覽室は十五坪にして五尺机六脚及椅子を備へ收容人員は二十四人にして電燈は三十二燭光三燈を有するサンデリアにして中央の天井より垂る普通閱覽室は七十二坪にして九尺机十六脚及椅子を備へ二隅に新着圖書及近刊雜誌陳列兩二個ありて閱覽者をして現品に就き選擇せしむ收容人員百二十八人にして電燈は二十四燭光十六燈を各機の中央上部に垂る尙特別閱覽室及本室よりは各二坪の露臺に出づるを得べく以て讀書の倦厭を警せしむ婦人閱覽室は十坪五合にして五尺机四脚及椅子を備へ又婦人用雜誌及婦人専用カード目錄を備へ收容人員十六人にして電燈は二十四燭光三燈を有するサンデリアにして中央の天井より垂る因に同館は德島市德島公園内に在り職員は館長事務取扱同縣理事官司書一名書記三名なり

日支合辦 株式會社 正隆銀行

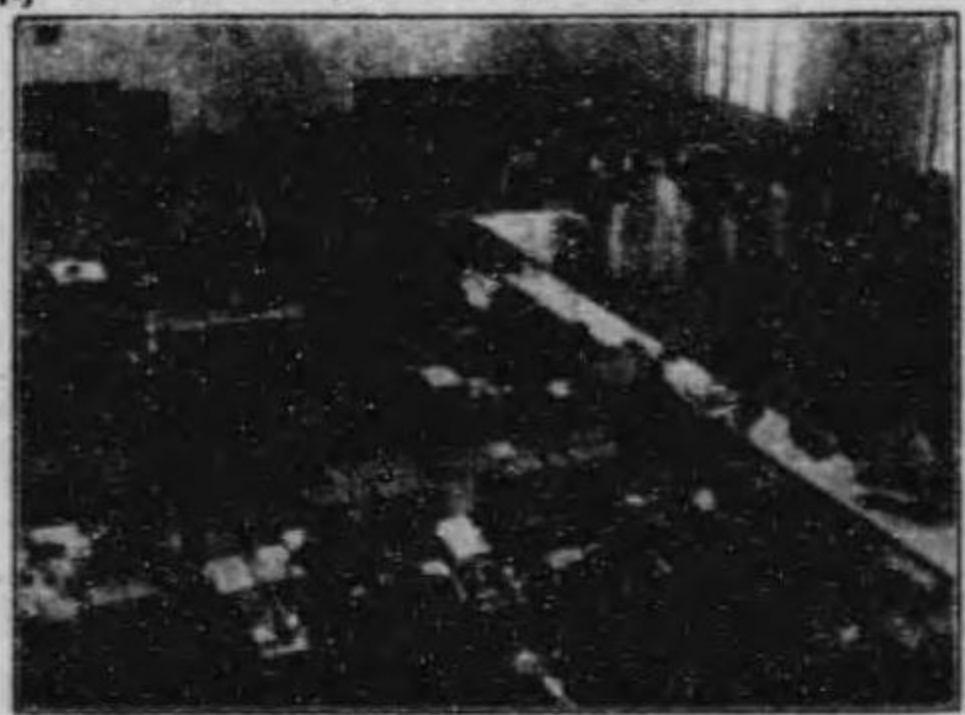
滿洲に於て最も古き歴史を有し又最も其發達の偉大なるものは日支合辦を標榜せる株式會社正隆銀行の右に出るものなかるべし同行が初めて呱呱の聲を營口の地に揚げたるは實に日露戰役後間もなき明治三十九年七月二日の事にして之を戦後滿洲に於て組織せられたる日支合辦事業の嚆矢なりとす抑同行設立の趣旨は専ら日支協同の出資を以て彼我經濟上に於ける商取引の圓滑なる進展を計り以て滿洲經濟界の啓發に資せんとするものにして當初の資本金は僅に銀拾六萬圓に過ぎざりしと雖其抱負は頗る遠大なるものありき爾來業務日に順調の發展を遂げ早くも銀貳拾四萬圓に増資するの運に至りしが偶同四十一年の頃に於ける經濟界一般の不況は延いて累を同行の業務上にも及ぼし一時甚だしき苦境

に陥るの餘儀なきに至れり此の時に當り此の窮狀を察したる關東都督府は同行が由來日支合辦事業の試金石とも見るべき性質を帯び中外環視の標的たる當時に於て不幸一度蹉跌して亦起つ可らざるに至らんか將來企圖せらるべき幾多の合辦事業に多大の悪影響を貽すべきを慮り遂に日本財界の重鎮にして殊に銀行經營に妙腕を有せる安田家に懇示し國家事業として一臂の力を寄與せんことを懇請する處ありしに同家に於ても其の意を諒とし先づ其



株式會社正隆銀行全景

股肱たる原田虎太郎氏を滿洲に派し該地に於ける營業狀態より滿洲一帶金融の繁閑貨物の集散等を詳細に調査せしめ其復命により營業狀態回復の可能と前途の有望なることを認めたるを以て茲に愈々其整理を引受くる事を言明し同四十四年五月再び原田氏を代表者として派遣せしめたり斯くの如くにして漸く其前途に光明を認めたる同行は同年五月の臨時總會に於て從來の缺損は悉く之を切棄して更に資本金を銀拾萬圓に増額し亞で同年六月第二次臨時總會に於て更に金七拾萬圓の増資を議決し金銀合計壹百萬圓となし安田善三郎氏を頭取に選任すると共に營口の本據を大連に移し更に營口を以て支店となし茲に大々的飛躍を開始するに至る斯くて大正元年十一月には大山通なる新築營業所の落成と共に之に移り一般銀行事務の外貯蓄預金の事務をも開始し同四年十一月に至りては資本金を貳百萬圓に増資し翌五年には煩を避くる爲め在來の銀貳拾萬圓は之を金貨に改め純乎たる參百萬圓の資本金となし行



株式會社正隆銀行營業部

土佐電氣鐵道株式會社

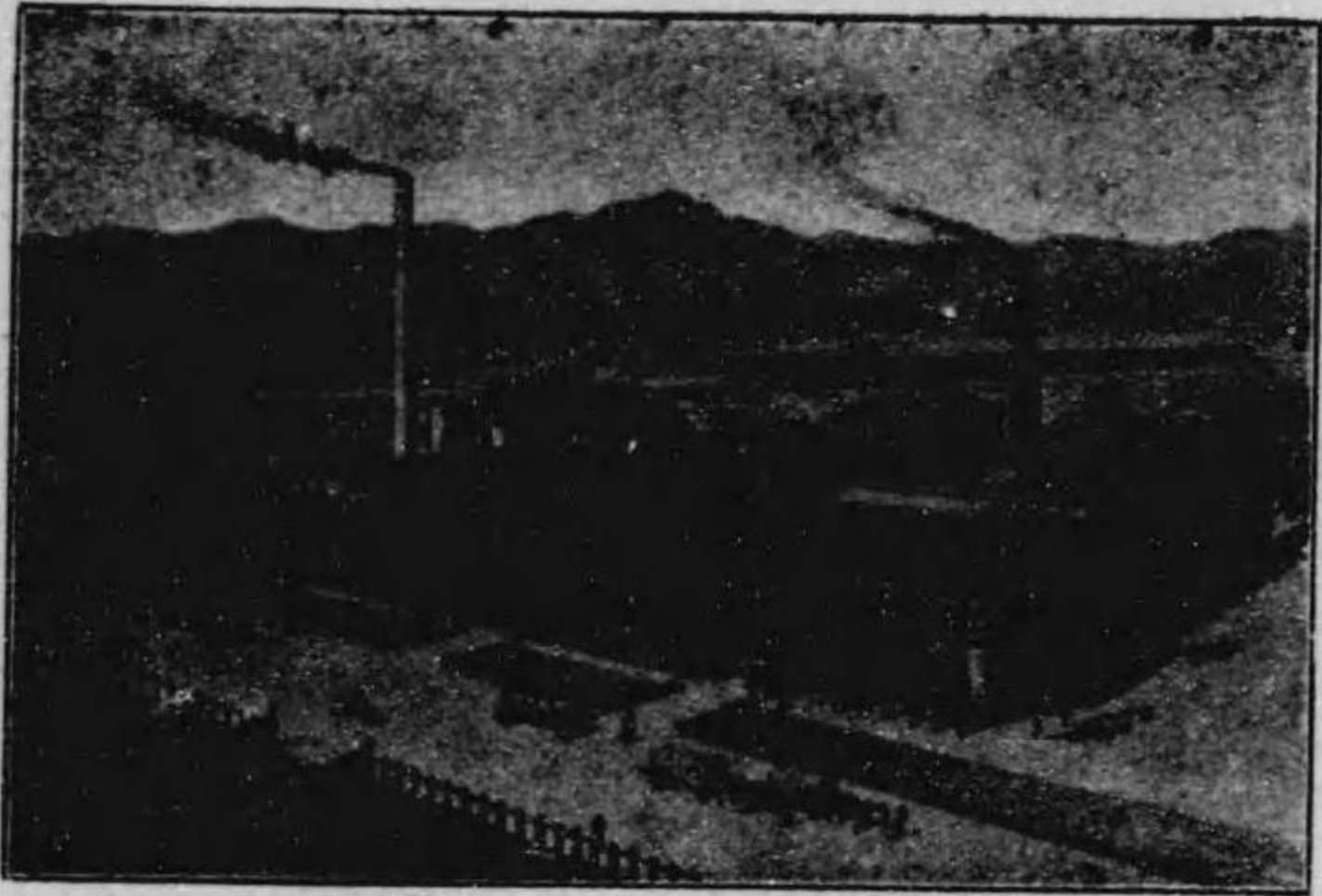
同社は高知縣高知市本町三百三十一番地に在り資本金壹百五十萬圓を有し電氣鐵道電燈及電力供給棧橋業を以て營業の目的とす抑同社は明治三十六年七月資本金拾萬圓を以て設立せられたるものにして翌三十七年五月に至り一部運轉を開始し尙ほ海陸運輸の連絡に資せんが爲め潮江線終點埋立地に棧橋を架設し同年十月竣工せしが線路の延長に伴ひ三十八年七月資本金を參拾萬圓に増加し更に伊野線敷設に際し四十年二月壹百萬圓に増資せり而して伊野線は翌四十一年二月開業の運

參拾萬六千圓に増加し更に伊野線敷設に際し四十年二月壹百萬圓に増資せり而して伊野線は翌四十一年二月開業の運





「チヂキストリン」等なりとす、而して現在社長に中村嘉吉郎氏、専務取締役は負野小左衛門氏、常務取締役は小野茂平氏あり、何れも斯業に造詣深き人々にして其經營宜敷に叶ひ業務着々として隆昌を致しつゝあり。

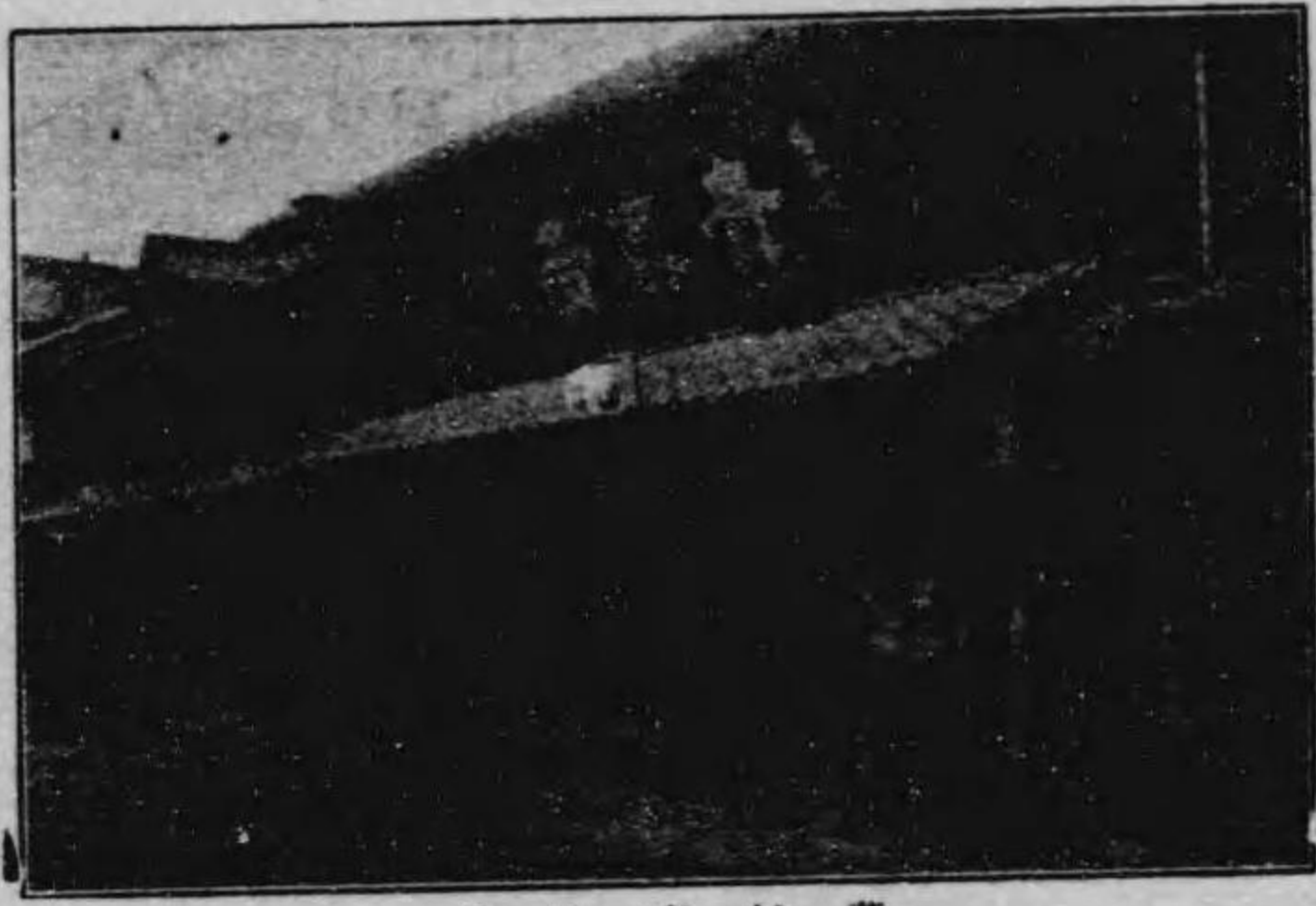


第一工業製糖株式會社全圖

所の特約店を設置するに至り、漸く同堂の基礎強固となれり。又一方多年中村氏の研究を積み、一種精練劑の創意を小野氏が繼承して銳意之が試験研究を重ね、炭酸加里を以て中性脂肪を鹼化せしむる方法を發明し、同時に明治三十九年本田佐武氏發明特許第一〇七二六號羽二重精練劑の權利を買収して益々研究を積み、特許美也光精練劑を完成して輸出羽二重雲形物配合糊劑「エストル」及び柔軟劑の考案も成るに至る。斯くて營業品の漸次増加するに伴ひ、業務も年と共に隆盛に赴きしが、偶々大正三年歐洲戰亂の勃發するありて我經濟界は多大の影響を受け、就中染織工業藥品は殆ど輸入杜絶の變調を來せしを以て同堂は爰に是等藥品の供給を一層豊富ならしめんと欲し、則ち同年十二月其組織を合名會社に改め、合名會社負野工業製糖所と改稱し、技術者其他の人材を増員し、總ての規模を擴張し、特に製品に於ては他に模倣を許さざる優良なる「マルセル」石鹼モノボール、アゴール其他數種を増加せり。是に於てか爾來同社の業務は時局の推移と共に益々發展して息まざるの盛況を示すに至りしかば、同社は「大正七年九月に至り更に時世の進運に伴ひ戰役の經營に資せんが爲め其の組織を資本金五拾萬圓の株式會社に變更し同時に社名を現名に改む斯くて爾來工場其他の設備に大擴張を加へ其の生産力を數倍し

て大方の需要に應じつゝありて今や染織工業用石鹼藥品の専門製造業者として本邦第一流の地位を占むるの盛況に在り、念ふに同社向後の活躍や更に刮目して見る可きものあらん、多望なりと謂はざる可けんや。

正貴真膏 藤村壽榮堂



藤村壽榮堂

京都名物の一つとして賣藥に「貴真膏」あるは天下萬人の熟知せる處なり、同藥は京都市東洞院三條下ル藤村壽榮堂の製造販賣する所にして今を距る事約三百年以前の發見に係り、代々同家に相傳して今日に至れる靈藥なり、而して同家は元と商號を引と稱せし有名なる木綿吳服問屋なりしが故に先々代老主は只一つの道樂として該藥を各所に施し所謂施藥のみ事とせしに過ぎざりしが、時恰も徳川氏の末造に屬し、天下騷然、長薩會津其の他の諸藩士續々として京都に集り争闘日に絶ゆる事なかりしかば、老主は是等各藩士に對して盛に施藥を行ひ好評湧くが如く殊に鳥羽伏見の戰役に際しては施藥を行ふ事益々盛んにして從て其の聲價も亦愈々高まり爾來年と共に海内各地よりの申込日に殺到するに至れり、之れ蓋し要するに該藥の效能偉大なるに基くものに外ならず、元來該藥は斬り疵肩のこり、リヤウ、チヌ、其他皮膚面に生ずるこり痛を立所に治する實に驚く可き效能を有し一度之を試用せし者は誰人も其靈效神の如くなるに驚かざるものなし、されば其の聲價は日に月に海内に高く從つて同家は日に之れが申込に忙殺さるゝの有様なるに至り、到底一つの道樂として之を取扱ふ事不可能なるに至りしを以て明治初年の頃より之に僅かの定價を附し、江湖に販賣せしに好評益々高き需用年と共に激増するの盛況を見るに至れり、是に於てか先代八代伊兵衛氏は深く心に決する所あり、斷乎として祖業の木綿問屋を廢止し全力を該藥の製造販賣に注ぎ、管に海内一圓のみならず遠く之を海外諸國に輸出するの大抱負を以て専心該藥事業に身を委ぬるに至る、斯くて日夜の奮闘努力は其業務をして逐年益々盛大の域に進ましめしが、不幸、日露戰役中京都市名譽職を奉じつゝ、病歿せり、後現主其の業を繼ぎ先代の意思を體し益々業務の發展を計り、目下支配人山下伊三郎氏、販賣掛として専ら之れが販路の擴張に努勉し隆々たる業績を擧げつゝあり、猶大正元年には御大典紀念として營業所裏手に理想的工場を建築し現に藥學士藤村定治氏之が製造部主任として製煉監督の任に當り、今や最近年産額實に千五百萬圓を算し其の販路は獨り内地一圓に治すのみならず遠く海外諸國に及び、巨然として關西藥業界の覇者を以て稱せらるゝの般盛を示しつゝあり。

代表的事業  
工場の建築中なり。

### 株式 土佐農工銀行



株式農工銀行

同行は明治二十九年法律第八十三號農工銀行法及第八十四號同補助法に基き同三十一年九月二十七日を以て設立せられし特殊銀行にして所謂時代の氣運に促されて生れ出たるものなり爾來幾回か法規の改正は農工業開發上の缺陷を是正し益々斯界金融疏通の利便に順應し當路提擧の實を上げたり而も未だ實驗を経ざりし斯種銀行の常として同行の如きも當初は多少の疑懼を以て迎へられし傾きなきにしもあらずりしも創業以來愛に二十一年經營者常に能く同行が有する使命を體得し著々として業憲最も穩健堅實の方策に則りしが故に時に財界の變態に會ふも些の顧慮すべき點なく今や行基彌々鞏固を加へ一般の認識せる如く、絶大の信用を贏ち得るに至れり斯くて業績年と共に益々舉り大正七年下半年期決算に於て金八萬八千貳百四拾七圓餘の純益金を計上し内金八千圓を損失補填準備金に金貳千圓を配當平均準備金に金貳千圓を特別積立金に金壹千五百圓を同市株式會社高知銀行並に株式會社土佐銀行を以て代理店となし猶縣下各郡に互り借入申込所三十餘箇所を設け現重役は取締役取山本忠秀専務取締役宮地元治取締役深瀬孝太郎同田島下學同松岡佐太郎監査役井上作次郎同土田虎次同高卓爾の諸氏なり。



株式農工銀行

### 花王石鹼本舖會社 長瀬商會

本邦石鹼界に在りて正に其の第一に數へらるべきものは合資會社長瀬商會の花王石鹼なるは天下萬人の異議なき處なり同品は其の歴史に於て將た其の産額に於て嶄然斯界に群を抜けるのみならず又所謂廉價の良品として堅實なる大多數の需用者を有す之れ最も同品の推奨に値する所以なり。

花王石鹼は實に今を距ること三十年前恰も帝國憲法の發布せられたる明治二十三年に於て故長瀬富郎氏に依りて發售せられたるものなり而して氏をして斯の國産を標榜する石鹼の製出を決心するに至らしめたる動機たるや實に氏が同年開催せられたる第三回内閣勸業博覽會に於て本邦の石鹼製造業者が何れも舶來石鹼の體裁を模倣することのみに腐心せるを見茲に慨然として愛國的至誠を發揮せしに在り斯くて氏は直に學者並に經驗家の後援を仰ぎて苦心研究に従事せし結果漸くにして品質純良と公認さるるものを製出し得て初めて之に花王石鹼なる日本の名稱を命ぜり蓋し花王の國音韻に通ずるが故に此の名稱を以て化粧用石鹼たることを意味せしめしなり而して氏は又之れと同時に他迄も品質本位を主



長瀬商會本舖

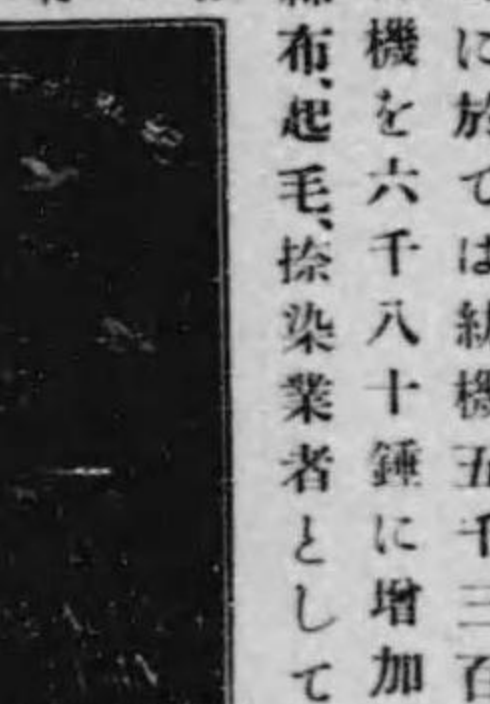
義とし諸有裝飾物の費を省き最も廉價に之を販賣し以て舶來石鹼の輸入を防遏せむことを企てたり而も當時本邦文明の度尙低く衛生思想の幼稚なるに加ふるに外國崇拜の熱頗る高かりし爲め之れが販路の擴張を計るが爲めに嘗めし苦心の如何に甚大なりしかは蓋し思ひ半ばに過ぐるものあり然れ共爾來氏が偉大なる自信と努力とは克く萬難を排して初一念の光輝を發揮するに至り先づ第一に帝國大學病院の採用品となり亞で陸海軍赤十字病院慈惠病院其の他の稱贊を得ると共に一般社會の上下を通じて歡迎せられ又一方内外の博覽會共進會等に於て常に名譽ある賞牌を受領し遂に海外輸出の端緒をすら啓き得るに至れり現時帝都の中樞日本橋區馬喰町の電車通りに巍然として聳ふる褐色煉瓦三層樓の本舖と府下吾娯町十間川の邊りに煉瓦屏を繞らせる宏壯なる工場とは實に氏が一代の建築に係るものにして我が國産石鹼の勝利を誇る記念物なり唯惜むらくは明治四十四年氏は天の召す所となり未だ初老に入らざる有爲の資を抱きて白玉樓中の人となりぬ然れ共氏が遺業は直ちに實弟祐三郎常一の兩氏に依りて繼承せられ現に祐三郎氏は同店の支配として常一氏は工場監督として各熱誠以て其の任に當り益々堅實なる營業振りを發揮し日に月に國産石鹼花王の聲價を高めつあるは勿論近來露國印度南洋にまで發展して驚くべき産額の増加を示し之を發賣當時に比すれば正に數百倍の進歩を見猶工場は擴張に擴張を重ねて現在一日の生産力實に三萬打を算するの盛況を示しつあり同店將來の飛躍や更に倍々刮目に値するものあらん氏の英靈乞ふ意を安ぜよ。

### 紀陽織布株式會社



株式織布機陽紀

同社は明治四十三年四月を以て創立せられたるものにして當初の資本金は五十萬圓なりしが爾來營業の盛大と事業の擴張に伴ひ増資を決定し結果今や其の資本金は壹百五十萬圓に達し外に金壹百萬圓餘の諸積立金を有す而して創業當時に於ては紡機五千三百十二鐘に織機三百臺を運轉するに過ぎざりしが大正三年に至りては紡機を六千八十鐘に増加し更に同六年に至り一萬二千三百三十二鐘に増加せり尙同年四月に於ては綿布起毛捺染業者として斯界に新を稱せし明治物産株式會社資本金五拾萬圓を合併して業務を擴張し從來の業務たる紡績織布の外に綿布起毛綿布更紗の捺染加工を兼營せることなれり是に於てか同社は原糸より精製品に至る全工程を舉げて全く自社の獨力經營を以て完成し全然他力を借らざるに至れり蓋し世間此の如く工程の整然一貫せる工場は同社の外殆ど之を見るを得ざる



株式織布機陽紀

所にして洵に同社の誇りとす所なり斯くて同社の業務は逐年益々殷盛を加へ今や一ヶ年間に於ける製産高は綿絲五十萬六千貫綿布六百四十萬三千碼綿布起毛捺染收入高八拾九萬八千餘圓の巨額を算し大正七年上半期に於ける利益配當實に年五割を數ふの盛況を示し利益配當實に年五割を數ふの盛況を示し利益配當實に年五割を數ふの盛況を示し

役廣田伊助同糸川善之助の諸氏にして支配人は廣會氏之を兼ね

代表的事業

### 和歌山紡織株式會社

和歌山紡織株式會社は和歌山市傳法橋南ノ町に在り、現在資本金百六拾萬圓積立金壹百貳萬圓を算し、精紡錘數五萬九千九百四十四錠、捻絲錘數六千六百錠、織機臺數八百五十六臺を有し、一ヶ年に於ける製品額綿絲二百四十五萬貫、綿布一千七百萬碼を算するの盛況を示しつゝ、あり、因に同社製品の商標は「綿絲」社票日鳥三犬、松竹梅、雙環、大吉、三綿布、麒麟、鯉、鶴、蜻蛉、鸚鵡、熊等にして、何れも品質優良、聲價内外の市場に高し。

### 日本車輛製造株式會社

同社は名古屋市の南部熱田に在りて、工場は一方私設運河を以て新堀川を通じて名古屋港に出で、他方に於ては會社専用鐵道に依りて、國有鐵道東海道線熱田驛に連絡し、水陸の運輸至便の地を占む、而して名古屋市は海に伊勢灣を控へ、陸に東海道線、中央線、關西線の三大鐵道集中し、四通八達の要衝に當り、中部日本に於ける物資集散の中心たり、且つ東西經濟の勢力競争に依り、材料の豊富にして、勞銀の低廉なること全國無比と稱せらる、蓋し製作工業の爲め、屈地の地域たりと云ふ可し。



和歌山紡織株式會社工場



日本車輛製造株式會社工場

抑、同社の創立は明治二十九年九月にして、奥田正香、服部小十郎、白石半助等諸氏の發起に係り、爲めに一時苦境に陥りしも、巧に其の難關を切抜け、日露戰役當時は軍隊軍需品輸送用の車輛製作を引受け、更に南滿鐵道よりの注文をも受け、業務日に發展の域に向ひしを以て、同四十年十月、資本金を倍加して百貳拾萬圓と爲し、尙大正七年四月、之を參百萬圓に増加せり、斯くて今や同社は指定注文を鐵道院に受くるのみならず、海外輸出にも努力し、事業益々盛況を示しつゝ、あり、同社工場敷地は四萬壹千坪、職工數一千人にして、鐵道用汽罐車、並に各種車輛、電氣鐵道用客貨車及び自動車、鐵道用品一切、製鐵及木製の機械器具等の製造、各種の製材及び其の販賣に従事しつゝ、あり、因に現社長は瀧定助氏、常務取締役兼技師長は岸山憲二氏、取締役は森本善七、三輪喜兵衛、三瓶勇、伊藤竹之助の諸氏、監査役は後藤幸三、矢橋亮吉、殿本三郎の諸氏なり。

### 中村卸製造場主 中村儀助君

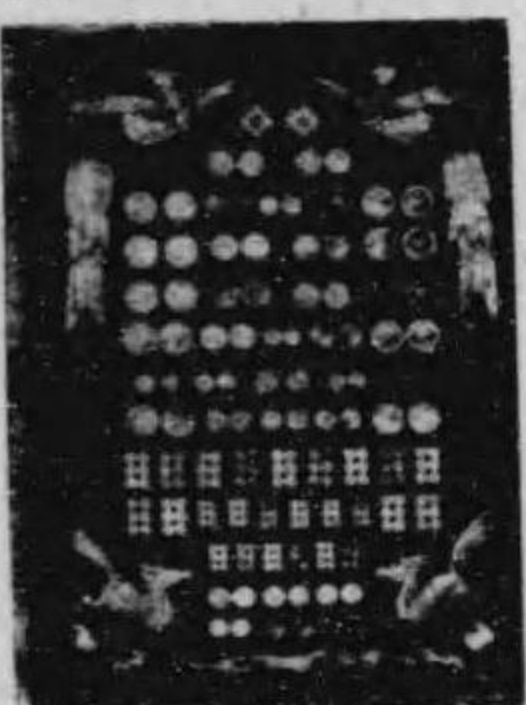
卸の製造家として盛名、夙に海の内外に噴々たる中村儀助君は、嘉永四年三月、大坂市東區北久太郎町四丁目の自邸に生る、父君は儀三郎氏、君は其の次男なり、慶應二年十二月、同市東區安土町四丁目の現在所に分家し、十六歳の時より、眞甲馳商を初めしが、當初は業務洵に微々たるものにして、唯僅に鯨鬚又は水牛の爪等を以て卸を製造せるに過ぎざりき、後明治十年の頃、爾來型抜き乃至穴明け等に非常の苦心を拂ひ、漸くにして成功の域に達することを得たり、而して當時本邦に於ける生活程度は猶未だ頗る低くして、日に數個の鮑卸を製作するを得ば、優に其日を送ることを得たるを以て、君は其の製作せる卸を携へ、緩歩悠悠、市内並に堺邊の得意廻りをなしつゝ、ありしが、性來事業に熱心なる君は、爾後不斷の研究改良を自家製作品の上加ふることを怠らず、相次で牛骨卸、眞鍮卸、包卸、甲馳等の嶄新なる品を製作し、之を市場に提供せり、爰に於てか君の業務日に益々發展し、遂に能く今日の盛運を見るに至る、斯くて君が家業は逐年異常の進展を遂ぐるに至りたるのみならず、君が多年の産業上の偉功は、終に天聽に達し、大正六年二月十一日、勅定の綠綬褒章を賜ひ、其善行を表彰せらるゝの光榮に浴せり、褒賞の記に曰く、



中村儀助君

資性濃厚、夙に時世の進運に伴ひ、卸の需用多きを加ふるを察知し、苦心研究に示して、之れが發達を圖り、又水牛卸に浮模様の附する意匠を採出して、聲價を揚げ、殊に貝卸の製造を創め、製作器具を考究し、職工を養成し、銳意製品の改良と事業の發展に努め、逐年産額を増加す、今や斯業益々隆盛に起き、外國品の輸入を防遏せるのみならず、進んで海外に輸出するに至りたるは、其盡力に由る所、尠からず、洵に實業に精勵し、衆民の模範たる者、とす、仍て明治十四年十二月七日、勅定の綠綬褒章を賜ひ、其善行を表彰せらる。

噫、此の如きは、獨り君が一己の名譽たるのみならず、亦以て本邦一般斯業者の榮譽とすべし、君の功も亦偉なりと云ふ可し、尙現在君が工場は大坂府下泉尾天王寺、南河内の三個所に在りて、規模の大設備の整正に、斯界の模範工場を以て呼ばれ、多數の職工は日夜夜々として、其の業に従事し、其の製品の販路は、管内地一圓に治きのみならず、遠く英米諸國に及び、隆々たる聲價を内外の市場に發揮しつゝ、あり、因に是等製品は、今日迄内外各地の博覽會、其進會等に於て賞牌を受けたること、百數十回の多きに及ぶ、亦以て如何に其の優良なるかを知るに足らん。



中村儀助君の卸の製品

### 株式會社 土佐銀行

同行は明治二十九年三月の創立に係り、元第七、第八十兩國立銀行の營業を繼承し、資本金壹百萬圓（半額拂込）を以て開業せしものにして、爾來極めて堅實なる方針の下に、順調なる發達を遂げ、來りしが、大正二年以來、三菱銀行の後援に依り、信用益々高まり、業務益々發展し、同三年七月に至り、從來密接の關係を有せる株式會社高知貯蓄銀行を合併して、貯蓄兼營となし、同時に資本金を貳百萬圓（半額拂込）に増額せり、爾後諸般の取引著しく繁昌を來すや、同七年四月より、同八年二月に涉りて、未拂資本金百萬圓の拂込を了して、資本金貳百萬圓全部拂込済となり、又新に同八年四月一日を以て、縣下香美郡赤岡町なる株式會社赤岡銀行を合併すると同時に、時世の進運に伴ひ、更に資本金參百萬圓を増加して、内七拾五萬圓の拂込をなし、結局今や總資本金額實に五百萬圓（拂込額貳百七拾五萬圓）の巨數を算するに至れり。

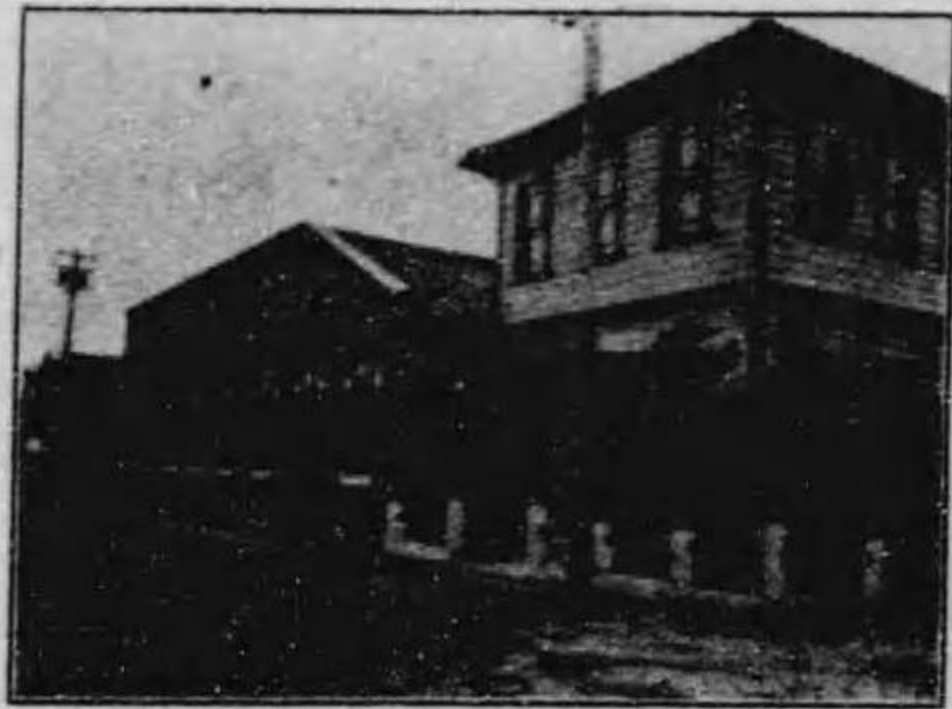


株式會社土佐銀行



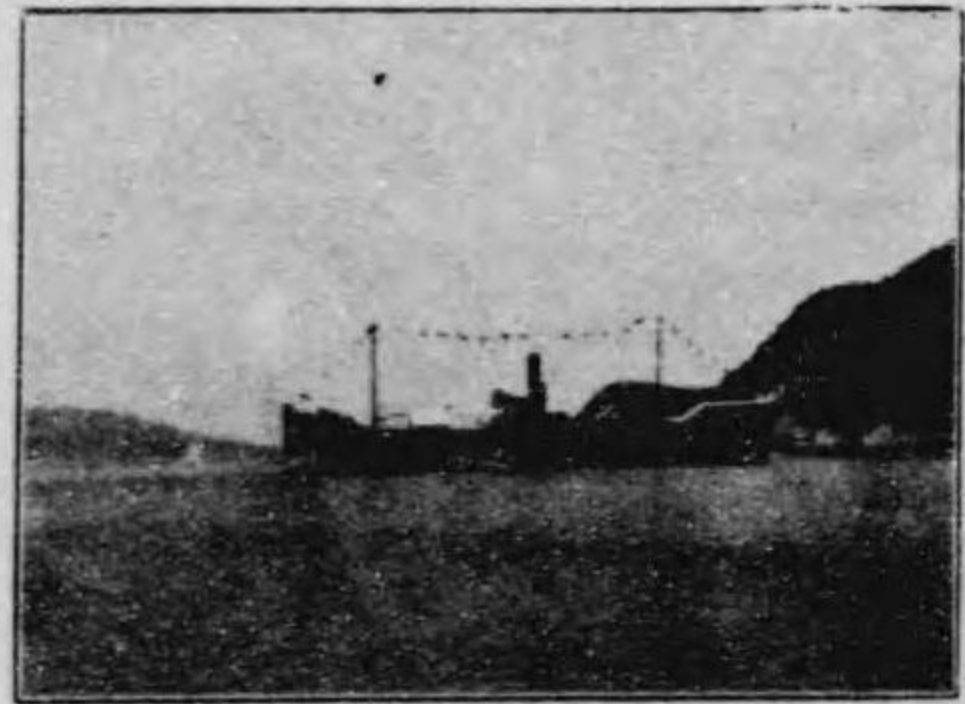
### 紀陽鐵工運輸株式會社

同社は大正六年二月二十一日在來の紀陽鐵工所を買收繼承し、資本金貳拾萬圓を以て創立せられたるものにして、爾來業務日に異常の發展を遂げ、創業後僅かに一年有餘なる同七年八月二十四日増資を執行して資本金を一躍壹百萬圓となし、益々銳意事業の進展を策したり、是に於てか爾後



紀陽鐵工運輸株式會社

業運業：榮え今や其の營業科目は鐵工、造船、運輸、並に石炭、木材販賣等の多きを數へ、本社を和歌山縣海草郡中之島村七百五十七番地に置き、石炭部を和歌山市船場町に、木材部を、同市表橋般(二)木材部、製材製板諸般木材(三)造船工場、陸船用汽機汽罐、鐵橋、鑛山染色、捺染、起毛機、其他機器一式(四)造船工場、小形各種船舶(五)海上貨物一式等にして、何れも期日の迅速、確實、價格の低廉品質の精撰を以て其特色とす、而して目下の販路は主として京阪神並に九州地方なり、現重役は取締役社長松居善助、専務取締役清水積一郎、同近江楠松、取締役西田貞次郎、同中岡喜助、監査役高橋龜太郎、同高垣良三郎、同貴志平介の諸氏なり。



紀陽鐵工運輸株式會社第一丸



紀陽鐵工運輸株式會社製更用付片乾機製

### 象牙商 萬屋商店



萬屋商店製品

萬屋商店は本店を東京市淺草區北元町三番地に置き、支店輸出部を同市麴町區有樂町三丁目三番地に設け、象牙材料輸入及象牙美術彫刻品一切の製造販賣を以て營業科目とせる巨店にして、明治三十二年先代主齋藤宇八郎氏に依りて創業せられたるものなり、爾來其製品の秀逸は業務經營の練達と相俟つて、業運年々繁榮を加へ、來りしが同四十二年現代主直吉君家業を繼承し、益



萬屋商店製品

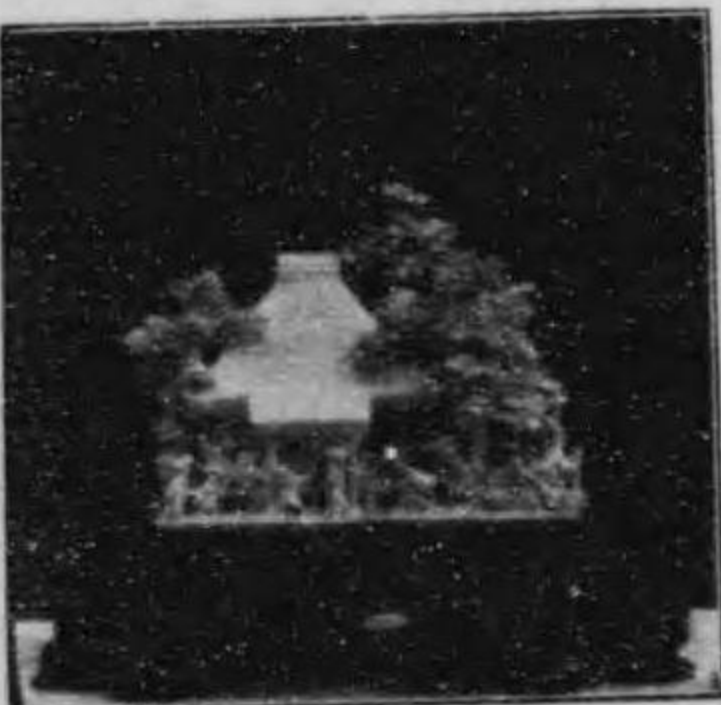
奮勉を以て營業の發展を計るに及び、業績愈々隆々たるを致し、以て今日に至る、直吉君は明治七年六月奈良縣吉野郡丹生村に生る、實父を中谷重太

郎氏と云ふ、同三十一年上京し翌年店員として同店に入り、汝々として店務に精勵す、先代宇八郎氏深く君の人となりを愛敬し、同三十六年終に請うて養嗣子となす、既にして君の家督を相續するや、銳意店務の伸長に多々努勉せし結果、業運日に倍々殷盛の域に向ひ、今や店員約二十名を使用し、其一ヶ年に於ける賣上高の如き相續當時七八萬圓に過ぎざり、光等へ賣出し、其の賣先地より海外へ輸出されつゝ、ありしも向後は直接同店より歐米へ輸出する計畫にて、既に店內に輸出部を設け、目下着々其の準備中なり。



萬屋商店製品

しもの現在實に貳拾七八萬圓の巨額を算するの盛況を示し、尙曩に東京上野に於て開催せられし大正博覽會に於て其の出品に係る化粧道具十二品一組は、畏くも宮内省御買上の光榮に浴せり。



萬屋商店製品

### 吉安帽子店と店主吉井安吉君

同店は店主吉井安吉氏の經營せる本邦有数の帽子製造販賣店にして、明治十五年東京市日本橋區本兩替町に斯業を開始せるに創まる、當時我邦文明の程度猶未だ頗る低くにして、各種製造工業の如き甚だ振はず、従つて帽子製造業の如きも極めて小規模のものなるのみならず、其の製品の如きも甚だ拙劣なるものにして、又東京市内に於ける斯業者の數の如きも僅かに約十名を算するに過ぎざり、此時に當り同店は深く時運の推移に鑑み、處あり、夙に外國製各種帽子に就き綿密なる研究をなし、無經驗なる職工を督勵して、其の製造に従事せしめ、具さに之が製造法の改善に關して辛酸を嘗め、就中麥稈製帽子の製造法に就きては、率先して之れが苦心研究に十數年を費やしたり、蓋し其の當時麥稈製帽子は先づ我が内地に産する未製品なる原料、眞田を本邦より海外に輸出し、海外に於て是等原料を以て製造したる麥稈帽子を更に我國に輸入する有様にて、事態頗る我が國家經濟に利あらず、且つ其輸入額も年々増加し來りしかば、同店は大に此の情勢に憤慨し、爰に奮然起ちて幾多の困難を排し、銳意之が製造法に研究を進めたる



吉安商店

ものなり、斯くて同店が努勉の效は幸にして空しからず、漸次精良なる麥稈眞田を始めとし、其他の優良なる各種帽子を製出し得るに至り、又其の産額も日に増加し、販路亦逐年擴大するに至れり、是に於て同店は明治二十三年日本橋區通旅籠町に移し、益々海外輸入品の防遏を目的とし、専ら其の技の進歩を計れり、既にして明治二十七年戰役後諸般の事業勃興するに伴ひ、同店も亦々事業の擴張を行ひ、同三十六年五月再び同區通鹽町に移轉せり、後ち日露戰役終りを告げ、我が事業界活躍の機運に乗じ、更に海外より最新式麥稈眞田製造用機械一式を購入して、最新式の帽子を製出し、聲價市場に高く業務亦一段の殷盛を加ふ、而して當時明治三十八年實施の實用新案法に依り、其登録許可を受けたるもの實に三十有餘件の多きに達せり、斯くの如くにして、業務日に繁忙を加ふると共に、漸次店舗の狹隘を感ずるに至りしを以て、同四十一年八月三度店舗を日本

橋區馬喰町一丁目十二番地電話神田長六四特長六五長一二三八番の現在所に新築移轉し、同時に本所區綠町一丁目二十三番地に工場を新設せり、爾來業運年と共に倍々盛んにして今や百數十名の職工を雇使して盛んに從來品の製造に勉め、方パナマ帽子に付ても原料の精選漂白等に付き細心の研究を重ね、海外品に比して毫も遜色なき優良品を出すに至り、其の販路の如きも常に内地一圓に治きのみならず、遠く朝鮮、滿洲支那全土、南洋濠洲等に及ぶの盛況を示しつゝあり。斯くて現及絹綿麻布等各種帽子、ヘルメット、一シルクハット、パナマ帽、諸雜貨の多きを數へ何れも品質状態二つながら優色無比を以て稱せられ、聲價内外市場に噴々たり、尙同店の製品には登録商標「日の出向島印」を附し、一見他品との見別に便し、併せて同店の責任を明かにせり。

同店主吉井安吉君は安政六年五月二日を以て生る、父君は彦兵衛氏、君は其の長男なり、幼にして家道振はず加ふるに父に死別し、具さに辛酸を嘗めしが、明治十五年、堀川長兵衛氏の庇護を得て始めて帽子製造販賣業を開始するに至り、爾來奮闘努力、勉能く自己の運命を開拓して遂に今日の成功を見るに至る、亦一個立志傳中の入たるを失はず。

### 五番館

北海道札幌に遊ぶ人は同停車場前に觀眺たる洋館の雲表に聳立するを見、是れ則ち同道の三越を以て稱せらるゝ五番館なり、同館は同道の有名なる鑛業家小田良治氏の經營する所にして河合敬治氏支配人の任に當り、設備完備規模宏大なる「デパートメントストア」の組織を以て河合、されば人若し同館に至らむか、同道物産を始め、日用の百貨一つとして便せざるなく、業務の殷盛同道稀觀を以て稱せらるゝ、因に同館は本店を札幌區北四條西三丁目一番地電話五六四七九、一二三番に置き、東京支店を東京市京橋區尼張町七番地電話銀座三三六三三、三七一五〇〇番に置く。

### 鈴木カバン店と店主鈴木幸次郎君



鈴木幸次郎君

鈴木カバン店は店主鈴木幸次郎氏の經營せる都下屈指の靴製造販賣店にして堂々たる洋風店舗を東京市芝區櫻田本郷町に設け、而して其の創業は明治二十年に在り、當時本邦文明の程度猶未だ低く従つて靴の製造法の如き亦頗る幼稚なるを免れざりき、店主鈴木幸次郎君は此の現状を慨し、同店を設立して自ら身を斯業に投じ、爾來孜々として或は之を學理に照らし、或は之を實地に徴し、以て只管製品の改善に努力せり、尙氏の研究に熱心なる遙かに英國倫敦の當業者と特約して其の郵送する所の新流行品のカタログに基き、潛思之れが製造法に苦心を重ねし結果、遂に能く之を舶載品に比し年と共に益々、般盛を加ふると共に、彌々其の製品に不測の改善を加ふることを怠らず、今や其の製品の精良にして業績の隆大なる正に巨然として斯界に稱するの盛況を示



五番館全景

しつゝあり、尙同店は曩に、畏くも宮内省御用カバン調製所たる榮譽を拜し、又日清戰役後、水交社の特約カバン製作所たる名譽を膺へり、亦以て如何に同店の製品が優良無比にして聲價の隆々たるかを知らるに足らむ。

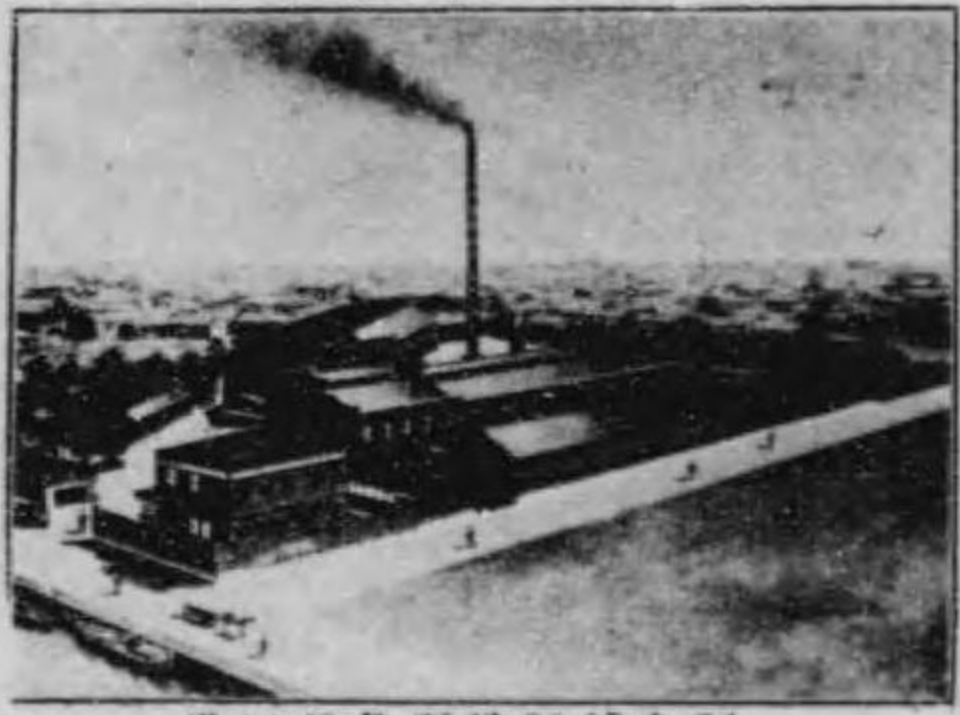
### 福島鑛商店

本邦製鑛業界に蜻蛉印鑛の製造本舖として其の名を馳する我が福島鑛商店は東京市本所區龜澤町二丁目一番地に在りて、福島由太郎君の經營する所たり、今其の沿革を尋ねるに今を距る三十有餘年前明治十四年の創業に係り、當時は専ら日本鑛の製造に従ひしが、炯眼なる君は早やくも時勢の進運に注目し、西洋鑛の將來を察し、日夜寢食を忘れて之れが研究に努め



福島鑛商店と由太郎君

同十八年に至り初めて製造を開始せり、爾來倍々其の製造上不斷の考慮を凝らし、同二十九年特に強硬なる一種の焼入法を案出し、遂に優良なる西洋鑛を製出するに至り、同品は夫々對手物に適應する硬度を有し、其質極めて堅硬にして使用最も容易に、且つ工程の時間を短縮すること大なるを以て忽ちにして聲價を博し、世の歡迎を受け、販路大に擴張せらるゝ、是に於て同店は益々其製品の精巧を期し、同三十一年更らに英國より目切器械數臺を購入し、新に機械工場を設置し、工場を一新すると共に緻密の注意を拂ひ、舶來品を凌駕するの優良品を製出して愈々其聲價を高からしめたり、爾後業運年と共に倍々繁榮を加へ、遂に本所龜澤町の本工場のみにては其規模狭小にして日に殺到し來れる諸方の註文に對し生産不足を來たすに至りしを以て、曩に新に府下龜戸水神森に大規模なる工場を興し、今や一箇年に於ける製作鑛の數は優に三百萬本の巨數を算し、蜻蛉印鑛の名は海の内外に喧傳するの盛況を示しつゝあり、今試に同店の内地に於ける主なる需要先を掲ぐれば、陸海軍各工廠、蘭日本製鋼所、筑前製鐵所、帝國鐵道院、朝鮮、滿洲鐵道、臺灣鐵道部の各指定品たる外、芝浦製作所、三菱造船所、淺野鈴木兩造船所、古河久原鑛業會社を始めとし、全國大小の鑛工所にして殆ど蜻蛉印鑛を使用せざるものなきの盛運なるのみならず、近年清國、滿洲、露領、浦鹽、斯德、南洋等に輸出せらるゝものも亦益々多額に上れり。



福島鑛製造所龜戸工場

同店主福島由太郎君は資性醇厚家業に精勵する傍、夙に力を公共の事に致し、現に本所區會議員の要職に在りて、今回市制施行三十年紀念に際し、在職十五年の功勞に依り表彰せられたり。

### 各學校教室用と出野經一君

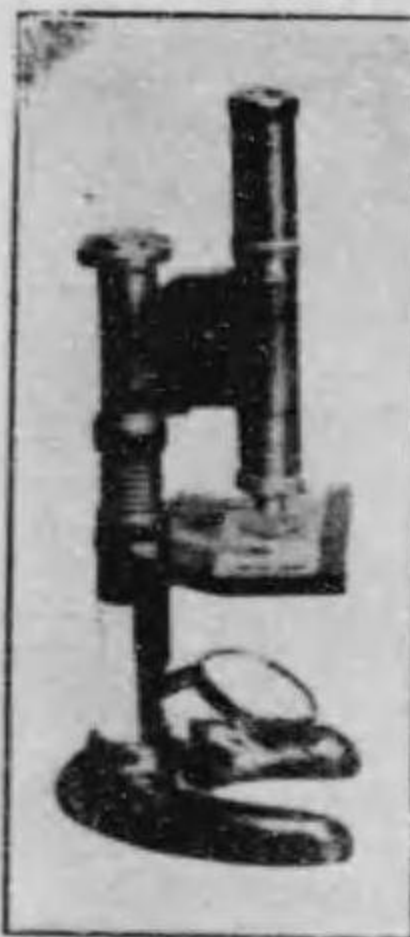
從來我邦の顯微鏡は殆ど其全部を外國よりの輸入に仰ぎ、從て其の價も高く、學生用又は實業家用として備ふるに不便少からず、爲めに各學校に於ても一般教授並に研究に遺憾多かりき、大正式顯微鏡製作所主出野經一氏深く茲に見る所あり、多年苦心研究の結果、遂に外國品に比し毫も遜色なきのみならず、反て凌駕せる斯品を製出し得るに至り、大正式顯微鏡則ち之れなり、同品の一度世に發賣せらるゝや、聲價忽ちにして江湖に高まり、需要日に激増し、今や東京、大阪、兩醫科大學、各醫學專



野野一君

門學校教室用及學生病理學研究用を初めとし、他の全國各學校教授用、學生實驗用並に實業家用として、沿く海内に賞用せられ、同所は之れが製作に日夜忙殺せらるゝの盛況を示しつゝ、あり尙同品は曩に東京化學工業博覽會に於て、聖上陛下天覽御覽上の光榮に浴し、又、皇太子殿下に獻上御嘉納を給ふの榮譽に浴せり、此の如きは同所が百代に傳ふべき無上の光榮なると共に、亦以て如何に同品の精良なるかの證左たるに足らむ。

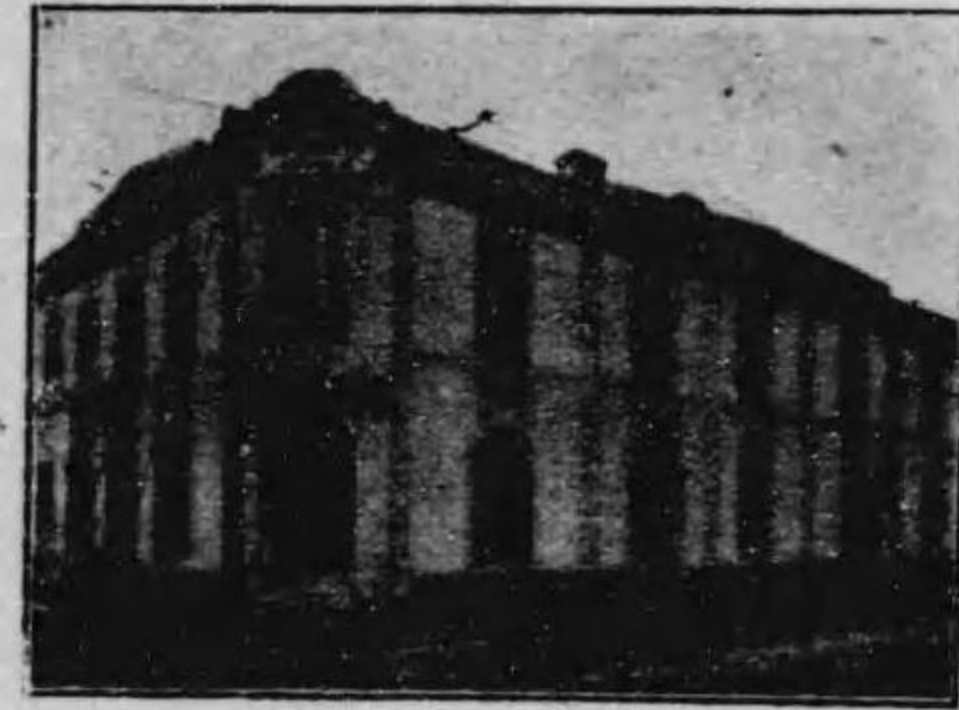
大正式顯微鏡はネジ式普通式の二種に大別せられ、前者には二百倍「直徑倍數定價金拾五圓」、後者には八拾倍「直徑倍數定價金四圓五拾錢」、百五拾倍「同上定價六圓五拾錢」、二百倍「同上定價九圓」の三種あり、而して是等各品中二十倍及百五十倍のものは、蠶、蚊、穀物、害蟲、蝶、其他の標粉等主として少蟲の研究に適し、二百倍のものは花粉粒、澱粉粒、水中の蟲、アミ、パール等、其他の植物の研究に適し、三百倍のものは動物植物の細胞組織並に人體其他の血球、乳球、各種の酵母菌、蠅、蛆、トマ、十二指腸蟲、其他の卵、子、病理細胞の研究に最適す、因に同所は大阪市東區東區町四百九十五番地に在りて全國各縣に一二の特約店を置く。



野野一君製式顯微鏡

### 大阪海上火災保險株式會社

同社の創立は遠く明治二十六年に遡り、社名を大阪火災保險株式會社、大阪火災保險株式會社及大阪火災海上運送保險株式會社と稱し、從來は主として火災保險を營業し、來りしが大正五年三月二日株主の大異動を生じ、有力なる船舶業者、貿易業者、製造工業者等其要部を占め、役員の改選を行ひ、三財產の整理を遂げ、從前の缺損全部を補填し、四資本金壹百圓を五百萬圓に増加し、五業務の擴張を計り、主力を海上保險に傾注する事とし、從て六商號を大阪海上火災保險株式會社と改め、殆ど事業の全般に涉りて創立同様の改造を試み、結果、面目頓に一新せり、斯くて内は、敍上の改革を遂げ、外は、曠古の時運に乗せし、同社の業務は日に月に發展して、今や斯界の注視を同社に蒐むるに至れり、之を近時の數字を以て舉示せんか、大正六年年度の契約保險金額拾壹億參千〇七萬餘圓、收入保險料九百四拾五萬壹千四百餘圓に上り、之を前年度に比すれば、契約本金は上述の如く、改造費金五百萬圓を算せるが、進展極りなき同社の業務は同社をして更に昨大正七年七月に至りて一躍倍額の増資を決せしめ、現在實に一千萬圓の巨額を算す、而して今試に同社が大正六年度に於ける收支差引利益金を舉ぐれば、金參拾八萬六千七百參圓餘にして、内金貳萬圓を法定準備金に、金參萬五千元を役員賞與金に、金七萬七千元を特別配當金、五分に、金貳萬圓を別途積立金に、金拾五萬四千元を利益配當金、年壹割に各充當し、金八萬七百參圓餘を後期に繰越せり、亦以て如何に其業務の盛大なるかを知るに足らん、終りに同社營業上の特色を舉ぐれば、(一)取引の堅實は斯業の生命にして、亦同社特色の一なり。改造後短日月に於ける同社の異數なる好成績に對し之が



大阪海上火災保險株式會社

原因を營業振りの放膽に歸するものあるも、之れ全然謬見なり、同社が既往並に、現在に於ける健全なる發達は、其の眞因實に其取引の堅實なるに在り、(二)物件の選擇は安全の根源にして、又同社特色の二なり。夫れ契約の目的物件に對する取捨宜しきを得ざらんか、之に胚胎する危險は會社の負擔を激増すべし、今同社が特に之の點に注意し、常に周到にして、嚴密なる選擇を行ひつゝ、あることは考課狀面の數字に明かなり、(三)危險の分布は擔保の要諦にして、又同社特色の三なり。同社は夙に此點に着眼し、英國倫敦に於ける保險仲立の老舗セドウィック・コリンズ商會を以て總代理店とし、倫敦保險者と相互間に海上火災共に保險受授に關する特約を締結し、海外市場との連絡極めて敏活圓滿なり。

同社は本社事務所を大阪市西區川口町十番地に置き、東京支店を東京市京橋區墨町十二番地に、神戸出張所を神戸市元町四丁目百十八番屋敷に、横濱出張所を横濱市本町二丁目二十二番地に、名古屋出張所を名古屋市中區區宮町二丁目十七番地に、金澤出張所を金澤市十間町九番地に、九州出張所を福岡市橋口町四十一番地、一四十二番地、一に設け、現重役は取締役社長、長範多、専務取締役多羅尾源三郎、取締役喜多又藏、同木村清、監査役井上敏夫、同中山說太郎、同南郷三郎の諸氏なり。

### 株式會社下野銀行



矢板武君

株式會社下野銀行は現在資本貳百萬圓を擁し、本店を栃木縣宇都宮市大工町三十一番地に置き、東京支店を東京市日本橋區横山町二丁目四番地に、日光支店を栃木縣上都賀郡日光町大字日光九百十八番地に、真岡支店を同縣芳賀郡真岡町大字荒町百三十番地に、傳馬町支店を同縣宇都宮市傳馬町三千六百九十九番地に設け、普通銀行業及貯蓄銀行業を兼營せる地方屈指の大銀行にして、明治二十四年を以て創立せられたるものなり、抑々當時に於ける栃木縣經濟界の状態たるや、縣下の中樞たる宇都宮市に於てすら、漸く東京市に於ける一二の大銀行が其支店を設置せるに過ぎざる状態にして、未だ地方獨立の銀行として一行だに之を見るを得ず、斯くては到底地方金融の圓滿なる發達を計る事能はざる狀況に在り、茲に於てか同縣の有志矢板武久保三郎、瀧澤喜平治の三氏は熱心同行の創立を首唱し、茲に同行の創立を見るに至れり、而して同行の營業方針としては、全然地方金融機關を以て任じ、主ら堅實質素を旨とし、たゞ業務漸次穩健なる發達を遂げ、遂年一般財界の信用を博し、二十八年に至りては一回の増資を行ひ、資本金を參拾萬圓となし、次で三十五年第二回増資の結果、資本金は七拾五萬圓となり、更に四十一年五月には株式會社日光銀行を合併して、其資本金を貳百萬圓に増加せり、上記の如く同行は實に同縣に於ける株式組織銀行の嚆矢にして、其地方經濟界に貢獻せる所尙に鮮少なからず、尙同行は一般民衆の貯蓄心を鼓吹する爲め、縣下實業界の重鎮にして、那須開墾事業等公益上の功勞に困り、曩に藍綬褒章を賜ひ、勳六等に敍せられたるの、人而して同行との關係に就ては、抑々同行の創立者たり、爾來引續き取締役として、重任し、明治三十一年久保三郎氏に代り、頭取に就任し、

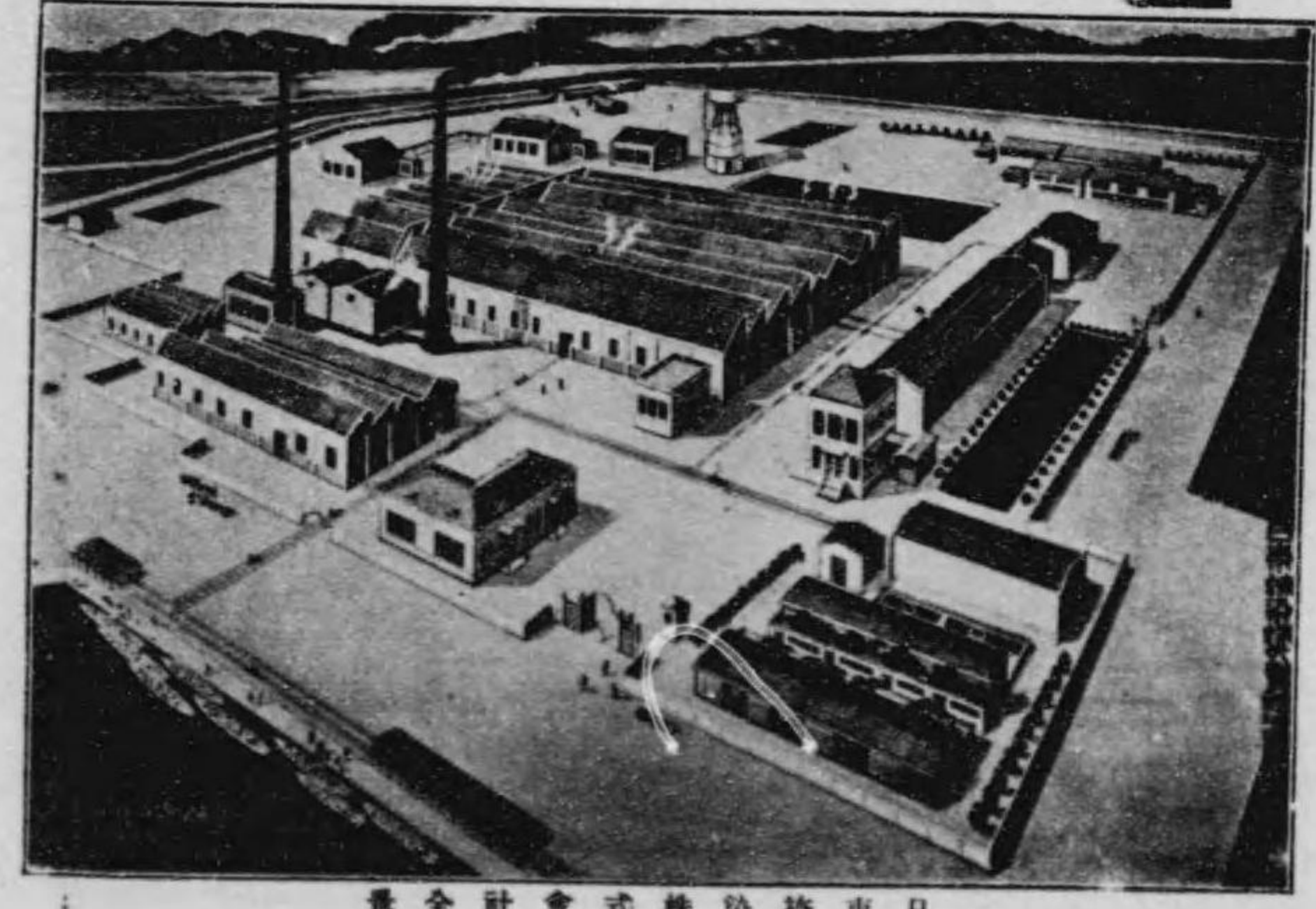


株式會社下野銀行全行景

今日に至る、又、取締役加藤昇一郎氏は同二十四年同行第一回創立總會に於て監査役に當選し、次で同三十九年取締役に當選、爾來引續き重任今日に至り、取締役小川源次郎氏は同二十四年同行創立以來勤績同四十一年取締役に昇任、爾來每期重任、今日に至り、取締役に當選、今日に至り、取締役に村山金平氏は明治二十九年監査役に當選、大正二年取締役に當選、今日に至り、取締役に村山金平氏は明治二十九年監査役に當選、大正二年取締役に當選、今日に至り、監査役日下實同上野順一の二氏は大正二年監査役に當選、今日に至り、監査役日下實同上野順一の二氏は大正二年監査役に當選、今日に至り、支配人大谷兵三郎氏は明治四十年七月本店支配人となり、爾來勤績今日に及べる人なり。

### 日東捺染株式會社

同社は大正四年五月和歌山市に於て専ら綿糸捺染業に従事せし紀陽捺染會社を買収したるに創る當時資本金拾五萬圓の株式組織を以て綿糸捺染に従事せしが後事業の將來に就きて考ふる所あり、機械設備の改善を計り、斷然綿糸捺染を止め、更紗捺染に従事し、着々効を收む、時偶々歐洲大戰の影響は歐洲に於ける捺染更紗製品の供給絶無の狀を來たし、茲に支那南洋方面の需要は一勢に我國に向つて殺到するの運に會し、爲めに同社も亦其の製造能力に不足を感ずる事切なる者あるに至りしを以て、遂に資本金を四拾萬圓に増加し、堺市に於て元吉川捺染工場を引繼ぎ居たる大阪化學工業合資會社を買収し、猶一方和歌山市に於ける一彫刻工場をも買収し、依て製造供給能力の増進を計りしが、後幾くもなく需要方面の激増に依る斯業界の好況は更に同社の第二期擴張を促すものあり、茲に同社は二たび増資を決定して、資本金を壹百萬圓となし、現在同社本店の所在地たる大阪淀川の沿岸に地を下し、舊和歌山工場を此地に移し、更に新規の機械を据付け、今大正八年一月に入り、既に其の一部は運轉を開始し、新製品を産出するに至りしが、更に四月に入ると及び全部の据付工事も完成し、今や偏く絹綿布各種に互り漂白より浸染捺染仕上に至る迄の作業に従事し、旁ら圖案彫刻等の設備も亦完備を告ぐるの盛況を見るに至り、斯くて現在同社は絹綿布の漂白、浸染、捺染仕上業を以て營業科目となし、業運隆々、本年四月に於て、既に五月より九月に至る五ヶ月間に製産さるべき製品に對する賣買契約全部を完了し、目下日夜操業に忙殺さるゝの盛況に在り、猶同社製造の重なるものは輸出絹綿物一切各種生地、漂白捺染、其他特殊加工品一切にして、従業員數約五百人、職工數約五百人を數へ、生産年額實に一百二十萬反を算し、其販路は内地一圓は勿論遠く支



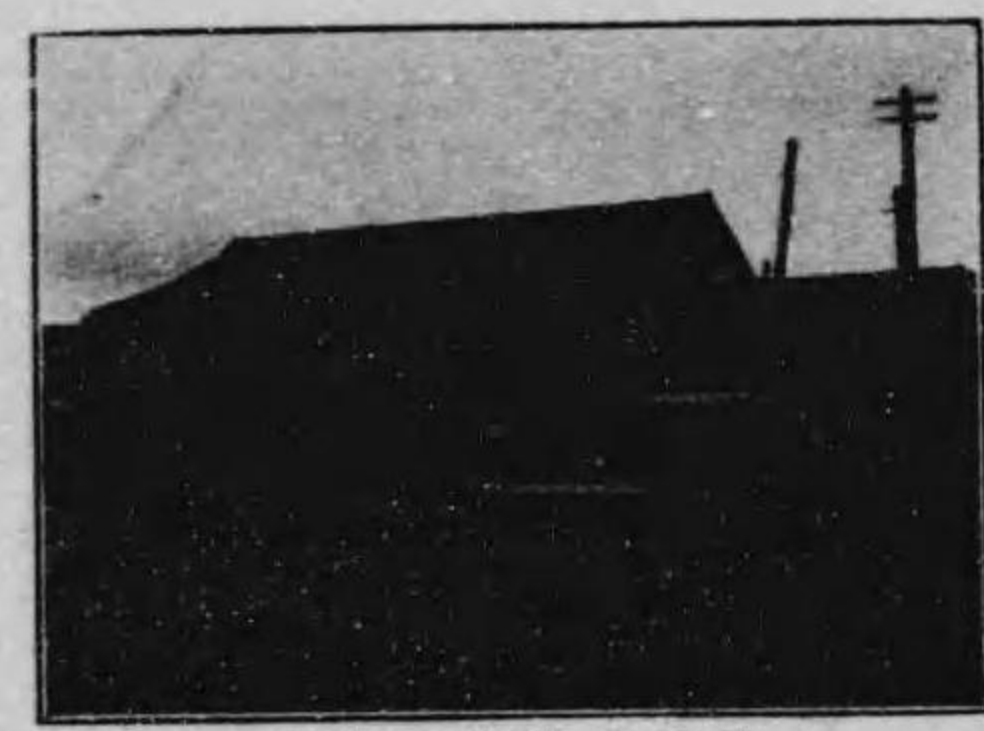
日東捺染株式會社全景

那、海峽殖民地、印度、蘭領東印度諸島、亞弗利加南米、濠洲、フィリッピン群島、西伯利亞等に及び其重なる取引先は三井物産、伊藤忠商會社、伊藤萬商店、阿部市商店等を數ふ、亦以て如何に其業務の盛大なるかを窺知するに足らん、蓋し本邦に於ける捺染業者として、擧ぐべきは同社の外、唯僅に京都の日本製布あるのみ、其他は濱松の如き京都、和歌山、大阪地方に存在せる小業者の如き、何れも其資本金に於て、將た工程規模に於て到底論ずるに足るものあるなし、此の間に於て、獨り同社は其規模と設備と二つながら、嶄然として、群を抜けるものにして、將來の雄飛や更に益々、利目に値するものあらん多望なりと云はざる可けんや。

同社は本社並に淀川工場を大阪府東成郡城北村字赤川三百番地に置き、營業所を大阪市東區南本町二丁目四十番地に設く、社長田附政次郎氏は大阪綿業界の重鎮にして、夙に盛名斯界に噴々たる人、又常務取締役山口藤次郎氏は多年田附老將軍の旗下に在りて、機略縱横を以て稱せらるゝ、熟練堪能の人にして、同社の今日ある、氏の努力に負ふ所真に多大なるものあり、其他の重役たる取締役山田藤次郎、同河内幸次郎二氏は大阪染料界の雄將にして、監査役松村其右衛門、田附竹治郎、取締役伊藤長兵衛諸氏は、何れも同地綿業界に於ける、錚々たる關士たり、又技師長關保平氏は京都高等工藝學校を卒業するの、後數年間、和歌山捺染工業界各所に於て、實地上の經驗を積みたる、頭腦明晰且つ技術上の自信最も強き人にして、同社新工場的设计は實に氏が獨創のみに依る所多しと稱せらる。

### 株式和歌山縣農工銀行

同行は明治二十九年四月發布法律第八十三號農工銀行法及同第八十四號農工銀行補助法に準據し、明治三十六年二月大藏大臣より設立認可を得たるものにして、同年七月和歌山市寄合町に於て營業を開始し、越えて同三十四年七月同市北汀町の現在新築營業所に移轉せり。



和歌山縣農工銀行

上述の如く、同行は農工銀行法により設立せられたる特殊銀行にして、設立當時同行の如き殖産興業に使用する資金を低利長期に放すべき適當なる金融機關は未だ他にあらざりしを以て、同行當事者は當初其の營業開始と共に必ずや各農工起業者は、就うて資金の借入を請求し來るべきを豫期せし、事實は之に反し、開業後數年間は何等著しき發展を見る事なかりき、蓋し之れ未だ同行設立の趣旨が一般に周知せられざる爲めなりき、是に於てか、同行は普く其の借入手續等を縣下に知らしむるの必要を感じ、専ら之が説明に努力せり、爾來業務漸く繁忙を加へ來りしが、時恰も前支配人病歿の後を承けて、現在支配人岩橋恭一氏就任と共に、只管行務の發展を圖り、一方又農工銀行法數次の改正に依り、營業の範圍擴張せしかば、同行の業務は爰に漸次發展するの好運を見るに至れり、斯くて金融希望者の増加著しきを加ふるに伴ひ、次第に資金の缺乏を告ぐるに至りしを以て、更に同行は日本勸業銀行の代理貸を開始し、農工債券を發行し、且つ預金吸收の方法を講じ、以て資金の需要を充たせり、斯くの如くにして、同行の業務は年と共に極めて順調なる進展を遂げ、行運隆々、今大正八年二月末日に於ける資本金六拾萬圓、積立金四拾九萬七千圓、債券發行高壹百參萬貳千參百圓、諸預り金貳百八萬貳千七百九拾七圓、諸貸付金參百九拾九萬貳千參百九拾四圓を算するの盛況を示しつゝ、あり



現重役及支配人は取締役頭取谷井勘廣、取締役上山市郎兵衛、同森田庄兵衛、同男爵三浦英太郎、同辻野惣兵衛、監査役宮本吉右衛門、同神田清右衛門、同白井慶楠、支配人岩橋恭一の諸氏なり。

### 三重繭絲商店



君吉常澤藤

三重繭絲商店は營業主藤澤常吉氏の經營する所にして、明治四十一年株式會社三重洋行の解散と同時に現在の地に店舗を設け、繭生絲の間屋並に擔保貸付等の業を營み、以て今日に至り、業務盛大を極む、同店は本店を三重縣四日市市新道に置き、支店を同縣桑名町、同神戶市に設け、營業所二百六十八坪、貯繭倉庫二百四十六坪、乾繭場所百八十二坪を數へ、一ヶ年の取引高實に六百餘萬圓に上る。

### 株式會社芝川商店と合名會社芝川商店

關西貿易業界の巨星株式會社芝川商店は其起源遠く明治の初年に在りて、先代芝川新助氏の創立する所なり、當時同店は同氏の個人經營に係り、海外輸入品の販賣を以て營業の目的となし、専ら堅實を旨として、不斷の活躍を怠らざりき、是に於てか、漸次内外の深大なる信用を博し、業運著りに發展して、遂に大阪市に於ける大商店を以て目せらるゝに及びしが、惜む可し明治二十四年病みて長逝せり、時に嗣新次郎君、尙幼年なりしを以て、養子榮助氏乃ち遺業を繼承し、更に同三十二年より直輸入業を開始せしに、氏が天稟の材幹と、時勢の進運とは、兩々相俟ちて、頗る事業の繁榮を致し、遂に從來の業務組織を以てし、日本橋區佐内町に設置せし以來、内外樞要の各地に支店又は出張所を設け、以て益々店運の隆昌を促進せり、爾來業務年と共に異常の進展を示し、殊に歐洲大戦勃發以後は、時局の好影響を受けて、業運特に一段の躍進を見るに至れり、是に於てか、大正六年五月更に時世の推移と、四圍の状況とに鑑み、株式會社組織に改め、資本金を參百萬圓となし、從來の合名會社の業務中、貿易に關する一切の業務を譲受け、商陣堂々、一層の飛躍を試むるに至る、斯くて今や同社の營業品目の重なるものは、一輸入商品、毛織製品、綿織製品、金物類、機械類、紙類、工業製品、類織物原料(二輸出商品、綿織物類、莫大小類、天產物、鑛產物、雜貨類、藥品類)の多きを數へ、本店を大阪市東區高麗橋三丁目十番地に置き、支店を東京、神戶、橫濱、倫敦に、出張所を名古屋、上海、漢口に、張洵に驚くに堪ふ、現重役は取締役社長芝川榮助、取締役副社長芝川新次郎、専務取締役湯淺英之進、常務取締役鹽田與兵衛、同東野勇治の諸氏にして、本店支配人猪崎利一、高橋源之助、三村和太郎、東京支店支配人菅榮一、神戶支店支配人小島博太郎、芝川榮一、名古屋出張所支配人横田孝治郎、上海出張所主任今井邦三、漢口出張所主任樋口尚吉、紐育株式會社社長安田辰次郎の諸氏なり。

合名會社芝川商店は其貿易業務を株式會社芝川商店に譲渡せし以來、動産、不動産の利用取得を以て其主たる營業目的とし、業運年と共に頗る盛を極む、現役員は代表社員芝川榮助、社員芝川新次郎、湯淺英之進、芝川照吉、支配人高橋源之助の諸氏となす。

### 株式會社東京株式取引所

抑々本邦に於て有價證券の買賣取引に關し、成文法の制定せられしは明治七年の株式取引所條例を以て權輿とす、然れ共該條例は範を倫敦株式取引所の規約に採りしものにして、幼稚なる當時の我經濟狀態と支吾するもの多かりしかば、時の政府は頻りに民間の有力者に勸設し、證券取引所の設立を懇進せしも、其の效なく、全然徒法に歸せり、是に於てか、政府も大に鑑みる所あり、明治十一年我邦在來の商慣習と當時の實情とを斟酌して、新たに株式取引所條例を發布し、米相場會所の例に倣ひて、營利組織の株式取引所を認むる事となれり、同所則ち茲に設立せられ、同年六月一日を以て其業を開けり、實に今を距る事四十一年前の事に屬す、而して開業當初に於ける同所の買賣物件は、國債證券兩三種に過ぎざりしが、幾もなく、同所株式の買賣を開始し、爾後相踵で二三證券の上場を見しが、當時最も取引の頻繁に行はれしは、金銀公債にして、其他の國債類之に次ぎ、株式の買賣の如き殆ど見るに足るものなかりき、然るに翌十二年九月、金銀買賣の開始せらるゝや、人氣翕然として、此に集注したりしが、十九年に至り、幣制の整理完成を告げ、金紙の差消滅して、銀貨買賣全然其の跡を絶ち、公債價格の激動漸く鎮靜に歸して、再び昔日の波瀾なく、市人相率ひて株式に傾倒するに至り、遂に今日の盛況を將來せり、爾來上場物件の銘柄數は年を逐ふて増加し、日清戰後に於ては八十種を數ふるに至りしが、日露戰後の沸騰時代に至りて、遂に一百を抜き、大正七年度上半期決算の際に於ては、國債十二種、外國債三種、地方債二十三種、社債百二十一種、株式二百四十三種に上り、上場株式資本高は拾五億圓に垂むとせり、次に定期取引買賣高、取組高及受渡高を見るに、株式一日出來高三十四萬五千七百七十七株、大正五、十一、一同取組高三期合計百三拾五萬九千二百四十四株、大正五、十一、二、一、一箇月受渡高株數五十三萬六千五百五十七株、大正五、十二、一同代金五千貳百七拾七萬五千九百九拾圓、大正五、十一、一、一、一箇月の資本金は、設立當時僅かに貳拾萬圓に過ぎざりしが、明治二十六年之を參拾圓に増加し、爾後時勢の推移に順應して、屢次増資を行ひ來りしが、大正六年六月第六回の増資によりて、今や資本金貳千萬圓となり、設立當時に比し、實に百層倍の膨脹を來せり。

同所は東京市日本橋區兜町四、六番地に在りて、其の市場設備は開業の當初、米商會所の建物を讓受け之に充てしものなるが、明治二十八年一月を改築し、同四十四年更に大に其の規模を擴大して、稍形容を整へたりしに不幸にして、大正六年十二月、中火災に罹り、市場を除く外、建物概ね灰燼に歸したれば、目下工費貳百萬圓の豫算を以て、新市場を始め、建物全部新築の企畫中なり、尙同所の營業年限は幾度か更新せられしが、最近大正二年中更に同年十月一日以降、向ふ十箇年間營業繼續の許可を得たり、同所創立以來の沿革略々上述の如くにして、業績年と共に隆々として、舉り、今大正八年上半期に於ける利益金壹百四拾壹萬九千五百圓餘を算するの盛況を示せり、因に同所の役員は、當初頭取の下に、肝煎四名を置きしが、明治二十六年新取引所法の實施と共に、頭取肝煎の名稱を改めて、理事長理事となし、以て今日に至る、現役員は、理事長男爵郷誠之助、理事山口卯之助、同岡崎國臣、同前川太兵衛、同藤山雷太、監査役關谷兵助、同渡邊勝三郎、同小池國三の諸氏なり。

### 株式會社伊豫農業銀行

同行は明治三十一年の開業に係り、主として農業資金を供給するを目的とし、設立せられたるものなれ共、現今には農工商一般の金融機關として、各方面に取引を擴張し、爲替取引も亦全國及滿洲地方に及び、創立以來業務の發展に伴ひ、數回の代表的事業

増資を行ひ現在資本金壹百貳拾萬圓を算せるが、猶又目下増資の計畫中なり、同行は本店を愛媛縣松山市湊町四丁目置き、支店を同市紙屋町同市唐人町同縣温泉郡北條町同郡堀江村同郡川上村同郡小野村同縣伊豫郡中村同郡中山村同縣上浮穴郡久萬町同縣西宇和郡三机村同郡三崎村に、出張所を同縣伊豫郡松前村同郡廣田村同縣温泉郡與居島村同縣西宇和郡小島島の十數個所に置く、現取締役頭取村上幸太郎、取締役二神精一、同清水義彰、同新田長二郎、同石崎兵太郎、同小西莊三郎、監査役徳本良一、同田村安八郎、同松木喜一、副支配人渡部精馬、川崎善四郎の諸氏なり。

### 阿部株式會社

同社は愛媛縣今治町に在りて資本金貳拾萬圓を有し、綿糸三絨等の製造販賣を以て營業の目的とす、明治二十九年三月合名會社組織を以て創立せられたるものにして、創業以來業務年と共に發展し、同三十三年力織機を据付く之れ實に同縣に於ける力織機採用の嚆矢たり、爾來業運日に益々振ひ終に從來の業務組織を以てしては百事頗る不便不利を感ずるに至りしを以て同二年二月に至りて則ち其の組織を變更して株式會社となし、同時に從來の和晒を廢し、横置高壓精練機及晒に對する諸種の機械を据付け全部を洋式晒となす、爾後事業益々年を逐ひて進展し、今や織機三百五十三臺、其他の精良なる諸機械を運轉し、女工六百五十名、男工五百五十名を使用し、一ヶ年の製産額約參百五十萬圓を算するの盛況を示せり、猶其の製品の販路は内地一圓は勿論遠く上海南洋滿洲に及び、白糸は全國第一位を占め、伊豫糸相場の標準品たり、因に同社の株主は總て阿部一家一族の人々のみにして、現重役は常務取締役阿部晴太郎、同阿部惠一、取締役阿部平助、監査役阿部光之助、同阿部香五郎、同阿部利三郎の諸氏なり。

### 株式紀陽貯蓄銀行

同行は和歌山縣下に於ける最古の貯蓄銀行にして、基礎最も堅實なるを以て稱せらる、今其の沿革を按ずるに、今を距る事約二十五年前なる明治二十八年、同縣有力者の提唱に依り、勤儉貯蓄獎勵の趣旨に基き、資本金五萬圓を以て創立せられたるものにして、爾來健全なる發達に伴ひ、屢々増資を執行せし結果、今や其の資本金は五拾萬圓、拂込金參拾貳萬圓を數へ、外に積立金貳拾四萬五千圓を有するに至れり、而して大正七年九月末日現在に於ける預金總額五百八萬餘圓を算す、尙年々純益金の増加を見特に積立金の増額を爲し、極めて堅實なる營業方針を固持し、以て益々行穩の鞏固を計り、あり、想ふに、同行が同縣下の金融界に於ける信用を將來益々濃厚の度を加ふるに至るべく、向後業務の發展唯だ夫れ期して待つべきのみ、因に同行は本店を和歌山縣和歌山市本町一丁目、置き、現重役は専務取締役藤榮藏、取締役岡本善右衛門、同内田彦四郎、同加藤泉、同關榮造、監査役宮本吉右衛門、同谷井勘藏、同垂井清右衛門、支配人山田虎次郎の諸氏にして、何れも同地屈指の名望家ならざるは、なく、其信用の厚き自ら他と選を異にす。

### 日本織物株式會社

同社は明治三十三年二月を以て創立せられたるものにして、當初紀州綿布精工株式會社と稱し、資本金拾萬圓を算せしが、同三十五年三月資本金を貳拾萬圓に増加し、第一綿糸株式會社と改稱し、現在の位置に移轉す、既にして大正六年十月業務

の發展に伴ひ三たび増資を執行して資本金を五拾萬圓となし、同時に現在の社名に變更し、以て今日に至る、現在同社は各種綿織物の製造加工及賣買を以て營業科目となし、目下は主として更紗の製造に従事し、あり、而して本年初より同品の注文は日に殺到し、來りしを以て今や同社は全力を擧げて晝夜操業に勵み、生産の増加を計り、あり、同社製品は何れも品質優良にして、聲價内外の市場に隆々たるが、就中其の捺染糸、乙姫印は品質配合共に優秀にして、耐久力強く、褪色の憂少く、他社の製品に比し、確かに一頭地を抜け、今試に同社製品の現在に於ける販路を擧ぐれば、支那、印度、澳洲、西比利亞等にして、其の重なる取引先は、(一)東京、石田萬兵衛商店、大瀧合名會社、(二)横濱、一般商業株式會社、(三)京都、大澤商會、松井與助、伊庭喜商店、(四)大阪、伊藤萬商店、田村駒商店、南爲商店、多田利商店、石川洋行、中野長兵衛、三露久兵衛、東印度貿易株式會社、日本紡織株式會社、瀧定合名會社、山登商店、五神戶、伊藤忠商店、シアブドラ、ジュリエン、ノードマン、岡田撰輔、ジョサブゼ、ビールマホメ、ソト、保々近藤合名會社、深洲製造輸入株式會社、三井物産株式會社等なりとす、斯くて業務日に益々旺盛の域に向ひ、今大正八年二月末日、第三十八回營業期末に於て、純益金及前期繰越金合計金參萬壹千參百拾圓餘を計上し、内金貳千圓を積立金とし、年一割の利益配當を行ひ、金壹萬壹千八百拾圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり、因に同社は本店を和歌山市元寺町五丁目五番地に置く。

### 日本人造米株式會社と社長泉茂家君

同社長南方常樹氏は早稻田大學の出身にして、清酒醸造を業とし、現に和歌山縣多額納稅者の一人なり、天資温厚、直現在同社々長たるの外、猶五六株式會社の重役を兼ぬ、常務取締役島藤太郎氏は和歌山市屈指の綿糸製造業者にして、年餘四十前後入社以來熱心以て社員及職工を指導し、同社をして着々向上發展せしめ、遂に能く今日の盛況を見るに至らしむ、其他の重役は取締役平松義孝、同岩子安太郎、同橋瓜源助、同谷爲察太郎、監査役田端春三、同廣田善八、同神前純一郎の諸氏にして、何れも關西財界の雄ならざるはなし。

### 福昌公司

君は秋田縣北秋田郡大館町の人、明治十八年一月一日を以て生る、泉皆吉氏の男なり、夙に力を地方實業の振興と公事の發達に致し、現に選ばれて日本人造米株式會社々長、株式會社大館製作所監査役となり、又大館町學務委員、大館消防組々長に推され、名聲遐邇に高し。

皮各種護謨製品、加酸加里カー、バート、其他諸雜貨、礦業、農業等にして尙外に豊國火災、大阪海上火災、日本共立火災、ノースブリ、チン、エント、マーカン、マイル各保險會社の代理業並に土木建築請負業をも兼營しつゝあり、斯くて本店内の業務は之を庶務、會計、金物、機械、雜貨、穀肥、礫石、分析、石材、保險、土地、家屋、土木、建築、受渡、用度、請査の各課に依て經營せられ、其營業範圍の廣大にして、事業の殷盛なる洵に駭目に値するものあり、尙又同店は以上の業務の外、大連埠頭に於ける海陸荷役一切を請負ひつゝあり、其入夫の出働は一日七八千乃至一萬人に及ぶ、又昨大正七年開業の倉庫部營業も日に繁盛に赴き、目下二階建煉瓦倉庫の増築を計畫中にして、現に市内摩耶町、明石町、及千代田町に倉庫を置き、一般倉庫業務を誠實迅速丁寧を旨とし、取扱ひつゝあり、又農園は金州及大連市外沙河河口及寺兒溝の三個所に在りて、林檎、梨、桃、櫻桃、葡萄等各種の果實野菜類を栽培し、其收穫は年々市場に供給し好評を博しつゝあり。

店主相生由太郎氏は常に同店を經營せるのみならず、現在各種の事業に關係し、又幾多の公職を帯び、各名噴々たり、今之を紹介するは同店を反面に於て物語るべき無言の雄辯なりと信ずるが故に左に其の重なるものを記せん。  
大連商業會議所會頭、大連市官選市會議員、大連重要物產取引所商議員、滿洲重要物產同業組合副組合長、大連取引所信託株式會社社長、滿洲水産株式會社取締役、大正海運株式會社取締役、大連油脂工業株式會社取締役、滿洲興業株式會社取締役、株式會社大連機械製作所社長、大連工業株式會社取締役、南滿礦業株式會社取締役、滿蒙興業株式會社取締役、滿蒙纖維工業株式會社取締役、滿蒙毛織株式會社取締役、大連土地家屋株式會社取締役、大連取引所發信託株式會社取締役、滿洲パルクム工業株式會社取締役。

### 日本硬質陶器株式會社

同社は金澤市長町河岸五十二番地に在り、明治四十一年合名會社林屋組を買放し、俟衛前田家早川千吉郎氏其他石川縣出身有力者の援助の下に、資本金八拾萬圓を以て創立せられたるものにして、爾來主として内地輸入品の防止に勉めたりし、其の經營宜敷を得ざりし爲め中途不幸にして非常の悲境に陥りたり、此の時に當り、技師顧問たりし故藤江京都陶磁器試驗場長は之が救済は京都實業界の巨擘たる松風嘉定氏に依る外他に途なしとなし、同社の大株主たる横山章氏に謀り、明治四十五年同氏に整理改革を一任したり、松風氏則ち其の任を諾し、爾後快刀亂麻を斷つを以て、或は減資、或は製造法改善、或は營業方針變更等各方面に向つて着々刷新を斷行せし結果、果運漸次隆盛の域に向ひ、遂に今日の盛況を見るに至れり、斯くて今や同社は資本金六拾萬圓を有し、職員三十名、職工六百名を數え、兼に僅に參萬圓に過ぎざりし製産品は實に百萬圓以上を數ふるの盛況を示しつゝあり、尙同社製品陶器の重なるものは洋食器、和食器、建築用材料等に於て是等は皆其色純白を呈し、衛生に適し、冷熱の激變に耐へ、五六尺の高所より墜落するも破損の虞れなき逸品たり、茲を以て現在歐米諸國は日常食器として同品を使用せざる所なく、現に其販路は上海、香港、新嘉坡、印度、暹羅、爪哇、南米、北米の一圓に及べり。  
同社長松風嘉定氏は京都實業界の重鎮として、關西に雄飛し、代々黨業を以て本領とし、傍ら電氣事業界に貢獻する所夥なからず、現に同社長たる外、松風工業株式會社、大阪電機製造株式會社、内外電球株式會社等の社長を兼ね、名聲籍甚たり、曩に多年黨業上の功に依り、藍授褒章を下賜せらるゝ、又同社取締役兼支配人小黒安雄氏は十年の久しき歐洲に遊學し、歸朝後數句にして、松風氏の選拔する所となり、同社中與當時より十年一日の如く社務の發展に努力せる人にして、現在金澤實業界屈指の英才を以て稱せられ、金澤商業會議所常議員たり。

英才を以て稱せられ、金澤商業會議所常議員たり。

### 大連油脂工業株式會社

同社設立の由來。元來滿洲に於ける豆油の産額は豊富なれども、從來之を加工すべき油脂工業の見るべきものなく、殆ど原油の儘輸出せられしを遺憾とし、滿鐵中央試驗場に於て豆油硬化の研究に著手し、鈴木、岡田兩理學士によりて其完成を遂げたるを以て之を基礎とし、左滿邦人石本鑽太郎、相生由太郎、鈴木庸生、久保要藏、川村柳次郎、安田維藏、長濱徹助、柄内壬五郎、巖道圓の諸氏發起となり、株式會社を創立するの議を決し、資本金壹百萬圓四分の一拂込とし、株式貳萬株の内壹萬株は發起人及贊成人にて七千株は滿鐵會社にて引受け、殘三千株を公募したるに、應募額百五十三倍の盛況を呈し、大正五年五月一日、茲に會社の設立を見るに至れり。  
現在の製品及販路。原料は主として滿洲豆油を使用し、現在に於ける製品の年産額左の如し。

硬化油	一〇〇,〇〇〇斤	三四四,〇〇〇圓
ステアリン	四八〇,〇〇〇封度	一四六,〇〇〇圓
グリセリン	一二二,〇〇〇封度	二四四,〇〇〇圓
オレイン	二五二,〇〇〇斤	五〇,〇〇〇圓
石鹼	一,一三〇,〇〇〇斤	二九四,〇〇〇圓
計		一〇七八,〇〇〇圓

右仕向先は從來主として硬化油は米國なりしが、近時歐洲輸出好望となれり、又ステアリン、グリセリンは支那、石鹼油、オレインは日本内地等にして、何れも品質の向上に連れ漸次販路を開拓しつゝあり。  
資本額と配當。同社の現在資本金は壹百萬圓拂込額五拾萬圓にして、利益配當は第三期迄は無配當なりしも、第四期に於て年八朱の配當を見るに到り、第五、六、七期は共に年壹割の配當をなすに到れり。  
現任重役。同社現在の重役は取締役社長鈴木庸生、取締役石本鑽太郎、同相生由太郎、同柄内壬五郎、同岡田徹平、同兼支配人巖道圓、監査役村井啓太郎、同佐藤至誠の諸氏なり。

### 岡田織布合資會社

同社は愛媛縣今治町泉川に在り、明治三十八年二月現同社代表社員岡田恒太氏が同志三名と謀り、今治起毛合資會社を創立して起毛業を開始せしに創まる、越えて同四十年四月、英國リッキン社製造の力織機七十八臺を購入して、廣幅綿布を製織し、社名を伊豫織布合資會社と改め、爾後會社の全利益を擧げて工場機械の擴張増設に充て、同四十五年二月同志の退社と共に、全社を岡田家父子の合資となし、銳意工務の改良と工場發展に努力し、社運日に旺盛に赴き、大正八年一月更に商號を岡田織布合資會社と改む、斯くて今や力織機四百三十三臺並に之に附隨して完備せる諸種の機械及起毛機十三臺を据付け、男女職工六百五十名を使用し、大正七年度の製産額實に六百四十一萬圓、價額壹百八拾五萬圓を算するの盛況を示せり、尙同社製品は主として南支那及蘭領東印度諸島に輸出し、聲價高く、特に田印、緬美人柳條綿布は各地の市場に聲望を贏ち得て好

評常に噴々たり。

同社代表社員岡田恒太氏は元治元年を以て伊豫國今治に生る、長ずるに及びて志を實業界に立て、明治十九年一月伊豫綿練事業開始者たる矢野七三郎氏に事へて其經營を補助せしが同二十四年十月に至り始めて獨立自營し爾來百難不屈漸進的の事業を擴張し、同三十八年二月、同社の前身たる今治起毛合資會社を創立せし以來、奮闘努勉業務の發展を圖り以て今日に至る君又明治四十年一月以來一連選まれて伊豫綿練組合役員となり、亦大正七年四月木原通一氏と共に今治紡績合名會社を經營し現に代表社員となり更に同年九月西條織布株式會社取締役監事に擧げられ、同年十二月今治瓦斯株式會社取締役選擧せられ以て今日に至る、尙同社の他の重なる社員は岡田成一、岡田敬一の兩氏、支配人は矢野定彦の諸氏なり。

### 合名 鴻池 銀行

同行の前身は明治十年四月を以て創設せられたる第十三國立銀行にして同三十年三月鴻池家之を承け、個人經營の鴻池銀行となせしが更に同三十三年十二月時勢の進展に鑑み其の組織を資本金貳百萬圓の合名會社となし、合名會社鴻池銀行と呼び以て今日に至る、此の間業務の進展に伴ひ増資を行ひ又屢々其の營業上に刷新を加へ、今や其の資本金は參百萬圓を算し、諸積立金參百九拾萬圓を有す、行礎の鞏固にして營業の堅實なる、關西金融業界一方の重鎮を以て稱せらる、今試に同行が昨大正七年下半年に於ける損益計算を示せば、總益金貳百四拾四萬五千四百九拾壹圓餘、前期繰越金貳拾六萬四千九百九拾五圓餘、合計金貳百七拾壹萬四千八百八拾六圓餘にして、内總損金貳百九萬五千貳百五拾壹圓餘を差引き、金六拾壹萬五千貳百九拾五圓餘の純益金を擧げ、内金貳拾萬圓を積立金九萬圓を配當金に各充當し、參拾貳萬五千貳百參拾五圓を後期に繰越せり、亦以て如何に同行の營業が堅實無比にして到底他の企及し能はざるものあるかを知るに足らん、因に同行は本店を大阪市東區今橋二丁目七十五番屋敷に置く、現業務擔當社員は鴻池善右衛門氏、專務理事原田二郎、理事兼支配人芦田順三郎の三氏なり。

### 合資會社 巴組

同社は社長中野金次郎氏の創立經營する所にして、現在資本金五萬圓を有し、本店を門司市橋通八番地に置き、出張所を神戸市榮町四丁目、大阪市西區北堀江通三丁目、若松市本町三丁目の三個所に設け、運送業並に石炭採掘販賣を以て營業の目的となす、社長中野金次郎氏は明治十五年五月を以て筑前國若松市藤木に生る、普通學を修むるの後、當時の筑豐鐵道株式會社に入り、運輸課に勤務し、令名ありしが、同三十八年、に至り叔父秋田又太郎氏が下關市に經營せる巴組並肥後又同濱爾來業運年毎に昌んにして、今や其の業務は、一回清部、二、鑛業部、三、石炭部の三分部に分れ、(一)回清部に於ては、門司商船株式會社の所有船其他關門、若松に入港する汽船の大多數を取扱ひ、一ヶ年の取扱高約一百万噸を數へ、又朝鮮郵船株式會社の朝鮮定期航路並に原田汽船株式會社の青島定期航路の各代理店たり、(二)鑛業部は、豊前國田川郡宮床に横島炭坑を經營し、年産額約五萬噸、(三)石炭部に於ては、横島炭の外各種炭の特約又は一手販賣を營み、一ヶ年販賣高約二萬噸を數へ、石炭の販賣は内地一圓滿鮮一帶は勿論遠く南支那並に印度地方に及ぶの盛況を示し、つゝ、あり、因に同社の副社長は、中野新五郎氏にして、現在職員六十五名なり。

在職員六十五名なり

### 竹吉中村商店と店主中村吉治君

竹吉中村商店は東京市京橋區八丁堀仲町十番地電話京橋二六五番に在りて、東都第一の竹木問屋を以て稱せらる、店主中村吉治君は安政六年を以て神奈川縣足柄下郡江野村に生る、舊姓は太田氏、後ち中村姓に改む、年甫めて十八、奮然志を立て、上京し具に辛苦を嘗め、後三村清三郎、櫻井寅の二氏と相背り、竹清合資會社を組織し、自ら業務執行社員となり、業務經營の衝に當りしが、大正四年に至り遂に同社を金六萬圓を以て買收して自己の個人商店となす、同店則ち之れなり、爾來業運日に益々盛んにして、今や店員約二十名を使用し、會社當時約五萬圓に過ぎざりし一ヶ年の賣上高は現在實に約貳拾五萬圓の多きを算するの盛況に在り、同店の竹木仕入先は主として千葉、福井、靜岡、茨城、神奈川、栃木等の諸縣にして、其の販路は東京市内並に郡部を以て其の重なるものとす、尙同店を經營するの外餘力を割いて別に一材木店を麻布區新廣尾に經營し、つゝ、あり、是れ亦業績年と共に擧り、開店當時僅に一ヶ年壹萬圓に過ぎざりし賣上高は今や實に拾萬圓以上を數ふるの盛況を示し、つゝ、あり。

### 千葉電燈株式會社

同社は明治三十九年三月資本金五萬圓を以て創立せられたるものにして、電燈及電力の供給並に電燈器具の販賣貸付を爲すを以て營業の目的とす、爾來社業年と共に益々盛んにして、同四年六月には電氣工作物七十五基の使用開始を許可せられ、同十一年一月資本金五萬圓を増加して金拾萬圓となし、同年十二月電氣工作物百五十基の使用開始を許可せられしが、更に大正元年九月に至りては、資本金拾萬圓を増加して金貳拾萬圓とし、越えて同二年九月從來の火力を水力に變更したる電氣工作物六百基の使用開始を許可せらる、後同四年一月三度増資を行ひて其の資本金を參拾萬圓となし、同六年十一月更に第四回の増資を決定したる結果、其資本金は一躍六拾萬圓の巨額を算するに至り、以て今日に至る、猶同社は、大正元年八月以來利根川發電株式會社と水力電氣供給の契約を結び、以て現在に及べり、而して目下更に他會社に譲渡し、つゝ、あるもの、或は工事進行中のものを擧ぐれば、帝國電燈株式會社、佐倉營業所、兩總電氣株式會社、京成電氣軌道株式會社、東電電氣株式會社、成田電氣軌道株式會社等の數社なりとす、斯くて社業日に益々盛んにして、昨大正七年下半年に於ける電燈數二萬六千六百九十六燈、年間販賣電力二百十四馬力を數へ、之れを同上年上期末に比する時は、一千二百八十七燈六十一馬力の増加を示し、尙今大正八年に入りてよりも、需要申込者續々として絶えず、益々好良なる業績を擧げ、つゝ、あり、今試に七年下半年末に於ける利益金を擧ぐれば、貳萬九千貳百貳拾七圓餘にして、之れに前期繰越金を加へ、合計金參萬五千貳百九拾七圓餘を計上し、内各參千圓宛を準備積立金並に別途積立金とし、年壹割の利益配當を行ひ、八千五百四拾七圓餘を後期に繰越せり、亦以て如何に其營業の殷賑なるかを知るに足らん。

同社は本社を千葉縣千葉郡千葉町寒川千二百二十二番地に置く、現重役は取締役社長紅谷四郎平、取締役鈴木利右衛門、同兼支配人今井與志雄、取締役清古平吉、同鶴田政春、同鈴木三、同相原島吉、監査役濱田治郎、兵衛同石井幹、同石橋榮吉の諸氏なり。

### 愛知時計電機株式會社

同社は明治三十一年六月資本八萬圓を以て創立せられたるものにして當初愛知時計製造株式會社と稱し、専ら時計の製造に従事せしが同四十四年十一月業務の進展に伴ひ資本金を拾五萬圓に増加し、以て電機及兵器製造部の擴張を圖り、同時に社名を現名に改む、爾來業運年と共に益々盛んにして大正五年二月には資本金を參拾五萬圓に、同六年一月には壹百萬圓に各増加し更に同七年十一月に至りては一躍倍額の増資を決定して其の資本總額は貳百萬圓を算するに至る、斯くて世界大戰に於ける事業の發展を期する爲め工場の大擴張を行ひ、今や職員數八十九人、職工數男千二百二十二人、女百〇六人の多きを算し、製產品年額實に四百參拾萬圓の巨數を數ふるの盛況を示しつゝ、あり、尙同社は同大正二年十一月、長らくも勅使御來臨の光榮を忝ふし、又同六年三月には北白川宮殿下台臨の榮に浴し、同五年十一月には賞勳局より褒狀を授與せらるゝの名譽を荷ふ、皆以て同社が無上の大榮として百年に傳ふ可き光榮事項たり、尙又同社製品は今日迄、聖上陛下御買上の光榮に浴せしこと十數回、内外博覽會共進會等に於て優等の賞牌を受領せしこと數十回の多きに及ぶ、亦以て如何に其の品質の精良なるかを知るに足らん、而して現在の販路及重なる取引先は内地一般、支那、印度、ジャム、南洋諸島、陸海軍工廠、逓信省鐵道院、大阪神戸長崎各造船所等なりとす、因に同社現在の重なる營業科目は時計、電機、諸機械、計測器、兵器等にして本社を名古屋市中區東川端町九丁目一番地に置き、工場を同市同區同町八丁目、九丁目、四丁目、四丁目に設け、而して其の工場は海軍指定工場たり。

### 株式加島銀行

同行は遠く三百年前に起源し、元と加島屋と稱し、金融事業に従事せり、當時舊幕府及諸侯の會計御用を務め、其の間古金銀の賣買金札の引換、錢相場場の元締等所謂爲替方として斯界に貢献する所極めて多大なり、而して明治維新後に至りては始め専ら兩替商を營みしが、明治二十年十二月廣岡一家一族の出資を以て銀行を創立し、次で同二十六年舊商法に據る合資會社の組織となし、爾來業務の發展に伴ひ數次増資を決定し、尙大正六年十一月に至り、時勢の進運に鑑み、其の組織を資本金五百萬圓拂込濟の株式會社に變更し、以て今日に至る、斯くて現在同行の重なる事務は、銀行一般の業務、同行は二十有餘の營業所に於て各種預金及商工業資金の貸出を取扱ひ、全國樞要の地に爲替取引先を有し、送金代金取立業、銀行一般の業務に従事す、二、國庫金、公金の取扱、同行は創業以來銀行業務の傍ら特に國庫金、公金の取扱を命ぜられ、現に參百萬圓に近き預り金を有せり、三、擔保附社債信託事業、諸會社の業務進展に伴ひ、事業資金を要すること益々多きを加へ、從て擔保附社債に對する信託事業は近時金融界に於ける必須の機關となれり、同行は夙に其必要を認め、大正二年三月大藏大臣の認可を得て、爾來之れが兼營をなせり、四、外國爲替、對外貿易は歐洲戰亂以來特に異常の發展をなし、國際貸借愈巨額に上り、金融機關の活動に俟つこと益々切なり、同行は之に順應する爲め、國外爲替事務を開始し、以て商權の伸張に寄與す、五、四種を數へ、業績隆々、大正八年一月一日に於ける積立金七拾五萬圓、諸預金壹億壹千五百餘萬圓、諸貸金七千壹百餘萬圓、所有有價證券參千餘萬圓、現金有高壹千六百餘萬圓の巨數を示せり、亦以て其營業狀況の一斑を知るに足らん、尙同行は特に行員に對する施設として時々高徳知名の士に講演を乞ひ、以て品性の涵養、智能の啓發に資し、又た本支店所在地に寄宿舎を設け、特に大阪に

ては高燥にして閑裕なる郊外天王寺村に一千餘坪の地をトシ、數萬金を投じて理想的寮舎を新築し、少壯行員の宿所に充て、尙、ボート、野球、テニス、撞球等各種の運動を獎勵する爲め俱樂部を設け、以て行員の保健に努めつゝ、あり、因に同行は本店を大阪市西區土佐堀通一丁目に置き、南支店を同市南區順慶町四丁目、福島支店を同市北區上福島中二丁目、道頓堀支店を同市南區日本橋筋一丁目、松屋町支店を同市東區住吉町に、川口支店を同市西區梅本町に、大正橋支店を同市南區難波櫻川四丁目、船場支店を同市東區北久太郎町二丁目、東京支店を東京市日本橋區青物町に、四谷支店を同市四谷區傳馬町二丁目、京都支店を京都市上京區烏丸通松原下ルに、神戸支店を神戸市榮町通二丁目、岡山支店を岡山市上之町に、西大寺支店を同市西大寺町に、福山支店を福山市笠岡町に、廣島支店を廣島市草屋町に、徳山支店を山口縣郡濃郡徳山町に、枚方支店を大阪府北河内郡枚方町に、池田支店を同豐能郡池田町に、茨木支店を同三島郡茨木町に、高槻支店を同三島郡高槻町に、尼崎支店を尼崎市尼崎町に設け、現役は取締役頭取廣岡惠三、常務取締役星野行則、取締役祇園清次郎、同加輪上勢七、監査役廣岡久右衛門、同松井萬緑の諸氏なり。

### 株式作山鐵工所

同社は明治二十八年十一月現取締役社長作山專吉氏が大阪市北區北野に於て獨力創業したる作山鐵工所の業務の組織を大正七年五月一日株式會社に變更したるものにして、高級工作用機械、各種捲揚機械、各種壓搾機械、纖維工業用機械、空氣鑄造、蒸氣鑄造、製紙用諸機械、製糖用諸機械、火藥製造用機械、電氣器械を以て現在の主たる營業科目となす、抑、同社の前身なる作山鐵工所は上記の如く明治二十八年十一月現同社社長作山專吉氏の創立したるものにして、創業後業務年と共に進展し、遂に工場を狭隘を感ずるに至りしを以て同三十九年二月地を同社の所在地に相し、工場新築の工を起し、其落成と共に全部移轉せり、爾來製幣機械を初めとし、其他一般機械器具の製作に従事せしが、業運日に隆々として、忽ちにして其の製品の優秀にして技術の卓越せることの江湖に認めらるゝに及ぶや、更に精巧なる一般諸機械の製造販賣を開始するに至り、業務益々一般の域に向ふ、斯くて其の製品は續々として全國各地より注文を受け到る處として、噴々たる名譽を悉にし、就中各海軍工廠、鐵道院、造幣局、專賣局等の諸官衙を初めとし、一般諸會社より受ける所の注文は年々巨額の數に達し、業運頗る振ふ、是に於てか、大正三年五月別に電氣部を新設し、主として變壓器の製作に著手せしが、偶々歐洲戰亂勃發したる結果、茲に我が工業界が未曾有の活況を呈するに及び、該部事業も亦稀有の好成績を擧げ、兩々相俟つて我が製作工業界に貢献する所多大なり、業績夫れ既に斯くの如し、是に於てか、同所は更に時勢の進運に鑑み、事業の發展を期すべく、大正七年五月一日其の組織を變更して株式會社となし、以て今日に至る。

現在同社の資本金は五拾萬圓にして最近一ヶ年に於ける重なる取引先きを擧ぐれば、各海軍工廠、三井物産株式會社、新潟鐵工所、原礦業株式會社、住友製鋼所、淺野造船所、川北電氣企業社、日本セルロイド人造絹絲株式會社、堺セルロイド株式會社、王子製紙株式會社、株式會社、山崎商店、山口勝藏商店等なりとす、因に同社は本社並に工場を大阪府北區天神橋筋東一丁目に置く、現重役は取締役社長作山專吉、取締役作山義河、同村上作治、同河内省三の諸氏なり。

### 直輸出入商 大澤精三商店

直輸出入商大澤精三商店は明治四十四年の創業に係り本店を東京市日本橋區小網町四丁目四番地に置き支店を横濱市山下町七十四番地に設く現在取扱品の重なるものは木材雜穀、豆類、粉薄荷、落花生、麻加工品、羽二重、絹物、木綿物、玩具、金屬加工器、金物、砂糖並に一般天産物、雜貨類等にして營業開始以來經營の堅實と取引の正確とに依り内外取引先の信用最も厚く其の販路と取扱金額とは逐年長足の進歩を以て増大し、業績隆々異常の盛況を來しつゝあり、就中材木主として北海道産材の輸出は最も盛況を極め、深川區木場町十八番地に擴大なる製材工場と貯木池とを有し、今や歐洲、米國、亞非利加、印度及濠洲方面に對して殆んど獨占的に輸出して多大の好成績を收め莫大なる販賣を爲しつゝあり。

### 株式會社 加藤回漕店主 加藤市藏君

株式會社加藤回漕店主加藤市藏君は静岡縣沼津の素封家加藤家の長男として生る、今年正に齡五十九を數ふ家は肥料並鹽問屋を業とし、豪家の名遐邇に高し、君幼にして父君より嚴格なる教育を受け修養を積み長ずるに及び東都に出で廻米問屋の取締となり、後尾城汽船會社に入りて營業主任となり、七八艘の船舶を操縦して敏腕の譽高かりしが、明治三十九年に至り獨立して回漕店を開業す、君が今日の隆々たる業礎は實に此時を以て築かれたるなり、爾來常に三菱の石炭を一手を以て引受け業務年と共に殷盛を極め、今や其取扱に係る石炭は獨り三菱のみに止まらず、三井、大倉、淺野、北海炭礦、石狩炭礦、九州安川等の巨社大店を網羅し、猶其の他の回漕業務亦頗る盛大を極め、最近一ヶ年の運賃額實に約參百萬圓を算するの盛況を示せり、斯くて業務の昌大を加ふると共に從來の業務組織を以てしては百事不便を感ずるに至りしを以て、今大正八年一月一日業務組織を變更して資本金拾五萬圓の株式會社となし同時に從來の業務に加ふるに船舶のブローカーを兼營し以て今日に至る、因に同店は本店を東京市日本橋區西河原四號地に置き、出張所を横濱市元濱町に設く。君天資謹嚴正恭而仁慈の徳に富み其の店員を見る事恰も吾が子の如く、掖導愛撫に及らざるなし、今春其の店務組織を株式會社となせし時の如き始ど其の店員の總てに株を與へて株主となせしが、如き偶々以て如何に君が其店員を遇するの厚きかを知るに足らむ。

### 西尾莫大小紡績機製造所

同所は其創業遠く明治元年に在りて始め西尾莫大小機械製造所と稱し、一般鐵器諸機械の製作に従事せしが、同二十五年より莫大小機械の製作に移り、近時更に業務の擴張と共に紡績機の製造を開始し、同時に名稱を現名に改む、創業以來其の製品の精良は所主以下所員一同の奮闘と相俟つて業務年と共に異常の發展を遂げ、今や工場敷地二千五百坪、従業員工一百餘人の多きを算し、其の製品の販路は内地一圓は勿論、遠く朝鮮、滿洲支那に及ぶの盛況に在り、尙同所製品は明治三十六年第五回内國勸業博覽會に出品して三等賞を授與せられし以來現時に至る迄各種の博覽會、共進會等に於て金銀賞を受くること十數回に及び、又大正三年十一月國産品御獎勵の御思召を以て天覽御買上の光榮に浴せり、亦以て如何に其の優良なるを知るに足らん、因に同所工場並に營業所は大阪市北區天滿橋筋一丁目十八番地に在り。

### 峰岸商店主 峰岸秀吉君

峰岸商店は東京本所區菊川町二丁目二十五番地に在り、都下屈指の材木商にして店主峰岸秀吉君の經營する所なり、君は明治四年を以て埼玉縣入間郡原市場村に生る、父君は助五郎氏、君は其の二男なり、郷村の高等小學校を卒業するの後明治二十年奮然志を立て、上京し、叔父傳次郎氏の店に見習奉公を勤め、倍勤勞勉行に陰陽あるなし、傳次郎氏深く君が前途に嚆望し誘導する所多く遂に配すに其の女を以てす、君則ち同三十五年に至り一商店を本所區柳原町三丁目に開き材木商を獨營せり、爾來業運年と共に盛んにして漸次店舗の狹隘を感ずるに至りしを以て同四十二年に至り、現在所に移轉し以て今日に至る、現時店員數名を使用し業務盛大を極め、君曩に推されて同業組合の名譽職に就く事數次、以て如何に聲望の斯界に高きかを知る可し、實子なく令兄の子を養うて嗣子となす、同氏は現に本所區林町に質屋業を營み、亦業務日に繁盛を加ふ。

### 株式會社 愛媛縣農工銀行

同行は明治三十一年七月二十三日、農工銀行法により設立せられたるものにして當初の資本金は七拾萬圓なりしが、行務の發展に伴ひ大正六年一月増資を決定して金壹百四拾萬圓となし、以て今日に至る、現在大正八年六月三十日諸貸付金六拾八拾八萬六千九百四拾七圓、諸預り金貳百拾七萬六千五百六拾圓、諸預け金百五拾貳萬四千四百八拾圓、所有有價證券四拾參萬九千九百參拾四圓、債券發行高百貳拾四萬貳千圓、積立金七拾貳萬五千圓を算す、今試に大正七年下半年に於ける同行營業狀況の一斑を述べれば、同期中借入申込件數二百三十一件、金額八拾萬六千六百圓にして、之に前期繰越二十八件、金額八萬九千貳百圓を加ふれば合計二百五十九件、金額八拾九萬五千八百圓となり、而して右の内同期中鑑定を了したるもの二百四十二件、貸付を決定したるもの二百七拾七件、金額五拾八萬九千九百圓、取消したるもの三十七件、金額貳拾八萬貳千五百五拾圓にして、處理中次期へ繰越したるもの十五件、金額參萬貳千參百五拾圓を算す、而して同期間の貸出金額は直接及保證貸付を合し四拾八萬餘圓にして、之に前期繰越高七拾七萬六千餘圓を加ふる時は七百五十萬餘圓となり、内同期償還高六拾九萬餘圓を控除せば差引現在高六百八拾萬五千餘圓となり、猶同期間に於ける金融界の大勢は前期以來依然緩慢の狀態を保持し、主要物産たる米、麥、繭、絲、綿、紙、糖、其他林産物、水産物等概ね好況を極め、加ふるに各種の品類を通じて價格著しく昇騰し、隨て一般金融調子の曙光を見ると同時に、鐵其他特種品類に對し、遂然暴落を來し、多少の動搖を呈せしも、他の產業界は概ね好況を維持せるもの、如く一面日本銀行利息引上げ後幾分都市に於ける金利引締りの趨勢なきにあらざりしも、未だ地方の金融も大勢亦如何ともすべからざり、斯る狀況にて經過せし其收支計算に至りては貸付利息の増收、餘裕金の運轉に於て豫期以上の利益を見結局同期末に於ける決算に於て金七萬壹千六百四拾五圓餘の利益金を得、年五分の第一配當年四分の第二配當を行ふの好成绩を擧ぐることを得たり、想ふに同行向後の業運や年と共に殷んにして益々順調の發達を遂ぐるや必せり、因に同行は本店を愛媛縣松山市大字二番町に置き、縣下に於ける有力なる三十有餘の銀行を以て其代理店となす、現重役は頭取仲田傳之、取締役玉井安藏、同阿部光之助、同玉井健次郎、同廣瀬滿正、同近藤貞次郎、同村上丈夫、同山中好夫、監査役文

野昇二同別宮周三郎同菊池清平同大野佛の諸氏なり。

### 栗原商店主 栗原象吉君

君は東都著名の米穀商にして店舗を東京市本所區綠町二丁目(電話本所三八八長三八九番に置く)明治九年十一月を以て東京に生る父君は布久松氏君は其の長男なり初め本所區四丁目なる海老原商店の店員となり精勵年ありしが後同店を辭し米穀商を開業し奮勉以て業務の發展を計れり是に於てか業運年を遂うて榮へ今や店員二十餘名を使用し家富正に壹百萬圓の上に出で業務の盛大帝都斯界の第一流を以て稱せられ就中其の小麥の取扱高の如き實に關東第一を以て呼ばるゝの盛況を示しつゝあり君自家業務の伸長に不斷の努力を致すのみならず夙に力を一般産業の振興に盡くし現に推されて東京商業會議所議員並に東京米問屋組合の名譽顧問となり令名高く四男二女あり清福家門に滿つ。

### 株式會社播金商店

同店は現在資本金五拾萬圓を有しメリヤス製シャツ手袋靴下石鹼化粧品等の製造輸出並に内地卸賣及其他一般輸出入商を以て營業の目的とせる斯界有數の大商店にして明治十九年現取締役會長金澤金治郎氏の先代金治郎氏の創業する所にして當初は氏の個人經營に係り營業開始以來業務年と共に發展せしが同四十四年先代の歿後長男直次郎氏先代を襲名して家業を繼續するに及び次弟徳三郎三弟民三四弟繁次郎の三氏と協心戮して益々業運の進展を圖れり是に於てか業務彌日に繁榮の域に向ひ遂に從來の個人組織を以てしては百事不便を感ずるに至りしを以て今大正八年三月業務の組織を變更して資本金五拾萬圓の株式會社となし現代主金治郎氏を推して取締役會長となし商陣堂々更に一段の活躍を斯界に試むるに至り以て今日に至る。

現在同店はメリヤス製品としてはシャツ手袋靴下襪類の製造販賣に従事し何れも聲價隆々として内外の市場に高く就中靴下類の販賣に就きては嶄然として内地同業者間に頭角を顯はし特に斯品中最も優秀の評あるローヤル靴下の販賣の如きは内地一圓は勿論遠く支那南洋濠洲印度南米北米露西亞等に及び尙目下英國並に伊太利等の引合を受けつゝあり又同店化粧部に於けるハリキン石鹼を首班としたる多數の製品は内外の賞讃を受けること日に其の度を加へ目下盛大に之が必要に應じつゝあり斯くて現在同店の製造並に取扱商品の重なるものはローヤル印メリヤスシャツ同手袋同靴下H.R.K印メリヤスシャツ同手袋同靴下ハリキン石鹼香水香油パロン石鹼香水香油の多きを數へ何れも品質優秀無比を以て稱せられ其の販路は内地及殖民地一帯は云ふに及ばず支那南洋印度露西亞濠洲南北亞米利加の遠きに及び又其の東京市内に於ける重なる得意先は(一)小賣業者として三越いとウ吳服店其他一流の洋品店化粧品店(二)貿易會社としては三井茂木野澤其の他の代表的日本商店を網羅せり尙同店は常に自家商品と歐米品との比較研究を怠ることなく不斷の改善を其商品上加へつゝあり宜なる哉同店の商品は今や日本に於ける最も優良なるものとして世界到る所として内外人士の湧くが如き歓迎を受けつゝある事や尙終りに特に大書すべきは同店が夙に同店の機關雜誌として月刊洋品界を發行し治く内外に頒布しつゝある事は是れなり斯の如きは世間の近眼者流よりして之を見れば或は一些事として雲烟過眼視せんも苟くも文明的商業の何ものたるかの一端を解せむものは同店が此の努力に向つて其大の敬意を拂ふに吝ならざる可し嗚呼

呼、同店今日の繁榮を見るもの洵に偶然ならざるなり。

同店は本店を東京市日本橋區藥研堀町五十番地に置き支店を大阪市東區内平野町二丁目四番地に設く現重役は取締役會長金澤金治郎常務取締役金澤民三同金澤繁次郎監査役金澤徳三郎同渡邊大助の諸氏なり。

### 内田商店と店主内田幾助君

内田商店は帝都鋼鐵商界に於ける屈指の巨舖にして現在營業品目の重なるものは一銅真鍮砲金唐銅鉛錫安質母尼一銃鐵コークス鑄造用材料一丸角平軟鋼鐵L工軟鋼板建築用鐵材の多きを數へ聲價内外市場に高く販路日に擴げ今や其の取引額の巨多にして世間信用の博大なる都下幾千の同業者中多く同店の右に出づるものなく聞今東京大阪其他水道の設備ある全國都市に於て各家庭に取付けある水道栓の砲金及真鍮のガランは其の十中七八實に同店の鑄造工場に於て製造せらるゝものにして其の品質の優良なる之を舶來品に比して毫も遜色なく却て之を凌駕せりと同店今日の繁榮を見る洵に偶然ならざるなり同店は本店を東京市本所區吉田町十六番地に置き大阪支店を大阪市西區南堀江下通二丁目三十一番地に設く。

同店主内田幾助君は明治二十六年五月を以て生る先代幾助氏の三男なり夙に秀才の譽あり本所小學校を卒業するの後都文館商工學校並に慶應義塾大學理財科に學び修養する所深し既にして大正二年二月先代の病歿するに及び家督を相續して其の名を襲ぎ爾來奮勉努力全心を自家業務の發展に傾注し遂に能く現時の盛運を見るに至らしむ天資英邁にして浮華を忌み質實を尚び且つ最も謙讓と仁慈の徳に富む春秋鼎盛前途多し將來の飛躍や更に益々刮目に値するものあらん乞ふ自愛せよ。

### 大東漁業株式會社

我が高知縣重要水産業の一たる捕鯨業は今を去ること約二百四十年前網捕式捕鯨業の傳來ありしより此の方年と共に盛に行はれ殊に同縣安藝郡室戸町浮津捕鯨株式會社並に同郡津呂村津呂捕鯨株式會社の兩社の如きは最も整頓せる規模と組織とを以て斯業の經營に従事し斯界に盛名ありしが明治三十八九年の頃ノールウエー式銃殺捕鯨業の傳來ありしより銃殺捕鯨業の創始を唱導するもの日に多きを加へ遂に同縣沖合の網捕式捕鯨業は漸次衰退するに至りしを以て兩捕鯨會社は同時斷乎として解散を決定し更に同四十年七月四日公稱資本金八拾萬圓拂込資本金貳拾萬圓を以て同社を創立するに至れり爾來累年二隻の事業船を以て土佐紀伊肥前及東北三陸の地方沖合に捕鯨業を營み業績年毎に擧り以て今日に至る斯くて現在同社は捕鯨及其他の漁業並に海産物の製造販賣を以て營業の目的となし本社を高知縣高知市本町三百五十八三百五十九番地に置き出張所を高知縣安藝郡室戸町浮津同郡津呂村三津和歌山縣東牟婁郡太地村宮城縣牡鹿郡鮎川村岩手縣上閉伊郡釜石町の各所に設け盛に其の事業に従事しつゝあり而して同社の本業並に兼業に係る重なる製造品は一鯨油一鯨油粕一鯨皮鹽藏等にして是等諸品の販路は阪神地方及び九州方面に及び其重なる取引先は横濱及阪神地方なりとす猶同社最近の營業狀況の一端を述べれば其の兼業たる鱈大敷業は近年稀れなる不漁にして獨り同社のみならず一般大敷業者の打撃尠からざる狀況に在るも其の本業たる捕鯨は近時銃殺捕鯨業の行はれしより以來漸次不漁の傾向なき

にしもあらずと雖も今猶相當の捕獲あり、鯨肉鯨皮鯨油の如きも一般諸物價の暴騰と共に日々高價賣行の盛況に在り。同社取締役社長井上善次氏は明治四十一年七月就任以來今日に及び取締役水田正夫、岡崎賢次の兩氏は同四十年七月同社創立と同時に就任し、今日に及び取締役多田嘉七氏は同四十一年二月就任以來今日に及び同川崎幾三郎氏は大正七年七月、監査役より同役に就任し、今日に及び又た監査役野中幸右衛門、同宇田友四郎の二氏は大正七年七月相談役より同役に就任し、今日に及べる人なり。

### 朝鮮郵船株式會社

沿革 由來朝鮮半島は海岸線長く、港灣多く、其地勢並に位置上海運業は夙に發達すべき筈なるにも拘らず、舊韓國時代に在りては何等斯業の看るべきものあるなく、概ね蓬帆風に任かせて近距離を運航せしに過ぎず、後統監府設置せらるゝや、韓國政府助成の下に、一會社、二個人に於て命令航路を營みしも、其の區域狭少なるのみならず、運航及運賃の不統一なる等、交通運輸の不利不便洵に名状すべからざるものあり、然るに日韓合併後、庶政振興するに及び海運の事亦大に獎勵せられ、大正元年春上記一會社、二個人に對する命令期間満了すると同時に朝鮮總督府助成の下に同社創立せられ、茲に全く舊時の面目を一新するに至れり。

社業一斑 同社は創立と共に東雄基より西鎮南浦に至る殆ど朝鮮全沿岸に互り汽船三十餘隻を配し、數多の沿岸航路並に門司延長線を營み、一面朝鮮鐵道、日本郵船株式會社、大阪商船株式會社と連帶運輸の便を開き、比年航路使用船其他諸般の運輸狀態に改善を加へ、又近海航路に在りては雄基、門司線の外、元山浦鹽及仁川、芝罘航路並に清津、敦賀線、日本海橫斷航路を設く而して今や同社は又更らに朝鮮産業の發達顯著にして海運の事亦愈々多事なるに際し、益々沿岸航路の完備を期すると共に漸次近海航路を擴張し、以て時運に適應すべく着々準備中なり。

現在定期航路 同社現在の定期航路は次の如し、(一)朝鮮沿岸航路。元山雄基線。釜山、鬱陵島線。釜山、浦項線。釜山、麗水線。釜山、濟州島線。木浦、麗水線。木浦、濟州島線。仁川、木浦線。仁川、海州線。(二)近海定期航路。清津、敦賀線。(寄港地。城津、元山、阪神、浦鹽、寄港地。門司、釜山、元山、城津、清津、門司、雄基、線寄港地。釜山、蔚山、浦項、竹邊、江陵、襄陽、長蘆、元山、西湖、津浦、新浦、遮湖、城津、漁大、津、獨津、清津、仁川、芝罘、線寄港地。大連、青島) 店舖所在地及現重役 同社は本店を朝鮮京城南大門通に置き、支店を朝鮮釜山に、出張所を朝鮮元山に設け、猶阪神、門司、名古屋、敦賀、芝罘、浦鹽其他朝鮮沿岸百十餘箇所に取扱店を置く、現專務取締役は松崎時勉、取締役は原田金之祐氏なり。

### 株式會社 服部商店

同店は元現社長服部兼三郎氏の個人經營に係りしが、時勢の進運と業務の進展に鑑み、大正元年十一月其組織を株式會社となし、以て今日に至る、現在資本金貳百萬圓を算し、紡績、織布、綿絲、綿布及綿布加工品を以て重なる營業科目となし、今や其販路取引先は内地一圓は素より遠く朝鮮、臺灣、支那、南洋、印度、南米に及び、業運隆榮、朝陽、東天の概を示し、あり、同店は本店を名古屋市東區宮町一丁目目に置き、現重役は服部兼三郎、日塚大三郎、祖父江重兵衛、堀尾銀郎の諸氏にして、皆な中京財界の雄たり。

### 高橋正彦君

君は高橋彦次郎氏の長男にして、明治二十一年五月七日を以て生る、幼にして穎悟神童の譽あり、長ずるに及びて義務教育を名古屋市に修むるの後、父を負ふて東都に上り、慶應義塾普通部に入り、大學豫科を経て同塾大學部理財科に進み、明治四十四年三月優等の成績を以て其の業を卒業、爾來名古屋市に歸り、力を財界の振興に致し、現に選ばれて名古屋米穀取引所常務理事、磁器株式會社監査役、東海電機株式會社監査役、朝日日本管株式會社監査役、高橋合名會社代表社員となり、盛名噴々として中京の財界に高し、因に君が邸宅は名古屋市西區和泉町に在り。

### 増田洋行

増田洋行は増田貿易株式會社の大連支店にして、店舗を大連市山縣通に置き、支店社長友野正一氏、靈敏熟達なる手腕を振ひて業務經營の衝に當り、隆々たる業績を挙げつゝ、あり、同店の本店たる増田貿易株式會社は、横濱市本町四丁目目に在りて、本邦屈指の貿易會社を以て稱せられ、同支店の外、支店及出張店を東京、神戸、大阪、名古屋、小樽、下ノ關、那覇、臺南、ロンドン、ボンベイ、カルカッタ、新嘉坡、マニラ、シドニー、メルボルン、上海、漢口、青島、天津、ハルビン、シヤトル等の世界樞要地に設く、而して現在大連支店たる同洋行の重なる取扱商品は大豆、豆粕、豆油、硫安、骨粉、雜穀、麥粉、砂糖、石油、マツチ、紙、麻袋、綿絲、布、食料品、海產物、木材、其他諸雜貨にして、外に横濱海上、横濱生命兩保險會社並に目下大連シヤトル定期航路を開始せる大洋海運株式會社の各代理店業務を兼營しつゝ、ありて、今や店運の隆昌洵に旭日冲天の概を示しつゝ、あり。

### 尾張炭礦株式會社

同社は明治四十年五月、資本金貳拾萬圓、拂込金五萬圓を以て創立せられたるものにして、同四十四年中央炭礦株式會社と併合し、次で大正二年、長久手炭礦株式會社を買収し、今や事業盛大、頗る重を關西炭礦界に爲しつゝ、あり、同社は石炭の採掘、其他の礦業並に之が賣買及本事業に關する資金の融通を以て營業の目的となし、本店を名古屋市中區門前町五丁目目に置き、現重役は取締役社長山田豊、專務取締役宅間重太郎、取締役佐藤八十七、同森岡昌邦、監査役服部彌、同深田源六の諸氏なり。

### 會社 高田商會

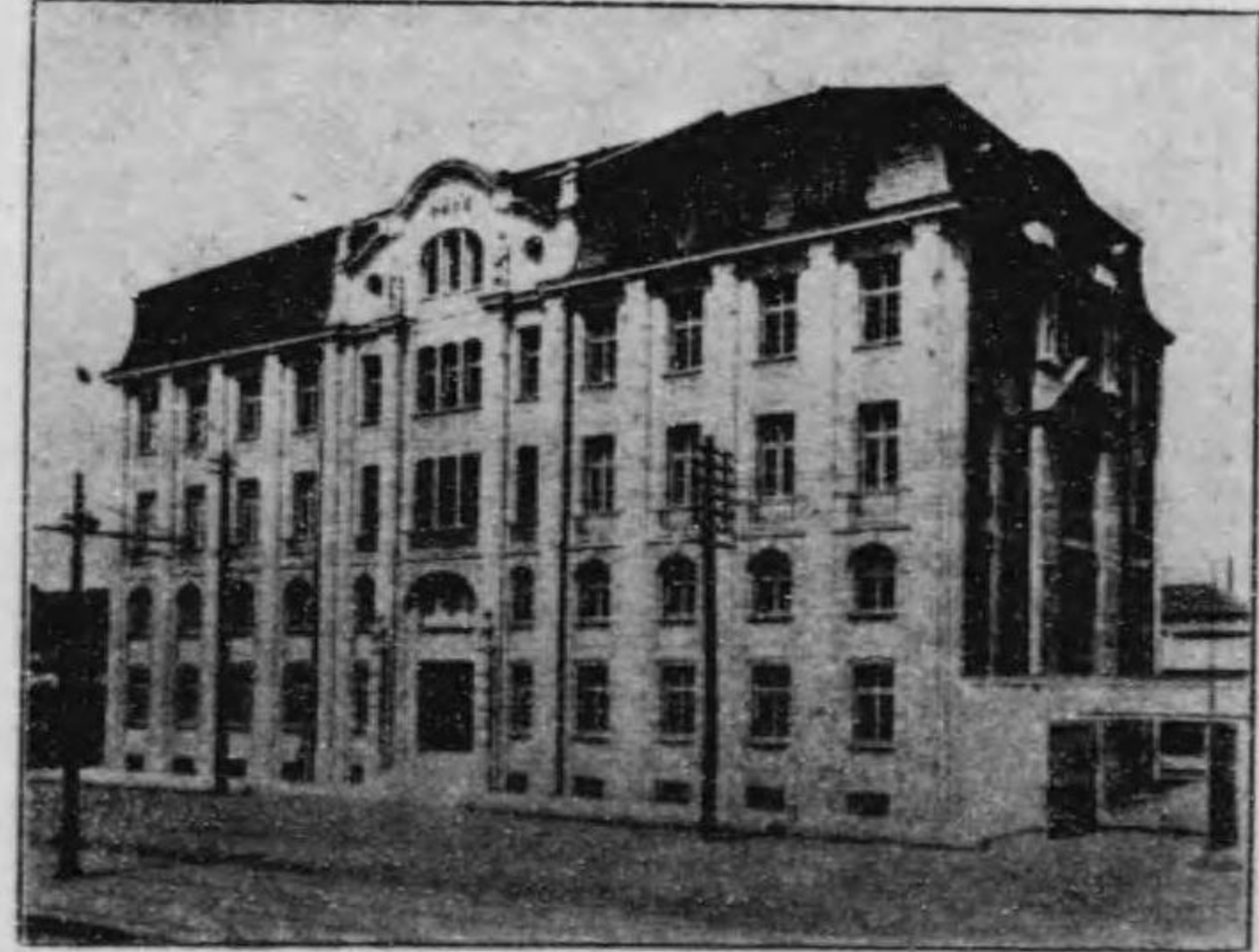
本邦貿易業界の巨擘、會社高田商會は、明治四十年の創立に係り、我が國貿易界の泰斗高田慎藏君の經營する所なり。社長高田慎藏君は新潟縣佐度相川の人、舊幕府佐渡奉行の吏頭、天野氏の第四子なり。幼にして聰穎夙に大志あり、學業自ら群童と選を異にす、夙に宏を帝都に負ひ、専心英語を研鑽し、大に通ずる所あり。既にして國力の充實は海外貿易の振否に關する所大なるを察し、將來斯業の興隆を圖り、以て大に國家に貢獻せんと志し、乃ち斯界に投じ、備さに刻苦精勵して、斯業の真髓に通曉するを得、遂に獨力貿易業を經營するに至れり。爾來苦心經營、以て業礎を固め、縱橫の機略、遠大の籌策、克く時運の推移に順應して、店運次第に隆昌し、之に伴うて漸次内外各樞要の地に支店或は出張所を設け、中外の信用年と共に愈々厚きを加へたり。明治二十一年商業視察と各取引店の巡視を兼ねて、親しく歐米諸國を歴遊し、大に得る所あり、歸來其新知識を



運施して益々業務の發展を圖り、四十一年に至り時運の趨勢に鑑み同族を糾合して合資會社組織となし、君自ら之れに社長となり、令息釜吉氏副社長となり、爾來拮据社務の經營に努め、銳意業務の進運を圖りて遂に現時の大成を見るに至れり。



同商會の營業は百般の輸出入を主とし、動不動産の賣買製造工業、機械工業等其種別は千種萬様頗る廣汎に涉り、大は砲軍艦の類より小は鐘、手鏡に至るまで殆んど枚擧するに遑あらず、而して現時本店を東京市麴町區永樂町二丁目二番地に高置き、内地には支店を大阪中之島に置き、出張所を横濱、須賀、舞鶴、神戸、吳門、司、佐世保の各地に設け、更に新潟、室蘭等には常に數名の出張員を置き、海外に在りては支店を英國倫敦、米國紐約、支那上海に、又た出張所を臺北、京城、大連に置き、斯くて東西相呼應し、専心取引の敏活を期すると共に、別に銀座一丁目、目黒に販賣店を開き、堂々の商陣を布



合資會社高田會

き以て常に我實業界に雄飛しつゝあり、尙同商會の營業品は何れも優良無比を以て稱せられ、販路日に擴大しつゝあるも、就中近時異常の好評を博しつゝあるものは高田船底塗料なりとす、同品の製造は明治三十六年の創業に係り、其當時に在りては官私の船舶悉く海外よりの輸入に待ちて其需要を充たすの状況なりしが、同商會に於ては深く之を遺憾とし、初めて東京府下在原郡大崎町に假製造所を設立し、多額の資金と幾多の歲月とを費やし、研究に研究を重ねたる結果遂に明治四十年に至り漸く外國製品に劣らざる良品を製造し、爾來聲價頗る高きを致し、販路次第に擴張し來りしが、時なるに歐洲大戰勃發して各國は輸出禁制令を發布したる結果、平素輸入品に依りて需要を充たせしものは甚大なる打撃を受け、玆に世の需要は翕然として同商會の製品に集まり、同商會に於ては此趨勢に順應して極力生産能力を増大を期し、以て國內の需要を充たし、斯界獨歩の權威を示しつゝあり、蓋し同商會に在りては從來より原料は全部國産品を使用し來りしを以て時局に際するも原料の需供關係に於ては何等の影響を受けざるが爲めなり、是れ同商會の誇りとす、所に於て常に海軍工廠を始めとし、陸軍運輸部、鐵道院、日本郵船株式會社、其の他個人船主より指定注文を受け、斯界に其大なる信用と賞讃とを博しつゝあり。

### 横濱正金銀行

同行は明治十三年二月國立銀行條例に遵據し、資本金參百萬圓を以て設立せられたるものにして、對外貿易の機關となり、外國爲換の買買を爲すと共に内地及び外國に於いて一般銀行業を營み、又政府の財務に關する事務の取扱を爲すを以て目的とせしが、同二十年七月勅令第二十九號を以て特に横濱正金銀行條例の制定せられし以來、該條例を遵守して營業する事

となり常に政府の監督を受くること、なれり、而して同行は本邦金融機關の未だ整備せざる時代に於いて、夙より海外に支店代理店を設けて、克く對外爲替の業務に任じ、當時外商の手に掌握せられたる對外金融の獨占權を恢復し、以て今日の如く國際金融上に大活躍をなすの素地を作れり、爾來我對外的關係の發展に伴ひ、業務益々進捗し、爲めに資本金の如き今日迄前後四回の増資を行ひ、明治四十四年九月以降、資本總額は實に四千八百萬圓に達し、現に積立金貳千五百萬圓の巨額に上れり、特に歐洲戰亂以來、歐米爲替銀行の概ね資本梗塞して、國際の金融圓滑ならず、一時貿易業者の困憊甚しかりしを以て、外國銀行の多くは躊躇逡巡して、未だ爲換取扱を肯せざるに先ち、逸早く之に應じて、克く當業者の爲めに機宜の處置を採り、以て今や益々世人の信用を昂むるに至れり、且つ同行は時局以來對外貿易の狀態に鑑み、益々支分店の増設し、以て當業者の發達に資せんとす、計畫を立て、既に濟南、新嘉坡に於て新に營業を開始したる外、彼得羅夫、支店を開設するの準備成りて、目下露國政府に交渉中なる如き、或は南米に支店を開設せるが如き、若々計畫の進捗に努むると共に、戦後の我對外經濟關係を考慮して、印度南洋方面に對し、更に一層の發展を餘を計上し、内參百萬圓を積立金に控除し、年壹割貳分の株主配當を行ひ、參百七拾七萬餘圓を後期に繰越すの好成績を示せり、尙同行は、今大正八年五月の株主臨時總會に於て、資本金を増加して壹億圓となすの議を決し、増資額五千貳百萬圓に對する株數五十二萬株の内、四十八萬株は之を株主に割當て、殘四萬株は之を公募せしに、豫想以上の好結果を得たり、現重役は頭取梶原仲治、副頭取鈴木島吉、取締役相馬永胤、山川勇木、小田切萬壽之助、岩崎小彌太、巽孝之丞、渡邊福三郎、松方巖三、井守之助、森村開作、宮鈴太郎、兒玉謙次、武内金平、監査役淺田德則、酒井忠亮、松尾吉士等の諸氏なり。



横濱正金銀行

本邦直輸入業の覇者として、業務の盛大、正に三井物產高田商會と斯界に雁行し、堂々たる營業振りを發揮しつゝあるものを株式會社岩井商店となす、同店は元岩井氏個人の經營に係りしものなるが大正元年十二月業務の殷盛と時勢の進運に鑑み、其の組織を株式會社に變更したるものにして、爾來業運年と共に益々振ひ殊に曩に勃發せし世界戰亂の本邦財界に及ぼせし好影響は、同店の店務をして更に一段の繁榮を致さしめ、今や其の資本金は壹千萬圓の巨額を算し、直輸入業の外間屋業

### 株式會社岩井商店と社長岩井勝次郎君

本邦直輸入業の覇者として、業務の盛大、正に三井物產高田商會と斯界に雁行し、堂々たる營業振りを發揮しつゝあるものを株式會社岩井商店となす、同店は元岩井氏個人の經營に係りしものなるが大正元年十二月業務の殷盛と時勢の進運に鑑み、其の組織を株式會社に變更したるものにして、爾來業運年と共に益々振ひ殊に曩に勃發せし世界戰亂の本邦財界に及ぼせし好影響は、同店の店務をして更に一段の繁榮を致さしめ、今や其の資本金は壹千萬圓の巨額を算し、直輸入業の外間屋業

代理業物品販賣業、運送業を兼營し隆々たる業績を挙げつゝあり、同店は本店を大阪市の中心たる東區北濱四丁目置き支店を東京神戸の兩地に設く、現重役は取締役社長岩井勝次郎、専務取締役安野謙常務取締役深澤彌一郎、取締役岩井豊治同岩井梅太郎、同米田鶴吉、同大島孝吉、監査役長島鷲太郎、同井本爲太郎、同太田富三郎の諸氏なり。

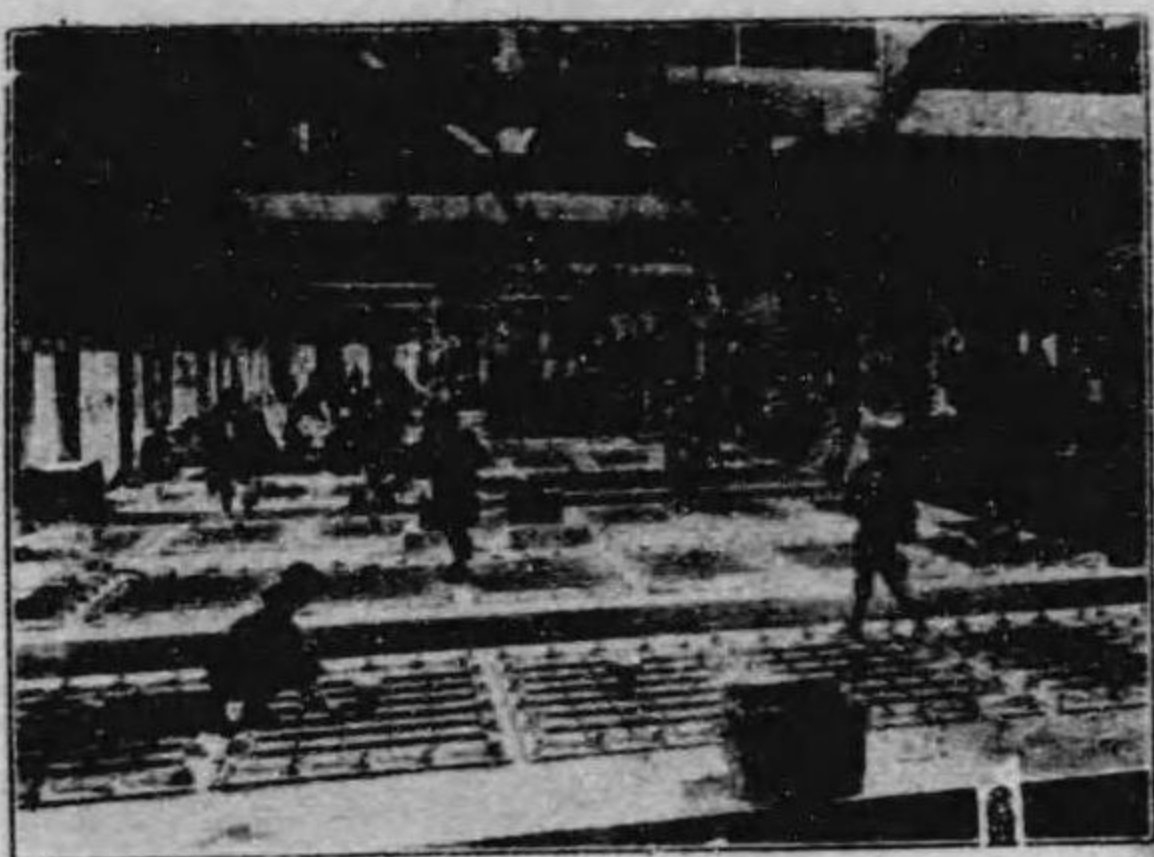


伯父にして夙に大阪に出で實業に従事せり。君大阪に出で具さに辛苦を嘗め商業の實務を研究すること多年、二十五歳の時始めて獨立營業に従事し先づ石油の空罐を利用して之を業鐵となし販賣せしに大に世上の好評を得し、商才縦横なりければ益々その發達雄飛を著し、加ふるに天資聰明に勝の有利なるを看破し雜貨貿易業を創り善戰奮闘を續けしが商略毎にその大宜しきを得て業務日に繁榮を加へ幾もなくして異常の發展を遂げたり、爾來専ら直輸出入商として商界に活動して益々好果を收め岩井商店を經營君して今日の隆昌を致さしめ同店の株式會社たるに及んで君自ら社長の樞要に居り經營の衝に當たる其他日本セルロイド株式會社、人造絹絲株式會社等に取締役としてその計畫に參與しその財界に於ける聲望は日に隆々たるものあり、關西實業界に雄を稱して將來の發展殆んど測り知るべからざるものあり、聞く君兵庫縣御影町の本邸より大阪北濱の本店に通ふに當り毎に阪神電車に投じ梅田驛より本店迄は如何に風雨の日と雖も必ずや徒歩し未だ曾て自動車人車等を用ひしことなしと以てその豪健の氣を窺ふべく滔々たる成金者流と根本に於て其選を異にするを見るべし、且つ性花卉を愛し特に西洋草花を好み花壇に四季の草花を植ゑ自ら鋤鋤を執りて之が培養を爲すを以て無上の樂となし、又た毎朝風起鳴尾灘の海濱を逍遙し白露を踏みて朝暾に浴するを日課とせり、以て如何に君が高潔の士たるかを知るに足らん。

### 合名會社 鈴木商店

本邦海外貿易界の重鎮として東の方三井物産株式會社と斯界に駢馳し業務の昌大正に驕る東洋否世界の斯業界に唱へつゝあるものを合名會社鈴木商店となす、同店は故鈴木岩次郎氏の創立せるものにして業運年毎に振興し、多年國家の進運に貢献する所多大なりしが同氏不幸明治二十七年病を以て斃るゝや茲に未亡人鈴木よね子刀自は遺子岩次郎氏を輔けて亡夫の遺業を繼承し天下の人才を集めて益々業務の發展を圖り、同三十五年組織を合名會社に改め自ら代表社員に任じ當りて銳意經營の衝に當り、一日として些の惰容あるなく加ふるに總支配人金子直吉氏現代稀れに見る大事業家の資を以て十年一日の如く主家の爲めに忠勤を怠らず是に於てか社運日に隆々として旭日冲天の概を示し、終に今日の殷盛を見るに至れり。

同店の主要業務は勿論貿易業なりと雖之に附帶せる直接間接の諸事業亦頗る廣汎に互り今や其の營業範圍の廣大にして多岐なる向に駭目に値するものあり、今試に同店が現に經營しつゝある輸出入業を一覽せよ、其重なるものは砂糖、樟腦、薄荷、船舶機械、汽罐、金屬石炭、燐寸、米、麥、麥粉、大豆、肥料、麥油、染料、麥酒、生絲、綿絲、棉花、石炭、木材、其の他各種商品の製造販賣並に直輸入にして其の品目は殆ど本邦重要輸出入品の全部を網羅して剩す所なく、取扱金高亦驚くべき巨額に上り同店の活躍如何は直に本邦貿易の大勢を左右するものあり、加ふるに取引範圍亦頗る廣汎にして神戸市に於ける本店を中心とし、日夜不斷の活動を繼續しつゝある支店又は出張所は之を内にしては東京、大阪、横濱、名古屋、下關、札幌、小樽、旭川、函館、鹿兒島、那覇、臺北、臺南、京城、仁川、釜山等全國樞要の地一つとして漏らす所なく、更に之を外にしては倫敦、紐育、シヤトル、桑港、グアル、ポルトサイド、マニラ、新嘉坡、孟買、カルカッタ、ベトログラ、ド、浦潮斯德、ハルビン、長春、大連、青島、濟南、上海、漢口、廈門、香港等世界各國到る所に宛然網の目を張り渡せるの觀あり、規模廣大にして内容の充實せる流石に世界的聲譽を博しつゝ、我國代表的貿易業者たるに恥ぢずと云ふべし。



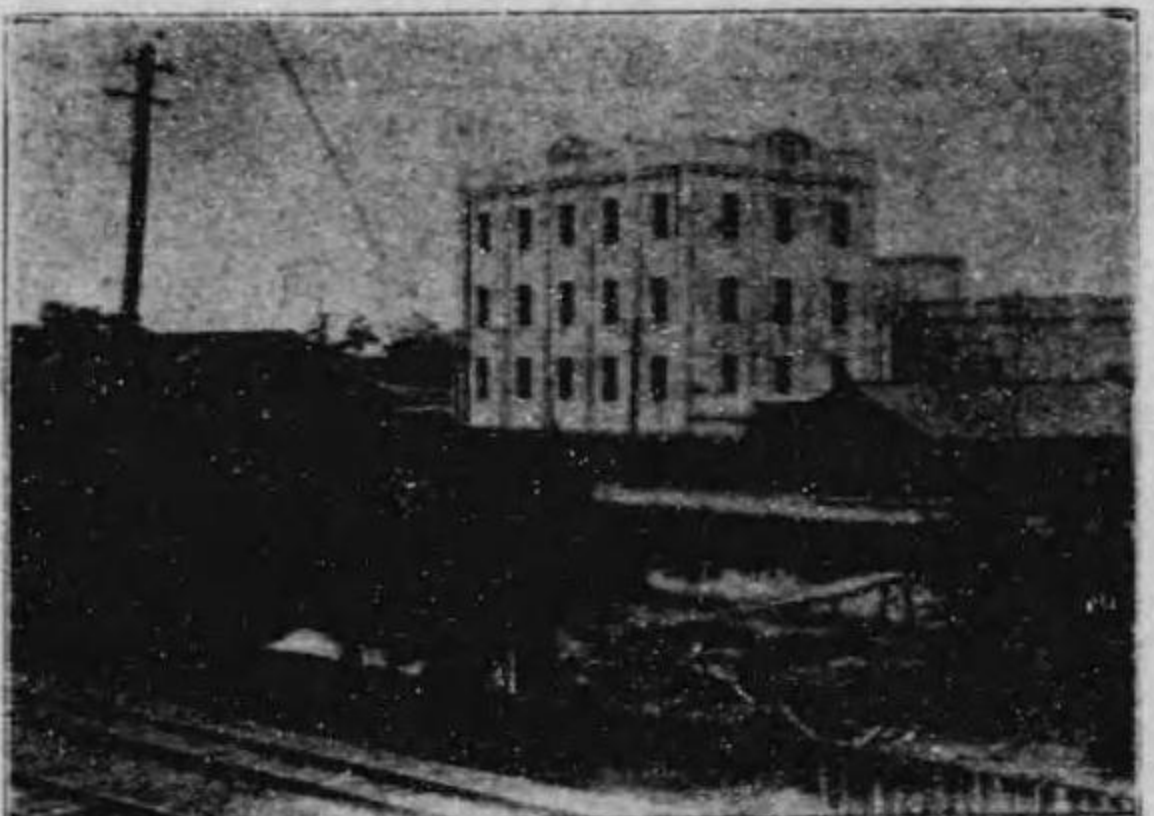
鈴木商店製糖工場

以上は單に貿易業者として同商店の概觀に過ぎず、更に關於同店が其貿易業の附帶事業として直接又は間接に經營しつゝある會社工場は其の數約三十個の多きに及び事業の種類亦あらゆる方面に行渡れり、試みに其の重なる會社工場を窺知するに足らん。



鈴木商店製糖工場

場に製油所、兵庫工場、鳴尾工場、横濱工場、保土ヶ谷工場、王子工場、大連工場、鈴木化學試験所、柳田龍腦製造所、脇濱製糖所、水野濱製糖所、鳴尾染料工場、薄荷工場、大里再製鹽工場、桃園農場、朝鮮纖維工業所等あり、(二)會社に日本金屬、神戸製鋼所、日本商業、帝國汽船、大里製粉所、札幌製粉所、南滿洲物産、浪華會庫、大正生命保險、日本酒類釀造工業、帝國麥酒、日沙商會、鹿兒島釀造、帝國人造絹絲、彦島増嶋各株式會社、内國砂糖合資會社等あり、其の事業の種類頗る雜多に互れり、雖も而も何れも一として同店の本業たる貿易と密接の關係を有せざるものなく、同店の如き大貿易會社にして初めて其全きを望み得べき事業なり、亦以て同店の是等諸事業に關係染手せる動機と眞意との那邊に存するか



鈴木商店大里製糖所

同商店の本業は上述の如く云ふ迄もなく國際商業に於ける各種經營事業の如き、其の内地に於ける各種經營事業の如き、畢竟外國原料品の直輸入又は内地原料品の活用によりて國內産業の發達隆盛を計り國民生活の安泰を期し、同時に國際取引を助長して國家致富の一端に資せんとする強烈なる國家的觀念の發露なるに外ならず、例へば昨大正七年政府が米價調節の一策として外米管理を行ひ同店の整備せ

る機關に信賴して外米輸入の指定商たらん事を指定し來るや直ちに萬難を排して巨額の外米輸入を執行したるが如き其の一例なり即ち一切の利害關係を打算外に置き總ての機關の全力を傾倒して政府の信賴に酬ゆる奉公の至誠と國民幸福の趣旨に出でたるものなり鮮米輸入の一事は不幸にして一妄動者流の誤解を被りたりと雖も其の疑惑は直ちに國民一般に氷解され唯同店の當時に於ける苦衷に同情するのみにして有識者に在りては尙其の社會的貢獻の偉大なりしを稱讚して已まざるの有様なり其他昨年米價騰貴の際同店が各種の慈善的英斷に出で専ら社會下層の救済に任じたる如きは勿論其の僅少なる一例に過ぎずと雖國際商業を主眼とする鈴木商店の根本方針が常に國家的觀念の最も熾烈なる色彩を以て一貫せられ居る事の一斑を推測するに難からず而して同店が創業以來僅々三十年間に於て日本貿易界の霸王となり巨萬の富を積むに至りしもの畢竟同店の營業が時代の要求に投合せし上に其營業の根本方針たる一貫せる國家的觀念が從業者として自ら一種云ふ可からざる嚴肅の氣分を抱かしめ知らず識らずの間に活動能率を高からしめたるや論なしと雖而も同時に冒頭既述の如く店主鈴木君が自ら支配人金子直吉氏等の首腦者が洵に現代稀觀の偉材にして常に身を保持する謹嚴にして慈母の愛を以て一切の店員を慰撫激勵し劃策機宜を愆らざりし經營の大才に負ふ所大なるに依らずんばならず吾人は邦家の爲めに同家の向後益々順調なる發展を祈らざるを得ざるなり

後藤毛織株式會社と社長後藤惣作君



後藤惣作君

後藤毛織株式會社は東京府荏原郡大井町に在り規模の大業務の盛況に本邦斯界の重鎮を以て稱せらる同社長後藤惣作氏は播磨國保原郡天満村の人後藤興平次氏の次男にして安政六年三月を以て生る家代々酒造仲介業を營み地方の舊家名門たり氏幼にして嚴父を失ひ具さに辛苦を嘗め大阪カベルジ商會、ビエーフ商會、キルマー商會等の諸外國商館に入り商務を習ふ既にして明治七年の交故森有禮氏の全權公使として清國に赴任するや氏其の知遇を得て同氏に從ひ清國に遊び偶々同國の毛織界を視察し其の歐米諸國より輸入せらるる所の毛織品たるや其の原料たる羊毛は多く同國に産するものなる事を看取し慨然として製絨毛織業を興さんことを決意し十一年歸朝十三年を以て其の業を始む之を同社の濫觴となす爾來君や之れが經營の衝に當り精勵業務の發展を策し事業漸次盛大の域に向ひ宮内省より會食場敷物として輪絨氈製造の恩命を拜し十五年には海軍省より襟巻千數本の修復を命ぜられ十七年更に其の事業を擴大して人工毛革、メリヤス毛布、フリーステット類を發明製造す次で大崎村毛織工場を買収して赤染毛織物を創製し日清役に際しては盛んに諸般の陸海軍用毛織物を製出して多大の貢獻を國家に致し二十九年歐米に航して具さに至る爾來業運日に益々殷んにして終に現時の盛況を見るに至る氏天資重厚斯業に關する造詣の深且大なる本邦斯界



後藤惣作君

の第一人者を以て稱せられ夙に斯界の元勳として一世の崇仰する所たり。

株式會社朝鮮殖産銀行

殖産銀行の設立沿革 朝鮮殖産銀行は大正七年六月朝鮮總督府の制定公布に係る朝鮮殖産銀行令に基き從來朝鮮各地に分散したる六農工銀行を統一合併し同時に資本金を壹千萬圓に増大し株式組織を以て設立せられたる特殊銀行にして朝鮮の殖産興業上重要な金融機關なり 同年十月一日を以て營業を開始し其本店を京城に置き支店派出所の全鮮に亘り羅布するもの五十を以て數ふ 斯の如く同行の設立は近時に屬すと雖も其の茲に至るまでには久しき沿革を有し設立の趣旨重大なるものありとす

殖産銀行の營業種目 先づ同行の營業種目を掲ぐれば次の如し 一、三十年以内の年賦償還又は五年以内の定期償還の方法に依り不動産又は不動産上の權利を擔保として貸付を爲すこと 二、五年以内の定期償還の方法に依り漁業權を擔保として貸付を爲すこと 三、法令の規定に依り設定したる財團を擔保として第一號の方法に依り貸付を爲すこと 四、農業者又は工業者二十人以上速帶して債務を負ふ者に對し五年以内の定期償還の方法に依り無擔保貸付を爲すこと 五、公共團體に對し第一號の方法に依り無擔保貸付を爲すこと 六、金融組合漁業組合其他營利を目的とせざる産業に關する法人に對し第一號の方法に依り無擔保貸付を爲すこと 七、擔保貸付を爲すこと 八、朝鮮の産物又は朝鮮の産業上必要な貨物を質として貸付を爲すこと 九、國債證券又は朝鮮總督の認可したる有價證券を質として貸付を爲すこと 十、公共團體の債券又は朝鮮に於て殖産事業を營むことを目的とする會社の社債券の應募又は引受を爲すこと 十一、信託の業務を爲すこと 十二、預り金貯蓄預金及地金銀有價證券の保護預りを爲すこと 十三、前記各項の業務の外朝鮮總督の指定に依り普通銀行の業務に關する貸付及當座貸越諸手形割引の業務を營む



取頭 三島 大島 三郎

朝鮮開發の前途と殖産の使命 更に朝鮮開發の將來に對する殖産銀行の職能に就き一言せむ 朝鮮の産業は併合前に比し今日長足の發展を示せりと雖も朝鮮自體の生産力に鑑みるときは現状は未だ其緒に就きたるのみ資源の開發殖産興業の振作は最も今後に俟つべきもの多しとす 之を農業に見るに現在朝鮮内の耕地總面積三百六十一萬町歩ありと雖日本内地の收穫量に對比すれば尙低位に在るを免れず 又山林原野荒蕪地干潟地等開墾を要するもの約百萬町歩に及べり 故に之が開墾は素より既墾地の改良水利灌溉施設の普及等農業の改善施設のみにて既に一大事業たるに於て之が助長策を講ずるあり民間に於ける開發を今後に期せざる可らず 彼の水利事業の普及輕便鐵道の發達等政府に於て之が助長策を講ずるあり民間に於ける各種企業の近時頓に勃興を來せるあり然かも是等の施設は現下の朝鮮に於て一として急務たらざるはなく此時に當り産業の振興商業貿易の發展に伴ひ資金需要の繁多を招來すべきは必至の勢たり斯の如き大勢の裡に在りて朝鮮殖産銀行の使命は至重至大にして其の業務の隆替は直ちに朝鮮開發の消長に關せずんばならず 是れ政府が同行に對し種々の特典を賦與し其本分を竭くすに遺憾なからしめんとする所以なり 同行の業務は前に挙げたる如く其本然の特質たる不

動産抵當銀行として長期低利資金の供給に努むるに在ると同時に普通銀行業務を始め信託業務貯蓄預金業務等金融業務の全般に亘りて欠くる所なく其投資すべき資金の用途に於て又其の貸出の方法に於て共に範疇の廣大にして適宜選擇の自由を有することは他金融機關に於て多く例を見ざる所なり。朝鮮經濟の進展上同行の職能使命の大なること此の如く其前途向に多望多事なりと謂ふべし。

最近の業績 最後に同行最近の業績に就て一言せむに從來農工銀行の成績に鑑み同行の營業果して良績を急速に擧げ得るや否やは疑問とせらるゝなきに非ざりしが開業以來の營業は豫期以上の好況を示しつゝあり。昨年十月より同十二月に至る僅々四半歳に過ぎざる第一期營業成績を見るに純益七萬四千圓を算し之に七分分配保證の特典に依る政府補助金を加へ政府持株以外の株式に對し年七分分配當を爲せり。時恰も草創に屬し經費多端の際創立費を銷却して尙且つ前記の利益を擧げ得たるは好成績と謂ふ可べし。尙最近本年五月末日に於ける預金貸出の狀況を見るに預金總額貳千貳百貳拾九萬圓を超え開業當時に比し壹千餘萬圓を増し貸出に於ては勸業貸付額壹千參百餘萬圓商業貸付額貳千貳百餘萬圓合計參千六百萬圓を超え農工銀行よりの繼承額に比すれば千八百萬圓を増加し進勢頗る顯著なりとす。今や同行内部の組織統整を告げ業務の方針確定を來し外部に對する諸般の準備完成を見其全精力を傾注して朝鮮開發の爲に努力せむとす其の使命の着々遂行せらるゝに伴ひ帝國の朝鮮經營上將又大陸發展上に及ぼす所の效果眞に大なるものあるべし。

重役 同行現在の重役は頭取三島太郎理事有賀光豐理事中村光吉理事櫻井小一理事候補村泳孝監事廣瀬滿正監事男爵李根湘の諸氏なり。

### 合資秋草商店と店主秋草正五郎君

消毒綑帶衛生材料製造販賣の巨舖として業績隆大卓然として新を斯界に稱せるものを秋草正五郎君の經營に係る秋草商店となす。同店は明治二十四年三月淺草區向柳原町に店舖を開き消毒綑帶材料商を開始せるに創まる當時我が醫學界は歐米の新知識を移入して既に其の進歩の見るべきもの尠なからざりしと雖而も之れに要するに治療材料は藥局の如き器械の如き將た諸種の衛生材料の如き殆んど之れが供給の總てを海外に仰ぎ國內に於ける斯種製造業は極めて幼稚にして醫術の進歩と相距る實に霄壤も嘗ならず殊に綑帶材料に於て最も甚だしかりき此の秋に當り我が秋草正五郎君は深く此の狀態を慨し世の進歩に鑑みて其の將來を達觀し茲に蚤くも其の製造に着手する事に至るなり之れ實に本邦に於ける斯業の先驅者にして同君の功や向に千載没すべからざるなり抑々君は東京の人戸張新兵衛氏の五男にして明治十一年十二月十二日來に囑望し乞ふて養嗣子となす是に於て君則ち入つて秋草家を繼ぎ其の姓を冒す既にして君の綑帶材料事業を起すや爾來精勵其の事に從ひ拮据勉勵以て業務經營に努力すると共に他面銳意製品の改善を圖り遂に特種のガーンゼを發明し又特種の卷軸帶を創製して世に出したるが其の品質の優秀なるを以て忽ちにして多大の賞讃を博し斯くて業務次第に發展の緒



秋草正五郎君 君は東京の人戸張新兵衛氏の五男にして明治十一年十二月十二日來に囑望し乞ふて養嗣子となす是に於て君則ち入つて秋草家を繼ぎ其の姓を冒す既にして君の綑帶材料事業を起すや爾來精勵其の事に從ひ拮据勉勵以て業務經營に努力すると共に他面銳意製品の改善を圖り遂に特種のガーンゼを發明し又特種の卷軸帶を創製して世に出したるが其の品質の優秀なるを以て忽ちにして多大の賞讃を博し斯くて業務次第に發展の緒

に就き次第に隆運に嚮ふを得たり後業務倍々興進し店舖狹隘を告ぐるに至りしを以て明治三十二年六月現在營業所たる淺草區下平右衛門町十番地に移轉し工場設備を整頓し最新精巧なる諸種の器械を置し以て製品の良好と製産費の低減を期し専ら需要者の満足に努むる結果世の信用益々増進するに至り而して工場完備せると製品の優良なるとは世の認定するところとなり翌三十二年に至り特に東京醫科大學の指定工場となるに至る爾來一連不斷の努力を以て事に從ひ進取積極的營業方針を以て而も堅實なる歩武を進めたるが爲めに店舖の面目頗る新なるを致し又更に他面君が多年苦心研究の結果に成れる新考案の機械を裝置し只管製品の卓越優秀を期せしより新案及特許權を得たるもの十數點の多きを算し聲譽昂りに昂り眞に旭日冲天の概を示し大正二年三月東京に大正博覽會の開催せらるゝや綑帶材料及補助品を出陳し名譽銀牌を受領したるが如き是れ其の眞價の一端を立證せるものなり斯くの如くにして日に彌々鞏固を致せる製造能力と聲譽高き製品とを擁し將に風雲を望んで一大活躍を試みんとせし折しも世界大戰勃發して機會は卒然として來れり君則ち勇躍一番天馬空を行くの概を以て一大活動を開始し先づ日本赤十字社が其の救護班を英佛に派遣するや此れに精良なる綑帶を供給したるが忽ち其の名譽歐洲諸國に喧傳し露國政府は君に信頼して巨額の軍用脫脂綿及携帶綑帶の注文を發するに至り是に於て君更に工場を擴張若しくは増設して生産能率の増進を圖ると共に粗製濫造を嚴戒して専ら良品の供給を念とし大正三年九月より數回に亘つて無慮數十噸價格數百萬圓を供給し露國政府をして満足せしめ我が斯界の名譽を發揚せしのみならず國富の増進に資益する所多大にして君亦一代の巨富を擁するに至りぬ現時同店は前記淺草區下平右衛門町に營業所を置く外京橋區月島通三丁目二番地に月島工場を府下高田村に精練工場二ヶ所を置く工場の結構宏壯設備完全熱風裝置乾燥場瓦斯消毒熱燒式消毒釜及びフラット式梳綿機を始め精緻なる諸種の機械を据付け又綑帶材料中の主腦とも稱すべきガーンゼの如きは動力織機を以て製織し從來に於ける手織の短所たる不正を改むる等諸種の施設至らざるなく此種工場の模範を以て稱ばるゝ而して今や其の販路は益々擴張して陸軍衛生材料廠陸軍海軍病院鐵道院日本赤十字社本部病院濟生會病院各府縣立其他の公私病院等其の主要なる需要先のみにて實に一千數百個所の多きに達し更に海外に開展して西比利亞滿鮮は云ふに及ばず遠く南洋支那一帶より南洋諸島に到るまで同店製品の歡迎を見ざるなく實に現在店運の隆々として駭目に値するものあるのみならず其の前途や眞に春海の洋々たるにも似たるものあり盛なりと云はざる可けんや。

君天資英邁にして頗る霸氣と俠骨に富み精力絶倫にして滿身之れ其の權化たるかの概あり大正四年九月月島工場長河村才治氏が誤つて機械に觸れて横死するや君哀悼措く能はず其遺族に萬金を贈りて哀愁を慰めたるのみならず其の遺子に良婚を得せしめて一家の幸福を圖るに努めたるが如き今尙斯界の佳話として世に嘖稱せらるゝ所なり君又自家の業務に努勉するの餘力を以て大正五年春以來府下淀橋柏木に醫藥及工業藥品の研究所を起し經營機宜に協ひ創業日向淺しと雖今や成績の大に見るべきものあり此の外又現に日本綿絲布株式會社監査役共同生命保險株式會社取締役を兼ね各其の經營に多大の力を致し各名籍甚たり。

### 久原家の事業

續業界の霸王として將た貿易並に海運界に於ける新進の雄將として巨然霸を帝國近代の財界に稱へつゝある我が久原



工場坪数約六千坪従業員總數約三千人を算す同工場は鐵道院常磐本線助川驛を距ること九十餘哩にして同社に屬する一切の貨物を吞吐する咽喉部なり其の構内に接して専用の荷扱所あり之れより私設鐵道を敷設して鐵道本線と工場とを連絡し以て萬般の運輸に供用す而して同工場の特長として擧ぐべきは(一)運搬電氣鐵道は工場内部に入りて分岐せるを以て部分品の移動は物論如何に重き製品諸材料と雖も容易且つ迅速に鐵道本線に對し受送することを得べく從て運搬及び積卸しの便利多量なり(二)原動力 近傍に自家用水力發電所を有し同所及び日立鑛山各工場に對し豊富にして最も安價なる原動力を供給す現在の發電所は石岡第一發電所同第二發電所夏井川水力發電所其芝内瓦斯力發電所の四ヶ所にして其總發電力一〇、三〇〇KVAなり(三)石炭 工場は茨城各地の石炭産地に近く從て安價なる燃料の供給を受ける事容易なり(四)大理石 近隣の自由より多量に大理石の良材を産出し故て他の供給を俟つを要せず(五)用地 近隣の地面は殆ど同社の所有にして地勢亦極めて平坦なるを以て擴張容易なりと同時に固定資本の節約せらるゝこと多大なり(六)徒弟制度 同所は殆ど創業と同時に徒弟制度を設け小學卒業程度の少年を採用し優秀なる職工の養成に力め今日に及べり年期は凡そ五ヶ年にして各種専門の技術以外に普通學を教授し他日善良なる職工たるの基礎を與ふ現在數千の職工中此の制度の卒業者少からず各人少年時代より習得したる手腕を發揮し一意嚴肅なる規律に從つて業務に服し眞に他の模範たるに恥ぢず同職工の一般に氣品あり技能ある洵に故なしとせざるなり最近の徒弟總數は二百四十名にして逐年増加の狀態に在るを以て他日大半の職工は皆此の制度を経て漸進せるものたるに至らん



鎮南浦製煉所は數年來朝鮮に於ける鑛山の成績極めて良好なり從つて同所には之に對する大製煉所の設備を要するものあり既に著々計畫を進めつゝある所なるが想ふに今後數年ならずして久原一會社の産額を以てしても現在日本の總産額以上に出づるに至るべきこと疑なき所なり尙續いて佐賀關製煉所に就て記せば内地九州方面に於て完全なる一大製煉所の必要なることは久しく朝野の認めたる所にして同會社は愈々此要求に應ずべく先年來佐賀關の好適地を選びて一切の設備を了し既に大正五年末より操業を開始し著々豫期の成績を收めつゝあり

想ふに同製煉所が其工場の全能力を擧げて活躍するの日は關西方面及滿洲を始め遠く南洋濠洲方面の鑛石類も同所に

輸送さるゝに至るべく故に其規模の如き日立製煉所に亞々の大計畫にして煙筒の高さ實に五百七十尺に及び現時世界第一の名を日立鑛山より奪うて關西に於ける一大偉觀を呈しつゝあり

石油事業に至りては秋田越後北海道等に於て約一億三十餘萬坪の石油鑛區を買收し目下熱心に鑿井中なり而して大正六年中には少なくも四十本内外のロータリを下す計畫なりと惟ふに一たび其の噴油を見んか利益は實に固定資本に對して莫大のものあるべきや必せり

(二)個島製作所 同所は東京市外龜戸町に在りて専ら鑛山用諸機械の製作に従事す同所の創立は頗る遠く明治四年にあり而して當初は日立鑛業所の附屬工場たるに過ぎざりしが其製作品何れも精巧優秀にして聲價海内に高く爲りて各方面よりの注文日を送うて増加するに至りしを以て茲に其の營業方針を一變して從來の附屬的意味を脱し久原氏の事業が株式會社の組織となると同時に同所も亦同社の所營となり爾來業務日に益々繁榮を致し殊に歐洲戰亂勃發後は海内内外に於ける需要年毎に増し到底從來の規模設備を以てしては供給不足を告ぐるに至りしかば大正五年舊月島分工場及び芝分工場を移して同所工場と合併し更に其の規模を擴大し設備を齊整し或は新式機械を増設し或は技師職工を増員し全工場を一新せり斯くて今や其の製品は精良無比を以て聲價愈々高く其の販路は本邦内地は勿論遠く臺灣朝鮮滿洲其他の各鑛山工場に互り一個年の注文高實に數百萬圓に達し猶各地方の需用雲の如くに起り全能力を盡くして日夜製作に従事するも尙且注文に應じ切れざるの盛況を示せり殊に同所の製作に係る電動タービンポンプは堅牢無比能率優秀なること外國品に勝り名譽内外市場に噴稱せらる

斯くて久原鑛業株式會社の事業は業績年と共に隆々として擧り今大正八年上半期末の如き實に貳百貳拾七萬七千餘圓の純益金を擧げ年八分の第一配當年四分の第二配當を行ふの好成績を示せり因に同社の重役は久原家の總帥久原房之助氏自ら社長に當れる外専務取締役は竹内維彦中山説太郎の二氏取締役は小池張造齋藤浩介の二氏監査役に鴻池善右門齋藤幾太貝島太市の三氏各其の任に就き練達稀觀の手腕を揮ひつゝあり

(三)久原商事株式會社 同社は最近我が輸出入貿易並に海運業の趨勢に鑑み同家が新たに資本金壹千萬圓を以て創立したるものにして輸出入貿易物品販賣業仲立業問屋業代理業運送業並に以上各業の附帯事業を以て營業科目とし猶久原鑛業株式會社と特約し同社製品の一販賣を引受く斯くて現在本社を神戸市播磨町十七番地電話三宮長三一五二、三一五三、二六五六、一〇九九九四七、電話略號カウベタハラに置き東京支店を東京麹町區八重洲町一丁目一番地電話本局長一八四、五、四八三六、二九五八、電話略號トウケイ、ハラセウジに大阪支店を大阪市北區中之島二丁目丙十三番地電話本局長九一九、九九二、九九三、電話略號オサカ、ハラセウジに設け更に出張所を倫敦巴里羅馬紐約シヤトル桑港香港上海天津濟南浦鹽斯德坡西土孟買コロンボカルカッタ新嘉坡檳榔嶼等の世界樞要地に開設し久原房之助氏自ら取締役社長の任に當り中山説太郎津村秀松河村良平田邊勉吉佐藤市十郎栗原重六氏は取締役役に竹内維彦山岡千太郎松下文太郎の三氏は各監査役に各就任し堂々たる營業振りを發揮しつゝあり同社は創立後日猶ほ淺きが故に未だ特記すべきことなしと雖も想ふに將來新界の覇者として驚歎に價すべき業績を擧ぐることは猶ほ久原家が現在我が鑛業界に於ける如きものあるは天下萬人の信じて疑はざる所なり

### 日本珪瑯株式會社

同社は、大正七年末支那、印度、南洋、濠洲方面輸出珪瑯器の製造を業とせしめ、日本珪瑯合資會社の全部を買収して創立せられたるものにして、本社並に工場を京都市外深草村字福稻に置く、抑々舊合資會社は、今を去る事二十八年、即ち明治二十四年に於て、同社長竹内專治氏が珪瑯器製作業に従事したるに創まる、爾來同氏は各師團用珪瑯器を調達し、又は大阪名古屋、北陸地方に出で、鑄物、鋳金用珪瑯器の研究と共に、當業者間に指導したること久しく、或は佛國陶學技師佐藤友太郎氏の發達せざる、且つ販路の極めて狹隘なる爲、遺憾ながら中止の已むなきに至れり、後同四十年に至り、氏は更に勇を鼓して、新業界に入り、建築用珪瑯屋根瓦、天井圓帳等の製造工場を創設したるも、何分にも巨額の資金を要するにあらざれば、初志を貫徹すること能はざるを以て、遂次業務を縮少せざる可らざるに至り、猶氏が一身上幾多の悲運續出するの不幸を見るに至りたるを以て、氏は一時節節を屈して、某保險會社に入り、暫く雌伏して、隱忍時機の到るを待ちたりしが、後幾くもなく大阪村井爲輔氏經營の珪瑯器工場に招かれ、營業整理の任に當り、完了と「カルトロン」ミルックボット、コーヒボット、タンブラー等殆ど鐵付加工に依るものなるを以て、日本のエナメル、東洋珪瑯、大日本珪瑯、大阪珪瑯各株式會社等、關西著名の斯業大工場の如く輸入新鐵板を用ゆるにあらざれば、全然製作をなす能はざる工場と異り、殆ど古亞鉛板及古鐵板切内地滿鮮地方無盡蔵を以て製作し得らるゝものなり、されば其の製品は常に註文に逐はれ、殊に現今輸入新鐵板が殆んど禁絶的に杜絶せる今日、前記大工場は逐次製造力減退の止むなきに至れるに拘らず、獨り同社は日に非常なる大註文に接しつゝ、あり斯くて、同社は創立後日向淺きに拘らず、禁運日に益々進展の運に向ひ、旭日冲天の概を示しつゝ、あり、想ふに將來の飛躍や更に益々、刮目に値するものあらん。



品製社會式株瑯珪本日本

### 茨城探炭株式會社

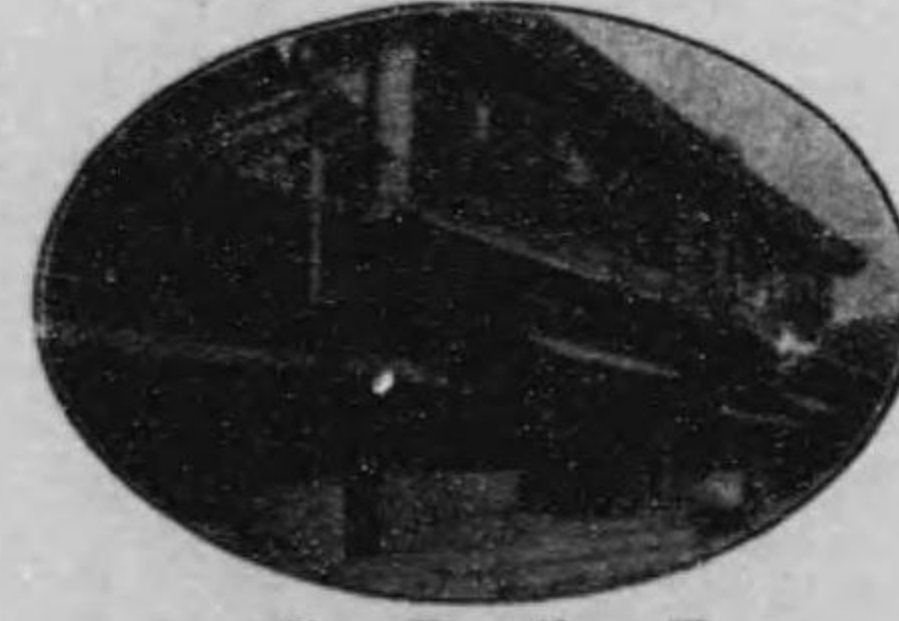
同社は、明治三十四年九月を以て創立せられたるものにして、彼の有名なる茨城無煙炭の眞價を廣く天下に紹介し、逐年隆々たる業績を挙げつゝ、ある本邦炭礦業界有数の大會社なり、現在資本金貳百六拾貳萬五千圓、諸積立金四拾六萬七千餘圓を有す、抑々同社所有の現在鑛區は、茨城縣多賀郡北中郷村地内及同郡松岡村地内に跨り、第一鑛區面積百十七萬一千二百坪、第二鑛區面積百一萬六千八百餘坪を算し、地質は第三紀層に屬し、眞岩砂岩、變岩より成り、數層中最も探炭に適するは厚さ平均二尺五寸を有する大炭層にして、下部一尺乃至一尺五寸は炭質頗る優良眞に茨城炭中の代表炭たり、探炭は専ら長壁法に依り、通氣排水、運轉其の他設備完備を極む、元來斯所有炭鑛は安政年間土豪大塚本五郎氏階層上の一層を發見して、稼行せしものなるが、爾後須臾にして磨坑し、降つて明治廿六年七月、坂市太郎氏當盤炭田調査の際、現今探炭せる炭層の河中に露出せるを發見し、同三十四年之が試採に着手したるを同年九月、同社の創立と同時に讓受け、爾來引續き探炭經營年と共に堅實なる發展を遂げ、終に能く今日の隆盛を見るに至れるものなり、之れ固より同社首腦者の經營其の宜ろしきを得たる結果なるや、論なしと雖、而も同時に其の產出する石炭の品質優良にして、自ら需要者の満足と信頼とを購ふに足ること、亦其主要原因なる事を否定すべからず、同社採掘に係る石炭は所謂燐炭の一種に屬し、之を燃焼する場合、最初稀薄なる煤煙の僅に立昇るのみにして、夫れ以後は全然無煙炭同様の特長を現はし、且つ火力耐久的にして、臭氣絶無なり、是を以て各工場又は炊事場に於ける薪炭代用品として、眞に理想的燃料たるのみならず、其の斯くて同社の業務は、遂日隆昌の境に進み、今大正八年上半期末の決算に於て、貳拾六萬八千參百拾圓餘の純益金を得之に、前期繰越金參萬八千九百九拾參圓餘を加へ、合計金參拾萬七千參百參圓餘を計上し、優先株普通株並に新株に各年貳割の配當を行ひ、尙七萬餘圓を後期に繰越すの好成績を示せり、亦以て如何に事業の盛大なるかを知らん、因に同社は、本社を東京市京橋區明石町十一番地に置く、現重役は取締役社長阿部吾市、常務取締役的場覺藏、同山口藤三郎、取締役倉田龜吉、同小坂梅吉、監査役鈴木次郎、同鹿島精一の諸氏なり。



所業社株式探炭城茨

### 株式 明治銀行と頭取大三輪奈良太郎君

中京金融界の重鎮たる同行は、明治二十九年八月を以て創立せられたるものにして、營業開始以來、其の堅實なる營業振りは、年と共に大方の信用を博すること深く、業務日に順調の發展を遂げ、今や無慮金壹千萬圓の巨資と、壹百餘萬圓の積立金を有し、堂々たる業績を挙げつゝ、あり、今同行大正八年上半期の營業報告に依れば、同期末現在の諸預り金は、實に五千六百四拾五萬餘圓の多きを算し、同期末の決算に於て、五拾七萬四千九拾參圓餘の純益金を挙げ、内金拾參萬圓を法定積立金に、金五萬圓を別途積立金に、金壹萬圓を恩給積立金に、金五萬圓を新築費積立金に、各控除し、金貳萬壹千圓を役員賞與及交際費に當て、年壹割の株主配當を行ひ、尙は金五萬貳千六百餘圓を後期に繰越すの好成績を示せり、亦以て如何に行運の隆々たるかを知らん、同行は本店を名古屋市西區傳馬町に置き、熱田支



行銀治明

店を同市南區熱田神戶町に南支店を同市中區門前町に、東市店を同市中區東田町に、西支店を同市西區東柳町に、鍋屋町支店を同市東區鍋屋町に、幅下支店を同市西區隅田町に、尾頭支店を同市東區熱田新尾頭町に、鳴海支店を愛知縣愛知郡鳴海町に、半田支店を同郡半田町に、津島支店を同縣海部郡津島町に、豊橋支店を豊橋市に、金澤支店を石川縣金澤市に、長濱支店を滋賀縣長濱町に、濱松支店を靜岡縣濱松市に、靜岡支店を同縣靜岡市に置く。

同行現取締役頭取大三輪奈良太郎氏は、浪華財界の傑物故大三輪長兵衛氏の男にして、少壯米國に遊び銀行業を専攻し、歸來日本銀行外數行に入り、敏腕の譽高かりしが、明治二十年入つて同行支配人となり、次いで常務取締役となり、後更に現任に選ばれて、今日に至る天資寛宏大度あり、風采堂々、一見して凡才ならざるを知る、其の他の現重役は、取締役神野金之助、同鈴木惣兵衛、同上遠野富之助、同加藤左衛門、同生駒重彦、監査役精谷健右衛門、同工學博士齋藤恆三、同平子徳右衛門の諸氏なり。

松村硬質陶器合名會社

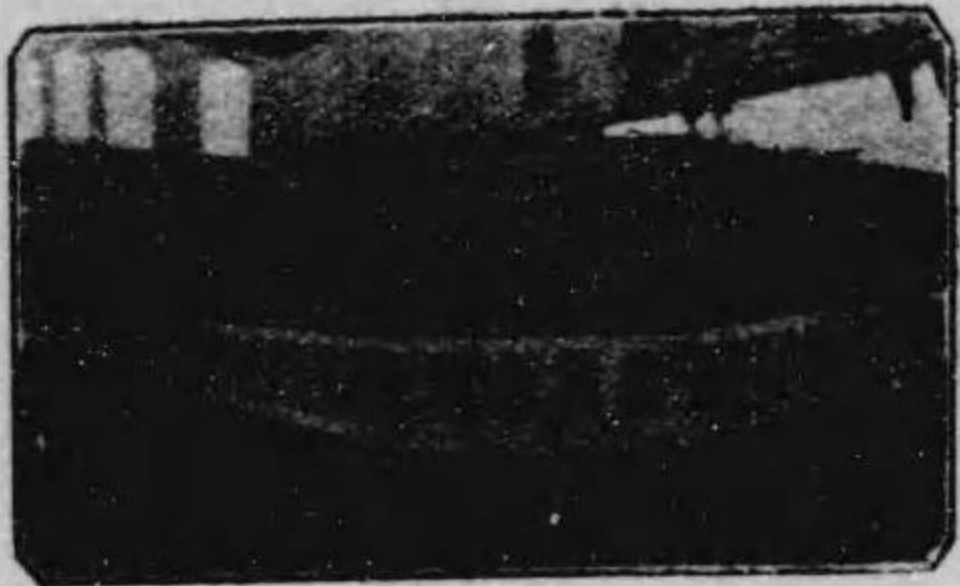
同社は現代社員松村八次郎氏の嚴父なる松村九助氏が、曩年北米合衆國向き磁器を製造し來りし事業に其基礎を置く、後八に郎氏は明治三十六年硬質陶器及角型石炭窯を研究し、開を發明すると共に先づ輸入防遏の目的を以て硬質陶器の製造を開始し、逐年其目的に近づける時、恰も支那南洋方面に於て次第に此種の陶器の需要を見るに至りしかば、此機を逸せず大に事業の擴張を計り、大正元年末現在同社所在地たる名古屋市外千種町千種橋東に地を卜して工場を移轉し、同時に合名會社組織と爲して規模の擴張を行ふ斯くて製品の改良をなし、内地は勿論支那南洋、濠洲方面に輸出するに至りしが、大正四年以後は歐洲戰亂の影響を蒙り、益々注文幅狭して、今や其の需要朝するや、其の翌年硬質陶器、石炭窯を發明して、斯業の發達に貢獻する處甚大なり。



社名合器陶質硬村松

株式會社 四十三銀行

和歌山縣下に於ける最古にして又最大なる銀行として、盛名隆々たる株式會社四十三銀行は、明治十一年國立銀行條例に依り資本金貳拾萬圓を以て創立せられ、營業滿期後普通銀行に改めたるものにして、創業以來其の堅實にして、而も機敏なる營業振りは、其の行務をして年と共に順調なる發達を遂げしめ、今や資本總額六百萬圓、諸積立金壹百六拾五萬圓を算し、大正八年上半期末に於ける諸預り金は、實に參千參百五拾四萬參千七百貳拾餘圓の多きを數へ、同期末の決算に於て總益金壹百



室業營行銀三十四

五拾參萬九拾九圓餘、總損金壹百拾五萬五千七百六拾七圓餘、差引參拾七萬四千參百參拾貳圓餘の純益金を擧げ、之に前期繰越金貳拾壹萬貳千六百六拾六圓餘を加へ、合計金五拾八萬六千九百九拾八圓餘を計上し、内拾萬圓を諸積立金に、五千圓を退職行員慰勞基金に、參萬七千四百圓を役員賞與金に、各充當し、年壹割貳分の株主配當を行ひ、尙貳拾五萬七千參百九拾八圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり、思ふに同行將來の雄飛や、更らに益々、利目に値するものあらん、因に同行は本店を和歌山縣和歌山市一番町に置き、新通支店を和歌山市新通三丁目、田邊支店を同縣西牟婁郡田邊町に、新宮支店を同縣東牟婁郡新宮町に、日方支店を同縣海草郡日方町に、黒江支店を同縣同郡黒江町に、御坊支店を同縣日高郡御坊町に、湯淺支店を同縣有田郡湯淺町に、岩出支店を同縣那賀郡岩出町に、橋本支店を同縣伊都郡橋本町に、鹽津支店を同縣海草郡鹽津村に、箕島支店を同縣有田郡箕島町に、南部支店を同縣日高郡南部町に、粉河支店を同縣那賀郡粉河町に、五條支店を奈良縣五條町に、現重役は取締役頭取宮本吉右衛門、取締役大江幾太郎、同石橋八九郎、同島村安次郎、同加藤泉、同兼支配人北代達枝、監査役森田庄兵衛、同岡本庄太郎、同北島七兵衛の諸氏なり。

株式會社 橋本店

同店は明治十三年の創業に係り、當初は橋本氏一個の個人經營なりしが、逐年業務の發展と共に、同四十二年資本金五拾萬圓の株式合資會社となし、從來の業務たる土木建築、請負業、鑛山業及び材料製造販賣業等、一切を繼承し、故橋本忠次郎君代表社員たりしが、大正五年二月事業の盛大と共に、更に其の組織を株式會社に改め、橋本信次郎君代りて、取締役社長となり、以て今日に至る、而して是等の變遷は、事業の隆盛に伴ふ自然の結果にして、素より橋本一家を中心とせる事業なるに於て、終始一貫せる變化あるなし、同店現在の營業は、從前の土木建築、請負業、鑛山業を始めとし、印刷、其の他多數の製造工業に亙り、何れも隆々たる業績を擧げつゝ、あり、今左に現況の概要を述べん。



景全行銀三十四社會式株

(一)土木建築業 近時本邦の財界が世界大戰の好影響に依り空前の活況を呈するや、土木建築の業亦未曾有の繁榮を來せり、同店は是の好機に乗じ、異常の能力を發揮し、最近に於ける事業成績の如き洵に驚歎に値するものありて、正に新レコードを作れるの盛況を示しつゝ、あり。

(二)貿易業 同店の貿易部は、米國ダイヤモンド、タイ、アパロン、ピドル自動車會社の東洋代理店たり、其販賣に係るダイヤモンド、タイは、乗合用貨物用に適し、又アパロン、ピドルは、貴顯紳士用として、所謂米國型と大陸型とを折衷せる理想的特点を具備し、共に上流階級の愛用措かざる所にして、噴々たる好評を博しつゝ、あり、又同部は、一方米國ボストン市なるスプレイ、エンゼニアリング會社の東洋一手販賣店を兼ね、同社の製造に係る噴霧器、冷却装置一切の取扱を爲しつゝ、ありて、其のク



リング及空氣清淨器は製糖用冷却用冷蔵用鑛山坑内換氣用其他化學工業用として聲價高く殊にペイント吹塗器は塗工一人にて優に數人の工程を成し得る機械にして工廠及造船工場等に採用せらるる使用簡便にして完全に塗布し得るのみならず塗布後輕便迅速に施工し得る特長を有するが故に工地上缺ぐ可らざる利器を以て稱せらる。

(三)鑛業部 社長橋本信次郎君は機を見る靈敏神の如く一度意を決するや行動眞に電に似たり君が先代より繼承したる北海道俱知安鑛山の處分の如き之を證して餘あるべし君は更に炭界を研究する目的を以て先代が買置ける空知炭鑛區を著々整理し今や空知炭田界の中樞の地に數鑛區を連續所有し一方數名の技師を九州並に英米に派遣し採炭事業の調査を爲さしめつゝあり想ふに君が大規模の採炭事業に着手し我が炭界を驚かすの日や將に近き將來なるべし

以上の外現在同店の分身事業と稱すべきものに滿蒙貿易株式會社國光印刷株式會社の二事業あり滿蒙貿易は同店が他者に率先して従事したる所にして錦州に滿蒙貿易支店並に錦州商品陳列館を設置して大に對滿貿易に努め爾來同地に於ける日本人關同店は本店を東京市京橋區築地二丁目二十番地に置く現最高幹部員は取締役社長橋本信次郎常務取締役小山代吉取締役橋本良藏同橋本壽三郎監査役橋本才八の諸氏なり



店本橋社會式株

一七八  
係の諸事業に對し極力保護助勢する所あり後滿蒙貿易株式會社を起して事業を之に移し以て今日に至り業務益々盛大なり又國光印刷會社は曩に同社が其の經營困難に陥り到底存続の見込みなきを同店に訴へ來るや同店は之が整理を引受けたるものにして爾來孜孜として業務の刷新に努力せし結果業務逐漸次發展し遂に今日の隆盛を見るに至れり

### 合名 内山鐵工所と所主内山治三郎君

高級工作機械の製作を以て盛名隆々たる合名會社内山鐵工所は名古屋市外西古渡に在りて現所主内山治三郎氏が明治四十四年十月を以て創立せし内山鐵工所を以て其の前身となす當時は内山氏の個人經營に係り各種機械の製作に従事しつゝありしが逐年業務の昌大に赴くに伴ひ從來の業務組織を以てしては日に激増し來れる大方の需要に應ずること能はざるに至りしを以て大正七年二月組織を改更して合名會社となし爾來専ら高級工作機械の製作に従ひ以て今日に至る。同所製作の高級工作機械は歐米製品と同格のもの製出するを方針とし一部と雖諸に附せず精密を要する點は嚴密に摺合をなし重要部分には精密なるグライデングマシンを以て研磨仕上をなし必要なるホールナットネジ類は炭素燒を施し且必要なる部分には目盛をなし齒車は正確なる機械齒切となし深甚なる注意と精良なる試験機とを以て嚴密なる検査を遂げたるものなるが故に品質の優良他に卓越せり是を以て聲價隆々として市場に高く現に東京砲兵工廠を初めと遠く滿洲朝鮮に及び隆々たる業績を挙げつゝあり尙同所は近時業務の異常なる發展を遂ぐるに伴ひ工場の新築を感ずるに至りしを以て更に近く名古屋市外古渡八反田に敷地一千餘坪を購入し新工場の新築に着手し目下既に其の鑄造部は一

部の落成を見たり斯くて爾後遂次全部工場の竣工を待ちて各種の新機械を設備し現在の業務以外更に一般鐵工業並に兵器製作の業に従事する豫定なり同所將來の發展や更に益々刮目に値すべし多量なりと云はざる可けんや  
所主内山治三郎君は名古屋の人明治四年を以て生る夙に身を鐵工界に投じ技能拔群を以て稱せらる曩に自ら同所を設立して業務經營の衝に當り拮据精勵遂に其の業務をして今日の隆盛を見るに至らしむ亦中京工業界の一偉材たり

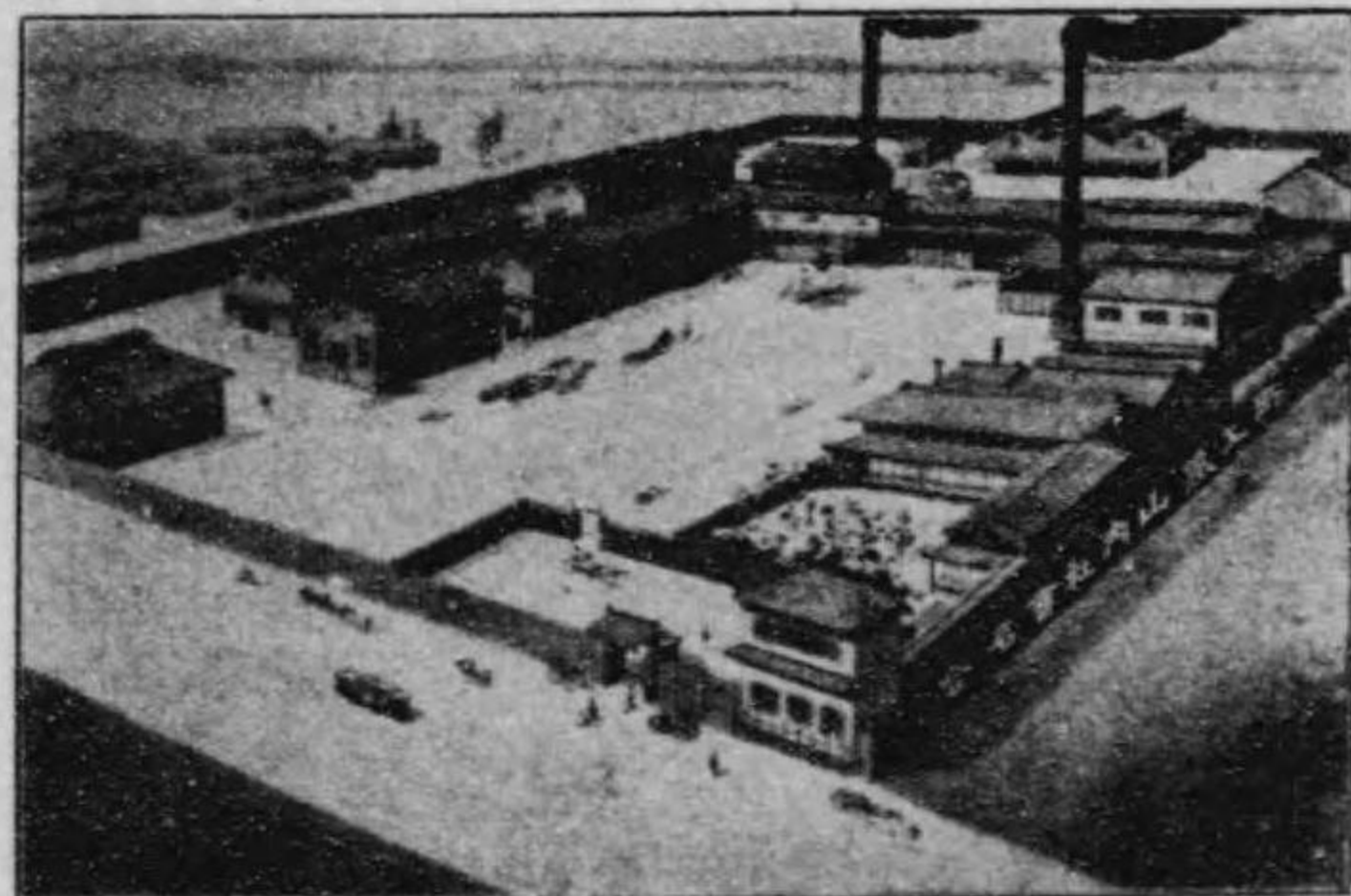
### 日本棉花株式會社

同社は明治二十五年十一月を以て創立せられたるものにして現在の資本金壹千萬圓を有し原棉の輸入販賣並に之が製品たる綿絲布メッサの輸出及榨油製粕等を以て營業の目的とす若し夫れ同社創立以來の進展に至つては洵に驚くべきものあり今や同社が一ヶ年間に取扱ふ棉花は六千萬圓綿絲は二千萬圓豆油及び肥料壹千萬圓の多きを算し總額無慮壹億圓に垂んとす豈に亦盛ならずや而して一面事業の發展に連れ三十七年



又多喜

七月清國漢口河街に漢口支店を三十七年七月清國漢口河街に漢口支店を三十九年同國上海英租界四川路に上海支店を三十九年十二月東京市深川區佐賀町二丁目十番地に東京出張所を神戸市に神戸出張所を四十年七月孟買市ロードフアトデールビルディングに孟買支店を其他相次で天津青島香港大連甲谷地紐育哈爾濱長春鐵嶺營口等の各地へ支店又は出張所を設置し更に最近に至り四十二年八月米國テキサス州に設けたる出張所の組織を變更し新なる株式會社を設け商機靈敏々々業務活躍の基礎を堅むるに至れり斯くて業績隆々今大正八年上半期の決算に於て參百七萬五千六百貳圓餘の利益金を擧げ年貳割の株主配當を行ふの盛況を示せり



所工鐵山内社會名合

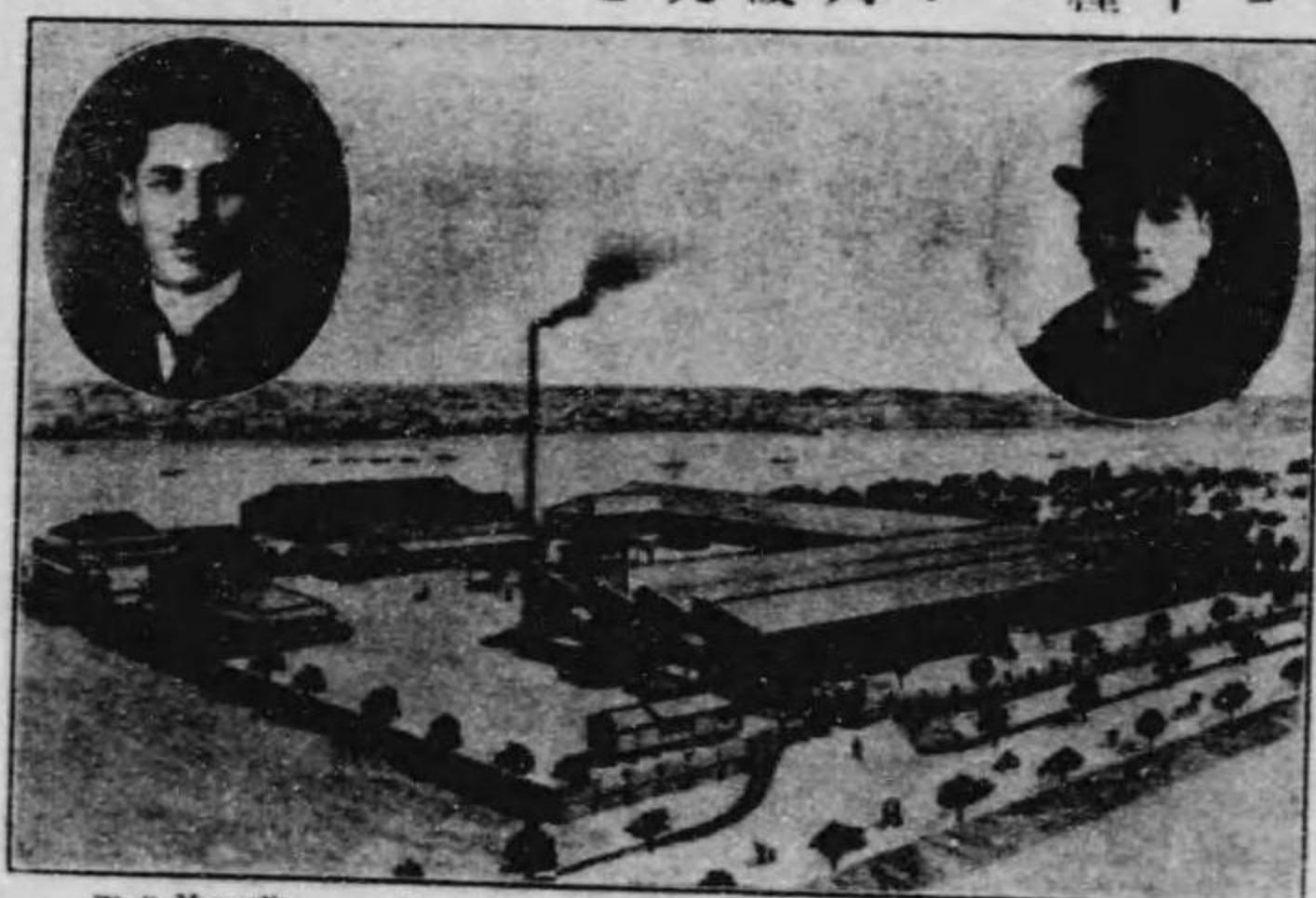
同社は大阪市北區中ノ島二丁目十番地に在りて現在社務經營の中樞に當れる重役は取締役社長喜多又藏常務取締役山田稔取締役末吉勘四郎同馬場義興同大岡破挫監査役南郷三郎同竹尾治左衛門の諸氏なり而して喜多山田兩氏は共に新進氣鋭の士前者は果斷敢行而も細心緻密にして能く綿界の趨勢を達觀して過たず後者は頭腦明敏新設のテキサス株式會社の社長を兼ね時に親しく米國に出張し米棉取引に異彩を放つ若し夫れ馬場氏に至つては上海支店長を兼任し支那通として周知せられ縦横の奇才に富む其他各支店出張所には各適材を適所に配置し内外呼應して益々社運の興隆を企圖しつゝあるは邦家の爲めに深く欣ぶ所なり

### 羽田調帶製造所

羽田調帶製造所は本邦木綿調帶の鼻祖にして、創業以來茲に二十有餘年、連年不斷的奮闘努力は製品年と共に優良を加へ、大方の信用を博すること益々濃厚にして、販路日に擴大し、今や巨然として我々ベル界の重鎮巨星を以て稱せらるる現在同所は一羽田式フラッグベルト(機械織綿調帶)一羽田式ラバーベルト(機械織ゴム調帶)一エッチャベルト(羽田式貼合バラタ調帶)一、には最も進歩せる最新式の機械を設備し、次で益々製品の優秀を期すると同時に製産力の増大を圖りつゝ、ありざれば業績日に隆々として、舉り日夜不斷の操業を以てして、猶且つ江湖の需要に應じ切れざる盛況に在り。

抑、近時皮革調帶の著しき價格の暴騰は調帶界の識者をして動力傳導の能率實際的使用の難易及經濟的價値等のあらゆる方面より精密なる研究を爲さしめし結果、頓に木綿調帶の需用を喚起し、茲に斯業は皮革調帶を壓倒して勃然として興起するに至れり、此の間に在りて、同所は實に本邦に於ける斯品の製造者たるに於て、同所の最大工場にして常に斯品の先驅者として、製品の改善を怠らざりしが故に、特に其の業績卓然に優越し、遂に現時の隆盛を示すに至れり、則ち同所は其の製品の使用個所に就て各操作状態を異にせる點に着眼し、留意し、科學の眞髓に觸れたる最近の製品は、何れも斯品の逸品を以て稱せられ、殊に其の羽田式機械織綿調帶の如き其の強度は從來一平方時に於て四噸三分なりしも、這回實に四噸八分の成績を示して、斯品の新レコードを作り噴々たる好評を我々各種工業界に博しつゝ、あり宜なる哉、同所製品は今日まで各地に於ける工業的博覽界に出陳する毎に最高の賞牌を受けざる事なく、又其販路の如き當に全く斯品の輸入を防護して内地一圓に治さのみならず、遠く海外諸國に向つて年々莫大なる輸出を爲しつゝ、ある事や。

同所主羽田伊之助氏は明治四年一月を以て丹後國宮津町に生る、夙に織物の研究に志し、京都織物學校に學び、後同二十三年大志を抱きて東都に入り、爾來令兄一馬氏を輔けて木綿調帶の製造に刻苦し、遂に羽田式調帶の製出に成功して同所を設立し、爾後勉勵業務の盛大を計りて、些の情容あるなく、遂に同所をして現時の隆盛を見るに至らしむ、又大阪營業所總支配人蒲田善藏氏は天資聰明、奇策湧く如く、斯業の發達に盡瘁するを以て、畢世の快事とせる奇傑にして、創業以來能く所主羽田氏を輔けて業務の發展を圖り、以て今日に至る、嗚呼、同所が今日の繁榮を見るもの洵に偶然ならざるなり。



羽田伊之助君 羽田調帶製造所 蒲田善藏君

同行は明治三十一年五月を以て創立せられたるものにして、創業以來業務順調の發展を遂げ、現在資本金四百萬圓を有し、本店を名古屋市中區新榮町一丁目三番地に置き、豊橋支店を愛知縣豊橋市に、一宮支店を同縣中島郡一宮町に、安城支店を同縣海部郡安城町に設け、堂々たる營業振りを發揮しつゝ、あり、今同行第四十期營業報告に依れば、大正六年末に於ける年賦貸付金八百四拾萬圓、千七百六拾圓、定期貸付金壹百六拾九萬九千九百五拾六圓、代理貸付金壹百九拾壹萬貳千四百六拾五圓、餘短期貸付金拾貳萬壹千七百六拾五圓、損失補填準備金六拾七萬四千貳百六拾六圓、配當平均準備金拾壹萬八千九百五拾圓、特別積立金五萬圓、千九百八拾九圓、農工債券發行高六百六拾四萬參千六拾圓、定期預金壹百八拾七萬圓、千八百五拾圓、代理貸付金保費參百九拾壹萬貳千四百六拾五圓、にして同期末の決算に於て、貳拾四萬貳千七百七拾壹圓、餘の純益金を得、内貳萬六千五百圓を損失補填準備金、五千圓を配當平均準備金、貳千圓を特別積立金、五千五百圓を重役賞與金に各充當し、年八朱の株主配當を行ひ、五萬八千八拾七圓餘を後期に繰越すの好成績を示し、重績を以て稱せらる、其他の同行重役は、取締役宮田慎一郎、同竹田千代足、同天竺三郎、同高橋小十郎、同石川愛治、同監査役早川龍介、吉田高朗の諸氏なり。

### 株式會社 尾三農工銀行



株式會社 尾三農工銀行

同行現取締役伊藤義平氏は鳥取縣の人、安政三年を以て生る、夙に東都に遊學し、今の中央大學の前身なる英吉利法律學校に學び、卒業後兵庫縣に出仕し、以來神奈川、島根兩縣廳、東京府廳、會計検査院、逓信省衆議院會計課等に勤務し、令名あり、既にして明治三十一年官を辭し、同行に入り、支配人となり、次いで常務取締役を経て、頭取となり、以て今日に及ぶ、君又現に大津新田養魚株式會社取締役、代表中央鐵業西尾鐵道山陰製紙、名古屋瓦斯各株式會社取締役外十數社の重役を兼ね、中京財界の

### 増田合名會社

同社は伸銅業界に於て最も古き歴史を有し、且つ夙に名聲を斯界に馳せる巨社にして、其前身は明治十四年の創立に係り、我が伸銅業の鼻祖たりし大阪製銅株式會社なりとす、後明治三十三年五月同社の解散するや、社長増田信之氏其事業を繼承して、増田合名會社と改稱せるものなり、爾來銳意業務の擴張を圖り、伸銅の諸機械を増設し、銅及真鍮板棒線管類其他金屬を製造し、併せて斯業の副生品たるコークスの製造販賣を營み、多額の優良品を製出し、帝國海軍の指定工場として、信用を博し、陸海軍、鐵道院其他に供給して、逐年業運の隆昌を致せり、信之氏の歿後は、令息信一氏及び政治氏の兩氏入りて、先考の遺業を繼ぎ、事業を盛大ならしめ、亞鉛の精煉をも兼營するに至れり、特に最近歐戰勃發以來は、本邦製煉業の活躍に伴ひ、驚くべき一大飛躍を試み、多年の經驗と技術の熟練とに依り、常に品質の改善と原料の選擇に、勉め、研究部及製煉部の二部を設けて、研鑽を積み、且つ製品を市場に提供するに當りては、充分責任を重んじ、一々嚴密なる試験を施し、優良と認むる物のみを

販賣と同時に製作期日確實なるを以て同社の特色となせり今試みに主要の製作品に就き特色を擧ぐれば銅線は電導充分にして址斷力及び捻回数豊富なるを以て使用者間に定評あり眞鍮棒は四六配合及特色配合のものを製作し帝國海軍の船艦に使用するネーバル眞鍮及び其他の棒類は總て本社製品にして造船所職工所陸海軍に最も重用せらる銅棒は汽罐車のステイ用として鐵道院に専用せられ純銅棒以外に燐砒素、チタン類を混入せる化學的製品も製作し特種のハイスピードモーター製作者、スプリング製作者及電機製作者に供給し板類は原料の優良なるより船底、建築機械に使用して最も優等なりと稱せらる殊に眞鍮板は藥業地金として最も多く陸海軍に使用せらる此の研究部は特種配合の銅及眞鍮諸製品の機械的及化學的作用に起因する從來の不備缺點の改良及各種の用途に對する經濟的合金の發見に伴ひ新進の技術者をして同部の專屬技師とし日夜銳意研究に努力せしめ製煉部は獨特の爐を以て品位低き素銅及配合金配銅其他各種化學合金の分解及び製煉をなす其製煉頗る經濟的なるを以て有名なり現時資本金は五拾萬圓を有し本社を大阪市北區玉江町一丁目則ち大阪市の北部梅田停車場及川口波止場を去る事僅に數町なる交通至便の地に置き分工場を市外西成郡神島村に設け東京出張所を東京市日本橋區南茅場町に開設し又大阪市西九條下ノ町にコークス工場を有し尙世界の樞要地たる巴里露都カール銀行の頭取たり令弟政治氏も同行の取締取たり又東京出張所には柏木潤三氏、巴里支店に西本義雄氏露都支店に和田善平氏倫敦支店に戸山秀雄氏を各主任に擧げて擔任せしむ而して此等の諸氏は何れも敏腕の譽れ高き人々にして良好の成績を擧げつゝあり

株式會社 愛知農商銀行と頭取竹内兼吉君

株式會社愛知農商銀行は明治二十七年八月を以て創立せられたるものにして本店を名古屋市南區熱田市場町に置く、創業以來茲に三十有六年業務年と共に發展するに伴ひ同二十八年六月、愛知縣碧海郡刈谷町に刈谷支店を、大正四年七月、同縣知多郡龜崎町に龜崎支店を各設置し爾來相次いで同縣西加茂郡三好村に三好支店を、同縣碧海郡高濱町に高濱支店を、同縣知多郡東浦村結川に結川支店を、同縣愛知郡呼続村に呼続支店を、同縣愛知郡天白村平針に平針支店を、同縣愛知郡御器所村に御器所支店を、同縣知多郡大野町に大野支店を新設し外に縣下樞要の地に數多の代理店を設け今や支店總數十ヶ所、代理店五ヶ所を算し尙全國各地に亙り一千有餘のコーレスボンデンス先を有す斯くて業運隆々として盛んなるに伴ひ大正七年一月増資を執行して從來の資本金五拾萬圓を倍増して壹百萬圓となし益々積極的の刷新を其の業務に加ふ是に於てか營業彌々榮え大正七年上半年の如き七萬七千七百餘圓の純益を擧げ内壹萬九千六百五拾四圓餘を法定準備金に、壹千五百圓を別途積立金に、四千圓を新築積立金に、五百圓を行員恩給基金に、貳千八百圓を役員賞與金に各充當し、年八朱の株主配當を行ひ、貳萬八千八百圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり

同行現頭取竹内兼吉氏は貝谷平三郎氏の三男にして明治元年七月二十日を以て生る幼にして英俊、同二十三年十月竹内理三郎氏の養嗣子となり其姓を冒し同三十七年家督を相続す養家は世々典舖を業とす君家業繼承以來業務の發展を圖ると同時に一般財界並に公共事業の振興に努力し曩に推されて名古屋商業會議所議員、名古屋市會議員となり又一方選ばれて同行頭取、名古屋木材株式會社取締役、外數會社の重役となり今や中京財界の一名星を以て稱せらる其他の同行重役は

取締役山田清三郎、同石川愛治郎、同山崎文次、同岡本廣太郎、監査役外山定助の諸氏なり

大阪タクシ-自動車株式會社

現在大阪に於ける自動車數は總數實に六七百臺を算し最近一ヶ年半の短時日に於て實に約三倍の増加を見たるは素より新時代の要求に依ると雖、而も亦以て如何に大阪市の膨脹活動力が近時特に異常なるかを知らん大阪タクシ-自動車株式會社は實に是の般盛なる大阪新界に於ける最も有力なる斯業會社にして大正六年八月一日を以て營業を開始せるものなり而して創業當初は所有自動車數僅かに六臺を算するに過ぎざりしが敏活なる營業振りは忽ちにして大方の愛顧を受くること深く、業務日に急激なる發展を遂げ、今や實に三十臺以上の多くを數へ日夜間斷なき應接に忙殺せらるるの盛況を示しつゝあり

今試に同社特色の二三を擧ぐれば平民的實用自動車にして人力車よりも廉價なるは其の一なり、オートムルにて自動的に表はる、装置の自動車なるは其の二なり、運轉熟練、祝儀心付全廢迅速、可憐なる其の三なり、同社既に之の三大特色を有す、宜なる哉業運隆々として榮え、尙に朝陽昇天の概ある事や、想ふに將來の發展や更に益々、刮目に値するものあらん因に同社は本社を大阪市梅田驛前に置く、現事務取締役柴山安氏、取締役金井金市、山口常太郎の諸氏なり

野澤組

本邦貿易商界の巨擘野澤組は現店主野澤源次郎氏の尊父卯之吉氏の創立せる所なり卯之吉氏は天保九年を以て三河國豊橋に生る、家世々同藩士として門地高かりしが明治維新の後時勢の全く一變せるを見るや、炯眼なる氏は明治二年東京に出で京橋區中橋、廣小路六番地に商店を構へ、西洋雜貨の卸小賣業を創め、是れ實は同店の濫觴たり、爾來專心一意、店務の發展を圖り同五年に及んでは雜貨の外に石油、毛織物の販賣をも兼營するに至れり、次いで直輸出貿易業の最も時勢に適合せるを察し之れが實行の計劃を立て、然りと雖、元來斯業たる現今に在りても尙は容易の業にあらず、況んや當時貿易の商權は全く外人の手に握られたるに於てをや、而も氏や爾後銳意益々、業務の經營に苦心して輸出に主力を傾けし結果、幾くもなく輸出は輸入に超過し、業運隆々店礎頗る鞏固を見るに至れり、是に於てか、氏即ち退隱して家業を令嗣現代主源次郎君に譲れり、源次郎君は卯之吉氏の長男にして元治元年を以て生る、幼にして英敏、長ずるに及びて慶應義塾に理財學を修め、卒業後嚴父の業を輔けしが、後ち歐米諸國を漫遊して彼地の商工業を視察し大に得る所あり、歸朝後家督を相続し更に益々、努力を家業の進展に致せり、業務是に至りて愈々、隆盛の域に進み殊に曩に勃發せし世界戰亂が本邦財界に及ぼせし好影響は、同店の業務をして更に一段の殷榮を加へしめ、店運隆々以て今日に至る、想ふに同店向後の飛躍や更に刮目に値するものあらん因に同店は本舖を東京市日本橋區通三丁目に置く

大連取引所信託株式會社

同社の沿革 滿洲に於ける特産品たる大豆、豆粕、豆油等の取引機關として大正三年九月一日を以て開業せられたる大連取引所は元來内地の取引所と異り官設のものなるが故に所長以下係員一同孰れも官吏にして取引所は單に其の監督の下

に一定市場に於て一定時間内に賣買取引を爲さしむるに止まるれば其の不便決して鮮少ならず別に取引所に附屬せる賣買取引の擔保及清算機關の設立頗る緊要なるものあり茲に於て早くも此の趨勢を看取したる同地の有志者相生由太郎、安川雄之助、華商郭學純の諸氏は率先して種々奔走の結果、こゝに資本金壹百萬圓を以て一株式會社の創立を畫し大正二年六月遂に之を創設するに至れり之即ち大連取引所信託株式會社なりとす

國家的公的なる同社の事業 同社は關東都督府の命令監督の下に強制擔保の制を設け先物契約の履行を擔保すると同時に其清算業務を取扱ひ官設の取引所と相俟つて内地に於ける株式組織の取引所と同一機能を發揮する國家的公的營利會社にして其設立當初に於ては舊慣に糊着して文明的なる商取引を厭ふ一部の支那人の反對に遇ひしが漸次之等の頑迷なる人々は其跡を絶ちて從來の如き無謀不正なる投機的取引を試むるものなく之と同時に同社も漸次發展をなし今草の結果關東應に供託せる外其餘格を以て取引人の金融を助けつゝあるが大正八年上半期の成績を見るに大豆高粱の先物賣買取組高は大豆五萬三千七百四十五車此代銀九千五百六拾七萬八千六百七拾貳圓餘、高粱一萬三千五百七十四車此代銀貳千五百貳拾參萬九千四百貳圓餘、合計六萬七千三百九十九車銀壹萬九千九百六拾七萬八千六百七拾貳圓餘、高粱一萬三千五百七十四車此代銀貳千五百貳拾參萬九千四百貳圓餘、合計六萬七千三百九十九車銀壹萬九千九百六拾七萬八千六百七拾貳圓餘、此總計銀拾八萬七千八百八拾圓餘を算し此金換算額金參拾壹萬壹千貳拾壹圓餘の多きにあり尙之れに預金利息有價證券利息及び其他の雜收入を加ふれば其總收入金四拾貳萬參千九百壹圓餘に上り之れに對する支出額は同社營業の性質上極めて少く關東應特許金拾萬七千參百七拾四圓餘營業費金五萬壹千五百參拾四圓餘にして今半期の純益金は貳拾四萬八千六百九拾四圓餘の巨額に達し普通株主の配當金年貳割貳分の外金五萬圓の積立金を爲し尙且つ後期繰越金に五萬九千貳百七拾六圓餘を擧げたるが如き其收益南滿洲事業界の第一位を以て稱せらる時局の影響を受けて異狀の好成績を擧げ居れるもの決して尠しとせずと雖も同社の如き成績を示し居れるもの其決して多からざるべし又内地に於ても斯かる成績を示せるものは東京大阪兩地の株式並に米穀及大阪の三品取引等を除きては比類なく同社を以て其首位と爲すべきなり而も同社は開業以來未だ滿六ヶ年の日子を費せしのみにして斯かる異數の成績を擧げ居れるは寔に推服に値ひするものあり現在舊株五拾圓拂込株式百八拾圓拾貳圓五拾錢拂込新株九拾五圓の時價を有すると云へば同社の事業が如何に世の絶大なる歡迎を受け居れるか想到するに餘りあり而して市場取引人には邦人側として三井鈴木古河日本棉花日清製油安部幸兵衛商店増田貿易湯淺貿易小寺洋行等の巨商を始めとして其他約三十有餘華商側約一百餘の著名貿易商を網羅し居れると云へば其信用の如何に深甚なるかを察知すべきなり

矚目さるべき同社の前途 同社の前途は漸次滿蒙開發滿洲農産物の生産増加と共に益々好望に向ひつゝあるが尙其先物取引には言語風俗習慣を異にせる百餘名の日支取引人相混じてこの繁瑣なる仕事に従事し其取引關係及受渡し清算勦定等に於て一糸亂れざる秩序整然且つ圓滿敏活なる商取引を爲し居れり斯くて同社は時勢の進運に伴ひ舊來の資本金にては到底之に順應し難きを悟り本年一月二十六日定時總會に於て金參百萬圓に増資の決議を爲し是れに關する一切の事項を去る三月末日の臨時株主總會に於て決議し去る五月五日を以て増資金貳百萬圓四萬株に對する四分の一拂込を完了

し茲に同社は金參百萬圓の總資本額を有する一大會社となれり而して市場の取引は銀建として大連港貿易の進展と共に逐日増加を來し現在一日の取引高二千五百車一車三十噸を越ゆること屢々なるの盛況を示し社業頗る隆盛を加ふる現狀にあり斯くの如く創業後漸く滿六年にしてかゝる異數の成績を擧げたと共に社礎の鞏固信用の絶大を加へたるは一面該取引所發達力の偉大なることに基因すると雖も他面に於て同社の營業方針が如何に堅實にして周到明敏を極めたるかを證するものにしてこの點よりすれば同社の重役諸氏の熱心誠實に爲れる献身的努力を賞讃せずんばあらず今其氏名を掲ぐれば左の如し

取締役社長相生由太郎 專務取締役原田光次郎 取締役福田顯四郎 取締役郭學純 取締役兼支配人小澤新之輔 監査役古澤澤作 監査役高橋強平 監査役李升海の諸氏なり

### 三精舎化學製品所

同所は大阪府西成郡中津町下三番に在りて各種ニス塗料藥料醫工業品の製造販賣所として斯界に噴々たる名聲を馳す而してサンセオンは專賣特許出願第二〇一四一號品として酒精製假漆なり抑々本サンセオンは從來の酒精製塗料假漆が脆弱にして弾力に乏しく木地の乾濕其他に依る伸縮に堪へず塗面に龜裂生ずるの缺點在るに鑑み乾燥油を假漆中に完全に溶和し塗面に弾力を與へ酸化を防ぐ可き材料を配合し普通溶解ラックに見るの蠟分を分離除去せる優品にして永久龜裂を生ずる憂なく光澤優麗温雅にして耐水性に富み汽車汽船電車の室内其他美術的裝飾用に供せらる。因に同所製品は屢に大阪化學工業博覽會に出品して入賞するの榮を荷ふ亦以て如何に其の優良なるかを知らるに足らん

### 塩野義三郎商店

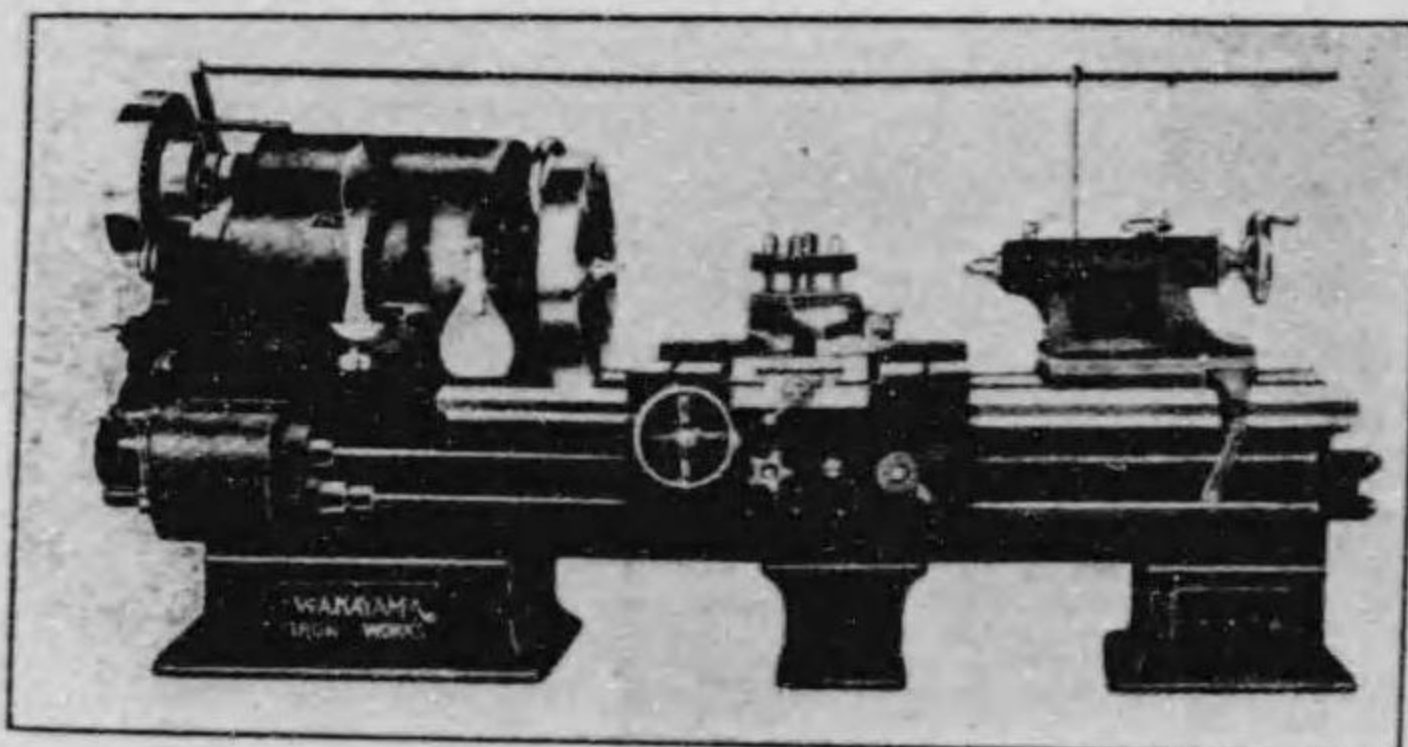
關西藥業界の重鎮塩野義三郎商店は大阪市東區道修町三丁目に在りて一般藥品の輸入を以て業とし殊に近來新藥の發賣を以て名聲斯界に噴々たり方今關西に於ける斯業者其の數多しと雖も恐らくは其の製品の優秀なる點に於て將た其の業務の盛大なる點に於て同商店に對抗し得るもの鮮かるべし

今茲に同商店の新藥に對する抱負の一端を述べんに醫藥殊に新藥類は世界戰亂前獨逸國より盛んに輸入せられつゝありしが屢に同亂勃發以來殆んど其の供給絶し治療上最も重要な新藥類も爲めに投藥の途なく我が醫藥界をして徒らに杞憂の念を深からしめたりしを遺憾とし其の最も重要なものを本邦に於て完成自給すべく研究し既に十數種の新藥を製出發賣するに至れり今左に其重なるものを列記すれば強心藥デキタミン局所麻酔藥ネオカイン陣痛催進藥グアルチン催眠藥ドルミン等則ち之れにして此内デキタミンは強心藥として缺くべからざるもの夙に醫家の賞用する所に於て同種製劑中本邦最初の製品たりネオカインはノゾカインと同一のものにて現今唯一の局所麻酔藥を以て稱せられココインに比し其毒力十分一に過ぎず故にココインにて爲し得ざる手術も本品により容易に施術し得べし又ドルミンはアダリンと同性同效のものにして副作用後作用なき催眠藥として臨床醫家の藥籠中常に缺くべからざるものなり猶同商店新藥部は進んで各種の新藥を製出し戦時中に於けるが如き缺陷を再出せしめざらん事に留意し益々自給自足の目的に向て奮進しつゝあり

同商店の製薬工場は大阪府下西成郡豊洲町海老江に本工場を有し、所長藥學士塩野長次郎氏之が主宰の任に當り、最新之知識と多年の造詣を以て多数の技術者を指揮し、汝々として製薬に従事しつゝあり、而して其の製品は主として醫藥に力を注ぎ、亦一部の工業品をも製出し、共に分銅印の商標下に取扱はれ、品質の純良なるは藥業界の權威として、夙に一般社會の認識する所なり、又分工場は兵庫縣赤穂町及大阪府下西成郡浦江の二個所に設けありて、共に數千坪の敷地を有し、幾多の技師は各専門の製薬に従事し、數百人の職工を督して、本邦醫藥品の自給に對し、最も力を致しつゝあり。

### 若山鐵工所

若山鐵工所は大阪府南區鍛冶屋町に在りて、高級鐵工用諸機械の製作を以て營業の目的とす、抑、從前本邦に於ける工作機械の専門工場は其數極めて少く、僅かに數指を數ふるに過ぎざりしが、曩に有史以來の大戦亂たる世界戰亂の勃發せしより此の方、吾鐵工業界は茲に其の好影響を受けて、未曾有の般盛を呈するに伴ひ、開が基礎となるべき鐵工用諸機械則ちマシンツール之需要は頗る激増し、從つて斯種専門工場も或は他業より鞍替したるもの或は一部餘力を之に割きたるもの等續出し、現在に至りては其の數真に枚擧するに遑むらざるの盛況を見るに至れり、然りと雖、由來工作機械の品質改良は一朝一夕に行はるゝものにあらず、多年之を専門とし、歐米最新の良機を使用し、多大の經驗と熟練せる技術とに據るの外なきなり、此の間に在りて我が若山鐵工所は創業以來、茲に三十年、今や其の製品は熱心なる技術者と熟練優秀なるウオークマンが最新の學理と多年の經驗に加ふるに、同所の誇りとせる其備付に係る數十臺の歌米最新式優良機械を以てし、一小部分と雖、急諸に附せず、各部重要な點は同所のみ唯一備付なる試験機を以て、嚴重にテストを遂げ、十分優良なるを認めたる上に、之を需要者に提供するものなるが故に、聲價隆々と



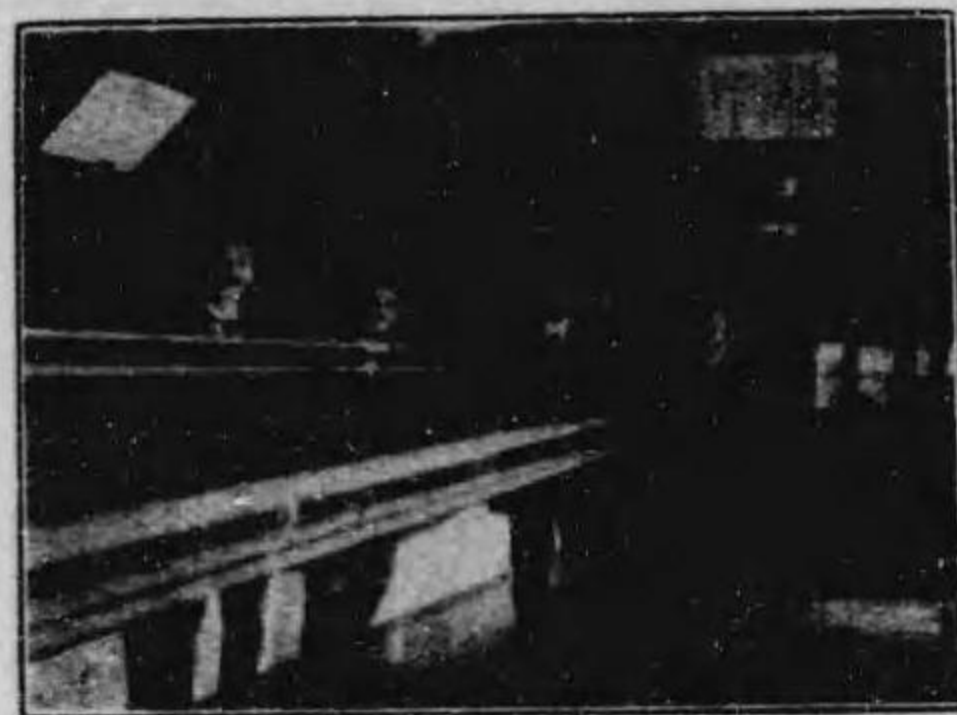
品製所工鐵山若

同所製品の重なるものは、レース、プレナー、セーパー、ボッパ、ボーリング、ラジャル、スロッタ等にして、何れも精密を要する點は、嚴密に摺合をなし、又重要な部分には、精密にグライデングマシンを以て研磨仕上をなし、必要なるポイントナット、ネジ等は、炭素焼きを施し、必要なる部分には、目盛を施し、尙齒車は、勿論正確なる機械切りとなす、是を以て品質の優良海内比なく、好評噴々として、註文日に殺到するの盛況に在り、尙同所は、之の盛運に伴ふべく、近く其の工場に大々的の擴張を施し、且つ新來の精良なる外國製機械十數臺を据付けたるが故に、茲に其の生産力は舊時に倍加するに至れり、想ふに、同所向後の飛躍や更に益々、刮目に値するものあるや必せり。

### 石村吉兵衛商店

石村吉兵衛商店は關西西洋樂器製造販賣業界の巨擘にして、店舗を大阪府西區北堀江通三丁目に置く、抑、本邦に於ける西洋音樂の流行は、素より明治開國以來、泰西文明の輸入に伴ひて起りたる新事物に屬す、されば從て之れが樂器製造業の如

きも亦洵に最近代に創まれるものにして、其の技と業と二つながら之が進歩を見ること極めて遅々たるを免れざりき、然りと雖、日清戰役より此の方、我國力年と共に振興し、遂に世界一等國の班に列し、邦民泰西文化の精英を噴ふこと益々深きに及びて、斯樂の勃興彌々盛んなると同時に、斯業も亦日に發展の域に向ひ、遂に今日の般盛を見るに至れり、此の間に在りて、特に我が石村商店は營業は勿論遠く海外諸國に及び、到る所として、洵くが如き需用家の稱賛を博しつゝあり。



所驗試統ンリイオアゲ村石

開始以來熱心眞摯業務の進展に努力し、不斷の改善を其の製品に加ふることを怠らざりし結果、今や其の製品の優良にして、業務の盛大なる斯界第一を以て稱せられ、名聲噴々として、稱を博しつゝあり。

同店の營業品中特に、グアイオリンは、斯界の逸品を以て稱せられ、昨大正七年春大阪府に於て開催せられたる大阪化學工業博覽會に出品して、入賞するの榮を荷ひ、又其の精製グアイオリンは、同店が多年の經驗に基き、幾多の苦心研究を重ねたる結果、漸く完成せられたるものにして、到底他店品の企て及ばざる優品にして、洵にグアイオリン統中の巨王と謂ふべく、現に其の年産額は驚くべき巨額を算し、年次需要増加し、店運隆々として、旭日冲天の概を示しつゝあり、因に現在同製品の販路は内地一圓

### 須磨浦療病院と院長鶴崎平三郎君

本邦肺病々院の巨擘として、名聲夙に噴々たる兵庫縣武庫郡須磨町、須磨浦療病院院長鶴崎平三郎君は、舊肥前國諫早藩士鶴崎良次氏の長男なり、幼にして穎悟當時、藩の侍醫たりし叔父小代東堂氏に養はれて、醫學に漢籍を修め、稍長するに及びて、長崎醫學校に入り、獨逸人某氏に就き、斯道を研究せしが、明治八年同校の廢校となるに及び、更に笈を負うて、東都に上り、大學東校に入り、専心斯學の研鑽に、勉め、同十六年優良の成績を以て、其の業を卒る、是の年神戸病院の教諭となり、後轉じて、姫路病院長となり、令名ありしが、不幸眼疾に犯され、同院を辭して、只管療養



君郎三平崎鶴

に從ふ時に、君以爲らく人生疾病の數數百にして、盡きずと雖、其の慘害を及ぼすの甚しきもの結核症の右に出づるものなく、其の消長は直接國家元氣の盛衰に關するや、大なり、余既に醫を以て世に立つ之が治療を以て、畢世の任務となすこと、豈余が天職なるなからんや、乃ち茲に意を決して、病中盛んに東奔西走し、遂に株式組織を以て、肺病専門病院を設立せり、之れを須磨病院長とす、後故ありて、株式組織を解き、君一個の經營となし、爾來堅忍不拔之が發展に、汝々努力し、終に現時の盛運を見るに至らしむ、君天資高明、學殖深遠、逸話善行、尠からず、亦た曩に故有柄川宮殿下の御召醫として、久しく御病床に拜診するの榮を得、殿下薨去後、事、天聽に達し、畏くも御慰勞の思召を以て、明治天皇陛下より、銀製大花瓶一個を下賜せらるゝの榮寵に、浴せり、家門の光榮何物か能く之れに比ふべき。

代表的事業



景全院療埠浦須

須磨浦療病院は兵庫縣須磨浦に在りて古來一の谷と稱する松林鬱蒼たる鐵拐ヶ山腹に位し西北山を負ひ南東海に面し、新鮮なる山海の空氣は絶えず相往來して自然の換氣常に整然たるのみならず、鐵拐連山の松樹は其の生活機能によりてテレピンチーの芳香を放ち、又茅渚の潮波は共に多量のオゾンを形成して身體組織成分の新陳代謝を催進す、同院は實に是の優越なる自然の氣候風土を利用してブレームメルデットワイル氏原則に従ひ衛生營養療法を行ふと共に患者をして結核症は其の療法の當を得ば必ず治癒すべきことを自覺せしめ、又適當なる療養法を習得せしめ、尙同病傳染の路を知らしめ、他人に危害を及ぼさしめざる注意方法を修得せしむるを以て業務の主眼とす、現在敷地壹萬餘坪中に十七個の建物あり、其の主なるものを一號館、二號館、三號館、附所院長住宅、副院長住宅とす、一號館は四棟にして受付電話室、應接所、患者控所、診察所、外科室、レントゲン室、藥劑局、製煉所、事務局長室、宿直室、看護婦室、吸入室、試驗室、暗室、盥嗽室、浴室、三、小便室、物置所、洗濯室、消毒室、汽罐室、石炭貯藏所、その他特等病室四室を有し、二號館は四棟にして各附屬建物一棟を有し、一、等病室八室、二、等病室十六室、三、等病室十六室、看護婦室二室、及土藏一棟を有し、三號館は四棟にして特等病室四室、一、等病室二十室、看護婦室、看護婦教習室、浴室、二、吸入所、鹽嗽所、食堂、物置場、及診察所を有す、尙院内に日用品賣店、須磨浦文庫、運動場の設けあり、斯くて同院や既に其の位置海内無比の景勝の地を占むるのみならず、設備の完美亦た海内稀れに見る所にして、加之院長、副院長以下職員總て練達の士を網羅し、診療頗る丁寧懇切を極む、是に於てか院運隆々として日に榮え、今や巨然として斯界に稱し、邦家に貢獻する所極めて大なり。

### 武田長兵衛商店

武田長兵衛商店は日本藥業界の重鎮にして、店舗を大阪市東區道修町二丁目に置き、醫藥藥品、工業藥品、其他衛生材料を取扱ひ、營業部を分て内地部、外國部、新藥部の三部とし、内地部は主として日本各地の取引に當り、外國部は専ら海外貿易に従事し、新藥部は新藥の發賣擴張に従ひ、一方武田製藥株式會社と提携して業務の發展を計り、今や同店の販路は本邦全土は勿論、支那、印度、南洋、澳洲より遠く南米、亞米利加、歐羅巴に亘り、是等各地の取引市場に業務の殷盛を極め居り、而して其の發賣せるサギ印並にウロコ印藥品は其品質の優秀純良なるものとして、一般市場の定評を獲、加ふるに大盤石の上に築かれたる堅實なる商風は益々斯界の信用を博しつゝ、尙現在同店と提携して本邦製藥界に重きをなしつゝ、ある武田製藥株式會社は大正四年武田長兵衛君が設立せる武田製藥所の業務を繼承して、資本金壹百萬圓を投じ、大正七年七月に創立せられたるものにして、本社並に工場を大阪府西成郡神津村に置き、分工場を同郡中津町に設け、研究部並に試験部を有し、製品の優秀を期し、更に新藥の發明創製に努め、武田長兵衛君の令弟たる藥學博士武田二郎君は社長として、藥學士三宅馨氏は技師長として、藥學士、藥劑師等の技術者約五十名、職工四百餘名を擁し、各々其事業に精勵しつゝあり。

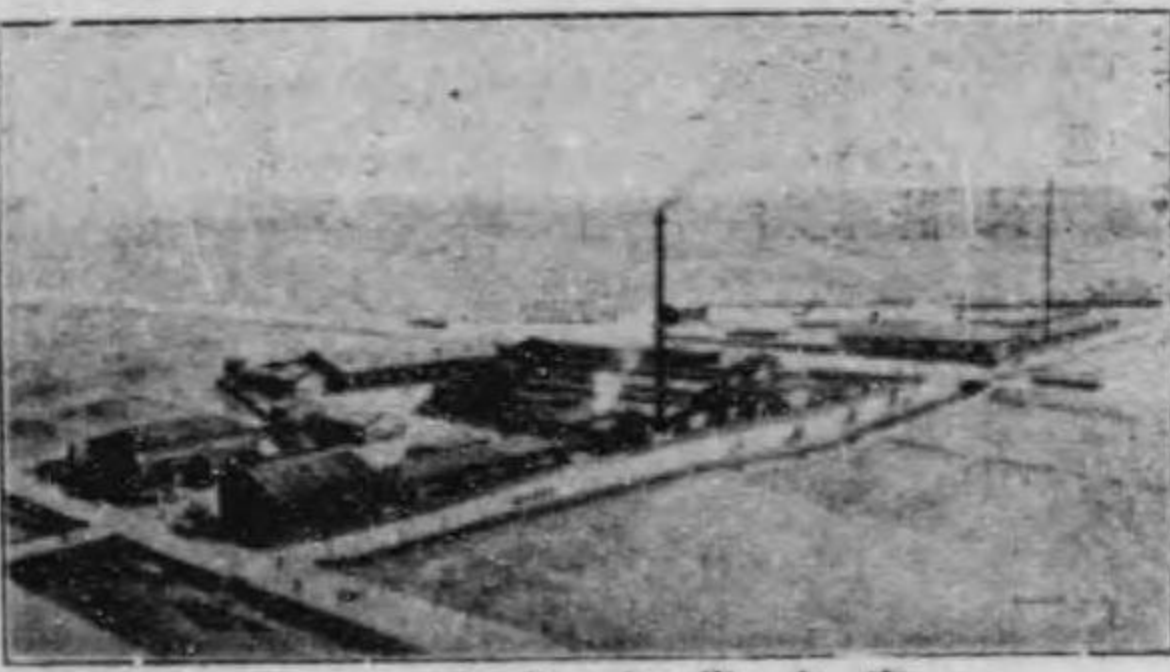
同店主武田長兵衛君は前主の名を繼承、藥種貿易の家業に従ひ、精勵して業務の進展に努め、益々販路を擴め、精選優良なる製品を提供して、斯業の發展を圖り、殊に歐羅巴に因り、藥品輸入の杜絶するに遭ふや、君は卒先して我が製藥業の獨立を提唱し、製藥國産の先驅となり、或は内務省に於ける藥業調査會の委員となり、専心斯界の發展に貢獻しつゝあり。

### 富士革布株式會社

同社は明治四十五年を以て創立せられたるものにして、創業以來其の製品の優秀と業務經營の巧妙練達とは兩々相俟つて、社運年と共に繁榮の域に向ひ、今や一箇年に於ける無地物の製産額實に六十萬平方碼以上を數へ、其の販路は東京、大阪、京都を始め内地一圓に洽きのみならず、遠く朝鮮、支那、印度、南洋等の海外各地に及ぶの盛況を示しつゝあり。

同社製品の重なるものは、振革布、并に旭ベリにして、前者は其の原料として棉花、硝化綿、酒精、コールド、アセトン、カストル油、顔料、塗料等を用ひ、皮膜強靱にして、寒熱に耐へ、耐久防水力に富むが故に、皮革代用として世に賞用せられ、下駄、鼻緒、椅子、張帽子、内廻り、疊、縁、玩具等其の用途頗る廣く、後者は前品と略々同様なる原料を以て製せられ、體裁優美、皮膜強靱にして、耐久防水力に富み、疊縁として最も好適品なり。

同社は本社並に工場を東京府南葛飾郡寺島村に置き、大阪出張所を大阪市南區鹽町四丁目五番地に設け、因みに現重役は取締役神谷傳兵衛、同谷澤久三郎、同久松源次郎、監査役石崎丈太郎の諸氏なり。



富士革布株式會社

### 山口吉太郎君

東都木村業界一方の重鎮を以て稱せらるるものを、東京市神田區永富町十一番地、電話神田一八一六番なる山口吉太郎商店となす店主山口吉太郎君は、東京の人、山口吉五郎君の長男にして、明治十三年を以て呱呱の聲を揚ぐ、少壯學に勉め、蘊蓄する所深し、父君吉五郎氏は、基盤の臺木の製造を以て有名なる人なりしが、君長ずるに及びて、父業を承ぎ、材木商を經營し、孜孜として業務の發展に努力せり、是に於てか業運年と共に、振ひ店務隆昌、今や真に堂々たる營業振りを發揮しつゝあり、同店の材木は主として之れを北海道より買入れ、之れが供給先は關東一圓に及ぶと雖も、就中其最も重なるものは、東京市内並に市外の自動車製造業者なり、斯くて今や斯業者にして、同店の材木を用ひざるものなしと云ふも過言にあらず、此他東京地方に於ける指物屋の材料、臺木等も亦た多く之れを同店の供給に仰げり、斯くて店運隆々として、日に榮え、現に斯界一方の重鎮として、盛名を馳す、君又た夙に力を公共の事に致し、現に幾多の公職を帶ふ、天資重厚、聲望區内に高し。



山口吉太郎君

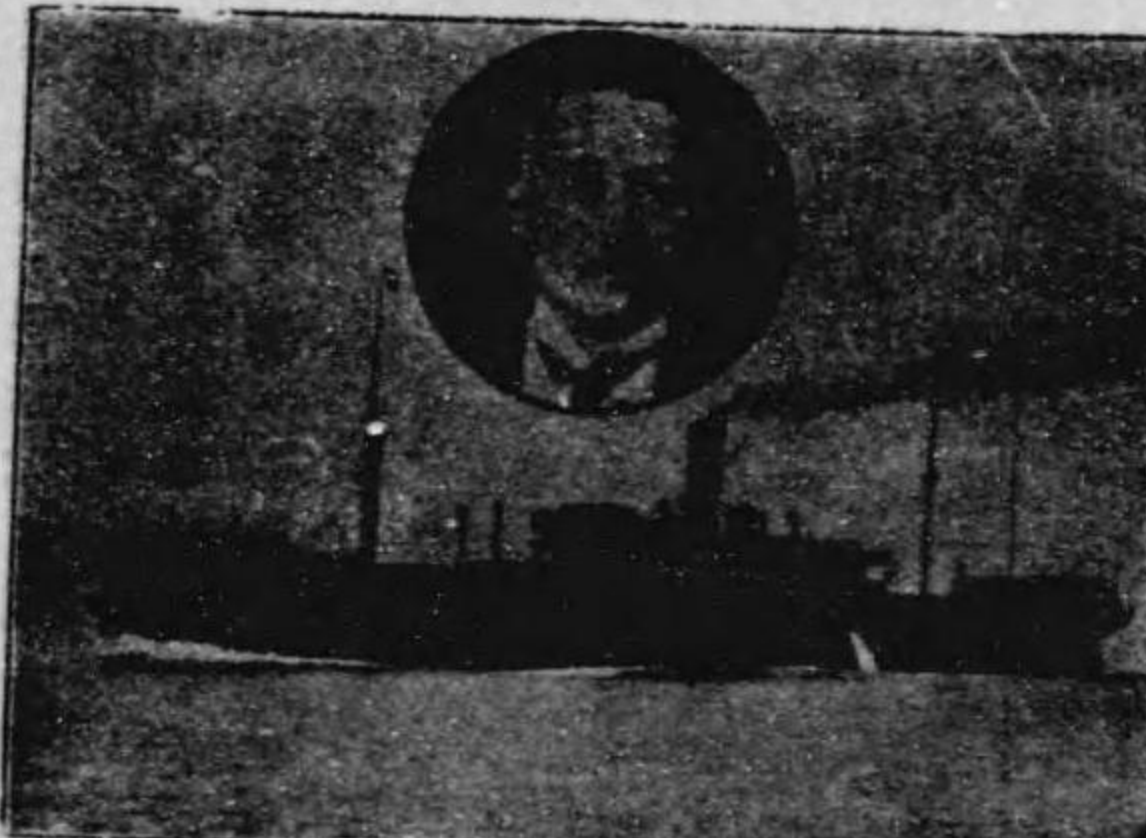


山口吉太郎商店

### 株式會社川崎造船所

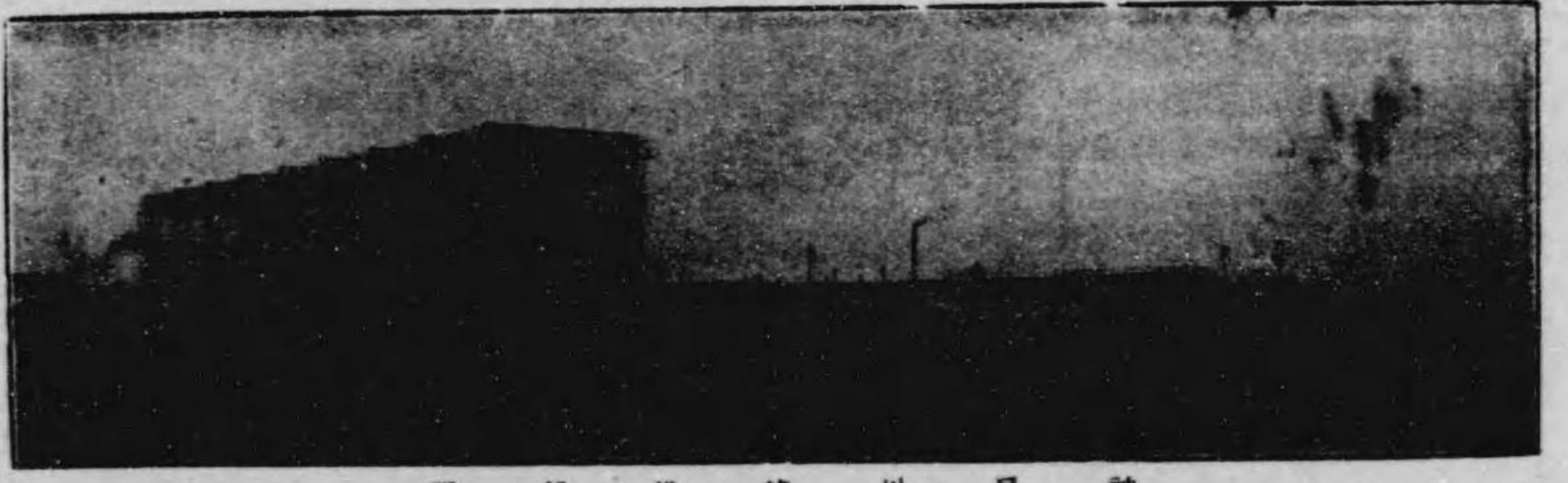
軌近帝國實業の振興は列邦の齊しく眼を睥りて驚歎措かざる所なるが、就中造船業の發達に至りては内外人士をしてその驚異の念に堪へざらしむるものあり此の間に在りて規模の大業績の隆特に卓然として稱を斯界に稱せるものを株式會社川崎造船所をなす、抑、同所の起原は舊く明治の初年に在り、即ち明治三年五月金澤藩士關澤安太郎、遠藤友次郎、大聖寺藩士石川輝氏等相謀りて攝津國港川口川崎濱に造船工場を開設し之れを加州製鐵所と稱したり。當時既に斯の舉の礎に着眼の高きを認むるに足り、殊に海運業の盛昌なる大阪を近く控へて地を此に相せしこと亦た見識の凡ならざるを察すべきなり。然るに四年廢藩置縣の改革に伴ひ工務省の所管に移り、政府また斯業の發達が急務に屬するを念ひ、六年其規模を擴張して兵庫製作寮と改稱し、後ち再び兵庫造船局と改稱して農商務省の所管に移せり。然るに一般官營の常弊に因はれ所期の發展を見るに及ばざりしが、明治十九年川崎正藏氏之を借用し、尋いで全部の拂下を受けて獨力經營に従ひしより着々盛域に擴ひ、遂に現今の大成を見るに至れるものとす。川崎氏は維新の當時より既に時勢を看取し且海國たる位置に顧念して、率先西洋形帆船數隻を購入し、以て海運業に従事し、或は薩藩の國產會社に監理人となりて益々船舶を購入し、國產の移出、海運業の發達に盡瘁し、或は明治六年帝國郵船汽船會社の副頭取と爲りて琉球に定期航路を開始し、或は十一年東京奧船及船舶運送業等に從事し、兵庫工場にては鋼製鋼鑄鐵、水道鐵管、瓦斯管、鑛山用諸品、機關車、客車、貨車、電車、車輪車、軸其他鐵道用諸品、鋼橋、建築用諸鋼鐵材料、瓦斯溜油槽、三材料の製造を爲し、大連出張所にては船舶用諸機械の製造及修繕に従事す。

同社は現に本店を神戸市東川崎町に置き、兵庫工場は同市東尻池町に在り。出張所は大連、上海、東京に設置せり。然して工場設備を見るに原動力は電力を主として使用し、更に蒸汽力、壓搾空氣及水壓力を併用す、据付機械の總數は無慮二千五百點内外を算し、起重機數十臺、起重機船數隻を有せり。造船臺は軍艦四萬噸、商船五萬噸のものを始め、合計五萬噸に上り、尙ほ必要に應じて最大船臺を延長せむには、焉よりも一層噸數の大なる艦船を建造し得るの餘裕綽々たり。又乾船渠及船渠數個を有す。以上は僅に概要を述べたるに止まり、總じて設備の雄大にして且完整せるは、東洋第一の造船所といふを以て、想察するに餘りありて、別に細説煩詞を須るざるなり。是を以て日本郵船會社、大阪商船會社は勿論、其他各海運業者より船



川崎造船所社長松方次郎君

船建造の註文頻々として、殊りかくて創業以來、現今に及ぶまで竣工引渡を了せるもの四百隻を越ゆるの盛狀を呈し、本邦海運の發展を助成せる效績著大なるが上に支那及暹羅等よりも艦船建造の註文を受けて之に應じ、又帝國海軍省より戰艦巡洋艦、驅逐艦、水雷艇等の建造を命ぜられ、毎毎に好成績を擧げて之を竣工し、賞状を受領せしこと幾度びなるやを知らず。就中、帝國海軍の新威力たる三萬一千噸の超弩級戰艦伊勢を大正四年四月に起工し、翌五年十一月に進水するに至らしめたる製艦能力に至りては、我が國防の獨立よりして七千萬の國民を擧げ最も心強く感ずる所ならず、非ざるなり。亦た本邦民設置船界の誇りと爲すべし。其の進水式は月の十二日に舉行したるが、今光景の一端を記敘せむに、當日は御名代東伏見中將宮殿下の台臨を賜はり、清野兵庫縣知事の御先導にて造船所に着御あらせられ、松方侯爵、川崎副社長、伊地知吳鎮守府司令長官、柄内技術本部長、肝付中將、福田造船總監、中野艦政局長、中島機關少將、日置公使、長野三重縣知事、其他京阪神の文武官、地方名譽職員、實業家、學校生徒等の奉迎を受けさせられ、川崎副社長は御先導にて進水式場に臨ませ、伊地知司令長官は設けの壇上に進み、新艦の命名書を朗讀し、之を川崎副社長に渡せば、社長は一聲高く「伊勢」の進水を命ず、工場長は旨を承けて金色の槌を揮つて、滿場肅然水を打ちたる如き聲に、索を切斷すれば、山の如き巨艦は見る／＼船臺を滑走し、艦首の璽玉破れて、數羽の鳩四方に飛びつゝ、進水の聲は港内碇泊中の鹿島香取富士の各艦より打出す二十一發の皇禮砲と相和して天地を震撼し、芽出度、に進專務取締役社長松方幸次郎、專務取締役副社長川崎芳太郎、取締役野元、同廣瀬滿正、同工學博士坂漢、同工學博士田中泰、監



神戸川崎造船所

水式を終りき。御名代宮殿下にはいとも御機嫌麗はしく御満足あらせられたり、遂に同社の至榮と謂ふべし。川崎造船所の業務は帝國海軍の強盛と海運業の隆昌とが遂に加はるに隨伴して經營者の高材と相俟ち累りに發展し、成績の較著なるを得たるは、昨今の事に非ずと雖も、而も、歐洲戰亂の突發は更に大飛躍の好機を與へ、其盛狀は驚くばかりにして、巨額の利益を収め、社運の隆々たるを致し、更に將來層々の展張を期待せらるゝに至れり、今大正八年上半期營業報告に依れば、同社の現在資本金は四千五百萬圓、社債九百八拾五萬圓、積立金六百九拾貳萬八千圓、別途積立金五百六拾六萬九千圓にして、同期末の決算に於て實に壹千參拾萬七千貳百七拾圓餘の純益金を擧げ、之に前期繰越金壹百參拾八萬參千四百五拾九圓餘を加へ、合計金壹千六百六拾九萬六千六百六拾圓餘を計上せり、而して同社が如何に此の巨利を處分せしかを檢すれば、壹百貳拾萬六千圓を株主配當金、參百六拾壹萬八千圓を株主特別配當金として、株主へ配當せし上、尙ほ諸積立金及後期繰越金合計に四百四拾七萬九千九百餘圓を當て、以て益々社礎の鞏固を致せり、亦以て如何に現在業務の盛大なるかを窺知するに足ると同時に、同社が自後遂に益々伸張展開して底極する所なるべきを推測するに難からざるべし。加ふるに帝國海軍の將來に於ける補充並に擴張は既定の事實たるに於いて、同社の前途は愈々好望に滿たされ、春の海にも似て洋々たりと謂ふべし。現在の重役は

查役田中常徳同松方正雄同成瀬正泰の諸氏なり。

是より先川崎正藏氏は同社が組織を變更して株式會社と爲すや社長の椅子を松方氏に譲り、副社長とし自らは顧問の位置にありしが、大正元年十二月社連の大いに發展し其素懐を達成せるを見て、瀟湘黃泉の客となれり。松方社長は侯爵松方正義氏の第三男にして、夙に米國のユール大學法科を卒業し、更に英國オックスフォード大學及佛國巴里大學に法學を修め歸朝して、幾くならず社長の重任に膺たり、卓風發の資を以て、拮据經營、克く其の發展を促成し、功勞に依り前に勳三等に後ち又た正五位に敘せられたり。尙ほ同社に社長たるの外幾多會社に或は社長或は取締役の要職に居り、材幹資望ともに關西實業の重鎮を以て推仰せらる。副社長川崎善助氏は鹿兒島縣の人にして、夙に米國に留學し、歸朝して同造船所に入社し、正藏氏の嗣と爲り、二十九年副社長の要位に就きて、造船業の發達進歩に竭力盡瘁し、以て今日の隆運を致せり。別に銀行會社重役となり、關西の經濟界に於ける巨星を以て目せらる。其他の重役諸氏孰れか皆當代財界の名士たらざる人々ぞや。則ち同社最近の大發展は時局の賜なりとのみ謂ふの當たらず、此等經營首腦者の財力と策畫最も與かり殊に時局前に於いてこの異常なる好機會に應じ得る施設を整備し、規模を雄大にして基礎牢固たるに非ざりせば、奈何ぞ今日の盛あるを得ん、徒だ淵に臨んで魚を羨むに過ぎざりしならむ。

最後に同社が社員及び職工の待遇に意を用ふるの厚きは、公評の存する所にして、現に所員職工の積立金六拾七萬九千圓、職工救濟基金壹百萬餘圓、職工獎勵基金壹百萬圓を有せるに念ふも一斑を想像するに難からざるが、其の二三の事實を舉數すれば、社内に醫務掛を置き、事前の衛生豫防事後の治療に從はしめ、費用は一切會社に於いて負擔し、死亡者には遺族扶助料、埋葬料とを給與し、或は勤績の見込ある職工には會社より保險金を支出して生命保險を付せしめ、或は外國に見學せしめ、或は補習教育を施し、或は貯金制度を設くるが如きは、是なり。之を以て職工は唯々領諾して業に従ひ、世間往々にして見る資本家對勞働者間の不和軋轢の如き曾てなきを喜ぶ。

### 川崎合名會社と社長川崎善助君



同社は明治三十八年現社長川崎善助氏の創業に係れる個人業務一切を大正八年二月繼承し、業務の組織を資本金壹百參拾萬圓出資金額壹百貳拾九萬圓川崎善助氏、壹萬圓川崎善次郎氏の合名會社となしたるものにして、木材木炭、板類の賣買並に製作及委託賣買、輸出、山林の經營、工業、鑛業、海運業を以て營業の目的とし、本社を大阪市西區西道頓堀通り五丁目三番地に置き、高知支店を高知市農人町に、安藝支店を同縣安藝郡伊尾木村に、徳島支店を徳島市東船場町に設け、隆々たる業績を擧げつゝあり。同社の取扱商品は、扁柏、杉、松、檜、榿、松等の木材を主とし、其他建築材及包装用板類並に木炭等にして、現在職員四十人、工場使用の職工其他五十人、林業勞働者五百人乃至千人を數へ、最近一ヶ年の製産高針葉樹材七萬石、建築小割材一萬石、板類十萬坪の多きを算し、其の販路は關西方面を主とし、其他内地一圓並に臺灣に及び、猶官廳に在りては、鐵道院砲兵工廠等に年々多額の納材を爲しつゝあり、今同社商品の特長を擧ぐれば、同社の直營に係る名頃山の樹材は、四國アルプスの稱ある六千六百尺の高嶺、劍山の西麓、一圓幽邃の地よ

り産出し、樹齡約二百年以上及び材質優美、色澤麗はしく、木理の緻密なる毛髮を整理せる如く、正に天下一品にして、實に建築家の垂涎措かざるものなり。尙同社が最近に於ける營業狀態の一斑を述べれば、同社の經營に係る徳島縣美馬郡東祖谷山村字名頃山及同縣麻植郡木屋平村字八幡山に於ては、年々針葉樹七萬石の造材に従事し、又高知縣安藝支店管内に於て製材所二ヶ所を有し、主として建築材及包装用板類を製産し、其他内地に於ける各大林區署官製材三十萬石、板類二十萬石並に、樺太廳内の松材等の販賣を營み、一ヶ年の取引高五百萬圓を降らざるの盛況に在り、又海運業に於ては、汽船二隻、補助汽船一隻、帆船數隻を航海せしめ、主として同社取引の木材輸送の機關たらしめつゝあり。同社長川崎善助氏は、明治十四年高知縣安藝郡羽根村に生る、年甫めて十五、單身大阪に出で、西區幸町通り朝日材木部に奉職し、十ヶ年間拮据勉勵具さに幾多の辛酸を嘗め、同三十七年日露戰役當時、小資本金を以て、獨力斯舖を開く、爾來茲に十五、星霜終始、誠心誠意、深謀遠慮、目前の小利を眼中に置かず、常に宇内の大勢を達觀して、業務の發展を策し、又曩に時勢の進展に伴ひ、業務の組織を合名會社に改め、薄利多賣の主義を確守して、益々社運の振興に力め、茲に於てか、需用家の信用日に厚く、同時に地方の同業者をして安じて、取引を得せしめ、遂に其の社務をして、現時の隆盛を見るに至らしむ、亦正に立志傳中の人物として、滿腔の敬意を表すべき一人材たり。

### 安宅商會と會主安宅彌吉君



安宅彌吉君

關西直輸出入業界の巨擘、安宅商會は一般重要商品主として原料品又は半製品の直輸出入業を營める巨舖にして、本店を大阪市東區高麗橋五丁目二十九番地に置き、東京支店を東京市日本橋區平松町七番地に、神戸出張所を神戸市海岸通り三丁目一に設け、堂々たる營業振りを發揮しつゝあり、同店現在の取扱商品は、米穀、肥料、油脂類、製紙原料及紙類、化學藥品、染料、金物及機械類、綿布、綿絲、麻袋、麻、其他天產物、獸毛皮類等にして、其の販路は世界各國の重要都市に洽く、到る所として、隆々たる聲價を博しつゝあり、同店は、昨大正七年春、大阪府に開催せられたる大阪化學工業博覽會に、磁土カオリン、梅崎産カオリン、探木産カオリン、尋芳谷産カオリン及多孔質高熱器、並にセルラ等を始め、石川製陶所製に係る化學磁器、ビーカー、平底蒸發皿、漏斗、L字管、九底蒸發皿、C型、A型、B型、グーチ氏坩堝、オート乳鉢、スバチコラ瓶、十二孔板、點火管、硫酸濃厚用坩堝、乾燥器、用中板等及宇治電氣化學工業所の製藥鹽化加里、醫藥用鹽化加里、赤血滴鹽、鹽素酸、曹達、金屬ンヂウム、過酸化曹達等を出品して、噴々たる好評を博し、是等出品中の硫酸濃厚用坩堝、乾燥器、用中板、スバチコラ蒸發皿、ビーカー等は、宮内省御買上の光榮を蒙り、其他は銀牌

を授與せらるゝの榮譽を荷へり、亦以て如何に其の商品の優良なるかを知らしむ。店主安宅彌吉氏は、石川縣平民安宅善喜氏の三男にして、明治六年四月二十六日を以て生れ、同二十五年九月分れて一家を創立す、夙に東京高等商業學校を卒業するの、後同商會を創立し、拮据經營の衝に當り、其の業務をして、能く今日の隆盛を見る。



に至らしむ君又自家業務の發展に努勉する傍ら力を一般財界の振興に致し曩に大阪化學工業博覽會の開催せらるゝや其の商議員に選ばれ又現に櫻島土地株式會社取締役外數會社の重役を兼ね頗る重きを關西の實業界に爲しつゝあり 想ふに將來の飛躍や更に益々刮目に値するものあらん

### 長谷川鏡次君

東都材木業界一方の巨星として仰がるものを東京市深川區吉永町四番地なる長谷川商店になす同店主長谷川鏡次君は岐阜縣加茂郡下麻主村の人長谷川金右衛門氏の令弟にして明治五年十月を以て生る幼にして俊敏郷校に普通學を修むる後名古屋商業學校に入り明治二十三年優良の成績を以て其の業を卒業す而も志遠大なる君は毫も之に甘んずることなく更に進んで高等の商業學を修むべく負笈上京して東京高等商業學校に入學す爾來刻苦營業の勞を積む事四年同二十七年を以て同校を卒業す君の校門を出づるや直に身を實業界に投じ東京深川の現在營業所に材木問屋業を營み努勉以て業務の發展を策せり後幾くもなく東京材木問屋組合特派商業視察員に選ばれ臺灣に渡航し總督府よりの初發生審視察員と共に全島を探險す當時其の視察は頗る危險にして冒險的なる殆んど想像の外に在りしにも拘らず膽大にして志堅き君は遂に能く其の任務を果たし多大の新知見を得て歸京せり次いで君又同三十年北海道材木伐採の爲め釧路の深山幽谷を跋涉し得る所多し翌三十四年擧げられて東京材木問屋組合幹事となり爾來同組合の發達興進に日夜奔走盡瘁して不斷の貢獻を致し以て今日に至る君亦自家業務の發展に努力する傍ら心を一般斯業の振興に注ぎ同四十三年東京材木倉庫株式會社を創立して其の社長に推され以て今日に至り同四十四年大湊材木株式會社を設立して其の社長となり亦た現時に及び更に又大正六年五月莊川材木株式會社大正七年中外興業株式會社大正八年第一コルク株式會社の各取締役選ばる天資溫良恭謙而も勇氣滿身に溢れ新氣稜々たり君も亦現代斯界の俊材なる哉

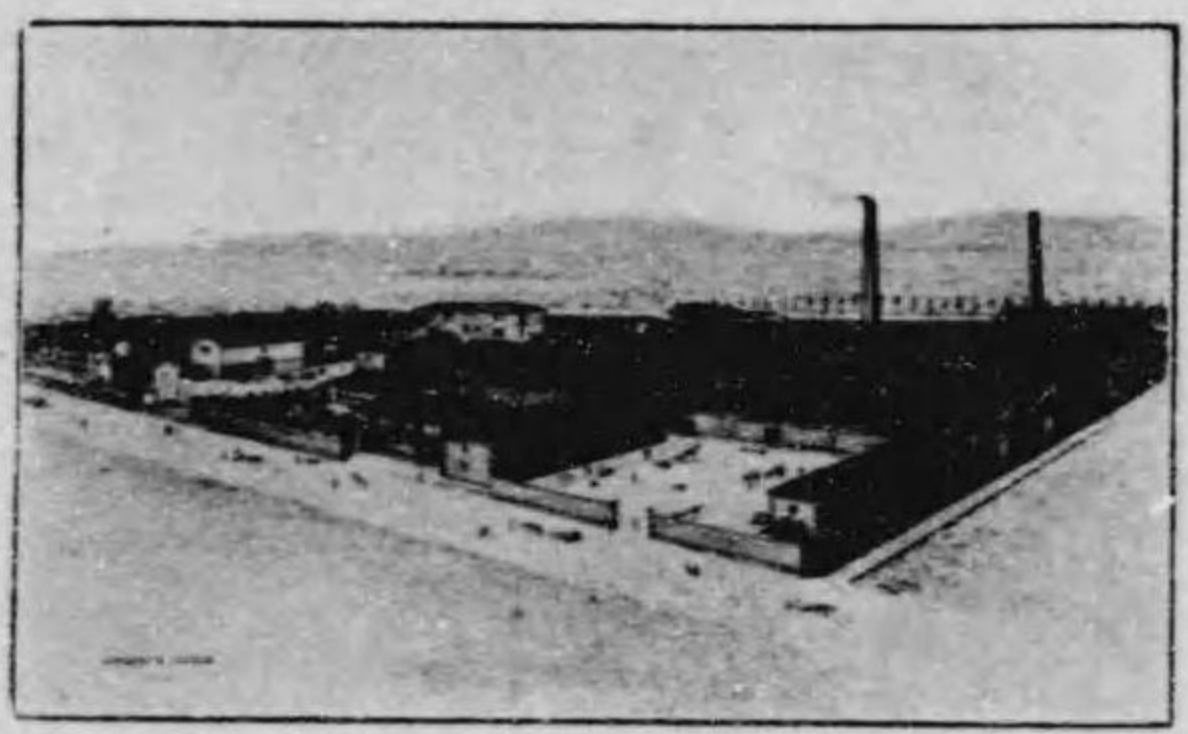


### 足立鐵工所

足立鐵工所は大阪市西區本通二丁目六十七番地に在り明治二十六年の創業に係り足立五郎吉氏の經營せる關西著名の鐵工場にして鐵工用高級工作機械の製造販賣を以て營業の目的とす創業以來所主足立氏熱誠以て職工を指導し又展の重なるものは旋盤正面盤平削盤縱削機成形機回轉鑽孔機直立鑽孔機齒輪切盤其他鐵工用工作諸機械の多きを數へ何れも品質優良にして聲價四方に高く其の販路の如き内地一圓は勿論遠く支那南洋諸島印度地方に及び到る所として噴々たる好評を以て迎へらるの盛況を示し其の業務の盛大にして需要の夥多なる一個足立氏の個人工場を以てして堂々たる斯界の大株式會社を凌駕するの殷盛を呈せり盛なりと云はざる可けんや因に同所現在の職員は六名にして職工總數七十八名を數ふ

### 玉置工業所と所主玉置吉之丞君

玉置工業所は和歌山縣實業界の巨擘玉置吉之丞氏の經營に係る本邦著名の綿糸更紗製造工場にして本店設本工場を和歌山縣海草郡内海村名高に置き出張所を同縣和歌山市本町五丁目に設く所主玉置吉之丞氏は同所本店所在地の人明治三十六年三月決然志を立て米國に航し織布機械を專攻する事七ヶ年同四十四年三月歸朝し同年十月同所を設立し多年の宿志たる綿糸更紗業を起し無地糸專門を以て立ち上り二百番及あをい印の製出を企て層々たる利害を眼中に置かず永遠に品質を以て覇を争はんとすを期し精勵業務の發展を圖りしも不幸偶々豫期に反する生産費の増加著しく爲に一時事業非常の困難に陥れり而も剛毅なる氏は毫も之が爲めに屈することなく隱忍能く其の難に耐へ一方極端なる節約を行ふと同時に他面只管製品の品質を精選し且つ其信用聲價を失墜せざらん爲め取引先は一流の洋反物問屋及貿易商にあらざれば取引せざる方針を取り又勉めて薄利主義を確守せしかば遂次一流商人の注意を喚起するに至り業運日に繁盛の域に向へり



玉置工業所全景

の加工を合せ行ひ綿糸及更紗の大々的製造に従事し其の生産額の如き正に同縣下斯界の第一位に居り大正六年度に於ける製造額内地向一萬圓輸出七千圓を算し其運輸機關としては三百石のモーターボートを用ひ直接大阪神戸に輸送せしめつゝあるの盛況を來せり因に同所は前記本店本工場出張所の外分工場を和歌山市東釘拔町五番地に設け坪數本工場七反分工場五反を數へ本工場にては主として捺染更紗分工場に於ては専ら輸出綿布及綿糸の製造を行ひつゝあり猶同所は特に將來支那方面に着目し目下來るべき世界的大供給戰に對し着々準備を進めつゝあるが故に今後同所が支那方面に於ける大飛躍や更に益々刮目に値するものあるべく同所前途は眞に洋々として春海の如きものあり多望なりと云はざる可けんや

### 茨城無煙炭礦株式會社

抑々本邦屈指の大炭田として盛名風に噴々たる常磐炭田の發見は遠く安政年間の際時に在り降て明治維新の後石炭需要の増進並に採掘法の進歩に伴ひ逐年順調なる發展を遂げ其の産炭額の如き明治十八年には一萬三千餘噸に過ぎざりしもの日清役當時には十七萬噸臺に日露役の頃には百萬噸に達し更に大正六年に及びては二百六十萬噸を越ゆる盛況を見

るに至る殊に世界戦亂發生後本邦各種事業の勃興と共に世の資本家事業家等にしてその大炭田に注目するもの日に續出し、今や炭礦會社の總數實に五十社の多きに垂んとするの盛況に在り、此の間に在りて夙に同地斯業會社の鼻祖を以て稱せられ業績特に嶄然として群を抜き正に其の代表的大會社を以て目せらるゝものを茨城無煙炭礦株式會社となす。



ものにして實に所謂茨城無煙炭なるものを廣く各地の需用家に紹介せし最初の會社なりとす。爾來業運年と共に振之、今や其の資本金は壹百萬圓を算し、所有礦區は茨城縣多賀郡華川村及南北中郷村に跨り、總坪數三百二十餘萬坪、最近一ヶ年の採炭額約二十萬噸を數



社會式株礦炭煙無城茨

は恰も木炭の如く火力久しきを保つの特質あり、加ふるに薪炭に比し價格頗る低廉なるが故に汽罐用としてよりは寧ろ薪材木炭の代用として廣く世間に歡迎せられ従つて其の需用地の如き年毎に擴大し、明治四十三年頃東京、横濱及其の附近十餘縣に限られたるもの今や遠く大阪、京都附近より秋田、山形方面に及ぶの状況にして先年同社が茨城採炭山口無煙炭の兩社と協同して組織せる合資會社茨城無煙炭共同販賣所の如きは全く無用に歸したるが故に昨大正七年八月限り之を解散して各自直接販賣に従事するに至れり、亦以て無煙炭の眞價が如何に廣く一般社會に認識さるゝに至りたるかを知るに足らん、斯くて同社の業務は近時益々隆盛の域に入り、今大正八年上半期の決算に於て貳拾貳萬五千參百九拾貳圓餘の利益金拂込資本金對し五割六分に當るを得、拾萬圓の財産減價償却を爲したる上通常年八分特別年壹割貳分の株主配當を行ひ、貳萬參千參百貳拾圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり、同社は本社は東京市京橋區新湊町四丁目一番地に置く、現同社幹部員は取締役會長石井駒次郎、常務取締役岡本宗之、取締役松本俊吉、同井倉幸喜、監査役山本忠秀、同高村國策、支配人田口虎次、諸氏にして前重役伊藤幹一氏は相談役、竹内明太郎氏は顧問の任に當る。

### 淺沼商店と店主淺沼寛治君

同店は店舗を東京市京橋區木挽町五丁目三番地、電話特長新橋一九五〇、一九九〇、七六七番に開設せる帝都著名の電機並に其他諸機械の製作販賣店にして店主淺沼寛治氏の經營せる所なり、氏は本年漸く年齒而立を出づる僅かに二歳なるの壯年なりと雖、膽大にして識高く、材幹非凡、東都幾多の同業者間に在りて業績嶄然として群を抜き、名聲定に隆々たり、氏風に思へらく、諸機械類の需要は文明の進歩と共に著しく増加すべきは必然の状況にして、斯業の隆否は國家經濟の消長に至大の



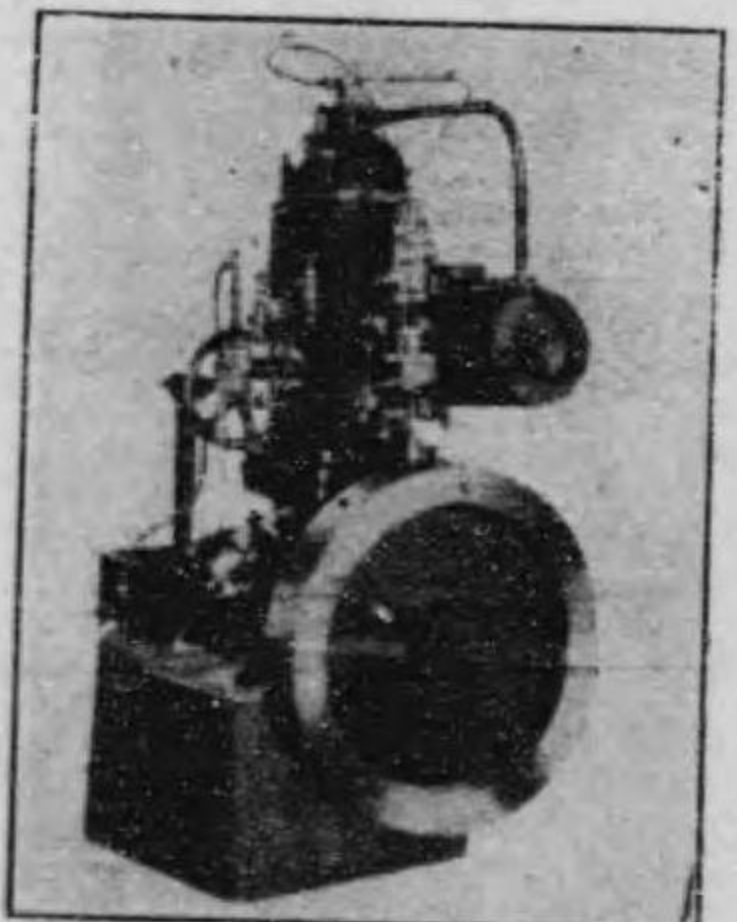
の進展に努勉せり、茲に於てか、業運日に益々榮え、商品倉庫に堆く、販路倍々擴張するの盛況を呈するに至れり、氏則ち之の隆運に乗じ、更らに同六年十二月其の取扱に係る諸製品を普く公衆に紹介せんが爲め、新橋驛前に一大陳列所を開設せり、斯くて爾後氏が事業は日に益々躍展の歩武を進め、殊に氏が秀拔なる人格と伎倆とは本邦財界の巨擘にして、實業界の帝王たる久原家の認むる所となり、遂に其の經營に係る日立製作所と製品供給上の特別なる契約を結ぶに至りて、業運更に一段の殷盛を加ふるに至る、斯くの如くにして、今や同店の在庫品は常に數拾萬圓の巨額を算し、其の販路は内地一圓は勿論遠く新領土乃至滿洲方面に及ぶの盛況を呈しつゝ、あり、因に同店の現在店員は支配人古谷龍之助、以下數十名を數へ、何れも敏腕誠實の俊才にして、其心戮力、店主淺沼氏を輔けて、不斷の活躍を試みつゝ、あり。

尙同店は毫も現在の盛況に甘ずることなく、益々積極的の刷新を其の業務に加へ、曩に一大販賣部を大阪市に開設して、以て一大飛躍を關西の地に試むるの準備を了し、又將來特に外國係を設けて貿易上の新研究を試み、以て彌々精良なる外國製諸機械の輸入を企て、帝國工業の進歩に貢獻すると共に、更に販路の大擴張を決行し、廣く手を滿洲並に支那内地に伸ばさんとするの大抱負を持し、商陣既に齊ひ、着々豫定の進路に向つて猛進しつゝ、あり、想ふに將來の雄飛や更に倍々、刮目に値するものあらん。

### 會社 清水鐵工所

船舶用石油發動機製造の始祖たる名譽と漁船据付の嚆矢者たる光榮とを有する同所は明治三十六年を以て創立せられたるものにして、營業所並に工場を大阪市南區難波櫻川一丁目に置く、顧みれば同所設立當時に於ては發動機の眞價は未だ汎く世に解せられざりしを以て従て同所の經營も亦た頗る困難を極めたりしも、爾來當局の獎勵と水産界の發展とは漸次同機の需要を増加し、其の適否を云々する過渡期は既に去り、今や經濟的なる發動機の出現を渴望せらるゝに至りたるは世運の進歩に伴ふ自然の趨勢なりと云ふと雖も、抑々亦同所の努力に負ふ所多大なるは何人も否定せざる所なり、尙同所は之の大勢に鑑み、益々多年の經驗と専門的研究とを提げ、構造簡易、取扱容易にして、而も經濟的なる發動機を社會に提供すべく、目下不斷の活躍を爲しつゝ、あり。

代表的事業



品製社同

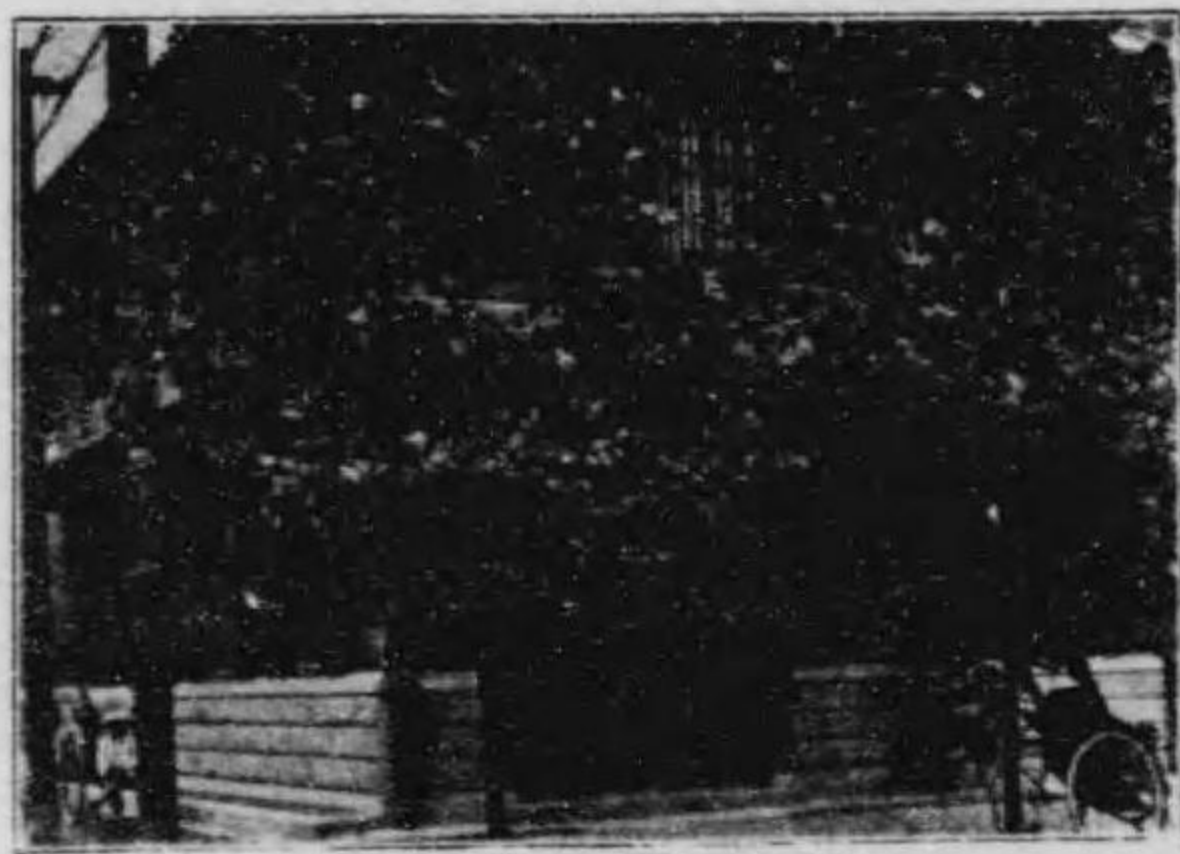
石油發動機、鐵工用諸機なり、而して是等製品の主たる販路は漁業用、船用機關は九州、四國、臺灣地方、米式旋盤、鐵工用品は内地に在りては東京大倉組、高田商會、大阪岩田兄弟商會と取引をなし、海外に在りては上海及び露領亞細亞に等の各地輸出しつゝあり、尙同所は製品の善美を以て營業の主義となし、彼の徒らに其の價格のみを低廉にし、粗製品を提供して、以て華客一時の歡心を買ふ如きは同所の斷じて取らざる所なり、宜なる哉、其の製品何れも完美を極め、到る所として、噴々たる好評を博しつゝある事や。

同所代表社員清水戒一氏は明治四十二年大阪高等工業學校船用機械科を卒業し、後神戸三菱造船所に入り、船舶用機關の設計に従事する事六ヶ年、本年一月同所代表社員となり、以て今日に至れるの人、春秋に富み、技術に秀で、前途頗る有望を以て稱せらる。

### 田附商店と店主田附政次郎君

同店は關西著名の綿絲綿布商店にして、店舗を大阪市東區南本町二丁目四十番地に置く、同店は明治二十七年の開業に係り、當初木綿商を營みしが、同年三品取引所の創立に際し、仲買人に加出し、越えて同三十三年更に綿絲商を兼營し、以て今日に至る、而して營業開始以來、其の營業品の優良なる、誠實にして、機敏なる營業振りは、年と共に大方の深厚なる信用を博し、店運日に榮え、今や隆々たる業績を擧げつゝあり。

店主田附政次郎君は、滋賀縣神崎郡五峰村の人にして、文久三年十二月を以て生る、資生英敏、頗る經營の才に富み、獨力同店を創立して、夙起晚寢、孜孜として、業務の發展に努勉すること、茲に二十有餘年、業運年毎に振ひ、遂に其の店務をして、現時の隆昌を見るに至らしむ、又關西實業界の一偉材たり。



田附商店

### 長野電燈株式會社

同社は明治三十年元社長故小坂善之助氏、外數氏の發起に依り、資本金五萬五千圓を以て創立せられたるものにして、創立と同時に、裾花川の河水を利用し、長野市宇茂菅に第一發電所を設け、翌三十一年五月業務を開始せり、爾後業務日に發展し、電燈需要増加に伴ひ、發電力漸次不足を告ぐるに至りしを以て、同三十二年第二發電所に發電機械一臺を増設し、猶該資金に充當の爲め、同年五月資本金を八萬圓に増加せり、爾來社運の發展と共に、屢々増資を行ひ、又同四十三年中、信濃電氣株式會社と協定のの上、長野市に於ける同社の工作物並に營業權を讓受け、社業益々、殷盛の域に向ふ、斯くて現在同社の資本金は壹百貳拾

萬圓を算し、發電力二千七百七十キロワット、電路線百八十一哩、需要家一萬九千六百六十二戶、供給電燈五萬四千九百五十二個、同電力千四百五十五馬力を數へ、隆々たる業績を擧げつゝあり、尙同社佐久支社は開業以來、事業發展し、屢々發電機を増設せし結果、茲に、晝間電力に餘力を生ぜしを以て、大正五年八月岩村田町に工場を設け、カーバイトの製造を開始し、次で同八年第二發電所五百キロの増設落成し、更に目下第三發電所一千五百キロの増設中にして、工事を進行しつゝあり。

同社は本社を長野縣長野市西町に置き、佐



長野電燈株式會社

久支社を同縣北佐久郡岩村田町に小諸出張所を同郡小諸町に、野澤出張所を同縣南佐久郡野澤町に置く、現重役並に主要職員は、取締役社長花岡次郎、取締役諏訪庄左衛門、同神津勝平、同小林久七、監査役河原新、同宮澤與四郎、同阿部四之助、同大塚宗次、同宮下友雄、相談役小坂順造、支配人江藤善太郎、主任技術者杉岡磨古、刀支社支配人三浦多三郎、同技師村上良省の諸氏なり。

### 北海タイムス合資會社

同社は明治三十四年九月北海道毎日新聞、北門新報、北海時事の三社合同して合資組織とし、北海タイムスと改題して、今日に至りたるものにて、其前身に遡れば、明治二十年一月小樽區山田吉兵衛氏同區に於て、北海新聞なるものを發刊したるに、創まり當時の北海新聞は、最初一箇月二回の雜誌なりしが、漸次其數を増加して、週刊とし、同年十月一日を以て札幌に移り、北海道毎日新聞と改題して、日刊紙とし、二十一年四月阿部宇之八氏、山田氏より之を讓受けて、經營して、合同に及ぶ、北門日報は二十四年五月小樽區金子元三郎氏の創設に係り、二十五年五月札幌區に移轉す、故中江篤介氏當時の主筆として、編輯總括の任に當る、後經營は岡田昌作中野二郎の輪轉機を据付け、今や社礎全く鞏固に名實共に地方新聞の一大權威たるの名に背かざるの面目を備ふるに至れり。



北海タイムス合資會社

諸氏に移り、村上祐氏に至りて合同す、北海時事は明治三十一年故淺羽靖現代議士、東武吉植庄一郎三氏の創立せるものにして、東武氏社長たり、其後吉植庄一郎氏社長たりしものなり、合同當初阿部吉植村上三氏理事たりしもの、後村上氏去り、吉植氏退き、東武氏入りて、三十五年理事の職に就きて、今日に至りしものにて、目下一切の社務を主幹し、中津井亮助氏總支配役たり、現在道廳公布式新聞として、社運益々、隆盛に、數度活字の改良を企て、紙面の大刷新を斷行し、大正五年十月には、編輯事務の兩局を包容する、石造三層の新築家屋、並第二工場、石造二階建家屋、竣工し、色刷輪轉機の外、三臺の

### 青森市役所

青森市は東北地方の盡頭に位し、其の廣袤東西一里十一町四十間、南北十三町二十間、北方一帶は陸奥灣に臨み、海路五十九



津を隔て、北海道函館港と相對し他の三面は郊原平野にして東津輕郡と境し古來東北地方有數の名邑を以て稱せらる、今其の沿革を按ずるに、同市は往古津輕藩の領域にして外ヶ濱郷の一部に屬し善知島安方堤多門天等の漁村落々として蘆葦砂磧の間に點在し眞に荒涼たる僻邑なりしも寛永三年時の藩主始めて商港となせしより此方商賈の移住するもの年と共に繁く貞亨四年青森町と稱するに至つて町數十四戸數千餘に達し時昔の面目を一新せり、蓋し青森の稱呼は灣頭翠楹四時其の色を改めざるに基因せるものなり、寛永十年藩は此地に守兵を置き不虞に備へ之を青森陣屋と稱し元祿以後は城代を派遣して民政を聽かしめ或は町奉行湊目付町年寄等の有司を置きて庶政を行はしむ、今の青森縣廳舎所在地之れなり、既に年町制實施と共に町制を布き二十四年日本鐵道開通し次に奥羽官線竣成して地方に於ける陸羽聯絡の中心點となり三十二年接續部落を併合して市制を施行し三十九年貿易港に指定せられ四十二年水道事業の竣成を見益々發展の機運に達せり翌四十四年五月不幸にして未曾有の大火に遭遇し全市殆ど焦土と化し慘澹たる光景一世の視聽を聳かしたるも爾來漸く舊狀に復し、大正三年多年の懸案たりし港灣修築の實行に着手し目下該工事の進行中に在り斯くて今や市勢駁々乎として日に發達し市況の繁盛正に旭日冲天の概を示しつゝあり。

同市役所は則ち青森市の市政執行機關にして同市大字新町に在り、市長一、助役一、収入役一、技師一、技手四、書記四、六捕除監督一、掃除巡視三、水道巡視三の市吏員ありて熱心市政の刷新に努力し成績洵に見るべきものあり最近一ヶ年に於ける文書の收受及發送件數庶務係、收二五八九發、五二二、學事衛生係、收三六〇四發、一一九一九、事業係、收三三五八發、八八一四、兵事係、收四五六一發、四五六一、戸籍係、收五一六一發、一七八二を數ふ、因に現市長は阿部政太郎氏なり。

横濱船渠株式會社と社長坂元一君

同社は明治二十四年四月を以て創立せられたるものにして船舶諸機械の新造修繕其の他の鐵工業並に倉庫業、運送業を以て營業の目的とす、創業以來業務年と共に順調の發展を遂げつゝありしも中途事業較々衰運に傾き世人をして多少の危懼を其の前途に抱かしめしが、昨大正六年十一月決然増資を斷行して資本金を壹千萬圓の巨額となし、猛然として諸般の刷新を其の業務に加へしより此の方社運俄かに大飛躍の途上に就き爾來業務日に隆々として榮え、今大正八年上半期の如き本部利益金四拾壹萬四千六百六拾九圓餘、倉庫部同貳拾七萬六千貳百拾六圓餘、合計六拾九萬八千八百八拾五圓餘を算し、内拾萬圓を所有物償却金に控除し、五拾九萬八千五百拾五圓餘の純益金を舉げ、内參萬圓を法定積立金に、貳萬七千五百圓を職工救濟基金に、五萬五千圓を役員手當金に各充當し、年壹割五分の株主配當を行ひ、尙拾壹萬五千九拾八圓餘を後期に繰越すの好成績を示せり、而して同社をして近時能く是の光輝を發せしむるに至りしもの實に社長坂元一氏の材幹手腕に負ふ所深大なりとす、想ふに將來の發展や更に益々、利目に値するものあらん、因に同社は本社を横濱市入船町に置く、現重役は取締役社長坂元一、專務取締役宮永萬吉、常務取締役淡中孝八、同東條玉太郎、取締役工學博士須田利信、同茂木惣兵衛、同原邦造、監査役朝田惣七、同安倍午生の諸氏にして男爵近藤廉平氏相談役たり。

程々足袋本舖 田中正太郎商店  
 同社は明治十五年先代田中正太郎氏の創立せるものにして、程々足袋其他足袋一切の製造卸賣を以て營業の目的とし、店舖を大阪市東區久寶寺町二丁目に設け、營業開始以來其の製品の優良と事務經營の練達とは兩々相俟つて、業運年毎に榮えしが、同四十五年先代の病歿後現代正太郎氏其の業を繼ぎ、益々店務の發展に努力せし結果業績益々、舉り、今や一ヶ年の製造額實に五十萬足以上を數へ、其の販路は大阪市内外近畿地方を始めとして内地一圓は勿論遠く滿鮮臺灣等の殖民地に及ぶの盛況を示しつゝあり、因に同店は前記本舖の外九州四國の各地に代理店を設く。



足袋本舖

大連汽船株式會社

同社は大正四年一月北支沿海の海運業並に倉庫業を兼營するの目的を以て創立せられたるものにして、本社を大連市山縣通りに置き出張所を天津安東縣青島、神戸に設け、而して創立當時は資本金僅に五拾萬圓、所有汽船三隻を有するに過ぎざりしが、爾來孜孜として交通を策し、營口航路の開拓に努め、堅實以て經營の方針として奮闘したる結果、社業は海運物與の機運と相俟つて其の基礎を鞏固ならしめ、非年ならずして資本金壹百萬圓を増資して、資本金貳百萬圓全額拂込済となし、同時に一千噸以上の汽船九隻を購入し、尙二千噸以上の汽船四隻を備船して、着々として船腹の増加と航路の擴張を圖り、今や一躍北支那に於ける海運業界の霸王たるに至れり。

現在同社の所有汽船は、隆昌丸、四三三、五噸、泰昌丸、三、七五噸、順順丸、三、五〇〇噸、博進丸、二、〇〇〇噸、進丸、二、九二二噸、天湖丸、二、六二〇噸、濟通丸、一、一五噸、龍平丸、九七、一〇噸、利濟丸、九七、一〇噸、辨天丸、九二、二〇噸、海州丸、二、二六噸、鹿島丸、三、三五〇噸、神王丸、三、一〇〇噸、泰平丸、九四、八〇〇噸、東光丸、二、一〇〇噸、等にして、又目下同社が經營しつゝある主なる航路は、關東都府府命令航路たる安東、大連、天津、開河、中、每月六回、大連、秦皇島、開河、結水、中、每月三回、大連、旅順、登州、龍口、間、(毎月七回)、大連、貔子窩、長山、列島、間、每月十回、大連、柳樹屯、間、(二日三回)等の定期航路の外、大連、青島、間、每月五回、青島、海州、間、(毎月五回)、青島、上海、間、(毎月四回)、大連、香港、間、(毎月一回以上)の定期航路にして、尙隨時南支那並に内地方面の航海にも從事せり、斯くて業績隆々年と共に舉り、大正六年末の如き純益金並前期繰越金合計壹百七拾八萬四千四百拾八圓餘を算するの盛況を示せり、現取締役社長は田沼義三氏、取締役は秋田清氏外三名なり。